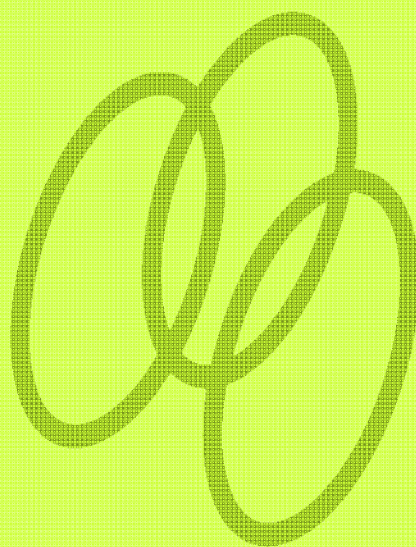


Musashigaoka College
Department of Health Science
Nutrition /Sports Science /Management

SYLLABUS

2020



授業計画（書き替え）

武蔵丘短期大学

健康生活学科

健康栄養専攻／健康スポーツ専攻／健康マネジメント専攻

建学の精神

建学の精神

優れたプロは、優れた人格を有する。

身体で覚えた技術は、一生を貫く。

本学園は、戦後まもない昭和 22 年に市民の「衣」を充足すべく「武蔵野ドレスメーカー女子学院」を立ち上げ、その後「食」を教育する「武蔵野クッキングスクール」を設立した。時代の変化に合わせ、美から生活を豊かにするファッション教育、調理により食の文化を極める教育機関として社会へ貢献した。さらに、食から健康生活を指導できる栄養士養成機関を設立した。これに、運動・休養を加え人類普遍のテーマである「健康」を実践的に指導できる人材育成をめざして本学を開学した。

「衣食足りて礼節を知る」の言葉もある、学園の教育理念は優れた人格が育つことに重きをおいている。本学園創立者故後藤守正は、『本学の役割は社会に貢献できる人材の育成である』『学ぶ者一人ひとりに、感謝と和の気持ちを大切にする心を育てる』『人々の健康と幸せづくりに役立つための実践的に体得できる分かりやすい授業を行う』と述べている。

学園の教育理念には二つの柱がある。一つは前述したように「優れた人格を育てること」、もう一つは「実践的なわかりやすい教育を行うこと」、『体感、体験、体得』をモットーとした教育を行っている。

武蔵丘短期大学教育目標

武蔵丘短期大学 教育目標

本学は、人格教育、専門知識の習得、社会への貢献の基本理念のもと、次の目標達成を図る。

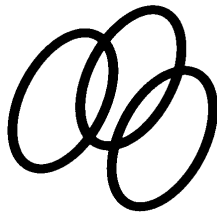
一、礼節を尊び、教養と情操豊かな人格を備えた人間性の養成

二、広い視野、深い思考力、豊かな表現力の養成

三、自分の進むべき道を切り拓く、自立心と創造力の養成

四、栄養と運動の両面から健康を支援する実践的指導者の育成

【校章】



緑豊かな環境に恵まれた武蔵丘短期大学。このマークは自然（グリーン）と本学（M）の調和を表し、そこで学ぶ若者たちへのメッセージとして、創造、勇気、慈愛という言葉をも3つのリングに託しているのです。本学はどんな時にでも健康生活のリーダーとして次世代を担う若者たちへ熱きエールを贈り続けているのです。

専攻別の教育目的・教育目標

本学 健康生活学科は、健康栄養専攻、健康スポーツ専攻と健康マネジメント専攻の3専攻から構成される。次に専攻別の教育目的・教育目標をあげる。

(1) 健康栄養専攻の教育目的・教育目標

① 教育目的

栄養士免許証、栄養教諭二種免許状の取得を主とした専攻として専門教科の充実を図り、健康生活を支援する実践的指導者を育成する。

② 教育目標

- 健康な体と心を食から支える力を養う
- 実験・実習で実践力・行動力を養う
- 栄養の幅広い知識やスキルを身につけ、スポーツや健康について学ぶ

(2) 健康スポーツ専攻の教育目的・教育目標

① 教育目的

スポーツ文化の享受・伝承者として、正しい知識・技能を修得させ、健康生活を支える実践的指導者を育成する。

② 教育目標

- スポーツで心身を鍛え、社会に貢献する
- 健康づくりの実践的指導者を目指す
- 運動を安全に、楽しく継続するための手法を身につける

(3) 健康マネジメント専攻の教育目的・教育目標

① 教育目的

食生活、運動、心の豊かさから、健康生活を総合的にマネジメントできる力を養成し、社会人力や起業力など実社会で役立つ能力を持った人材を育てる。

② 教育目標

- 健康生活を幅広く学んで実践し、社会に貢献する力を養う
- 健康な生活をプロデュースできる能力をはぐくむ
- 社会のニーズに対応した健康ビジネスを起業できる人材を育成する

武蔵丘短期大学 3つの方針（ポリシー）

◆ ディプロマポリシー（学位授与の方針）

健康生活学科

本学は建学の精神、教育理念に基づき、学位授与の方針を定めている。学則に明記された卒業要件を満たした以下の者に学位を授与する。

礼節を尊び、高い教養と情操豊かな人格を有した慈愛あふれる社会人となる資質を備えている者。

自ら学ぶ積極性と探究心を育みつつ、広い視野と深い思考力を身につけ、栄養科学と運動スポーツ科学の理論を基礎とした健康生活のあり方を学修し、社会に貢献できる実践力を身につけた者。

健康栄養専攻

様々な現場に対応できる栄養の専門知識・技術を身につけ、さらにスポーツに関する基礎知識を加えた総合的な健康管理の指導技術を修得している。

健康スポーツ専攻

運動スポーツ科学・栄養科学に基づき、運動を安全に効果的に楽しく継続するための幅広い知識と技能を修得し、健康づくりの実践的指導者となる能力を有している。

健康マネジメント専攻

食生活、運動、心の豊かさから、健康生活を総合的にプロデュースできる知識と技術を修得し、実社会で役立つ能力を有している。

◆ カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

健康生活学科

本学は、自ら学ぶ積極性と探究心を持ち、豊かな人間性と社会性、充実したコミュニケーションスキルを有した、社会に貢献できる健康生活の実践的指導者を育成する。この目的のために、基礎教育科目等、共通専門教育科目及び専門教育科目を設置し、講義、演習、実験、実習、実技の授業形態を体系的に配置している。

基礎教育科目等を中心として、礼節を尊び、高い教養と情操豊かな人格を育み、現代に必要なコミュニケーションスキルを持ち、社会に貢献できる資質を培う。

共通専門科目で、栄養と運動・スポーツに関する理論を基礎とした健康生活のあり方を学習し、健康生活を科学する実践力を養う。

健康栄養専攻

専門科目を通して、高度で多彩な要求に対応できる栄養に関する専門知識・技術を育む。

健康スポーツ専攻

専門科目を通して、運動スポーツ科学に基づき、運動を安全に効果的に楽しく継続するための知識と技能を育む。

健康マネジメント専攻

専門科目を通して、食生活、運動、心の豊かさから、健康生活を総合的にプロデュースするための知識と技術を会得し、実社会での実践力を育む。

◆ アドミッションポリシー（入学者に関する受け入れ方針）

健康生活学科

本学の求める学生像とは、これらの教育目標に向けて、何事にも全力投球できる人、目的意識の明確な人、そして何よりも本学において学びたいと強く希望している人です。

健康栄養専攻

栄養士資格を主として栄養の側面から、社会で即戦力として活躍したい人

健康スポーツ専攻

運動・スポーツの実践的指導の側面から、社会で即戦力として活躍したい人

健康マネジメント専攻

健康生活を総合的にプロデュースする側面から、社会で即戦力として活躍したい人

武蔵丘短期大学 学習成果

◆ 学習成果（Student Learning Outcomes）

本学の学習成果は、建学の精神である人格の育成を通して、自ら学ぶ積極性と探究心の涵養、学習意欲の向上、豊かな人間性の涵養を図り、各専攻での専門性を身につけ、実践的な指導者としての能力を身につけることである。

各専攻の学習成果は建学の精神にある人格教育に基づき定めた教育目的を達成できたかどうかである。以下に各専攻の学習成果を示す。

健康栄養専攻

食生活を中心として、健康生活を運動・スポーツを含めて総合的に支援する実践的指導者の能力を有することを学習成果とする。

健康スポーツ専攻

スポーツ文化の享受・伝承者として、正しい知識・技能を修得させ、健康生活を支える実践的指導者の能力を有することを学習成果とする。

健康マネジメント専攻

食生活、運動、心の豊かさから、健康生活を総合的にマネジメントできる力を養成し、社会人力起業力など実社会で役立つ能力を持った人材であることを学習成果とする。

授業科目及び開講年次配当表

シラバスについて

本学は、教育理念である「人格教育」→「専門知識の習得」→「社会への貢献」に基づき人材養成の目標を学則上に定めております。また、学生へのメッセージとして「創造」「勇気」「慈愛」の想いを込めた校章を公表しております。

こうした本学の基本方針及びカリキュラムポリシーを具現化していくために、各授業科目の内容を記したものがシラバス（授業計画）になります。学生は、各授業を履修するにあたり、ご活用ください。

◆アクティブ・ラーニングの要素を含む授業について

下記のアクティブ・ラーニングの要素を含む授業を行っている場合は、「授業形態」欄に「アクティブ・ラーニング」と記載されています。

- ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
- イ ディスカッション、ディベート
- ウ グループワーク
- エ プレゼンテーション
- オ 実習、フィールドワーク

◆実務家教員による授業科目

「担当教員名」の右端の欄に「**実**」と記載のある科目は、実務家教員による授業科目を表します。

◆科目ナンバーについて

科目ナンバーは、年度毎に付番するのではなく、原則として授業科目に固定したものとします。ただし、授業科目の大きな再編等があった場合は、再付番することがあります。

科目ナンバー（例） **NSM** - **B** **1** **023**

① ② ③ ④

①…「開講されている専攻」を表します。

N：健康栄養専攻 S：健康スポーツ専攻 M：健康マネジメント専攻

②…「科目の種別」を表します。

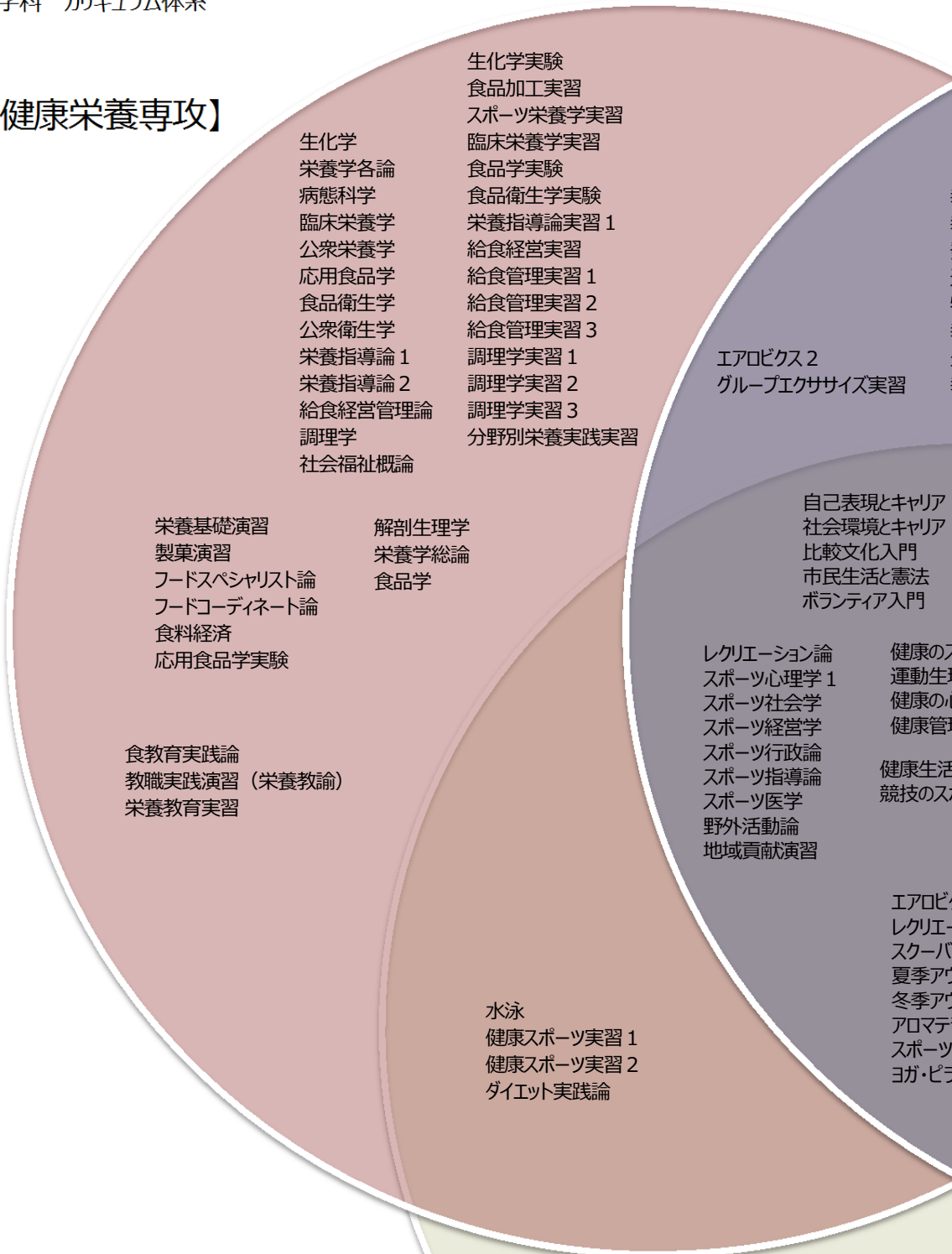
B：基礎教育科目 S：専門教育科目 T：教職に関する専門教育科目

③…「科目のレベル・性格」を表します。

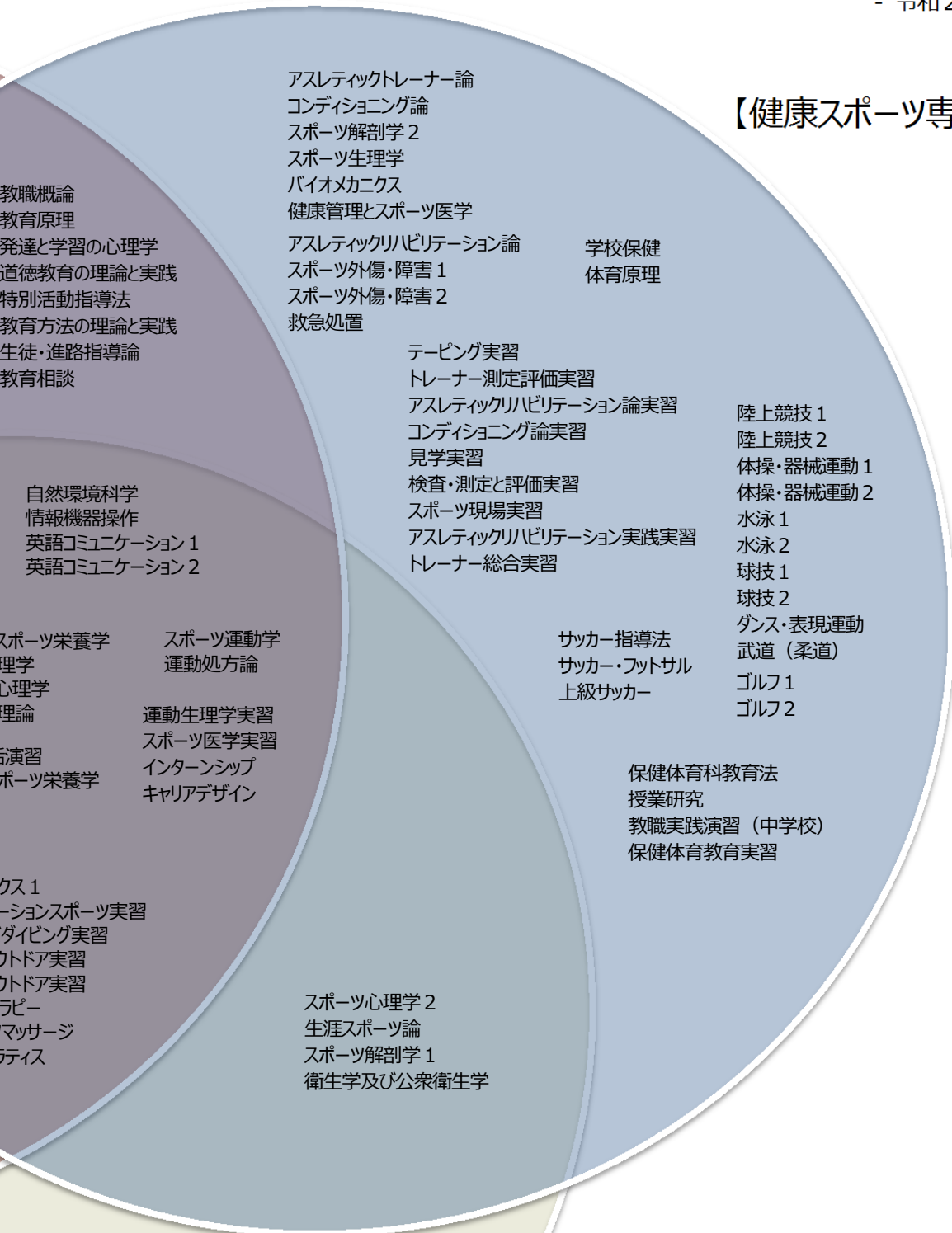
No.	レベル・性格	No.	レベル・性格
1	全学教育科目（英語 2 を除く）	5	発展的な演習・実習・実験・実技
2	基礎的な内容の科目、英語 2	6	卒業研究、ゼミ科目、健康生活演習
3	発展的な内容の科目	9	レベル分けが困難な科目 (インターンシップ、教育実習 等)
4	基礎的な演習・実習・実験・実技		

④…「分類番号（数字 3 桁）」通し番号を表します。

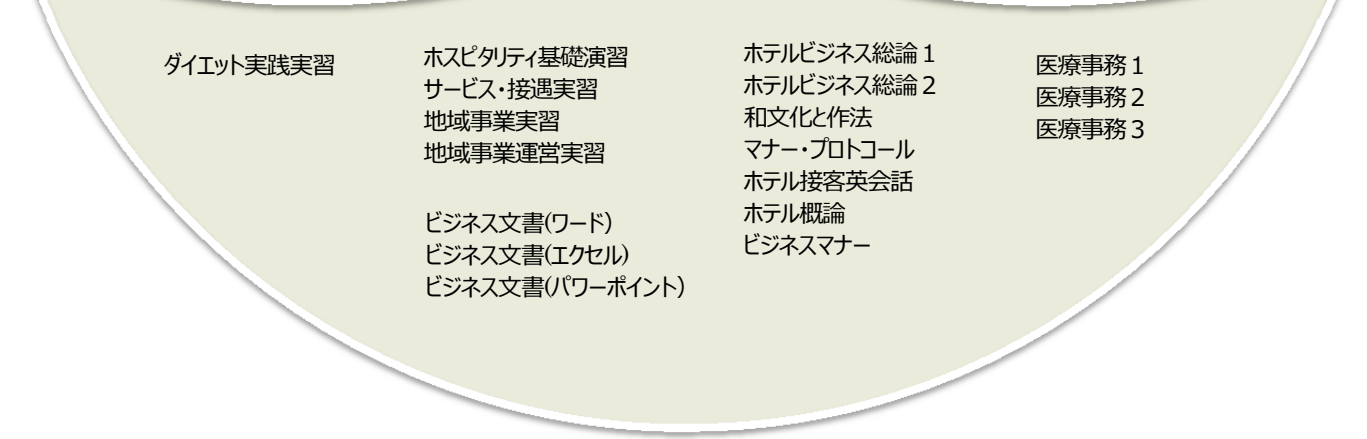
【健康栄養専攻】

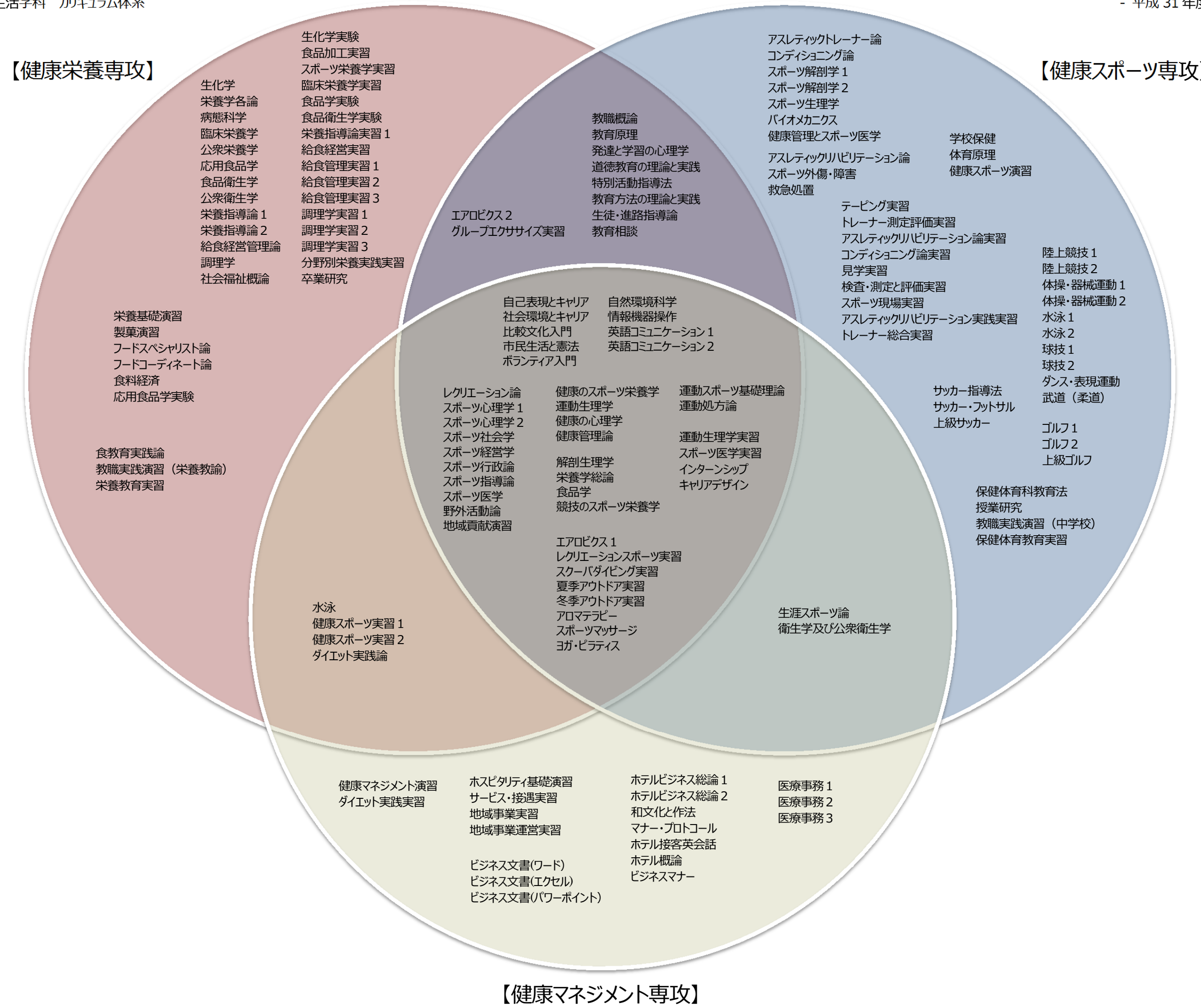


【健康スポーツ専攻】



【健康マネジメント専攻】





授業科目及び開講年次配当表(令和2年度・2020年生)

1. 基礎教育科目等 (健康栄養専攻)

令和2年度・2020年生

区分			単位数		卒業要件	開講期	1年		2年		栄養教諭 免許状	掲載 ページ
			必修	選択			前学期	後学期	前学期	後学期		
基礎教育科目	人 文	自己表現とキャリア	2		必修を含め 10単位以上	半期	2					29
		比較文化入門		2		半期		2				30
	社 会	社会環境とキャリア	2			半期		2				31
		市民生活と憲法		2		半期	2				○	32
		ボランティア入門		2		半期	2					33
	自 然	自然環境科学		2		半期	2					34
		情報機器操作		2		半期		2			○	35
	外国語	英語コミュニケーション 1		2		半期		2			○	36
		英語コミュニケーション 2		2		半期				2		37
	合 計		4	14								

卒業要件単位数

基礎教育科目合計	
健康栄養専攻	10単位以上
健康スポーツ専攻	10単位以上
健康マネジメント専攻	10単位以上
自己表現とキャリア	2単位
社会環境とキャリア	2単位
その他 人文・社会・自然・外国語から	6単位以上
保健体育科目	
健康栄養専攻	専門教育科目をもってふりかえる
健康スポーツ専攻	専門教育科目をもってふりかえる
健康マネジメント専攻	専門教育科目をもってふりかえる
専門教育科目合計	
健康栄養専攻	52単位以上
健康スポーツ専攻	52単位以上
健康マネジメント専攻	52単位以上
卒業要件単位数	
健康栄養専攻	62単位以上
健康スポーツ専攻	62単位以上
健康マネジメント専攻	62単位以上

2. 専門教育科目（健康栄養専攻）

令和2年度・2020年生

区分	授業科目の名称	単位数		卒業要件	開講期	1年		2年		栄養士免許証	健康運動実践指導者	ピアヘルパー	GFI	フードスペシャリスト	健康管理士一般指導員	NR・サブリミナル・バイザー	スポーツ栄養士共通ⅠⅡⅢ	介護予防運動スペシャリスト	掲載ページ		
		必修	選択			前学期	後学期	前学期	後学期												
健康栄養専攻 専門教育科目	健康のスポーツ栄養学		2	3科目以上必修	半期			2		○	○		○				○		41		
	運動生理学		2		半期		2			○	○		○				○		42		
	健康の心理学		2		半期	2						○			○				43		
	健康管理論		2		半期			2			○		○		○			○	44		
	健康生活演習	2			通年			2											-		
	競技のスポーツ栄養学		2		半期				2										47		
	スポーツ運動学		2		半期			2			○		○						48		
	運動処方論		2		半期		2				○		○		○		○		49		
	レクリエーション論		2		半期			2				○					○		50		
	スポーツ心理学1		2		半期			2			○	○	○				○		51		
	スポーツ社会学		2		半期			2									○		53		
	スポーツ経営学		2		半期				2								○		54		
	スポーツ行政論		2		半期				2								○		55		
	スポーツ指導論		2		半期				2								○		56		
	スポーツ医学		2		半期			2				○		○				○	○	57	
	地域貢献演習		1		集中			1												58	
	解剖生理学	*2		*印の科目から11科目22単位以上必修	半期	2				○	○		○				○			59	
	栄養学総論	*2			半期	2				○				○	○	○				60	
	食品学	*2			半期	2				○					○		○			61	
	生化学	*2			半期	2				○										62	
	栄養学各論	*2			半期		2			○				○	○					63	
	病態科学(臨床栄養学、病理学含)	*2			半期		2			○					○					64	
	臨床栄養学	*2			半期			2		○					○	○				65	
	公衆栄養学	*2			半期				2	○										66	
	応用食品学(加工学含)	*2			半期			2		○					○	○				67	
	食品衛生学	*2			半期		2			○					○	○				68	
	公衆衛生学	*2			半期	2				○						○	○			69	
	栄養指導論1	*2			半期		2			○										70	
	給食経営管理論	*2			半期	2				○										71	
	調理理学	*2			半期				2	○					○					72	
	生化学実験		1			半期				1	○										73
	食品加工実習		1			半期				1	○				○						74
	運動生理学実習		2			半期			2			○							○	○	103
	スポーツ栄養学実習		1			半期			1		○										75
	臨床栄養学実習		1			半期				1	○										76
	食品学実験		1			半期	1				○					○					77
	食品衛生学実験		1			半期			1		○					○					79
	社会福祉概論		2			半期				2	○										80
	栄養指導論2		2			半期			2		○										81
	栄養指導論実習		1			半期				1	○										82
	給食経営実習		1			半期		1			○										83
	給食管理実習1		1			半期			1		○										84
	給食管理実習2		1		半期				1	○										85	
	給食管理実習3(校外実習)		1		集中				1	○										86	
	調理学実習1		1		半期	1				○					○					87	
	調理学実習2		1		半期		1			○					○					88	
調理学実習3		1	半期			1			○					○					89		
分野別栄養実践実習		1	半期					1											90		
フードスペシャリスト論		2	半期		2									○					91		
食料経済		2	半期					2						○					106		
フードコーディネート論		2	半期					2						○					92		
栄養基礎演習		1	半期		1														101		
製菓演習		1	集中					1											102		
インターンシップ		2	集中			2													184		
スポーツ医学実習		2	半期			2					○					○		○	104		
水泳		1	半期		1						○								107		
エアロビクス1		1	半期		1						○			◇					154		
エアロビクス2		1	半期					1						◇					155		
グループエクササイズ実習		1	半期			1								○					162		
健康スポーツ実習1	1		半期			1					○							○	105		
健康スポーツ実習2		1	半期			1					○								106		
スクーバダイビング実習		1	集中				1												186		
夏季アウトドア実習		1	集中		1														187		
冬季アウトドア実習		1	集中					1											188		
アロマセラピー		2	集中				2												189		
スポーツマッサージ		2	半期					2											190		
ヨガ・ピラティス		2	半期					2											191		
キャリアデザイン		2	半期				2												192		
計		3	106	52	各資格において ○=必修 △=選択 ◇=資格の種類により必修																

授業科目及び開講年次配当表(令和元年度・2019年生)

1. 基礎教育科目等 (健康栄養専攻)

令和元年度・2019年生

区分			単位数		卒業要件	開講期	1年		2年		栄養教諭 免許状	掲載 ページ
			必修	選択			前学期	後学期	前学期	後学期		
基礎教育科目	人 文	自己表現とキャリア	2		必修を含め 10単位以上	半期	2					29
		比較文化入門		2		半期		2				30
	社 会	社会環境とキャリア	2			半期		2				31
		市民生活と憲法		2		半期	2				○	32
		ボランティア入門		2		半期	2					33
	自 然	自然環境科学		2		半期		2				34
		情報機器操作		2		半期	2				○	35
	外国語	英語コミュニケーション 1		2		半期		2			○	36
		英語コミュニケーション 2		2		半期				2		37
	合 計		4	14								

卒業要件単位数

基礎教育科目合計	
健康栄養専攻	10単位以上
健康スポーツ専攻	10単位以上
健康マネジメント専攻	10単位以上
自己表現とキャリア	2単位
社会環境とキャリア	2単位
その他 人文・社会・自然・外国語から	6単位以上
保健体育科目	
健康栄養専攻	専門教育科目をもってふりかえる
健康スポーツ専攻	専門教育科目をもってふりかえる
健康マネジメント専攻	専門教育科目をもってふりかえる
専門教育科目合計	
健康栄養専攻	52単位以上
健康スポーツ専攻	52単位以上
健康マネジメント専攻	52単位以上
卒業要件単位数	
健康栄養専攻	62単位以上
健康スポーツ専攻	62単位以上
健康マネジメント専攻	62単位以上

2. 専門教育科目（健康栄養専攻）

令和元年度・2019年生																							
区分	授業科目の名称	単位数		卒業要件	開講期	1年		2年		栄養士免許証	健康運動実践指導者	ピアヘルパー	GFI	フードスペシャリスト	健康管理士一般指導員	NR・サブリメントアドバイザー	レクリエーション・インストラクター	キャンプインストラクター	スポーツ栄養士共通ⅠⅡⅢ	介護予防運動スペシャリスト	掲載ページ		
		必修	選択			前学期	後学期	前学期	後学期														
健康栄養専攻 専門教育科目	健康のスポーツ栄養学		2	3科目以上必修	半期			2		○	○		○							○		41	
	運動生理学		2		半期		2			○	○		○							○		42	
	健康の心理学		2		半期	2						○			○							43	
	健康管理論		2	半期			2			○		○		○						○	44		
	解剖生理学	*	2	半期		2			○	○		○				○						59	
	栄養学総論	*	2	半期	2				○				○		○							60	
	食品学	*	2	半期	2				○				○		○		○					61	
	競技のスポーツ栄養学		2	半期				2														47	
	スポーツ運動学		2	半期			2				○		○							○		48	
	運動処方論		2	半期		2				○		○		○							○	49	
	レクリエーション論		2	半期			2					○					○			○		50	
	スポーツ心理学1		2	半期			2			○	○	○								○		51	
	スポーツ心理学2		2	半期				2														52	
	スポーツ社会学		2	半期			2													○		53	
	スポーツ経営学		2	半期				2												○		54	
	スポーツ行政論		2	半期				2												○		55	
	スポーツ指導論		2	半期				2												○		56	
	スポーツ医学		2	半期			2				○		○							○	○	57	
	野外活動論		2	半期	2														○			108	
	地域貢献演習		1	集中	1																	58	
	生化学	*	2	半期	2					○													62
	栄養学各論	*	2	半期		2				○				○	○								63
	病態科学(臨床栄養学、病理学含)	*	2	半期		2				○													64
	臨床栄養学	*	2	半期			2			○						○	○						65
	公衆栄養学	*	2	半期				2		○													66
	応用食品学(加工学含)	*	2	半期			2			○				○	○								67
	食品衛生学	*	2	半期		2				○				○	○								68
	公衆衛生学	*	2	半期	2					○					○	○							69
	栄養指導論1	*	2	半期		2				○													70
	給食経営管理論	*	2	半期	2					○													71
	調理学	*	2	半期				2		○				○									72
	生化学実験		1	半期				1		○													73
	食品加工実習		1	半期				1		○													74
	運動生理学実習		2	半期			2				○									○	○		103
	スポーツ栄養学実習		1	半期			1			○													75
	臨床栄養学実習		1	半期			1			○													76
	食品学実験		1	半期	1					○				○									77
	応用食品学実験(加工学実習含)		2	半期			2							○									78
	食品衛生学実験		1	半期			1			○				○									79
	社会福祉概論		2	半期			2			○													80
	栄養指導論2		2	半期			2			○													81
	栄養指導論実習		1	半期			1			○													82
	給食経営実習		1	半期		1				○													83
	給食管理実習1		1	半期			1			○													84
	給食管理実習2		1	半期				1		○													85
	給食管理実習3(校外実習)		1	集中	1					○												86	
	調理学実習1		1	半期	1					○				○									87
	調理学実習2		1	半期		1				○				○									88
	調理学実習3		1	半期		1				○				○									89
	分野別栄養実践実習		1	半期				1															90
フードスペシャリスト論		2	半期	2									○									91	
食料経済		2	半期				2						○									92	
フードコーディネート論		2	半期				2						○									93	
卒業研究		4	通年	4																		94-100	
栄養基礎演習		1	半期	1																		101	
製菓演習		1	集中	1																		102	
インターンシップ		2	集中		2												△					184	
スポーツ医学実習		1	半期		1					○					○				○	○		104	
水泳		1	半期	1						○												107	
エアロビクス1		1	半期	1						○			◇									154	
エアロビクス2		1	半期				1						◇									155	
グループエクササイズ実習		1	半期		1								○									162	
レクリエーションスポーツ実習		1	半期				1										○					185	
健康スポーツ実習1	1		半期	1						○										○		105	
健康スポーツ実習2		1	半期		1					○												106	
スクーバダイビング実習		1	集中	1																		186	
夏季アウトドア実習		1	集中			1											1単位以上	1単位以上				187	
冬季アウトドア実習		1	集中			1																188	
アロマセラピー		2	半期				2															189	
スポーツマッサージ		2	半期				2															190	
ヨガ・ピラティス		2	半期				2															191	
キャリアデザイン		2	半期			2																192	
ダイエット実践論		2	半期		2																	175	
計		1	118	52	各資格において ○=必修 △=選択 ◇=資格の種類により必修																		

授業科目及び開講年次配当表(令和2年度・2020年生)

1. 基礎教育科目等 (健康スポーツ専攻)

令和2年度・2020年生

区分			単位数		卒業要件	開講期	1年		2年		教育職員 免許状	障がい者 初級スポーツ 指導者	掲載 ページ
			必修	選択			前学期	後学期	前学期	後学期			
基礎教育科目	人 文	自己表現とキャリア	2		必修を含め 10単位以上	半期	2						29
		比較文化入門		2		半期		2					30
	社 会	社会環境とキャリア	2			半期		2					31
		市民生活と憲法		2		半期	2				○		32
		ボランティア入門		2		半期	2					○	33
	自 然	自然環境科学		2		半期	2						34
		情報機器操作		2		半期	2				○		35
	外国語	英語コミュニケーション 1		2		半期	2	2			○		36
		英語コミュニケーション 2		2		半期				2			37
	合 計		4	14									

卒業要件単位数

基礎教育科目合計	
健康栄養専攻	10単位以上
健康スポーツ専攻	10単位以上
健康マネジメント専攻	10単位以上
自己表現とキャリア	2単位
社会環境とキャリア	2単位
その他 人文・社会・自然・外国語から	6単位以上
保健体育科目	
健康栄養専攻	専門教育科目をもってふりかえる
健康スポーツ専攻	専門教育科目をもってふりかえる
健康マネジメント専攻	専門教育科目をもってふりかえる
専門教育科目合計	
健康栄養専攻	52単位以上
健康スポーツ専攻	52単位以上
健康マネジメント専攻	52単位以上
卒業要件単位数	
健康栄養専攻	62単位以上
健康スポーツ専攻	62単位以上
健康マネジメント専攻	62単位以上

2. 専門教育科目（健康スポーツ専攻）

令和2年度・2020年生

区分	授業科目の名称	単位数		卒業要件	開講期	1年		2年		教育職員免許状	健康運動実践指導者	ピアヘルパー	GFI	障がい者初級スポーツ指導者	スポーツ指導者等共通科目	アシスタントマネジャー	アスレティックトレーナー	レクリエーション・インストラクター	キャンプインストラクター	サッカー公認C級コーチ	スノーウィンストラクター	介護予防運動スペシャリスト				掲載ページ
		必修	選択			前期	後期	前期	後期													子ども身体運動発達指導士	中高老年期運動指導士	介護予防運動スペシャリスト		
健康スポーツ専攻	健康のスポーツ栄養学		2	3科目以上必修	半期	2				○	○		○		○	○	○						○		41	
	運動生理学		2		半期	2				○	○		○		○	○	○						○		42	
	健康の心理学		2		半期	2						○													43	
	健康管理論		2	半期			2		○	○		○												○	44	
	健康生活演習	2		通年				2																	-	
	競技のスポーツ栄養学		2	半期				2										○							47	
	スポーツ運動学		2	半期				2		○	○		○									○			48	
	運動処方論		2	半期		2			△	○		○			◎		○								49	
	レクリエーション論		2	半期				2				○		○	○	○	○	○					○		50	
	スポーツ心理学1		2	半期				2		△	○	○	○		○	○	○						○		51	
	スポーツ社会学		2	半期				2		△					○	○	○								53	
	スポーツ経営学		2	半期				2		△					○	○	○					○			54	
	スポーツ行政論		2	半期				2							○	○	○								55	
	スポーツ指導論		2	半期				2							○	○	○					○			56	
	スポーツ医学		2	半期				2			○	○		○		○	○	○				○		○	○	57
	地域貢献演習	1		集中				1																		58
	スポーツ心理学2		2	半期					2									○								52
	野外活動論		2	半期				2												○						108
	生涯スポーツ論		2	半期				2						○								○	○	○		109
	運動生理学実習		2	半期	2					○	○				◎			○						○		103
	スポーツ解剖学1		2	半期	2						○		○					○								110
	スポーツ解剖学2		2	半期		2												○								111
	トレーナー測定評価実習		2	半期		2												○								112
	アスレティックリハビリテーション論		2	半期				2										○								113
	アスレティックリハビリテーション論実習		2	半期				2										○								114
	スポーツ医学実習		2	半期		2					○				○	○	○					○	○	○	○	104
	衛生学及び公衆衛生学		2	半期				2		○																115
	学校保健		2	半期		2				○																123
	インターンシップ		2	集中		2													△							184
	体育原理		2	半期				2		○																124
	バイオメカニクス		2	半期				2										○								125
	テーピング実習		2	半期				2																		126
	アスレティックトレーナー論		2	半期	2													○								127
	スポーツ生理学		2	半期				2										○								128
	スポーツ外傷・障害1		2	半期			2											○								129
	スポーツ外傷・障害2		2	半期				2										○								129
	健康管理とスポーツ医学		2	集中		2												○								130
	コンディショニング論		2	半期	2													○								131
	コンディショニング論実習		2	半期		2				○								○					○	○		132
	救急処置		2	半期				2										○								133
	見学実習	1		集中		1												○								134
	検査・測定と評価実習	1		半期			1											○								135
	スポーツ現場実習	1		半期			1											○								136
	アスレティックリハビリテーション実践実習	1		半期				1										○								137
	トレーナー総合実習	2		通年				2										○								138
	陸上競技1	*1		半期		1				○	○															139
	陸上競技2	*1		半期				1																		140
体操・器械運動1	*1		半期			1			○													○			141	
体操・器械運動2	*1		半期				1																		142	
水泳	*1		半期	1					○	○															143	
水泳	*1		半期				1																		144	
球技	*1		半期			1	1		○											サッカー					145	
球技	*1		半期				1	1																	-151	
武道（柔道）	*1		集中		1				○																152	
ダンス・表現運動	*1		半期		1				○													○			153	
エアロビクス1	*1		半期	1						○		◇									○				154	
エアロビクス2	*1		半期				1					◇													155	
ゴルフ1	*1		半期			1																			156	
ゴルフ2	*1		半期				1																		157	
レクリエーションスポーツ実習	*1		半期				1						○					○					○		185	
スクーバダイビング実習	*1		集中				1																		186	
夏季アウトドア実習	*1		集中	1														1単位以上	1単位以上						187	
冬季アウトドア実習	*1		集中				1																		188	
グループエクササイズ実習	1		半期				1					○													162	
サッカー・フットサル	1		半期			1														○					159	
上級サッカー	1		半期			1														○					160	
サッカー指導法	2		半期			2														○					161	
アロマセラピー	2		集中				2																		189	
スポーツマッサージ	2		半期				2																		190	
ヨガ・ピラティス	2		半期				2																		191	
キャリアデザイン	2		半期				2																		192	
計	2	114	52																							

◎は「共通科目Ⅰ＋Ⅱ＋Ⅲ」免除申請の場合さらに必要な科目。「介護予防運動スペシャリスト」は学内特別講座を別途受講する。

◎は「共通科目Ⅰ＋Ⅱ＋Ⅲ」免除申請の場合さらに必要な科目。「介護予防運動スペシャリスト」は学内特別講座を別途受講する。

各資格において ○＝必修 △＝選択 ◇＝資格の種類により必修

授業科目及び開講年次配当表(令和元年度・2019年生)

1. 基礎教育科目等 (健康スポーツ専攻)

令和元年度・2019年生

区分			単位数		卒業要件	開講期	1年		2年		教育職員 免許状	障がい者 初級スポーツ 指導者	掲載 ページ
			必修	選択			前学期	後学期	前学期	後学期			
基礎教育科目	人 文	自己表現とキャリア	2		必修を含め 10単位以上	半期	2						29
		比較文化入門		2		半期		2					30
	社 会	社会環境とキャリア	2			半期		2					31
		市民生活と憲法		2		半期	2				○		32
		ボランティア入門		2		半期	2					○	33
	自 然	自然環境科学		2		半期		2					34
		情報機器操作		2		半期		2			○		35
	外国語	英語コミュニケーション 1		2		半期	2	2			○		36
		英語コミュニケーション 2		2		半期				2			37
	合 計		4	14									

卒業要件単位数

基礎教育科目合計	
健康栄養専攻	10単位以上
健康スポーツ専攻	10単位以上
健康マネジメント専攻	10単位以上
自己表現とキャリア	2単位
社会環境とキャリア	2単位
その他 人文・社会・自然・外国語から	6単位以上
保健体育科目	
健康栄養専攻	専門教育科目をもってふりかえる
健康スポーツ専攻	専門教育科目をもってふりかえる
健康マネジメント専攻	専門教育科目をもってふりかえる
専門教育科目合計	
健康栄養専攻	52単位以上
健康スポーツ専攻	52単位以上
健康マネジメント専攻	52単位以上
卒業要件単位数	
健康栄養専攻	62単位以上
健康スポーツ専攻	62単位以上
健康マネジメント専攻	62単位以上

2. 専門教育科目（健康スポーツ専攻）

令和元年度・2019年生

区分	授業科目の名称	単位数		卒業要件	開講期	1年		2年		教育職員免許状	健康運動実践指導者	ピアヘルパー	GFI	NR・サリム・ド・ハイダー	障がい者初級スポーツ指導者	スポーツ指導者等共通科目	アシスタントマネジャー	アスレティックトレーナー	レクリエーション・インストラクター	キャンピングストラクター	サッカー公認C級コーチ	スポーツインストラクター	子ども身体運動発達指導士	中高老年期運動指導士	介護予防運動スペシャリスト	掲載ページ		
		必修	選択			前学期	後学期	前学期	後学期																			
健康スポーツ専攻	健康のスポーツ栄養学		2	3科目以上必修	半期		2			○	○		○	○		○	○	○					○			41		
	運動生理学		2		半期	2					○	○		○			○	○	○				○				42	
	健康の心理学		2		半期	2							○														43	
	健康管理論		2		半期			2			○	○		○											○		44	
	解剖生理学		2		半期	2						○		○	○												59	
	栄養学総論		2		半期		2								○												46	
	食品学		2		半期				2						○												45	
	競技のスポーツ栄養学		2		半期				2											○							47	
	スポーツ運動学		2		半期				2		○	○		○								○					48	
	運動処方論		2		半期		2				△	○		○			◎			○							49	
	レクリエーション論		2		半期			2					○			○	○	○	○	○				○			50	
	スポーツ心理学1		2		半期			2			△	○	○	○			○	○	○						○		51	
	スポーツ心理学2		2		半期				2											○							52	
	スポーツ社会学		2		半期				2		△							○	○	○							53	
	スポーツ経営学		2		半期					2	△							○	○	○				○			54	
	スポーツ行政論		2		半期					2								○	○	○							55	
	スポーツ指導論		2		半期					2								○	○	○				○			56	
	スポーツ医学		2		半期				2		○	○		○				○	○	○				○		○	57	
	野外活動論		2		半期				2												○						108	
	地域貢献演習		1		集中	1																					58	
	生涯スポーツ論		2		半期				2								○							○	○	○		109
	運動生理学実習		2		半期	2					○	○					◎			○						○		103
	スポーツ解剖学1		2		半期	2														○							110	
	スポーツ解剖学2		2		半期		2													○							111	
	トレーナー測定評価実習		2		半期		2													○							112	
	アスレティックリハビリテーション論		2		半期				2											○							113	
	アスレティックリハビリテーション論実習		2		半期				2											○							114	
	スポーツ医学実習		2		半期		2					○						○	○	○				○	○	○	○	104
	衛生学及び公衆衛生学		2		半期					2	○				○					○							115	
	健康スポーツ演習	4			通年				4																		116-122	
	学校保健		2		半期		2				○																123	
	インターンシップ		2		集中	2															△						184	
	体育原理		2		半期			2			○																124	
	バイオメカニクス		2		半期			2																			125	
	テーピング実習		2		半期				2											○							126	
	アスレティックトレーナー論		2		半期		2													○							127	
	スポーツ生理学		2		半期				2											○							128	
	スポーツ外傷・障害		4		通年				4											○							129	
	健康管理とスポーツ医学		2		集中		2													○							130	
	コンディショニング論		2		半期	2														○							131	
	コンディショニング論実習		2		半期		2					○								○					○	○	132	
	救急処置		2		半期				2											○							133	
	見学実習		1		集中		1													○							134	
	検査・測定と評価実習		1		半期			1												○							135	
	スポーツ現場実習		1		半期			1												○							136	
	アスレティックリハビリテーション実践実習		1		半期				1											○							137	
	トレーナー総合実習		2		通年				2											○							138	
陸上競技1	1	*1	実技科目は*印から8単位以上	半期	1					○	○															139		
陸上競技2	2	*1		半期			1																			140		
体操・器械運動1	1	*1		半期	1					○													○			141		
体操・器械運動2	2	*1		半期				1																		142		
水泳1	1	*1		半期	1					○	○															143		
水泳2	2	*1		半期			1																			144		
球技1	1	*1		半期	1	1				○											サッカー					145-151		
球技2	2	*1		半期				1																		152		
武道（柔道）		*1		集中		1				○																153		
ダンス・表現運動		*1		半期	1					○													○			154		
エアロビクス1	1	*1		半期	1							○		◇												155		
エアロビクス2	2	*1		半期				1					◇													156		
ゴルフ1	1	*1		半期	1	1																				157		
ゴルフ2	2	*1		半期				1																		158		
上級ゴルフ		1		集中			1																			185		
レクリエーションスポーツ実習		*1		半期				1								○				○				○		186		
スクーバダイビング実習		*1		集中	1																					187		
夏季アウトドア実習		*1		集中			1																			188		
冬季アウトドア実習		*1		集中		1																				189		
グループエクササイズ実習		1		半期				1					○													162		
サッカー・フットサル		1		半期		1																○				159		
上級サッカー		1		半期				1														○				160		
サッカー指導法		2		半期				2														○				161		
アロマセラピー		2		半期				2																		189		
スポーツマッサージ		2		半期				2																		190		
ヨガ・ピラティス		2		半期				2																		191		
キャリアデザイン		2		半期				2																		192		
計	4	121	52	◎は「共通科目Ⅰ＋Ⅱ＋Ⅲ」免除申請の場合さらに必要な科目。「介護予防運動スペシャリスト」は学内特別講座を別途受講する。																								

◎は「共通科目Ⅰ＋Ⅱ＋Ⅲ」免除申請の場合さらに必要な科目。「介護予防運動スペシャリスト」は学内特別講座を別途受講する。
各資格において ○＝必修 △＝選択 ◇＝資格の種類により必修

授業科目及び開講年次配当表(令和2年度・2020年生)

1. 基礎教育科目等 (健康マネジメント専攻)

令和2年度・2020年生

区分			単位数		卒業要件	開講期	1年		2年		障がい者 初級スポーツ 指導者	掲載 ページ
			必修	選択			前学期	後学期	前学期	後学期		
基礎 教育 科目	人 文	自己表現とキャリア	2		必修を含め 10単位以上	半期	2					29
		比較文化入門		2		半期		2				30
	社 会	社会環境とキャリア	2			半期		2				31
		市民生活と憲法		2		半期	2					32
		ボランティア入門		2		半期	2				○	33
	自 然	自然環境科学		2		半期	2					34
		情報機器操作		2		半期		2				35
	外国語	英語コミュニケーション 1		2		半期	2	2				36
		英語コミュニケーション 2		2		半期				2		37
	合 計		4	14								

卒業要件単位数

基礎教育科目合計	
健康栄養専攻	10単位以上
健康スポーツ専攻	10単位以上
健康マネジメント専攻	10単位以上
自己表現とキャリア	2単位
社会環境とキャリア	2単位
その他 人文・社会・自然・外国語から	6単位以上
保健体育科目	
健康栄養専攻	専門教育科目をもってふりかえる
健康スポーツ専攻	専門教育科目をもってふりかえる
健康マネジメント専攻	専門教育科目をもってふりかえる
専門教育科目合計	
健康栄養専攻	52単位以上
健康スポーツ専攻	52単位以上
健康マネジメント専攻	52単位以上
卒業要件単位数	
健康栄養専攻	62単位以上
健康スポーツ専攻	62単位以上
健康マネジメント専攻	62単位以上

2. 専門教育科目（健康マネジメント専攻）

令和2年度・2020年生																											
区分	授業科目の名称	単位数	卒業要件	開講期	1年		2年		医療事務	医事コンピュータ	健康運動実践指導者	ピアヘルパー	障がい者福祉リーダー指導者	アシスタントマネジャー	スポーツ指導者等共通科目	レクリエーションインストラクター	キャンピングストラクター	中高老年期運動指導士	介護予防運動ヘルパー	社会福祉主事(任用資格)	MOS	マナー・プロトコール検定	ホテルビジネス実務検定	アロマセラピー検定	掲載ページ		
		必修			選択	前学期	後学期	前学期																		後学期	
健康マネジメント専攻	健康のスポーツ栄養学	2	3科目以上必修	半期	2						○				○	○									41		
	運動生理学	2		半期	2						○				○	○										42	
	健康の心理学	2		半期	2								○								○					43	
	健康管理論	2		半期			2				○									○						44	
	健康生活演習	2		通年				2																		-	
	競技のスポーツ栄養学	2		半期					2																	47	
	スポーツ運動学	2		半期			2				○															48	
	運動処方論	2		半期		2					○						◎									49	
	レクリエーション論	2		半期					2				○	○	○	○										50	
	スポーツ心理学Ⅰ	2		半期			2				○	○			○	○			○							51	
	スポーツ社会学	2		半期			2								○	○										53	
	スポーツ経営学	2		半期					2						○	○										54	
	スポーツ行政論	2		半期					2						○	○										55	
	スポーツ指導論	2		半期					2						○	○											56
	スポーツ医学	2		半期				2				○			○	○			○	○							57
	地域貢献演習	1		集中				1																			58
	医療事務Ⅰ	2		半期	2						○																163
	医療事務Ⅱ	2		半期	2						○																
	医療事務Ⅲ	2		半期		2						○															164
	ビジネス文書(ワード)	2		半期	2																	☆					165
	ビジネス文書(エクセル)	2		半期		2																☆					166
	ビジネス文書(パワーポイント)	2		半期					2													☆					167
	ホテルビジネス総論Ⅰ	2		半期		2																			☆		168
	ホテルビジネス総論Ⅱ	2		半期				2																	☆		169
	和文化と作法	2		半期				2																	☆		170
	マナー・プロトコール	2		半期		2																	☆		☆		171
	ホテル接客英会話	2		半期					2																☆		172
	ホテル概論	2		半期		2																			☆		173
	ビジネスマナー	2		半期				2																☆			174
	ダイエット実践論	2		半期	2																						175
	ダイエット実践実習	2		半期						2																	176
	ホスピタリティ基礎演習	2		半期	2																		☆		☆		177
	サービス・接遇実習	2		半期		2																					178
	地域事業実習	2		半期				2																			179
	地域事業運営実習	2		集中					2																		180
	スポーツ心理学Ⅱ	2		半期					2																		52
	野外活動論	2		半期				2											○								108
	生涯スポーツ論	2		半期					2						○					○							109
	運動生理学実習	2		半期	2							○					◎				○						102
	スポーツ医学実習	2		半期		2						○				○	○			○	○						104
	スポーツ解剖学Ⅰ	2		半期	2							○															110
	衛生学及び公衆衛生学	2		半期					2													○					111
	インターンシップ	2		集中			2											○									184
	レクリエーションスポーツ実習	1		半期					1						○		○										185
	健康スポーツ実習Ⅰ	1		半期		1						○								○	○						105
	健康スポーツ実習Ⅱ	1		半期		1						○															106
	水泳	1		半期	1							○															107
	エアロビクスⅠ	1		半期	1							○															154
	スクーバダイビング実習	1		集中				1																			186
	夏季アウトドア実習	1		集中	1												1単位以上	1単位以上									187
	冬季アウトドア実習	1		集中					1																		188
	アロマセラピー	2		集中				2																	☆		189
	スポーツマッサージ	2		半期					2																		190
	ヨガ・ピラティス	2		半期					2																		191
	キャリアデザイン	2		半期				2																			192
計		2	99	52	◎は「共通科目Ⅰ＋Ⅱ＋Ⅲ」免除申請の場合さらに必要な科目																						

授業科目及び開講年次配当表(令和元年度・2019年生)

1. 基礎教育科目等 (健康マネジメント専攻)

令和元年度・2019年生

区分			単位数		卒業要件	開講期	1年		2年		障がい者 初級スポーツ 指導者	掲載 ページ
			必修	選択			前学期	後学期	前学期	後学期		
基礎 教育 科目	人 文	自己表現とキャリア	2		必修を含め 10単位以上	半期	2					29
		比較文化入門		2		半期		2				30
	社 会	社会環境とキャリア	2			半期		2				31
		市民生活と憲法		2		半期	2					32
		ボランティア入門		2		半期	2				○	33
	自 然	自然環境科学		2		半期		2				34
		情報機器操作		2		半期		2				35
	外国語	英語コミュニケーション 1		2		半期	2	2				36
		英語コミュニケーション 2		2		半期				2		37
	合 計		4	14								

卒業要件単位数

基礎教育科目合計	
健康栄養専攻	10単位以上
健康スポーツ専攻	10単位以上
健康マネジメント専攻	10単位以上
自己表現とキャリア	2単位
社会環境とキャリア	2単位
その他 人文・社会・自然・外国語から	6単位以上
保健体育科目	
健康栄養専攻	専門教育科目をもってふりかえる
健康スポーツ専攻	専門教育科目をもってふりかえる
健康マネジメント専攻	専門教育科目をもってふりかえる
専門教育科目合計	
健康栄養専攻	52単位以上
健康スポーツ専攻	52単位以上
健康マネジメント専攻	52単位以上
卒業要件単位数	
健康栄養専攻	62単位以上
健康スポーツ専攻	62単位以上
健康マネジメント専攻	62単位以上

2. 専門教育科目（健康マネジメント専攻）

区分		授業科目の名称		単位数	卒業要件	開講期	1年		2年		医療事務	医事コンピュータ	介護職員初任者研修	健康運動実践指導者	ピアヘルパー	障がい者福祉士・介護士指導者	アシスタントマネジャー	スポーツ指導者等共通科目	リハビリテーションインストラクター	キャンパスアドバイザー	中高学年期運動指導士	介護予防運動インストラクター	社会福祉主事(任用資格)	MOS	マナー・プロトコール検定	ホテルビジネス実務検定	アロマセラピー検定	掲載ページ	
				必修			選択	前学期	後学期	前学期																			後学期
健康マネジメント専攻 専門教育科目	健康のスポーツ栄養学	2	3科目以上必修	半期		2								○				○	○								41		
	運動生理学	2		半期	2									○				○	○								42		
	健康の心理学	2		半期	2										○								○				43		
	健康管理論	2		半期			2								○								○				44		
	解剖生理学	2		半期	2										○												59		
	栄養学総論	2		半期		2																		○			60		
	食品学	2		半期				2																			61		
	競技のスポーツ栄養学	2		半期				2																			47		
	スポーツ運動学	2		半期			2								○												48		
	運動処方論	2		半期		2									○					◎							49		
	レクリエーション論	2		半期			2									○	○	○	○	○								50	
	スポーツ心理学1	2		半期			2								○	○		○	○				○					51	
	スポーツ心理学2	2		半期				2																				52	
	スポーツ社会学	2		半期			2											○	○									53	
	スポーツ経営学	2		半期				2										○	○									54	
	スポーツ行政論	2		半期				2											○	○								55	
	スポーツ指導論	2		半期				2											○	○								56	
	スポーツ医学	2		半期			2								○			○	○				○	○				57	
	野外活動論	2		半期			2															○						108	
	地域貢献演習	1		集中			1																					58	
	医療事務1	2		半期	2							○																163	
	医療事務2	2		半期	2							○																	
	医療事務3	2		半期		2							○															164	
	ビジネス文書(ワード)	2		半期	2																				☆			165	
	ビジネス文書(エクセル)	2		半期		2																			☆			166	
	ビジネス文書(パワーポイント)	2		半期			2																		☆			167	
	ホテルビジネス総論1	2		半期		2																					☆	168	
	ホテルビジネス総論2	2		半期			2																				☆	169	
	和文化と作法	2		半期			2																				☆	170	
	マナー・プロトコール	2		半期		2																				☆	☆	171	
	ホテル接客英会話	2		半期				2																			☆	172	
	ホテル概論	2		半期		2																					☆	173	
	ビジネスマナー	2		半期			2																			☆		174	
	ダイエット実践論	2		半期		2																						175	
	ダイエット実践実習	2		半期				2																				176	
	ホスピタリティ基礎演習	2		半期	2																					☆	☆	177	
	サービス・接遇実習	2		半期		2																						178	
	地域事業実習	2		半期				2																				179	
	地域事業運営実習	2		集中				2																				180	
	健康マネジメント演習	4		通年				4																				181-183	
	生涯スポーツ論	2		半期				2										○					○					109	
	運動生理学実習	2		半期	2										○						◎			○				103	
	スポーツ医学実習	2		半期		2									○			○	○				○	○				104	
	衛生学及び公衆衛生学	2		半期				2																	○			115	
	インターンシップ	2		集中		2															○							184	
	レクリエーションスポーツ実習	1		半期				1													○							185	
	健康スポーツ実習1	1		半期	1									○									○	○				105	
	健康スポーツ実習2	1		半期		1								○														106	
	水泳	1		半期	1									○														107	
	エアロビクス1	1		半期	1									○														154	
	スクーバダイビング実習	1		集中	1																							186	
	夏季アウトドア実習	1		集中				1													1単位以上		1単位以上					187	
	冬季アウトドア実習	1		集中			1																					188	
	アロマセラピー	2		半期					2																		☆	189	
	スポーツマッサージ	2		半期					2																			190	
	ヨガ・ピラティス	2		半期					2																			191	
	キャリアデザイン	2		半期			2																					192	
計		4	103	52	◎は「共通科目Ⅰ＋Ⅱ＋Ⅲ」免除申請の場合さらに必要な科目 各資格において ○＝必修 ☆＝推奨																								

3. 教職に関する専門教育科目

健康スポーツ専攻

令和2年度・2020年生

区分	授業科目の名称	単位数	開講期	1 年		2 年		教育職員 免許状	レクリエー ション・インス トラクター	掲載 ページ
		教職必修		前学期	後学期	前学期	後学期			
教職に関する専門教育科目	教 職 概 論	2	半期	2				○		195
	教 育 原 理	2	半期	2				○		196
	発 達 と 学 習 の 心 理 学	2	半期		2			○		197
	特 別 支 援 教 育	1	半期	1				○		199
	道 徳 教 育 の 理 論 と 実 践	1	半期		1			○		200
	特 別 活 動 指 導 法	1	半期		1			○		201
	総合的な学習の時間指導法	1	半期				1	○		202
	教育方法の理論と実践	1	半期	1				○		203
	生 徒 ・ 進 路 指 導 論	1	半期				1	○		204
	教 育 相 談	1	半期	1				○		205
	保 健 体 育 科 教 育 法	2	半期		2			○		206
	授 業 研 究	2	半期		2			○		207
	教 職 実 践 演 習 (中 学 校)	2	半期				2	○		209
	保 健 体 育 教 育 実 習	5	半期			5		○	△	211
計		24	各資格における ○＝必修 △＝選択							

令和元年度・2019年生

区分	授業科目の名称	単位数	開講期	1 年		2 年		教育職員 免許状	レクリエー ション・インス トラクター	掲載 ページ
		教職必修		前学期	後学期	前学期	後学期			
教職に関する専門教育科目	教 職 概 論	2	半期	2				○		195
	教 育 原 理	2	半期	2				○		196
	発 達 と 学 習 の 心 理 学	2	半期		2			○		197
	特 別 支 援 教 育	1	半期		1			○		198
	道 徳 教 育 の 理 論 と 実 践	1	半期		1			○		200
	特 別 活 動 指 導 法	1	半期		1			○		201
	総合的な学習の時間指導法	1	半期				1	○		202
	教育方法の理論と実践	1	集中		1			○		203
	生 徒 ・ 進 路 指 導 論	1	半期				1	○		204
	教 育 相 談	1	半期		1			○		205
	保 健 体 育 科 教 育 法	2	半期		2			○		206
	授 業 研 究	2	半期		2			○		207
	教 職 実 践 演 習 (中 学 校)	2	半期				2	○		209
	保 健 体 育 教 育 実 習	5	半期			5		○	△	211
計		24	各資格における ○＝必修 △＝選択							

注 中学校教諭の普通免許状を取得しようとする者は、必要な単位のほかに、「介護等体験」が義務付けられている。

3. 教職に関する専門教育科目

健康栄養専攻

令和2年度・2020年生

区分	授業科目の名称	単位数	開講期	1 年		2 年		栄養教諭 免許状	掲載 ページ
		教職必修		前学期	後学期	前学期	後学期		
教職に関する専門教育科目	教 職 概 論	2	半期	2				○	195
	教 育 原 理	2	半期	2				○	196
	発 達 と 学 習 の 心 理 学	2	半期		2			○	197
	特 別 支 援 教 育	1	半期		1			○	198
	道 徳 教 育 の 理 論 と 実 践	1	半期		1			○	200
	特 別 活 動 指 導 法	1	半期		1			○	201
	総合的な学習の時間指導法	1	半期				1	○	202
	教育方法の理論と実践	1	半期	1				○	203
	生 徒 ・ 進 路 指 導 論	1	半期				1	○	204
	教 育 相 談	1	半期		1			○	205
	食 教 育 実 践 論	2	半期		2			○	208
	教職実践演習(栄養教諭)	2	半期				2	○	210
	栄 養 教 育 実 習	2	半期			2		○	212
計		19	各資格における ○＝必修						

令和元年度・2019年生

区分	授業科目の名称	単位数	開講期	1 年		2 年		栄養教諭 免許状	レクリエーション・インストラクター	掲載 ページ
		教職必修		前学期	後学期	前学期	後学期			
教職に関する専門教育科目	教 職 概 論	2	半期	2				○		195
	教 育 原 理	2	半期	2				○		196
	発 達 と 学 習 の 心 理 学	2	半期		2			○		197
	特 別 支 援 教 育	1	半期		1			○		198
	道 徳 教 育 の 理 論 と 実 践	1	半期		1			○		200
	特 別 活 動 指 導 法	1	半期		1			○		201
	総合的な学習の時間指導法	1	半期				1	○		202
	教育方法の理論と実践	1	集中		1			○		203
	生 徒 ・ 進 路 指 導 論	1	半期				1	○		204
	教 育 相 談	1	半期		1			○		205
	食 教 育 実 践 論	2	半期		2			○		208
	教職実践演習(栄養教諭)	2	半期				2	○		210
	栄 養 教 育 実 習	2	半期			2		○	△	212
計		19	各資格における ○＝必修 △＝選択							

基礎教育科目

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
基礎教育 人文		自己表現とキャリア [Self-Expression and Career]	必修	2		
授業形態		担当教員名		科目コード		
講義・演習・アクティブ・ラーニング		高橋 勇一 ・ 植松 大介 ・ 村井 輝久 ・ 八板 将明		NSN-B1001		
この授業に関する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1	日本語の使い方	一般教養やマナーの基本を身につけると同時に、すべての学問の基礎である「言葉の力」と「自己表現力」を磨き、社会的基礎力の養成を目指す。レポートの書き方をはじめとする初年次教育を実施するとともに、キャリア教育につながる第一歩を踏み出す。				
2	レポートの書き方					
3	一般教養・マナー					
学習の到達目標						
本学における学習や社会活動において、より積極的に取り組むために必要な一般教養やマナーを身につけることを目標とする。また、大学や実社会で役立つ「日本語の使い方」や「基本的な知識」を習得し、論理的な表現力・レポート力を養うことを目指す。						
回	テーマ	授業内容				AL
1 ～ 15	【全体授業】 ・オリエンテーション ・メールシステムおよび個別のメールアドレス設定 ・メールの書き方 ・目標達成シート（マングラート発想法） ・おすすめ作品を伝える力（レジュメ作成） 【グループ授業】 図書館ガイダンス 自己紹介・スピーチ マナー講座 レポートの書き方 哲学入門 SDGsとSociety5.0	【遠隔授業】 ○短大のメールシステム及びメールの書き方・・・短大のメールシステムと個別使用のメールアドレスの確認、メールの書き方を学ぶ（情報リテラシー含む） ○目標達成シート（マングラート発想法）の作成／自己紹介を考える ○おすすめ作品を「伝える」力 「本（評論、小説、エッセイ、マンガ含む）、映画、TV ドラマ、芸術作品など」から、「為になる」作品を選び、お勧めの点を自分の言葉で「伝える力」を養う（レジュメづくり） ○「自己実現」（人間性の形成）・「表現／プレゼンテーション」に関わる動画、または、「現代～未来社会」に関わる動画を視聴し、意見・感想文を書く 【対面授業】 ○図書館の利用についてのガイダンス・・・各グループでの図書館見学、利用の仕方などの説明 ○マナーの基本について学習するとともに、グループ授業を通じて自己表現力を高める ○初年次教育として、小論文・レポートの書き方の説明（研究倫理教育を含む） ・「挨拶・姿勢」「礼儀・正しい座り方」について ・「服装」「社会人基礎力」について ・「哲学入門」（考える力と自己表現力を高める） ・「レポート・論文の書き方」指導 ・「SDGsとSociety5.0」に関する学習 ・「総合・まとめ」 ☆課題提出・・・小論文・レポート（おすすめ作品）の提出				○

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
基礎教育 人文		比較文化入門 [Introduction of Comparative Culture]	2			
授業形態		担当教員名		科目コード		
講義、 アクティブ・ラーニング		村井 輝久		NSM-B1002		
この授業に関する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1 2 3	文化 比較 相対的な視点	本講義では、比較文化の基本的な考え方およびその方法を学びながら、現代社会における様々な文化事象に着目し、それらの類似点や相違点およびその社会的歴史的な背景などについて議論し考察する。				
学習の到達目標						
社会における様々な文化事象を、比較文化の視点から社会的歴史的に理解する。 文化の比較方法を習得する。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	オリエンテーション	授業概要、授業の進め方、評価の仕方、その他受講上の注意などについて説明する				
2	比較文化の考え方	文化の定義、文化を比較する意味				○
3	比較文化の方法	比較の方法（比較史を含む）				○
4	ことばと認識	人間の認識におけることばの働き				○
5	文化と認識	人間の認識における文化の働き				○
6	芸術	西洋の彫刻、絵画の鑑賞および分析				○
7	歴史	地理的環境、人口変動、社会変動				○
8	宗教	人間の生活における宗教の意味、世界観				○
9	国民	「国民」の概念とその捉え直し				○
10	問題設定①	テーマ設定および研究方法の検討				○
11	問題設定②	テーマ設定および研究方法の検討				○
12	レポート作成①	レポート発表のための調査および準備				○
13	レポート作成②	レポート発表のための調査および準備				○
14	発表①	レポート内容の報告（遠隔）				
15	発表②	レポート内容の報告（遠隔）				
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
参考書：マルク・ブロック、高橋清徳訳『比較史の方法』講談社、2017 年。 ＊授業中に必要に応じて、適宜指示および教材プリントを配布する。						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：学習する事項について、新聞やニュース、インターネット・書籍などを通して情報の収集をしておくこと。 事後学習（週 1.5 時間）：講義内容を復習し、分からない点は調べて理解しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして各講義後に質疑応答、ディスカッションを行い、解説を行う。 リアクションペーパーを回収し、回答する。 オフィスアワーで適宜対応する。						
成績評価の目安と方法						
授業への参加度 50% 授業内課題 50%						
評価	成績評価別の到達度					
S	比較文化の考え方と方法を十分に理解し、文化事象を社会的歴史的に分析し考察できる。					
A	比較文化の考え方と方法を十分に理解している。					
B	比較文化の要点について、概ね理解している。					
C	比較文化について、基礎的な知識を理解している。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N			S	M
基礎教育 社会		社会環境とキャリア [Social Environment and Career]	必修	2				
授業形態		担当教員名			科目コード			
講義・演習・ アクティブ・ラーニング		岡崎 英規 ・ 川井 明 ・ 植松 大介			NSM-B1003			
この授業に関する資格								
この授業のキーワード			授業概要					
1	就職活動	自分の適性を知り、各自の能力が活かせるような企業（進路先）を探す方法を学び、インターネットでのアクセス方法（ナビ登録の仕方、エントリーシートでの応募の仕方）、就職（編入、進学）活動に必要な書類の作成、面接試験対策（模擬個人・グループ面接）などを行い、就職活動等のキャリアデザインに役立てるようにする。						
2	就職試験							
3	就業意識							
学習の到達目標								
社会人として自立できるように、職業に対する意識を高め、自分に適した職業を選択し、就職するために必要な知識、技能を身につける。								
回	テーマ	授業内容						AL
1	オリエンテーション	受講上の注意、礼儀作法の復習						○
2	適性診断	自分に向いてる仕事探し（適性診断テスト）						○
3	ナビ登録	スマートフォン等からの就活ナビへの登録						○
4	企業情報の集め方	企業の情報収集の方法や企業研究の方法						
5	就職・社会人のルール	労働法について、ハローワークの支援について						
6	就職活動のマナー	コミュニケーションの重要性を知る						○
7	自己分析①	自己 PR を作成する作業①（高校までの自分を振り返る）						○
8	自己分析②	自己 PR を作成する作業②（短期大学での自分を振り返る）						○
9	履歴書作成	履歴書記入のポイント、各項目のポイント						○
10	面接対策①	面接の目的と種類・マナー・評価ポイント						○
11	面接対策②	代表者による集団および個人模擬面接						○
12	面接対策③	グループ別集団模擬面接						○
13	身だしなみセミナー	男女別の身だしなみ、女性のメイクアップ講座						○
14	内定者フォーラム	就職が内定した先輩のシンポジウム						○
15	分野別企業研究・まとめ	人事担当者の業界説明、ふり返しシートの作成						○
試験等	なし							
教科書及び参考図書								
教科書：就職活動テキスト（授業で配布する）								
準備学習・事後学習								
準備学習（週 1.5 時間）： 授業で配布するテキストの関連ページを事前に読んで授業に取り組む。 事後学習（週 1.5 時間）： 授業で行った内容について積極的に取り組む。								
課題に対するフィードバックの方法								
提出した課題にコメントを入れて返却する。								
成績評価の目安と方法								
平常点（授業の態度・意欲・服装など）80% 提出物（感想文など）20%								
評価	成績評価別の到達度							
S	授業の成果を活かし、将来の進路を決定する応用力を身につけている。							
A	授業の成果を活かし、将来の進路を決定する基礎的な力を身につけている。							
B	授業の成果を活かし、将来の進路を決定する準備ができている。							
C	授業の成果から、将来の進路について考えをまとめられる。							

2020年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
基礎教育 社会		市民生活と憲法 [Civil Life and Constitution]	2			
授業形態		担当教員名			科目ナンバー	
講義		山本 和弘		NSM-B1004		
この授業に係る資格						
教員免許（保健体育、栄養教諭）						
この授業のキーワード		授業概要				
1	日本国憲法	本授業は、憲法の基本原理・理念を学び、私たちの国家・社会を成り立たせている仕組みを理解するとともに、私たちに保障されている権利・自由の概要・意義を理解することを目標とする。加えて、日々のニュースなどについて、感情論ではなく、冷静に判断・評価する能力を身につけて欲しい。				
2	基本的人権					
3	近代立憲主義					
学習の到達目標						
日本国憲法の基本原理について学習し、日常生活に潜む「憲法問題」を見抜く力を養うことを目標とする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	オリエンテーション	講義の進め方、講義内容の概略および評価方法の説明。加えて、憲法・法律に関する基礎知識を説明し、憲法と通常の法律との違いを理解することで、そもそも「憲法」とは何かを学ぶ。また、憲法に定められたこの国の統治の仕組み（国会・内閣・裁判所）について学ぶ。（遠隔）				
2	国民主権/象徴天皇制	憲法の基本原理である国民主権について学び、それと象徴としての天皇の地位との関係を学ぶ。加えて生前退位の問題と憲法との関係について学ぶ。（遠隔）				
3	人権総論/幸福追求権	人権とは何か、なぜ保障されなければならないのか、そしてどのような場合に人権が制約されるのかを学び、自分自身が権利や自由の主体であることを自覚する。加えて、男女の平等について、憲法ではどのように考えるのかを学ぶ。（遠隔）				
4	思想・良心の自由/信教の自由/政教分離	思想や信仰がなぜ憲法によって保障されるのか、どこまで保障されるのかについて具体的事件を素材として学ぶ。「日の丸・君が代問題」を、憲法に即してあなたならどう考えるか？また、国家の宗教の関係について学ぶ。（遠隔）				
5	表現の自由	表現の自由とは何かを理解し、デモや集会の自由、さらにはヘイトスピーチや差別表現の問題について学ぶ。（遠隔）				
6	人身の自由	なぜ私たちは突然不当に逮捕されることはないのか？奴隷のように酷使されないのか？憲法に規定された人身の自由の内容とその基本原則について学ぶ。（遠隔）				
7	経済的自由	私たちが豊かに、そして自分らしく生きるための権利・自由について学ぶ。加えて、経済的自由が制約される場合とその根拠を理解する。（遠隔）				
8	社会権	「人らしく生きる」とはどのようなことか？貧困、ブラックバイト、教育費の問題などを、憲法に照らして学び、感情論ではなく法的な根拠に基づいて理解する。（遠隔）				
9	9条と平和主義	過去から現代に至る憲法 9 条と平和主義に関する議論を概観し、いわゆる平和安全法制などの現代的問題の本質を、憲法に照らして冷静な思考で理解する。（遠隔）				
10	憲法の変更	「憲法を改正（変更）する」とはどのようなことか、法律の改正とはどう異なるのかを理解する。加えて、憲法の改正（変更）に限界はあるのか、あるとすればそれは何かを学ぶ。（遠隔）				
	少なくなった回数分の内容①	毎回の配布資料に、その回の授業で扱った内容に関する小テストを添付し、次回授業の冒頭で答え合わせをした。				
	少なくなった回数分の内容②	Classroom を利用して授業の動画を配信し、自宅で受講・復習できるようにした。動画視聴後には、動画内容を踏まえた課題を提出させ、提出した学生に対しては、毎回フィードバックした。				
	少なくなった回数分の内容③	授業内容に関するレポートを課し、Classroom を通じてフィードバックを行った。				
試験等	筆記試験：基本的に記述式の問題を出題する。					
教科書及び参考図書						
教科書：古野豊秋・畑尻剛編『新・スタンダード憲法〔第 4 版補訂版〕』（2016 年、尚学社） 参考図書：水島朝穂『18 歳からはじめる憲法 第 2 版』（2016 年、法律文化社）						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：新聞やニュースで気になった「事件」をメモにとる等し、どんな憲法上の問題点があるかを考えてきて欲しい。 事後学習（週 1.5 時間）：教科書や授業プリントをしっかりと読み込み、基本的な憲法の考え方、争点、判例等を改めて整理して欲しい。						
課題に対するフィードバックの方法						
メールおよび教員登校日（初回に説明）にて対応する。授業内で試験勉強の方法等、適宜助言するので気軽に相談して欲しい。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 100%。						
評価	成績評価別の到達度					
S	日本国憲法の基本原理を理解し、事例、争点について十分な知識を適切に用い、これに依拠して独自の考えを論述することができる。					
A	日本国憲法の基本原理を理解し、事例、争点について基本的な理解を基にして論述することができる。					
B	日本国憲法の基本原理を理解し、事例、争点について基本的な知識を習得できる。					
C	日本国憲法についての基本的な知識を習得することができる。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
基礎教育 社会		ボランティア入門 [Introduction to Volunteer Activities]	2			
授業形態		担当教員名		科目コード		
講義・グループワーク・アクティブ・ラーニング		江森 孝夫		NSM-1005		
この授業に関する資格						
障がい者初級スポーツ指導者						
この授業のキーワード		授業概要				
1	ボランティア精神	生きることの意味について、そして人間と社会について幅広く考えると同時に、ボランティアの理念およびその精神、社会福祉施策・障がい者スポーツ、そして、教育・環境・企業ボランティアなど、さまざまな地域・社会貢献活動について学習する。なお、NPO やボランティア活動に関わる人から学ぶ機会も設定し、グループで内容をまとめる。				
2	社会福祉					
3	地域・社会貢献					
学習の到達目標						
ボランティアに関する基本的な知識を身につけ、ボランティア精神の養成を目指すと同時に、社会が求める支援や障がい者などに対する理解を深める。また、必要とされるボランティア活動や地域・社会貢献活動について理解し、それらの活動にチャレンジする実践力を養うことを目指す。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	オリエンテーション 事始め 1	初回は、「オリエンテーション」として、授業概要・評価の方法、履修上の注意点などを説明する「事始め 1」として、基本用語、ボランティア精神、ボランティア理念、伝達手段としての日本語の大切さについて学習する（遠隔）				
2	事始め 2	「事始め 2」として、ボランティア活動を支える。福祉教育について、共に生きる地域作りについて学習する				
3	ボランティアの基本	「ボランティア」について、実際の探し方やボランティアの基本的姿勢などを理解する ※ 体験レポートに関する説明を行う ※「ボランティア体験」は、できる範囲で各自が適切なボランティア活動を選んで参加し、体験レポートを提出する				
4	障がい者スポーツ	東京オリンピック・パラリンピックに向けて、障がい者スポーツの課題と展望について学習する				
5 ～ 8	福祉について	※共に生きる地域作りのために、自分に何が出来るかを外部講師を招いて学習する (1) 児童福祉について（保育所指導員、学童保育指導員） (2) 高齢者福祉について（特別養護老人ホーム職員、介護施設ヘルパー） (3) 障がい者福祉について（視覚障がい者・盲導犬ユーザー） (4) 障がい者福祉について（聴覚障がい者・障がい者本人と手話サークルの方） (5) 障がい者福祉について（身体障がい者・車イスユーザー）				○
9	福祉について	五つの課題別グループに分かれて、自分たちで調べ、調べた内容をまとめる				○
10	総合・まとめ	「総合・まとめ」として、振り返り学習を実施する				○
		・毎回の授業後に振り返りの感想を書かせた。 ・活動ができない分、数多くのボランティアを紹介し、資料として配付し、ボランティアについて考えさせた。 ・受講者の感想をまとめ、「ムサタン・エモ通信」として紹介し、振り返り内容の充実を図った。				
試験等	レポート課題					
教科書及び参考図書						
授業内で使用する資料を配付する 参考図書：『ボランティア論』（ミネルヴァ書房）、『いちばんはじめのボランティア』（樹村房）、『共に生きること・共に学びあうこと』（大学図書出版） その他、適宜紹介する						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：次回の学習内容として提示された課題について、雑誌やインターネット・書籍等で情報収集しておく。 事後学習（週 1.5 時間）：授業中の内容を整理してまとめ、課題別グループ学習発表会に向けての準備を進める。						
課題に対するフィードバックの方法						
・理解度確認のレポートを回収後、解説を行う。 ・課題別発表会の内容にコメントする。						
成績評価の目安と方法						
平常点（授業の理解度・提出物）40％ 授業内課題 30％ ボランティア体験レポート 30％で総合的に評価する						
評価	成績評価別の到達度					
S	ボランティアに関する一般的な知識と態度を身につけ、積極的に実践し、レポート力を十分に身に付けている。					
A	ボランティアに関する一般的な知識と態度を身につけ、実践し、レポート力を身に付けている。					
B	ボランティアに関する基礎的な知識と態度を身につけ、実践している。					
C	ボランティアに関する基礎的な知識と態度を学習している。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N			S	M
基礎教育 自然		自然環境科学 [Natural Environmental Science]	2					
授業形態		担当教員名			科目コード			
講義		高橋 勇一			NSM-B1006			
この授業に関係する資格								
この授業のキーワード			授業概要					
1	環境問題	環境問題の現状について自然科学・社会科学双方の観点から学習し、美しい地球を守るために、「宇宙船地球号」の一員でもある私たちが心がけるべきことやできることについて考察する。なお、教養教育として、自然科学の基礎力および論理力・思考力を身につけることも重要なテーマとする。						
2	エコシステム							
3	持続可能な発展							
学習の到達目標								
自然科学の基礎及び地球環境問題に関する一般的な知識を習得するとともに、論理的に物事を考え、表現する力を養うことを目指す。また、生命や自然を大切に、環境保全および持続可能な発展に寄与する精神・態度を養うことを目標とする。								
回	テーマ	授業内容						AL
1	宇宙船地球号	イントロダクションとして、宇宙の歴史・宇宙の中の地球について学習する（遠隔）						
2	地球と生命の歴史	地球と生命の歴史について学習し、生命の誕生の謎に触れる（遠隔）						
3	環境と文明	地球システムについて学習し、環境と文明の関係について概説する（遠隔）						
4	生態系・物質循環	エコシステム（生態系）の仕組み及び物質の循環について学習する（遠隔）						
5	環境とエネルギー	地震（津波含む）発生のメカニズムを学習し、エネルギー問題を考える						
6	食物連鎖・生物多様性	生産者・消費者・分解者の役割及び生物の多様性について学習する						
7	現代の地球環境問題	人間圏の拡大とともに、改めて「地球環境問題とは何か」を検討する						
8	地球の温暖化	地球温暖化のメカニズム及びその対策について学習する						
9	オゾン層破壊・酸性雨	オゾン層破壊と酸性雨について学習する						
10	森林劣化・洪水問題	森林の多面的機能について学習し、森林劣化による洪水問題を考える						
11	砂漠化	カシミア人が砂漠を拡大？ 中国の砂漠化の原因と対策について考える						
12	世界遺産・循環型社会	世界遺産について学習すると同時に、循環型社会について検討する						
13	総合・まとめ	総括・振り返り学習						
14		少なくなった 2 回分については、その内容を圧縮して他の授業回でポイントのみ講義を行った。また、授業では毎回課題を課し、それを提出してもらった後、コメントを返信した。						
15		classroom を利用して、講義資料（動画・PDF）を配信し、学生が自宅学習（予習・復習）を繰り返してできるようにした。						
試験等	なし							
教科書及び参考図書								
参考図書・参考資料等 環境・循環型社会・生物多様性白書、Newton、日経サイエンスの他、授業で紹介する 参考 URL ; http://www.env.go.jp/								
準備学習・事後学習								
準備学習（週 1.0 時間）： 書籍（参考図書）やインターネット・配付資料等を通して、予習をしておくこと。 事後学習（週 2.0 時間）： 授業の内容をよく復習するとともに、生きた知識として活用し、さらに探究の学習を行うこと。								
課題に対するフィードバックの方法								
課題やリアクションペーパーなどにコメント等を入れて返却する。								
成績評価の目安と方法								
授業参加態度・小レポートの内容 50%、授業内課題 50%								
評価	成績評価別の到達度							
S	自然や環境問題に関する一般的な知識を身につけ、積極的に取り組み、論理力・表現力を十分に培っている。							
A	自然や環境問題に関する一般的な知識を身につけ、論理力・表現力を培っている。							
B	自然や環境問題に関する基礎的な知識を身につけ、ある程度は説明する力を培っている。							
C	自然や環境問題に関する基礎的な知識を学習し、部分的には説明する力を培っている。							

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]		単位			
基礎教育 自然		情報機器操作 [Computer Literacy]		2			
授業形態		担当教員名			科目コード		
講義・演習・ アクティブ・ラーニング		八板 将明			NSM-B1007		
この授業に関する資格							
教員免許（保健体育、栄養教諭）							
この授業のキーワード		授業概要					
1	情報の管理	毎回出題されるテーマに対する課題に挑戦しながら、コンピュータに関する基本的な操作方法および用語について学習する。課題の提出が必須であるため、授業時間内に終わらない場合は、授業時間外に課題に取り組み、提出する。					
2	情報の作成・発信						
3	パソコン・スマートフォン連携						
学習の到達目標							
コンピュータの基本用語の習得や基本的なアプリケーションソフトの操作、簡単な文書、表計算、プレゼンテーション、学内メールシステムのスマートフォンとの連動について理解し、コンピュータを自由自在に操作できるようになることを目標とする。							
回	テーマ	授業内容				AL	
1	ガイダンス	授業目標やスケジュール、具体的にどのようにすすめるのかなどの説明を行う（遠隔）					
2	情報機器に関する基本用語を理解しよう	パソコンやスマートフォンなどの情報機器を操作するにあたり、知っておくべき基本用語について学習し、今後の授業内容の理解度を高められるようにする（遠隔）					
3							
4	メールシステムの理解	メールの利用方法について学ぶ（遠隔）					
5							
6	インターネットの活用	インターネットから情報を収集する（遠隔）					
7	文書作成	タイピング練習・文書作成ソフトを使って文書を作成する				○	
8	文書作成	タイピング練習・文書作成ソフトを使って文書を作成する				○	
9	文書作成	タイピング練習・文書作成ソフトを使ってプレゼンテーション資料を作成する				○	
10	表作成・計算	タイピング練習・表計算ソフトを使って表作成・数値、文字入力、計算を行う				○	
11	表作成・計算	タイピング練習・表計算ソフトを使って表作成・数値、文字入力、計算を行う				○	
12	グループワーク	タイピング練習・課題に対するプレゼンテーションを行う資料を作成、プレゼンテーションを行う				○	
13	グループワーク	タイピング練習・課題に対するプレゼンテーションを行う資料を作成、プレゼンテーションを行う				○	
14		遠隔授業中は毎週、オンデマンド形式の課題を実施し、水準未到達の学生については修正指示、再提出することで理解を深めた。					
15		対面授業中は毎週、授業内で作成したファイルをメール添付にて授業担当に提出。到達度を図り、翌週の授業で復習、フィードバックを行った。					
試験等	なし						
教科書及び参考図書							
参考図書：初心者のためのパソコン入門 富士通エフ・オー・エム出版(2016) 一瞬で片づく! ずるいパソコン仕事術 中山 真敬宝島社 (2017)							
準備学習・事後学習							
準備学習（週 1.5 時間）：パソコン操作に関する基本的な情報を収集しておくこと。 事後学習（週 1.5 時間）：授業の内容を復習し、操作を覚えること。							
課題に対するフィードバックの方法							
フィードバックとして課題を回収後、解答の解説を行う。							
成績評価の目安と方法							
提出課題の内容 90% 授業姿勢 10% （未提出な課題がある場合、成績の評価はされない）							
評価	成績評価別の到達度						
S	パソコンやスマートフォンに関する知識や操作技術を、各自の生活に応用できる能力を身に付けている。						
A	用語についてとても良く理解し、パソコンおよびスマートフォンを自在に操作し、目的に応じて成果物を提出できる。						
B	用語について理解し、パソコンおよびスマートフォンの操作をスムーズにすることができる。						
C	用語について理解し、パソコンおよびスマートフォンの簡単な操作ができる。						

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
基礎教育 外国語		英語コミュニケーション 1 [English Communication 1]	2			
授業形態		担当教員名		科目コード		
講義・演習・ アクティブ・ラーニング		植松 大介	国	NSM-B1008		
この授業に関係する資格						
教員免許（保健体育、栄養教諭）						
この授業のキーワード		授業概要				
1	コミュニケーション	視聴覚教材などを効率よく使用し、自分の欲求を満たす英語表現・ゼスチャー等を身につける。				
2	基本的な口語表現	基本的なフレーズ（文語・口語）を講義とロールプレイングを通じて養う。				
3	自己欲求を満たす英語	コミュニケーションに必要な英語の基本的な文法力・語彙力も身に付ける。				
学習の到達目標						
日常生活の中での英語の役割を理解すると同時に、英語が身近な道具であることを学ぶ。さらに基本的な表現やフレーズを反復練習することにより、日本と英語圏の文化や、自分の欲求を満たすための簡単でシンプルな英語コミュニケーションの技術を習得することを目標とする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	Introduction	授業の方針・進め方、評価の仕方、その他受講上の注意など（遠隔）				
2	Communication	日本語はボエム、英語はソング。言語の根底を学ぶ（遠隔）				
3	Self-Introduction	自己・他己紹介 私は誰？あなたは誰？（遠隔）				
4	Unit 1 Emotions	感情と気持ちははっきりと！				○
5	Unit 2 Weather	お天気ネタは万国共通！会話の切り口を知る				○
6	Unit 3 AA、BA&JA	米語？英語？豪語？和製？同じ言葉でも意味が違う				○
7	Unit 4 Time	やっぱりオシャレはクウォーツ時計 時間のつかい読み方				○
8	Unit 5 Numbers	日本は「万」、英語は「千」 数字の読み方を学ぶ				○
9	Unit 6 Direction	方角・道案内はこれで万全！				○
10	Unit 7 How～？	知らないことは何でも聞く！正しい質問のしかた				○
11	Unit 8 Hot or Hot?	状況や味覚などはキチンと伝える				○
12	Unit 9 Role Play	なりきりロールプレイング				○
13	まとめ・総括	まとめと総括				○
14		classroom を利用して授業の課題を配信し、対面時に提出、理解を深めるように行った。				
15						
試験等	筆記試験＋実技試験					
教科書及び参考図書						
参考図書：Kayo Shigemori 全くだな英語が1年で話せた！ アラフォーOL Kayo の「秘密ノート」 ＊授業中に必要に応じて、適宜指示及び教材プリントを配布する						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：自分の興味のあるジャンルに対して新聞やニュース、インターネット・書籍を通して情報の収集をしておくこと。 事後学習（週 1.5 時間）：講義内容を復習し、分からない単語やフレーズは調べて覚えること。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして各講義中に行うロールプレイング後により実践的な解説を行う。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験・実技・口頭試問 80% 予習状況、及び授業中の積極的な態度などを平常点 20%として、総合的に評価する						
評価	成績評価別の到達度					
S	基本的な文法事項の理解と慣用的な英語の表現を駆使し、平易な英語でのコミュニケーション能力を十分身に付けている。					
A	基本的な文法事項の理解と慣用的な英語の表現を駆使し、平易な英語でのコミュニケーション能力をほぼ身に付けている。					
B	基本的な文法事項に理解と慣用的な英語の表現を駆使し、平易な英語でのコミュニケーション能力を良く身に付けている。					
C	基本的な文法事項の理解と慣用的な英語の表現を駆使し、平易な英語でのコミュニケーション能力を身に付けている。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
基礎教育 外国語		英語コミュニケーション 2 [English Communication 2]	2			
授業形態		担当教員名		科目コード		
講義・演習・ アクティブ・ラーニング		植松 大介	国	NSM-B2009		
この授業に係る資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1	自己欲求を満たす英語	更なる自分の欲求を満たす英語表現を身につける。基本的なフレーズ（文語・口語）の確認と応用的なフレーズも講義とロールプレイングを通じて学ぶ。さらに編入学試験・就職試験などに必要な、長文読解力や文法力のアップを目指す。				
2	応用口語表現					
3	長文読解力の向上					
学習の到達目標						
日常生活の中での英語の役割を理解すると同時に、英語が身近な道具であることを学ぶ。さらに基本から応用までの表現やフレーズを学び、更なる自己欲求を満たす英語コミュニケーションの技術と就職や編入等に必要な英語の技術を習得することを目標とする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	Introduction	授業の方針・進め方、評価の仕方、その他受講上の注意など				○
2	Unit 12 History	英語は難解？簡単？英語のルーツを学ぶ				○
3	Unit 13 Gestures	握手と Hug だけが挨拶じゃない！外国式ゼスチャー & フレーズを知る				○
4	Unit 14 Preposition	場所や位置の表現方法を完全マスター！前に置くことば（詞）を知っておけば怖いものなんてない				○
5	Unit 15 Real ENG 1	Native 講師との交流①				○
6	Unit 16 CIQ	旅に出よう ①入国からチェックインまで				○
7	Unit 17 F & B	旅に出よう ②食べたい物を飲み食いする				○
8	Unit 18 Sightseeing	旅に出よう ③観光 & お土産を買う				○
9	Unit 19 Check Out	旅に出よう ④チェックアウトから出国まで				○
10	Unit 20 Real ENG 2	Native 講師との交流②				○
11	Unit 21 Sports	これ英語で説明できますか？①（スポーツ編）（プレゼンテーション＋質疑応答）				○
12	Unit 22 Culture	これ英語で説明できますか？②（文化編）（プレゼンテーション＋質疑応答）				○
13	Unit 23 Receipt	これ英語で説明できますか？③（レシピ編）（プレゼンテーション＋質疑応答）				○
14	Unit 24 Role Play	なりきりロールプレイング				○
15	まとめ・総括	まとめと総括				
試験等	実技試験＋口頭試問					
教科書及び参考図書						
参考図書：Kayo Shigemori 全くだめな英語が1年で話せた！アラフォーOL Kayo の「秘密ノート」 ＊授業中に必要に応じて、適宜指示及び教材プリントを配布する						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：自分の興味のあるジャンルに対して新聞やニュース、インターネット・書籍を通して情報の収集をしておくこと 事後学習（週 1.5 時間）：講義内容を復習し、分からない単語やフレーズは調べて覚えること。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして各講義中に行うロールプレイング後により実践的な解説を行う。						
成績評価の目安と方法						
小テスト・実技試験・口頭試問 80% 予習状況及び授業中の積極的な態度などを平常点 20% として総合的に評価する						
評価	成績評価別の到達度					
S	応用的な文法事項の理解と慣用的な英語の表現を駆使し、平易な英語でのコミュニケーション能力を十分身に付けている。					
A	応用的な文法事項の理解と慣用的な英語の表現を駆使し、平易な英語でのコミュニケーション能力をほぼ身に付けている。					
B	応用的な文法事項に理解と慣用的な英語の表現を駆使し、平易な英語でのコミュニケーション能力を良く身に付けている。					
C	応用的な文法事項の理解と慣用的な英語の表現を駆使し、平易な英語でのコミュニケーション能力を身に付けている。					

專門教育科目

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
共通専門科目		健康のスポーツ栄養学 [Nutrition for Health and Fitness]	2			
授業形態		担当教員名			科目ナンバー	
講義		長島 洋介		NSM-S2010		
この授業に関係する資格						
栄養士免許、教員免許（保健体育）、スポーツ栄養士、健康運動実践指導者、GFI、NR・サプリメントアドバイザー、スポーツ指導者等共通科目、アシスタントマネジャー、アスレティックトレーナー、子ども運動発達指導士						
この授業のキーワード		授業概要				
1	健康	ヒトの身体組成や運動におけるエネルギー代謝、エネルギー消費量に関する評価方法を学び、健康づくりのための生活習慣に関する知識を身につける。また、スポーツをする際の水分補給方法について学ぶ。				
2	生活習慣病					
3	スポーツ活動					
学習の到達目標						
身体活動と栄養の関連性について学び、身体活動量に応じた食事内容や摂取方法を身につけることを目標とする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	健康づくりと食生活	健康づくりのためのスポーツと食事・栄養の意義（遠隔）				
2	生活習慣病	生活習慣病とメタボリックシンドローム 1 肥満の定義と測定法（遠隔）				
3	エネルギー代謝	消費エネルギー測定法 食事と運動による体重コントロール（遠隔）				
4	スタミナアップ	糖質の摂取と持久力（遠隔）				
5	筋力アップ	たんぱく質の摂取と筋肉づくり（遠隔）				
6	貧血予防	ミネラルの摂取と骨づくり（遠隔）				
7	骨づくり	スポーツにおける貧血（遠隔）				
8	復習①	第 1～3 回の復習（対面）				
9	疲労回復	ビタミンの摂取と体調管理（遠隔）				
10	水分補給	水分摂取の種類とタイミング（遠隔）				
11	復習②	第 4～7 回の復習（対面）				
12	サプリメント	サプリメントと食事 サプリメントの種類と使い方（遠隔）				
13	ライフスタイルと栄養	年代 性別 食環境別の食事とスポーツの関わり（遠隔）				
14	復習③	第 9、10、11、12 回の復習（対面）				
15	まとめ	全体の統括 授業内試験（対面）				
試験等		※当初の予定より、1 時間少なくなった。少なくなった授業時間の対応として、毎回の WEB 授業終了後に、WEB 形式で課題を出した。				
教科書及び参考図書						
教科書： なし（プリント配布） 参考図書： 解剖生理学 人体の構造と機能、 第 2 版 羊土社						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）： 参考図書の「解剖生理学」を読んでおくこと。 事後学習（週 1.5 時間）： 授業中の内容を復習しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
オフィスアワーで適宜対応する。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 90% 平常点 10% 理由のない遅刻、欠席は減点として、総合的に評価する						
評価	成績評価別の到達度					
S	健康のためのスポーツ栄養学を十分理解し、応用力を身に付けている。					
A	健康のためのスポーツ栄養学をよく理解している。					
B	健康のためのスポーツ栄養学を理解している。					
C	健康のためのスポーツ栄養学の基礎的な知識を理解している。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
共通専門科目		運動生理学 [Exercise Physiology]	2			
授業形態		担当教員名		科目コード		
講義		玉木 啓一		NSM-S2011		
この授業に関係する資格						
栄養士免許、教員免許（保健体育）、健康運動実践指導者、GFI、スポーツ栄養士、共通科目ⅠⅡ、アシスタントマネジャー、アスレティックトレーナー、子ども身体運動発達指導士						
この授業のキーワード		授業概要				
1	エネルギー消費量	生理学的な知識を基本として、健康のための運動、スポーツ競技力の向上について、理解し指導できる能力を養うことを目標とする。運動中の生体内現象を、神経系・筋系ならびにエネルギー供給に関連した生理学的観点から解説する。また、体力向上の生理学的基礎について、トレーニングによる身体適応の変化を生理学的に明らかにしていく。				
2	運動強度					
3	トレーニング					
学習の到達目標						
運動生理学の基本的な知識を理解・習得し、健康やスポーツへ活かせる考え方を学び、その応用力を身につけることを目標とする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	健康生活と運動生理学	健康と運動生理学の関連を理解する（遠隔）				
2	運動とエネルギー代謝 1	エネルギー代謝とは、エネルギー代謝の測定方法と意義（遠隔）				
3	運動とエネルギー代謝 2	運動とエネルギー代謝（遠隔）				
4	身体運動のしくみ 1	呼吸・循環器と運動（遠隔）				
5	身体運動のしくみ 2	筋収縮のしくみ、				
6	身体運動のしくみ 3	筋収縮のエネルギー				
7	運動の種類	有酸素運動と無酸素運動				
8	筋線維タイプ	筋線維タイプとその特性				
9	運動と栄養素	様々な栄養素と運動の関係				
10	体力	体力とその意義				
11	トレーニング 1	トレーニングの原理・原則				
12	トレーニング 2	トレーニングの効果				
13	運動と健康	運動が健康におよぼす効果、運動と健康、運動とスポーツについて考える				
14		例年、初回授業で行っている本講義に対する「期待」や「要望」などのアンケートを classroom を利用して実施し、その後の授業に生かすとともに、チャットや classroom のストリームを通じて学生に指導や情報適用を実施した。				
15		13 回目の授業で不十分であった「運動と健康、運動とスポーツについて考える」の内容について、classroom およびオフィスアワーの時間を利用し、ネットでの対応及び対面での対応を行った。				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：「栄養・スポーツ系の運動生理学」樋口満 監修 湊久美子・寺田新 編 南江堂 参考書：コーチと選手のためのスポーツ生理学 フォックス 大修館書店、健康運動実践指導者養成用テキスト						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）： 事前に指示した教科書資料を読み、自分なりの理解をし、理解できない部分は質問できるように準備すること。 事後学習（週 1.5 時間）： 授業で行った内容を復習し理解の確認（自分の言葉で他人へ説明できるか？）を試みる						
課題に対するフィードバックの方法						
各授業終了後やオフィスアワーの時間等を利用して、フィードバックを行う。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 95% 平常点 5% 理由のない遅刻・欠席は減点						
評価	成績評価別の到達度					
S	運動生理学の知識を活かした、健康・スポーツへの応用力を十分に持っている。					
A	運動生理学の知識を良く理解し、健康・スポーツへ活かすことができる。					
B	運動生理学の知識を理解している。					
C	運動生理学の基礎的な知識を身につけている。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
共通専門科目		健康の心理学 [Health Psychology]	2			
授業形態		担当教員名		科目コード		
講義		高橋 勇一		NSM-S2012		
この授業に関する資格						
ピアヘルパー、健康管理士一般指導員、社会福祉主事						
この授業のキーワード		授業概要				
1	心の健康	健康心理学は心理学から派生した応用心理学の 1 つの領域である。健康に影響を与える要因を心理的な側面はもとより、行動的・社会的など様々な観点から学習する。また、脳科学の研究成果も取り入れ、ストレスとの上手なつきあい方や健康維持法についても考察する。				
2	ストレス対応					
3	ポジティブ心理学					
学習の到達目標						
人間が生活していくうえで起こりうる様々な健康問題に対する知識の理解を深める。健康と疾病には心理的な要因はもとより、他の様々な要因が影響していることを理解する。そして、各自が適したストレス解消法や最善の状態（健康）を維持するスキルを習得することを目指す。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	健康心理学とは	授業の概要説明、健康及び心理学、健康心理学の基礎（遠隔）				
2	健康と心理学	新しい健康の概念、脳の構造、ポジティブ感情とネガティブ感情、セロトニン活性化法（遠隔）				
3	ストレスと心の健康 1	ストレス、ストレス理論、ストレス対処（コーピング）、リラクゼーション（遠隔）				
4	ストレスと心の健康 2	ストレスとの捉え方、ストレスとの上手なつきあい方、健康と自己肯定感（遠隔）				
5	健康心理アセスメント	QOL、対人関係、生活習慣のアセスメント、意志を科学する（遠隔）				
6	健康とパーソナリティ	パーソナリティについて、タイプ A 行動パターン、心の病気とパーソナリティ（遠隔）				
7	心の健康・心の病気	心の健康に関する統計、生まれてきた意味、思春期の精神疾患				
8	劣等感とコンプレックス	さまざまなコンプレックス、劣等感、コンプレックスを克服する方法				
9	健康教育	健康教育、ストレスマネジメント教育（遠隔）				
10	健康心理カウンセリング	カウンセリング、幸せにする思考法、マインドフルネス、アンガーマネジメント				
11	健康とポジティブ心理学	ポジティブ心理学、レジリエンス、人生の選択（遠隔）				
12	人生と健康心理学	時間管理と生活習慣、ベスト・パフォーマンス、自己実現の過程、寿命（死）について				
13	総合・まとめ	総合・まとめ、振り返り学習				
14		少なくなった 2 回分については、その内容を圧縮して他の授業回でポイントのみ講義を行った。また、授業では毎回課題を課し、それを提出してもらった後、コメントを返信した。				
15		classroom を利用して、講義資料（動画・PDF）を配信し、学生が自宅学習（予習・復習）を繰り返すようにした。				
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
参考図書：森和代 石川利江 茂木俊彦 編 よくわかる健康心理学 ミネルヴァ書房 島井哲志・長田久雄・小玉正博 編 健康心理学・入門 有斐閣アルマ						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.0 時間）：書籍（参考図書）やインターネット・配付資料等を通して、予習をしておくこと。 事後学習（週 2.0 時間）：授業の内容をよく復習するとともに、生きた知識として活用し、さらに探究の学習を行うこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
課題やリアクションペーパーに対して授業内でフィードバックを行う。						
成績評価の目安と方法						
業参加の意欲・態度・提出物（リアクションペーパー） 50% 授業内課題 50%						
評価	成績評価別の到達度					
S	健康の心理学全般についての深い知識を身につけ、応用的なスキルを養っている。					
A	健康の心理学全般についての一般的な知識を身に付けている。					
B	健康の心理学の基礎について概ね理解している。					
C	健康の心理学の基礎について部分的に理解している。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
共通専門科目		健康管理論 [Health Care Theory]	2			
授業形態		担当教員名		科目コード		
講義		岩井 秀明		NSM-S2013		
この授業に関する資格						
教員免許（保健体育）、健康運動実践指導者、GFI、健康管理士一般指導員、介護予防運動スペシャリスト						
この授業のキーワード		授業概要				
1	健康増進	健康増進、健康づくりの施策、健康管理の方法について学び、ライフステージごとの健康管理の実際とその予防から、健康を増進させる健康管理について修得する。				
2	健康施策					
3	健康管理					
学習の到達目標						
健康増進、健康づくりの施策、健康管理の内容と方法について理解・考察し、各ライフステージでの健康づくりを実践できる。 変容する社会とグローバル社会の進展における多様な健康問題を理解し、併せて健康に関する基礎的教養を広げる。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	健康増進-1 社会と健康（1章）	健康・公衆衛生の概念,社会的公正と健康格差の是正,歴史,環境・国際保健				
2	健康増進-2 人間集団の健康-1	疫学（2章）；定義,疫学指標,観察研究（記述的・生態学的・横断研究）				
3	健康増進-3 人間集団の健康-2	疫学（2章）；（症例対照・コホート研究）,介入研究,誤差,スクリーニング				
4	健康増進-4 健康指標-1	人口動態統計（4章）、統計学（3章）				
5	健康増進-5 健康指標-2	保健統計指標（5章）；人口動態統計、生命表、傷病統計				
6	健康づくりの施策-1+2	健康管理システム、社会保障制度（9章）、第1・2次国民健康づくり対策				
	健康づくりの施策-2	健康日本21（第二次）（6章）、健康増進法、新健康フロンティア戦略				
7	健康づくりの施策-2+5（6章）	生活習慣と健康;食生活と栄養、食事摂取基準（2020）,食生活指針,喫煙				
8	健康づくりの施策-3+5（6章）	生活習慣と健康;身体活動・運動,身体活動基準・指針,メディカルチェック、飲酒,睡眠・休養,歯科保健行動				
	健康づくりの施策-5	生活習慣と健康（6章）;喫煙,飲酒,睡眠・休養・ストレス,歯科保健行動				
9	健康管理の方法-1+2（7章）	健康管理の進め方,主要疾患の疫学と予防対策-1；がん、循環器疾患				
	健康管理の方法-2（7章）—	2；代謝性疾患（糖尿病、脂質異常症）,感染症				
11	ライフステージの健康管理-1+2	地域の保健予防システム（8章）,高齢者・成人の健康管理（10章）				
	ライフステージの健康管理-2	母子の健康管理（11章）,学校の健康管理（12章）；健診と保健指導				
12	ライフステージの健康管理-3-2	職場の健康管理（13章）；産業保健従事者,職業と健康障害,労働災害				
少なくとも った回数 分の内 容	健康づくりの施策-1+2 で1回減、健康づくりの施策-3+5、-4+5 で1回減、ライフステージの健康管理-1+2 で1回減,計3回減	健康づくりの施策-1+2 のように分量が減の場合；講義冒頭スライドに本講義のキーワードを掲げ、講義の最後に本講義の振り返り課題をⅠ～4題を示し、記入して提出させた。 また授業内容上記の赤字は各1回減のために講義できなかった箇所				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：尾島俊之 堤明純 編 基礎から学ぶ健康管理概論 改訂第5版 2020.3（南江堂） 参考図書等：健康運動実践指導者養成テキスト、健康運動指導のための健康管理概論、学生のための健康管理学、その他の参考資料は適宜紹介し、必要に応じてプリントを渡す。						
準備学習・事後学習						
準備学習（週1.5時間）：次回のテーマとその内容について、指示された教科書の該当箇所を事前に読了する。 事後学習（週1.5時間）：講義で提示された資料の未読部分を読了し、教科書を参照しつつ、講義を再度振り返りまとめる。						
課題に対するフィードバックの方法						
次回の講義冒頭時に振り返り課題、感想についてフィードバックし、分かち合う。						
成績評価の目安と方法						
期末試験（70%）、振り返り課題（15%）、授業態度・取り組み姿勢（15%）、欠席は欠課レポート提出。総合的に判断し評価する。						
評価						
S	健康管理に関する知識を活かした、健康・スポーツへの応用力を十分にもっている。					
A	健康管理に関する知識をよく理解し、健康・スポーツへ活かすことができる。					
B	健康管理に関する知識を理解している。					
C	健康管理に関する基本的な知識を身につけている。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
共通専門科目		食品学 [Food Science]	2			
授業形態		担当教員名		科目コード		
講義		茗荷 尚史		NSM-S2016		
この授業に関係する資格						
栄養士免許						
この授業のキーワード		授業概要				
1	食品成分	健康な生活を論ずる上で、エネルギーは食品から得ていることを考えれば、食品に関する基本的な知識を得ることは必須である。本講義では食品各成分の栄養特性について学ぶとともに、最近の知見を取り入れながら、健康な生活を食品とのかかわりの中で考える。				
2	栄養特性					
3	食品機能					
学習の到達目標						
本講義は個々の食品成分に着目して、食品全体を理解することに主眼を置く。適宜、高等学校までに学習した内容を復習しつつ、食品成分表の扱いについて概説し、特にスポーツ選手の食品選択のあり方についても、一般食品とサプリメントの両面から触れる。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	人間と食品	1.食物連鎖 2.食品と栄養 3.食糧と環境問題 4.食品の分類				
2	食品の栄養素と成分表 (その1)水	1.水の構造と性質 2.水の存在状態 3.水分活性				
3	食品の栄養素と成分表 (その2)炭水化物	1.生体内での役割 2.構造 3.分類				
4	食品の栄養素と成分表 (その3)脂質	1.生体内での役割 2.構造と分類 3.食品中の主要脂質 4.脂肪酸の分解と合成				
5	食品の栄養素と成分表 (その4)タンパク質 その1	1.構成成分 2.構造 3.等電点 4.アミノ酸と味				
6	食品の栄養素と成分表 (その5)タンパク質 その2	1.栄養素としてのタンパク質 2.タンパク質の分解とアミノ酸体内動態				
7	食品の栄養素と成分表 (その6)ビタミン その1	1.定義 2.脂溶性ビタミン				
8	食品の栄養素と成分表 (その7)ビタミン その2	1.水溶性ビタミン 2.その他ビタミン様物質				
9	食品の栄養素と成分表 (その8)無機質 その1	1.主要無機質				
10	食品の栄養素と成分表 (その9)無機質 その2	1.主要無機質(続き) 2.その他人体に必要な微量無機質				
11	食品の栄養素と成分表 (その10)食物繊維	1.定義および目標摂取量 2.効果 3.食品添加物としての使用基準				
12	食品の嗜好成分 (その1)	1.色素 2.香気成分				
13	食品の嗜好成分 (その2)	1.呈味成分 2.毒性成分				
14	サプリメント	1.種類 2.使用の現状 3.効能				
15	まとめ	全体の総括				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：なし 参考図書：イラスト食品学総論 種村安子他 著 東京教学社 ＊ 必要に応じて資料を配布する						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 0.5 時間）：日頃から食品学に関連する資料を集めておく。 事後学習（週 2.5 時間）：授業ノート、プリントを参考にして、復習を中心とした授業外学習を励行して、次回の授業に臨むこと。 講義で得た知識を実生活に役立て、健康生活の実践・指導を行うための基礎として欲しい。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、必要に応じて授業ノートを提出させ、コメントを入れて返却する。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 70% 平常点(ノート提出、発言、態度を含む) 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	食品成分の面から食品学の知識をよく理解している。					
A	食品成分の面から食品学の知識を理解している。					
B	食品成分の面から食品学の基本的知識を理解している。					
C	食品成分の面から食品学の最低限の知識を理解している。					

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N			S	M
共通専門科目		栄養学総論 [Basic Nutrition]	2					
授業形態		担当教員名			科目コード			
講義		茗荷 尚史			NSM-S2015			
この授業に関係する資格								
NR・サプリメントアドバイザー								
この授業のキーワード		授業概要						
1	栄養素	栄養とは、生体が栄養成分を取り入れて利用し、成長、発育して生命を維持し、健全な生命活動を営むためのエネルギーを得ることである。すなわち栄養とは食物側の問題でなく身体側の問題であり、健康は食物を摂取した際、それを処理する状態が心身ともに良好な場合に達成される。このような観点から、栄養学を理解するためには、生体機能や代謝を理解することが不可欠であり、これらを概説しつつ、栄養学の基礎について解説していく。						
2	消化							
3	代謝							
学習の到達目標								
本講義内容は、栄養学の基礎知識を習得することをテーマとし、栄養に関わる基礎知識、とりわけ消化および代謝を理解することを到達目標として、ワークシート形式で授業を展開していく。								
回	テーマ	授業内容						AL
1	栄養とは何か	1.定義 2.語源 3.栄養素と機能						
2	エネルギー比率と体組成 その1	1.体組成 2.三大栄養素の相互変換						
3	エネルギー比率と体組成 その2	1.平均的な食事のエネルギー比率 2.空腹時の反応 3.満腹時の反応						
4	エネルギー比率と体組成 その3	1.摂取優先順位 2.理想的な摂取比率						
5	消化のしくみ その1	1.消化器官の基本構造 2. 口腔、咽頭、喉頭						
6	消化のしくみ その2	1.胃の構造 2.胃のはたらき 3.逆流性食道炎 4.ピロリ菌について 5.ダンピング症候群						
7	消化のしくみ その3	1.小腸の構造 2.十二指腸 3.空腸 4.回腸						
8	消化のしくみ その4	1.大腸の構造 2.大腸のはたらき 3.糞便の組成 4.便量と健康 5.腸内マイクロフローラ						
9	糖質代謝 その1	1.解糖系 2.筋肉中の反応 3.肝臓中の反応						
10	糖質代謝 その2	1.炭素数の変化と CO ₂ 2.補酵素の生成 3.ATP の収支						
11	糖質代謝 その3	1.エネルギー効率 2.グリセミック・インデックス						
12	タンパク質代謝	1.アミノ酸の種類 2.アミノ酸の代謝とアミノ基転移反応 3.尿素合成経路と尿形成						
13	脂質代謝 その1	1.中性脂肪の分解 2.グリセリンの代謝						
14	脂質代謝 その2	1.脂肪酸の種類 2.β-酸化						
15	総まとめ	全体の総括						
試験等	筆記試験							
教科書及び参考図書								
教科書：特に指定しないが、単元ごとに配布するワークシートおよび板書がその代用となる 参考図書：栄養学 ―総論とスポーツ栄養学― 池上幸江他 著 酒井書店 育英堂								
準備学習・事後学習								
準備学習（週 0.5 時間）：日頃から栄養学総論に関連した資料を集めておく。 事後学習（週 2.5 時間）：授業ノート、ワークシートを参考にして、復習を中心とした授業外学習を励行して、次回の授業に臨むこと。 講義で得た知識を実生活に役立て、健康生活の実践・指導を行うための基礎とすること。								
課題に対するフィードバックの方法								
フィードバックとして、ワークシートを添削後、コメントを入れて返却する。								
成績評価の目安と方法								
筆記試験 70% 平常点(ワークシート提出、発言、態度を含む) 30%								
評価	成績評価別の到達度							
S	各栄養素の消化および代謝について、よく理解している。							
A	各栄養素の消化および代謝について、理解している。							
B	各栄養素の消化および代謝について、基礎的な理解している。							
C	各栄養素の消化および代謝について、最低限の理解している。							

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位			
共通専門科目		競技のスポーツ栄養学 [Sports Nutrition for Athlete]	2	N	S	M
授業形態		担当教員名			科目ナンバー	
講義・ アクティブ・ラーニング		長島 洋介		NSM-S3017		
この授業に関する資格						
アスレティックトレーナー						
この授業のキーワード		授業概要				
1	アスリート	競技スポーツを行う上でのコンディション維持や、必要な栄養・食事の重要性について学習する。 また、栄養不良による疾病予防と種目特性やトレーニング状況に応じた具体的、実践的な栄養・食事のとり方について学ぶ。				
2	障害予防					
3	パフォーマンス向上					
学習の到達目標						
競技特性やトレーニング状況、コンディションを整えるための食事・栄養の基礎と現場での応用力を身に付ける。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	競技、スポーツと食生活	競技スポーツと食事・栄養の意義 スポーツにおける栄養の役割と関係する栄養素				
2	トレーニングと食事 ①	スポーツ選手の身体活動とエネルギー トレーニングとエネルギー消費量				○
3	トレーニングと食事 ②	競技特性とエネルギー摂取量 トレーニング期の食事				○
4	競技特性別の食事 ①	糖質の摂取と持久力の関係 グリコーゲンローディング				○
5	競技特性別の食事 ②	たんぱく質の摂取と筋肉づくりについて 効果的な摂取タイミング				○
6	遠征、合宿時の食事	合宿 遠征時の食事のポイント 摂取タイミング				
7	試合期の食事・栄養	試合前、試合中、試合後の食事と水分補給のポイント 摂取タイミング				○
8	アスリートの抱える問題と食事 ①	競技スポーツと貧血 摂食障害 月経障害				○
9	アスリートの抱える問題と食事 ②	競技スポーツと骨粗鬆症 怪我・故障予防				○
10	アスリートの抱える問題と食事 ③	競技スポーツとウェイトコントロール 増量				
11	環境とアスリートの食事・栄養 ①	暑熱環境下での水分補給 寒冷環境下および低気圧環境下での食事・栄養				○
12	サプリメントについて	サプリメントの種類 効果的な利用方法 摂取上の注意点				
13	スポーツ選手への栄養教育①	アスリートに対する具体的な食事支援の方法				
14	スポーツ選手への栄養教育②	アスリートに対する具体的な栄養教育				
15	まとめ	全体の総括				
試験等	レポート課題					
教科書及び参考図書						
参考図書：「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑨スポーツと栄養」財団法人日本体育協会 「アスリートのための栄養・食事ガイド」第一出版						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：参考図書を読んでおくこと。 事後学習（週 1.5 時間）：授業中の内容を復習しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
オフィスアワーで適宜対応する。						
成績評価の目安と方法						
レポート課題 80%、平常点 20%として総合的に評価する						
評価	成績評価別の到達度					
S	アスリートのためのスポーツ栄養学の知識を活かし、現場での応用力を十分に身に付けている。					
A	アスリートのためのスポーツ栄養学の知識をよく理解している。					
B	アスリートのためのスポーツ栄養学の知識を理解している。					
C	アスリートのためのスポーツ栄養学の基礎的な知識を身に付けている。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位			
共通専門科目		スポーツ運動学 [Sports Kinematics]	2	N	S	M
授業形態		担当教員名			科目ナンバー	
講義		杉山 仁志		NSM-S2018		
この授業に関係する資格						
教員免許（保健体育）、健康運動実践指導者、GFI、アスレティックトレーナー、スポーツインストラクター						
この授業のキーワード		授業概要				
1	スポーツ指導	社会体育指導者として、必須の項目を扱い、テーマに応じた授業を行う。又、競技指導者として必要な知識を学習する。				
2	トレーニング理論					
3	社会体育					
学習の到達目標						
成人を対象とする社会体育指導者として必要な知識を、運動・スポーツ指導に関連付けた内容の習得を目標とする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	オリエンテーション	授業概要を説明する（遠隔）				
2	各運動の基礎知識（1）	ジョギング・ウォーキング指導法（遠隔）				
3	各運動の基礎知識（2）	水泳・水中運動指導法・エアロビックダンス指導法（遠隔）				
4	各運動の基礎知識（3）	トレーニング理論 1				
5	各運動の基礎知識（4）	トレーニング理論 2				
6	各運動の基礎知識（5）	トレーニング理論 3				
7	各運動の基礎知識（6）	運動指導法 1				
8	各運動の基礎知識（7）	運動指導法 2				
9	各運動の基礎知識（8）	運動指導法 3				
10	各運動の基礎知識（9）	運動指導法 4（競技指導を含む）				
11	各運動の基礎知識（10）	運動指導法 5（競技指導を含む）				
12	各運動の基礎知識（11）	マシントレーニング理論 1				
13	まとめ	運動指導法のまとめ				
14		ジョギング・ウォーキング指導法について、classroom にて課題を提出				
15		水泳・水中運動指導法・エアロビックダンス指導法について、classroom にて課題を提出				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：健康運動実戦指導者用テキスト（公財）健康・体力づくり事業財団						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：運動・スポーツの指導において、基礎となる部分なので、教科書等を利用し、情報収集しておくこと。 事後学習（週 1.5 時間）：自分なりのノートを作成し、欠席等で資料を受け取っていない場合は、資料を受け取り復習しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、授業の初めに前回の内容が理解できているか確認する。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 90% 平常点 10%						
評価	成績評価別の到達度					
S	社会体育指導者及び運動・スポーツ指導のために必要な知識を十分身に付けている。					
A	社会体育指導者及び運動・スポーツ指導のために必要な知識を身に付けている。					
B	社会体育指導者及び運動・スポーツ指導のために必要な知識を十分理解している。					
C	社会体育指導者及び運動・スポーツ指導のために必要な知識を理解している。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N			S	M
共通専門科目		運動処方論 [Exercise Prescription]	2					
授業形態		担当教員名			科目コード			
講義		玉木 啓一		NSM-S2019				
この授業に係る資格								
教員免許（保健体育）、健康運動実践指導者、GFI、健康管理士一般指導員、スポーツ栄養士、スポーツ指導者等共通科目、アスレティックトレーナー								
この授業のキーワード		授業概要						
1	運動と健康	生活習慣病の予防や改善のために運動をどのように役立て、安全に健康増進をはかるための指導者としての能力を高める。具体的な運動処方の立案を実施し、実践的な手法として日常生活に応用できる能力を習得していく。運動処方は、トレーニングの原理・原則にしたがって身体適応が起こる過程であることを理解していく。 配布資料を毎回すべて持参すること。欠席等の場合、次回までにスポーツ生理学研究室前のレターボックスから入手しておくこと。						
2	運動と安全							
3	運動強度							
学習の到達目標								
安全で効果的な運動処方を出来るための知識を習得し、実際に運動処方を出来るような実践力を身につけることを目標としている。								
回	テーマ	授業内容						AL
1	授業計画	授業の進め方、運動処方の基礎的な解説						
2	運動処方とは	運動処方の本質である、運動の種類、強度、持続時間、頻度、進め方を学ぶ						
3	運動と健康	健康と運動の関連を学ぶ（運動不足病、エアロビク、アネロビク運動）						
4	運動と疾病	運動に関連する病気について学ぶ（肥満、循環器系疾患、糖尿病など）						
5	中高年者の特性	運動処方の主な対象者である中高年者の体力と運動によるリスクについて学習する						
6	運動によるリスク	運動実施に伴うリスクについて学び、その回避方法を理解する						
7	体力・運動強度	体力・運動強度の把握、利用方法について学ぶ						
8	運動強度の理解	各々が実施した運動強度の把握方法を習得する						
9	メディカルチェック 1	運動リスク把握のためのメディカルチェックについて学ぶ						
10	メディカルチェック 2	運動強度決定のためのメディカルチェックについて学習する						
11	運動処方の実際 1	運動処方（トレーニングの原理・原則）を理解する						
12	運動処方の実際 2	運動を安全に実施するための方法（運動の種類によるトレーニング）について理解する						
13	運動処方の実際 3	運動プランの立案						
14	運動処方の実際 4	運動プランの評価・改善能力を養う						
15	運動処方の実際 5	運動処方のプランを自ら検討・改善する能力を養う						
試験等	筆記試験							
教科書及び参考図書								
教科書：「栄養・スポーツ系の運動生理学」樋口満 監修 湊久美子・寺田新 編 南江堂 参考図書：運動処方―ケーススタディでみる ACSM ガイドライン 坂本静男監訳 有限会社 ナップ								
準備学習・事後学習								
準備学習（週 1.5 時間）：事前に指示した教科書資料を読み、自分なりの理解をし、理解できない部分は質問できるように準備すること。 事後学習（週 1.5 時間）：授業で行った内容を復習し理解の確認（自分の言葉で他人へ説明できるか？）を試みる								
課題に対するフィードバックの方法								
課題、質問については、原則として次回の授業で解説する。資料を配布することもある。								
成績評価の目安と方法								
筆記試験 90%、平常点及び提出物など 10% 理由のない遅刻・欠席は減点 以上を総合的に評価する。								
評価	成績評価別の到達度							
S	運動と健康および運動のリスクを良く理解し、メカニズムからリスクを避ける方法も自ら考え、運動処方を安全に実施することができる。							
A	運動と健康および運動のリスクを良く理解し、安全な運動処方を実施する能力がたかい。							
B	運動と健康および運動のリスクを良く理解し、運動処方を実施することができる。							
C	運動と健康および運動のリスクを理解し、基本的な運動処方を実施することができる。							

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
共通専門科目		レクリエーション論 [Recreation]	2			
授業形態		担当教員名			科目ナンバー	
講義・ アクティブ・ラーニング		福島 邦男		NSM-S2020		
この授業に関する資格						
ピアヘルパー、レクリエーション・インストラクター、障がい者初級スポーツ指導者、スポーツ栄養士、スポーツ指導者等共通科目、 アシスタントマネジャー、アスレティックトレーナー、子ども身体運動発達指導士、中高老年期運動指導士						
この授業のキーワード		授業概要				
1 2 3	レクリエーション レジャー 自由時間	レクリエーションが必要とされてきた歴史・社会的な背景について学び、生活における生きがいづくりとしてのレク支援活動を理解する。ホスピタリティトレーニングやアイスブレイキングについての知識を深め、障がい形態別のレクについても学ぶことで、豊かな人生を築くために必要な知識を身につける。				
学習の到達目標						
レクリエーションの基本原則と意義を理解し、レクリエーション支援の理念とその必要性、支援者の役割について学び、応用力を身に付けることを目標とする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	レクリエーションとは	授業概要 用語の定義とレクリエーション・インストラクターの役割				
2	レクとレジャー	労働と遊び、レジャーとレクリエーションについて				○
3	労働・余暇・レク	レクリエーション・余暇の現状と課題 余暇と自由時間				
4	レクリエーション運動	レクリエーション運動の歴史と概念 砂場づくり運動から興亜厚生大会				
5	現在のレク運動	戦後のレクリエーションの変遷と制度				
6	楽しさと元気づくり	楽しさを通じた心の元気づくり並びにアイスブレイキングについて				○
7	心の元気と地域づくり	コミュニケーションと関係づくり 地域のきずなについて				
8	ホスピタリティ	レクリエーション支援とホスピタリティトレーニング コミュニケーションワークについて				○
9	仲間づくり集団づくり	集団に対するレクリエーション支援について				○
10	障がいとレクリエーション1	みんなのスポーツ 楽しむ力 障がいに対する理解				
11	障がいとレクリエーション2	障がい者のスポーツ大会についてとノーマライゼーションについて				
12	レクと環境問題	身近な生活環境の問題と世代間問題について				
13	レクでの安全管理	リスクマネジメント				
14	レクの事故と責任	シーズンスポーツの事例を中心として				
15	まとめ	この講義で取り上げたレクリエーション理論のまとめ				
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
参考図書：楽しさをとおした心の元気づくり (財) 日本レクリエーション協会、レクリエーション支援の基礎 (財) 日本レクリエーション協会 そ の 他：必要に応じて資料を配付する。						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：授業のキーワードとテーマに関する情報（新聞、雑誌、インターネット等）を入手し、毎回のミニレポートに生かせるように目を通しておく。 事後学習（週 1.5 時間）：毎時間配付する資料は保管しておき、事後学習で活用できるようにしておく。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、毎時間ミニレポートを回収し、次回授業始めに解説を行う。オフィスアワーでも適宜対応する。						
成績評価の目安と方法						
毎回のミニレポート 70% 課題・提出物 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	レクリエーションを活かした、健康生活への応用力を十分に身に付けている。					
A	レクリエーションを良く理解している。					
B	レクリエーションを理解している。					
C	レクリエーションの基礎的な知識を身に付けている。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]		単位	
共通専門科目		スポーツ心理学 1 [Sport Psychology 1]		2	N S M
授業形態		担当教員名			科目コード
講義・演習・アクティブ・ラーニング		藤巻 公裕			NSM-S2021
この授業に関する資格					
教員免許（保健体育）、健康運動実践指導者、ピアヘルパー、GFI、スポーツ栄養士、スポーツ指導者等共通科目、アシスタントマネジャー、アスレティックトレーナー、中高老年期運動指導士					
この授業のキーワード		授業概要			
1 2 3	運動学習 動機づけ 練習と効果	スポーツの心理的効果、スポーツの動機づけ、スポーツ技能の練習と効果、メンタルプラクティス、スポーツと集団、運動不振・不器用、恐怖感等について学習する。必要に応じてグループディスカッション、演習を行う。			
学習の到達目標					
スポーツ心理学の基礎知識を習得・理解し、スポーツ指導における実践力を身に付ける。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	スポーツ心理学1について	何を学ぶか、授業の方針と進め方、評価の仕方、受講上の注意など			
2	スポーツとこころ	スポーツ・運動の心へ及ぼす影響と心理的効果、重要性について			
3	スポーツと発達	幼年、青少年、壮年、高年者の発達の特徴とスポーツ・運動指導について			
4	運動学習と情報処理	運動学習とは何か、上達の仕組み、フィードバックなどについて			
5	認知、スキーマ理論	運動認知、運動記憶、運動イメージ、スキーマ理論などについて			○
6	スポーツと動機づけ	動機づけの理論と方法、やる気を高める方法、原因帰属などについて			
7	心理的競技能力の測定	心理的競技能力診断検査を実施し、結果の見方と解釈について演習を行う			○
8	スポーツ技能の心理	ブロック練習、ランダム練習、恒常練習、変動練習、課題の分割などについて			
9	練習の方法と効果	フィードバックと効果、文脈干渉効果、性格タイプとの関係、集中・分散効果等について			
10	メンタルプラクティス	イメージ、メンタルプラクティスの効果的な行い方について概説し、演習を行う			○
11	スポーツ・運動指導と恐怖感	スポーツ・運動指導における恐怖感、対策などについて			
12	スポーツと集団心理	集団の構造と機能、リーダーの課題、集団のモラルなどについて			
13	スポーツ指導者の心理	指導者のアドバイス、誉め方しかり方、望ましい指導者像などについて			
14	スポーツ・運動の不振	スポーツ・運動の不振の心理的特徴と指導について			
15	まとめ	スポーツ心理学 1 のまとめ			
試験等	筆記試験				
教科書及び参考図書					
参考図書：スポーツ心理学入門 マット・ジャーヴィス著 工藤和俊・平田智秋訳 新曜社 参考図書：よくわかるスポーツ心理学 中込四郎・伊藤豊彦・山本裕二編著 ミネルヴァ書房 参考図書：公認スポーツ指導者養成テキスト（共通科目Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）公益財団法人 日本スポーツ協会					
準備学習・事後学習					
準備学習（週 1.5 時間）：配布のテキストを予習した上で授業に臨むこと。 事後学習（週 1.5 時間）：学習した内容を十分復習すること。					
課題に対するフィードバックの方法					
理解度テストを行った後、解答の解説を行う。					
成績評価の目安と方法					
筆記試験 50% 意欲・態度・準備学習や事後学習の状況・提出物・グループディスカッションへの参加度等 50%					
評価	成績評価別の到達度				
S	スポーツ心理学の基礎知識を習得し、理解した上で実践に応用する力を身につけた。				
A	スポーツ心理学の基礎知識を習得し、十分理解した。				
B	スポーツ 心理学の基礎知識を習得し、ある程度理解した。				
C	スポーツ心理学の基礎知識を習得し、部分的に理解した。				

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位			
共通専門科目		スポーツ心理学 2 [Sport Psychology 2]	2	N	S	M
授業形態		担当教員名			科目コード	
講義・演習・ アクティブ・ラーニング		藤巻 公裕		NSM-S3022		
この授業に関する資格						
アスレティックトレーナー						
この授業のキーワード		授業概要				
1	メンタルマネジメント	メンタルマネジメント、イメージや集中力のトレーニング、心理的コンディショニング、競技不安、コーチングの心理、スポーツカウンセリングなどについて学習する。必要に応じてグループディスカッション、演習を行う。				
2	コーチングの心理					
3	スポーツカウンセリング					
学習の到達目標						
スポーツ心理学の専門知識を習得し、スポーツ指導の実践において活用する力を身に付ける。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	スポーツ心理学2について	何を学ぶか、授業の方針と進め方、評価のしかた、受講上の注意など				
2	メンタルマネジメント	メンタルマネジメントの方法、メンタルトレーニングについて概述する				
3	リラクゼーションの技法	リラクゼーション方法、覚醒水準とピークパフォーマンスについて概述し、演習を行う				
4	イメージトレーニング	イメージトレーニングの種類、方法について概述し、演習を行う				
5	集中力の技法	集中力について概述し、演習を行う				○
6	心理的コンディショニング	パフォーマンスとの関係について概述し、心理検査（気分調査票）で演習を行う				○
7	あがり、スランプ、プレッシャー	技能のパフォーマンス曲線、緊張、あがり、競技不安、スランプについて概述する				
8	競技不安の測定と対策	競技不安検査の実施法、結果の解釈について演習を行う				○
9	コーチングの心理1	技能習得と指導の心理、指導者によるサポートについて概述する				
10	コーチングの心理2	個人の指導と心理的問題、日常生活における相談などについて概述する				
11	コーチングの心理3	チームワーク、チームに関わる心理的問題などについて概述する				
12	コーチングの心理4	指導者と指導理念、コーチングスタイル、行動規範などについて概述する				
13	スポーツカウンセリング1	スポーツカウンセリングの進め方、利用される技術・技法などについて概述する				
14	スポーツカウンセリング2	けがと心理サポート、バーンアウト、イップスなどについて概述する				
15	まとめ	スポーツ心理学2のまとめを行う				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
参考図書：「スポーツ心理学の世界」杉原隆・船越正康・工藤孝幾・中込四郎編著 福村出版						
参考図書：「運動心理学入門」松田岩男・杉原隆編著 大修館書店						
参考図書：公認スポーツ指導者養成テキスト（共通科目Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）、公益財団法人日本スポーツ協会						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：配布のテキストを予習した上で授業に臨むこと。						
事後学習（週 1.5 時間）：学習した内容を十分復習すること。						
課題に対するフィードバックの方法						
理解度テストを行った後、解答の解説を行う。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 50% 意欲・態度・準備学習や事後学習の状況・提出物・グループディスカッションへの参加度等 50%						
評価	成績評価別の到達度					
S	スポーツ心理学の専門知識や技法を習得し、理解した上で実践に応用する力を身に付けた。					
A	スポーツ心理学の専門知識や技法を習得し、十分理解した。					
B	スポーツ心理学の専門知識や技法を習得し、ある程度理解した。					
C	スポーツ心理学の専門知識や技法を習得し、部分的に理解した。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位			
共通専門科目		スポーツ社会学 [Sports Sociology]	2	N	S	M
授業形態		担当教員名			科目コード	
講義・ アクティブ・ラーニング		山本 恵弥里		NSM-S2023		
この授業に関係する資格						
教員免許（保健体育）、スポーツ栄養士、スポーツ指導者等共通科目、アシスタントマネジャー、アスレティックトレーナー						
この授業のキーワード		授業概要				
1	社会学	スポーツと社会の関わりについて、スポーツの歴史の変遷から生活や文化の中でスポーツがどのように変化して来たかを理解し、様々な社会的要因がスポーツに影響を与えることを学び、スポーツ指導者に必要とされる知識を習得する。				
2	歴史					
3	文化					
学習の到達目標						
スポーツの指導者を目指すものとして必要な知識の中で、特に本授業は社会的文化的概念を中心にスポーツを理解することを目指す。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	スポーツの概念	スポーツとは何かを理解する（遠隔）				
2	スポーツの歴史（1）	古代ギリシャ・ローマ時代、中世ヨーロッパのスポーツ（遠隔）				
3	スポーツの歴史（2）	近代イギリスにおけるスポーツと教育（遠隔）				
4	現代のスポーツ	歴史の変遷を経て現代スポーツを理解する（遠隔）				
5	スポーツ文化（1）	文化について理解する（遠隔）				
6	スポーツ文化（2）	スポーツの文化的特性、スポーツ文化の内容（遠隔）				
7	スポーツ文化（3）	スポーツ文化から発生した価値（フェアプレイ）について（遠隔）				
8	社会とスポーツ（1）	現代社会とスポーツ（遠隔）				
9	社会とスポーツ（2）	政治とスポーツの関わりについて（遠隔）				
10	社会とスポーツ（3）	経済とスポーツの関わりについて（遠隔）				
11	社会とスポーツ（4）	教育とスポーツの関わりについて（遠隔）				
12	社会とスポーツ（5）	スポーツ基本法について（遠隔）				
13	まとめ	まとめ（遠隔）				
		毎回小テストを行った。加えて、授業内容を細かく説明する資料を配布した。				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ、Ⅱ						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）： 次回の授業範囲についてテキストを読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学習（週 1.5 時間）： 授業内容の復習を行うこと。加えて、日常的にスポーツに関する報道に興味関心を持ち、情報に目を通すこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
授業時間の前後を利用して、適宜対応する。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 70% 平常点及び提出物など 30% 理由のない遅刻や欠席は減点						
評価	成績評価別の到達度					
S	スポーツ社会学の内容を大変よく理解している。					
A	スポーツ社会学の内容をよく理解している。					
B	スポーツ社会学の内容を理解している。					
C	スポーツ社会学の基礎的な知識を身に付けている。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]		単位	N	S	M
共通専門科目		スポーツ経営学 [Sports Management]		2			
授業形態		担当教員名			科目コード		
講義・ アクティブ・ラーニング		太田 あや子			NSM-S2024		
この授業に関係する資格							
教員免許（保健体育）、スポーツ栄養士、スポーツ指導者等共通科目、アシスタントマネジャー、アスレティックトレーナー、スポーツインストラクター							
この授業のキーワード		授業概要					
1	スポーツ産業	「スポーツを売る」、「スポーツで売る」業界の「人」「金」「モノ（サービス）」「情報」を利用した売る仕組みを学ぶ。 フィットネス・スポーツクラブ産業の現状を経営学の視点から理解する。 マーケティングの4Pからスポーツ・フィットネス産業を分析的に理解する。					
2	フィットネス産業						
3	スポーツマーケティング						
学習の到達目標							
健康、フィットネス、スポーツ、体育の管理運営に関する現状を把握し、当該業界のモノ、サービス、人、金、情報の流れを分析し、経営学的な側面を理解する。							
回	テーマ	授業内容					AL
1	ガイダンス	授業計画、スポーツ経営学の対象領域とその意味					
2	フィットネス業界(1)	産業の概要と現況、産業界発展の社会・経済的背景					
3	フィットネス業界(2)	プログラムのデザインと施設機器の管理					
4	フィットネス業界(3)	営業システム					
5	フィットネス業界(4)	人材と資格、組織運営					
6	スポーツマーケティング(1)	マーケティングミックスの4P（スポーツシューズの事例から）					
7	スポーツマーケティング(2)	スポーツマーケティングの事例研究（プロスポーツの事例から）					
8	スポーツマーケティング(3)	スポーツマーケティングの事例研究（Jリーグチームマネジメントの仕事の事例から）					
9	スポーツマーケティング(4)	スポーツマーケティングのまとめ					
10	スポーツ用品産業	スポーツ用品産業の概要と現況					
11	総合型地域スポーツクラブの経営	総合型地域スポーツクラブ経営の概要とその役割					
12	公共スポーツ施設の経営	指定管理者制度					
13	学校体育の経営	学校体育の経営管理（1）体育授業の外部委託事業（遠隔）					
14	スポーツ産業の事例	学校体育の経営管理（2）運動部活動の外部委託事業（遠隔）					○
15	顧客満足	期待と満足度から顧客を理解する（遠隔）					○
試験等	筆記試験						
教科書及び参考図書							
教科書（購入）：公認スポーツ指導者テキスト（公財）日本スポーツ協会Ⅰ、Ⅱ スポーツ産業論、大修館書店							
準備学習・事後学習							
準備学習（週 1.5 時間）：次回のテーマに関するニュースをインターネットや新聞、テレビ等で収集しておくこと。 事後学習（週 1.5 時間）：返却されたワークシートを振り返り、キーワードを確認しておくこと。							
課題に対するフィードバックの方法							
毎時限ワークシートを回収し、テーマごとにキーワードの確認をする。							
成績評価の目安と方法							
筆記試験 70% 平常点 30% 平常点にはフィットネスクラブ運営に関するレポートを含む							
評価	成績評価別の到達度						
S	スポーツ経営学について十分に理解し、専門職に就くための準備ができている。						
A	スポーツ経営学について十分に理解している。						
B	スポーツ経営学についてよく理解している。						
C	スポーツ経営学について理解している。						

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位			
共通専門科目		スポーツ行政論 [Public Administration of Sports]	2	N	S	M
授業形態		担当教員名			科目コード	
講義 アクティブ・ラーニング		太田 あや子		NSM-S2025		
この授業に関係する資格						
教員免許（保健体育）、スポーツ栄養士、スポーツ指導者等共通科目、アシスタントマネジャー、アスレティックトレーナー、スポーツインストラクター						
この授業のキーワード		授業概要				
1	スポーツ基本法	スポーツ庁・文部科学省を中心とした国のスポーツ行政について、「スポーツ基本法」、「スポーツ基本計画」を中心に学び、公共性にもとづくスポーツのあり方を考える。「競技スポーツの振興」、「総合型地域スポーツクラブ」、「暴力防止」への取り組みを、事例を用いて学習する。				
2	スポーツ基本計画					
3	スポーツ庁、文部科学					
学習の到達目標						
国のスポーツ行政の根幹をなす「スポーツ基本法」、「スポーツ基本計画」を理解し、社会におけるスポーツのあり方を考えて、「する」、「見る」、「支える」形でスポーツ参加を促進する役割をになう人材となる知識を身につける。また、アシスタントマネジャーとして総合型地域スポーツクラブで活動できる基礎能力を獲得する。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	ガイダンス	授業計画の確認、スポーツ行政論の対象領域とその意味				
2	スポーツ行政の組織	スポーツ行政組織や機構制度				○
3	スポーツ振興施策	スポーツ基本法とスポーツ基本計画				○
4	地域におけるスポーツ振興	地域におけるスポーツ振興				
5	総合型地域スポーツクラブ(1)	総合型地域スポーツクラブの事例研究				
6	総合型地域スポーツクラブ(2)	総合型地域スポーツクラブの概要				
7	総合型地域スポーツクラブ(3)	外国の地域スポーツクラブ				
8	総合型地域スポーツクラブ(4)	クラブマネジャーの役割				
9	国の重点施策(1)	アンチドーピング				
10	国の重点施策(2)	スポーツ選手のセカンドキャリア				
11	スポーツと法(1)	スポーツ指導者の法的責任（安全配慮義務）				
12	スポーツと法(2)	スポーツ指導者の法的責任（スポーツと暴力問題）				
13	国の重点施策(3)	公立施設の指定管理者制度				
14	国の重点施策(4)	2020 東京オリンピック・パラリンピック（遠隔）				
15	スポーツ活動の財源	スポーツ活動の経済的基盤と助成制度(遠隔)				
試験等	レポート課題					
教科書及び参考図書						
教科書（購入）：公認スポーツ指導者テキスト（財）日本スポーツ協会Ⅰ、Ⅱ						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：授業終了時に示す次回の授業内容に関する教科書の章を読んでおくこと 事後学習（週 1.5 時間）：テーマごとのトピックをネット検索し、概要、理解したこと、感想・意見をまとめる						
課題に対するフィードバックの方法						
毎時前回のワークシートを返却し、キーワードを確認する						
成績評価の目安と方法						
レポート 70% 平常点 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	スポーツ行政のシステムを十分に理解し、知識をスポーツ活動の支援に活用できる。					
A	スポーツ行政のシステムを十分に理解している。					
B	スポーツ行政のシステムをよく理解している。					
C	スポーツ行政のシステムを理解している。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
共通専門科目		スポーツ指導論 [Coaching Method]	2			
授業形態		担当教員名		科目コード		
講義 アクティブ・ラーニング		川井 明		NSM-S2026		
この授業に関する資格						
スポーツ栄養士、スポーツ指導者等共通科目、アシスタントマネジャー、アスレティックトレーナー、スポーツインストラクター						
この授業のキーワード		授業概要				
1	スポーツ指導法	前半は、競技上の成功者の例から、その要素・要因を探り、毎時間、理解度確認レポート提出。 後半は、指導現場に有効なロジカルコミュニケーションの基礎を学習して実際のディベートに備える。さらに、指導現場でのタイムリーなトピックスを随時取り上げてその背景とともに理解していく。				
2	指導者の資質と役割					
3	ロジカルコミュニケーション					
学習の到達目標						
成功したアスリートに関する指導法を理解したうえで、過去に受けた指導との比較から現状や個人に適した指導法を探ることができる。指導者としてのロジカルコミュニケーションを理解したうえで、有効・的確・シンプルな伝え方を習得する。指導現場でのトピックスの背景を理解できる。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	ガイダンス他	スポーツ指導者とは その資質と役割				
2	指導者の倫理	スポーツ指導者の倫理：マナーと体罰・ハラスメント他				○
3	指導者の心構えと視点	スポーツ指導者の心構え・視点と指導現場でのスタンス				○
4	発育・発達と一貫指導	プレゴールデンエイジ、ゴールデンエイジ、ポストゴールデンエイジにおける特性とその一貫指導				○
5	タレント発掘と選手育成	世界に通用するアスリートを発掘・育成していくための方法を探る				○
6	指導計画の作成	指導上のピリオダイゼーション（期分け）とテーマに則ったコーチング				○
7	スポーツ活動と安全管理	活動に関わる危険性を理解し、安全に指導するための方法を理解する				○
8	選手と指導者の関係	選手の心理と対コーチ受容およびコミュニケーション				○
9	ロジカルコミュニケーション①	情報のとらえ方および指導者の話し方と伝え方				○
10	ロジカルコミュニケーション②	指導者の用いる言葉とその使用法				○
11	コーチング方法の実践	ミーティング、シンクロコーチング、フリーズコーチング他				○
12	トップアスリートの育成①	育成・強化の在り方と指導者の役割				○
13	トップアスリートの育成②	指導者の資質と持つべき視点				○
14	トップアスリートの育成③	育成・強化の方法とその評価				○
15	まとめ	良い指導者の資質と役割等についてのグループディスカッションから本科目をまとめる				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
参考図書：公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ、Ⅱ（公益財団法人日本スポーツ協会）						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）： 体育・スポーツに関する情報を、新聞やニュース・雑誌・インターネットや書籍等を通して収集すること。 事後学習（週 1.5 時間）： 授業中の内容を復習すること。						
課題に対するフィードバックの方法						
理解度確認レポートの回収後、フィードバックを行う。						
成績評価の目安と方法						
理解度確認レポート 70% 平常点 20% 筆記試験 10%						
評価	成績評価別の到達度					
S	毎時の指導に関する課題を深く理解したうえで、各自の考えや将来の展望を論理的にまとめることができる。					
A	毎時の指導に関する課題を理解したうえで、各自の考えや将来の展望をまとめることができる。					
B	毎時の指導に関する課題を理解したうえで、各自の考えをまとめることができる。					
C	毎時の指導に関する課題を理解したうえで、各自の感想をまとめることができる。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N			S	M	
共通専門科目		スポーツ医学 [Sport Medicine]	2						
授業形態		担当教員名			科目コード				
講義		高橋 琴美 ・ 板橋 明			国	NSM-S2027			
この授業に関係する資格									
教員免許（保健体育）、健康運動実践指導者、GFI、スポーツ栄養士、スポーツ指導者等共通科目、アシスタントマネジャー、アスレティックトレーナー、スポーツインストラクター、中高老年期運動指導士、介護予防運動スペシャリスト									
この授業のキーワード			授業概要						
1	内科的スポーツ障害		スポーツは現代社会において、人々の健康を維持・向上する上で必要であるとの認識が高く、生活習慣病等の疾病対策にも応用されている。しかしその反面、スポーツ活動に伴う事故・傷害も存在する。この授業では指導者として必要なスポーツ医学の基本的な知識を理解し、いろいろな疾患・傷害だけではなく、現場での救急対策などについて学ぶ。						
2	整形外科的スポーツ傷害								
3	対処と予防								
学習の到達目標									
スポーツ指導者として、必要なスポーツ医学の知識を身につけ、いろいろな疾患に対する基礎知識や現場での救急対策について習得することを目指す。									
回	テーマ		授業内容						AL
1	ガイダンス		スポーツ医学とは（遠隔）						
2	内科的スポーツ障害 1		突然死・虚血性心疾患・マルファン症候群・心臓震盪（遠隔）						
3	内科的スポーツ障害 2		熱中症、特殊環境、過換気症候群、運動誘発性アナフィラキシー（遠隔）						
4	内科的スポーツ障害 3		運動誘発性喘息、貧血、スポーツ活動と疲労、オーバートレーニング症候群（遠隔）						
5	生活習慣病と運動，メディカルチェック		肥満、脂質異常症、糖尿病、高血圧とは，内科的メディカルチェック（遠隔）						
6	メディカルチェックと健康管理		整形外科的メディカルチェックの目的と方法、スポーツ傷害とは（遠隔）						
7	整形外科的スポーツ傷害 1		体幹のスポーツ傷害、頭・頸部のスポーツ傷害						
8	整形外科的スポーツ傷害 2		上肢のスポーツ傷害						
9	整形外科的スポーツ傷害 3		下肢のスポーツ傷害						
10	リハビリテーション		アスレティックリハビリテーションとトレーニング計画						
11	スポーツ選手の健康管理		スポーツ選手の健康管理、内科的障害と対策、外傷・障害と対策						
12	発育期とスポーツ		発育期の特徴と代表的なスポーツ傷害						
13	女性スポーツ医学、中高老年者とスポーツ		女性の特徴と代表的なスポーツ傷害、中高老年期の特徴と代表的なスポーツ傷害						
			毎回，授業終了後に小テストを実施し、採点後はコメントを付けて返却した．また classroom を利用して授業の動画を配信し、学生が返却された小テストの結果を踏まえて復習できるようにした．小テストで多くの学生が間違えた問題については、次回の授業時に再度解説を行った．						
試験等	筆記試験								
教科書及び参考図書									
参考図書：やさしい学生トレーナーシリーズ 4 スポーツ医学（嵯峨野書院）、はじめて学ぶ健康・スポーツ科学シリーズ 8 スポーツ医学【内科】（化学同人）、健康運動実践指導者養成テキスト、公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ・Ⅱ ※毎時間、プリントを用いて授業を行うため、各自でしっかりと管理すること。									
準備学習・事後学習									
準備学習（週 1.5 時間）：参考図書の該当ページを読んでおくこと。 事後学習（週 1.5 時間）：返却された課題について、配布された資料等を見直しておくこと。									
課題に対するフィードバックの方法									
フィードバックとして、毎時間授業の最後に提出された課題にコメントを入れ返却する。									
成績評価の目安と方法									
筆記試験 70% 平常点 20% 小テスト 10% 理由のない遅刻・欠席は減点とする。									
評価	成績評価別の到達度								
S	スポーツ医学に関する基本的な知識を大変良く理解している。								
A	スポーツ医学に関する基本的な知識をかなり理解している。								
B	スポーツ医学に関する基本的な知識をおおよそ理解している。								
C	スポーツ医学に関する基本的な知識を理解している。								

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]	単位	N	S	M
共通専門科目	地域貢献演習 [Seminar for Contribution to Community]	1			
授業形態	担当教員名		科目ナンバー		
演習・集中授業 アクティブ・ラーニング	本学 専任教員		NSM-S9029		
この授業に関する資格					
この授業のキーワード		授業概要			
1	地域貢献	武蔵丘短期大学が持つ地域貢献のシード（種）を活かし、地域のニーズを解決し、地域貢献することを通じて自らの資質を高めていく科目である。 事前指導を受けたのちに地域貢献を体験し、事後指導を通して自らの社会貢献の能力を伸ばしていく。			
2	ボランティア				
3	気づき学習				
学習の到達目標					
地域貢献を体験し、体験の中から自分の可能性に気づきさらなる、地域貢献、ひいては社会貢献に資する能力を身につけることを目標としている。 本学あるいは教員が地域に貢献する事業を体験し、自分の能力に気づき、さらに能力を伸ばして欲しい。					
回	授業内容				AL
1 ～ 8	この科目は、開催時期が地域貢献事業に合わせて、その前後を含めて開講される。 原則として一か月前に授業の内容が掲示等により公開され、その指示に従うことにより履修登録となります。地域貢献の内容により、所属専攻や、専門性によって受講対象者を制限することもある。 事前指導、事後指導が行われる。 異なる地域貢献事業に参加した場合、修得単位数が加算される。 開講授業例 地域の健康・体力測定の実施運営 各種イベント等の運営手伝い				○
試験等	なし				
教科書及び参考図書					
担当教員から、必要に応じて資料が配布される。 参考：本学ホームページ＞学生主体の地域貢献（http://www.musashigaoka.ac.jp/campus/cam_009.html）					
準備学習・事後学習					
原則として、事前指導 1 日、地域貢献体験 1 日、事後指導 1 日の授業形態になる。 体調を整え、体験する事業をよく理解しておくこと。					
課題に対するフィードバックの方法					
原則として、オフィスアワーで適宜対応する。					
成績評価の目安と方法					
活動状況 80% 面接またはレポート 20%					
評価	成績評価別の到達度				
S	地域貢献での体験でその役割を果たし、将来自ら地域貢献を実施していく応用力を持っている。				
A	地域貢献での体験でその役割を果たし、将来自ら地域貢献を実施していく力を持っている。				
B	地域貢献での体験でその役割を果たし、将来自ら地域貢献を実施していく基礎を持っている				
C	地域貢献の体験を基に、社会貢献の意義を感じることができる。				

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目		解剖生理学 [Anatomy and Physiology]		2			
授業形態		担当教員名			科目ナンバー		
講義		長島 洋介・板橋 明		国	NSM-S2014		
この授業に関係する資格							
栄養士免許、健康運動実践指導者、GFI、NR・サプリメントアドバイザー							
この授業のキーワード		授業概要					
1	消化器	人体を構成する細胞から器官まで組織について、構造と機能との関連性を深く考えていく科目である。将来、栄養士として、人々の健康増進や病気の予防に、対応できること見据えて学習する。					
2	循環器						
3	内分泌						
学習の到達目標							
人体の構造と機能を理解し、各組織・器官系がどのように協同して人体機能を遂行しているかを考察できるようになる。							
回	テーマ	授業内容					AL
1	細胞・組織・器官	細胞と組織学 (WEB)					
2	消化器系	咀嚼 嚥下 消化管運動のしくみ (WEB)					
3	血液・造血器・リンパ系	骨髄 造血器細胞 各血球の分化と成熟 (WEB)					
4	循環器系 1	心臓の構造と働き (WEB)					
5	循環器系 2	循環系 気道 (WEB)					
6	呼吸器系	肺の構造と働き 呼吸機能 (WEB)					
7	復習①	第 1～3 回目の復習 (対面)					
8	腎・尿路系	腎臓の構成と働き 体液の働き (WEB)					
9	生殖器系	生殖器の構造と働き 女性の性周期 (WEB)					
10	筋肉系と運動機能	筋肉の種類と働き 筋繊維の種類 (WEB)					
11	復習②	第 4～6 回目の復習 (対面)					
12	骨格系	骨の構造と働き 骨の成長と老化 (対面)					
13	内分泌系 1	内分泌系の構成 (対面)					
14	内分泌系 2 復習③	ホルモンの働き 第 8～10 回 (対面)					
15	復習④ まとめ	第 12～13 回の復習 授業内試験 (対面)					
		※当初の予定より、1 時間少なくなった。少なくなった授業時間の対応として、毎回の WEB 授業終了後に、WEB 形式で課題を出した。					
試験等	筆記試験						
教科書及び参考図書							
教科書：解剖生理学 人体の構造と機能 改訂第 2 版 羊土社							
準備学習・事後学習							
準備学習（週 1.5 時間）：教科書「解剖生理学」を読んでおくこと。 事後学習（週 1.5 時間）：授業中の内容を復習しておくこと。							
課題に対するフィードバックの方法							
オフィスアワーで適宜対応する。							
成績評価の目安と方法							
筆記試験 90%、平常点 10%、として、総合的に評価する。							
評価	成績評価別の到達度						
S	人体の構造と機能に関する知識を非常によく理解し、応用力を身につけている。						
A	人体の構造と機能に関する知識を十分に理解している。						
B	人体の構造と機能に関する知識を理解している。						
C	人体の構造と機能に関する基本的な知識を理解している。						

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		栄養学総論 [Nutritional Science]	2			
授業形態		担当教員名		科目コード		
講義		小河原 佳子		N-S2015		
この授業に関係する資格						
栄養士免許、フードスペシャリスト、健康管理士一般指導員、NR・サプリメントアドバイザー						
この授業のキーワード		授業概要				
1	栄養素	栄養の意義を理解する。ヒトは栄養素をどのように消化・吸収しているのか、また吸収した栄養素はどうなるのか、代謝調節も含め身体全体で考え、健康の保持増進・疾病の予防・治療における栄養の役割を理解し、基礎的知識を習得する。				
2	消化・吸収					
3	働き・代謝・役割					
学習の到達目標						
栄養の意義を理解し、栄養素の代謝および生理的役割を理解することを目標とする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	栄養の概念	栄養士の専門的知識として必要な科学的視点での情報収集・選択についてと栄養学の歴史（遠隔）				
2	栄養素の種類と働き	栄養素の種類と体内での栄養の異化・同化（遠隔）				
3	消化と吸収	各栄養素の消化と吸収の仕組みの概説（遠隔）				
4	炭水化物の栄養 食物繊維の種類と働き	食物繊維の定義と分類・機能、腸内細菌との関わり、糞便組成（遠隔）				
5	タンパク質の栄養	タンパク質の消化吸収・機能、タンパク質の栄養価				
6	脂質の栄養	脂質の消化吸収・機能、脂質の体内移動、必須脂肪酸の機能				
7	ビタミンの栄養①	ビタミンの分類と種類 脂溶性ビタミンの消化吸収・機能、欠乏症・過剰症				
8	ビタミンの栄養②	水溶性ビタミンの消化吸収・機能、欠乏症				
9	ミネラルの栄養①	ミネラルの分類と種類 多量ミネラルの消化吸収・機能、欠乏症・過剰症				
10	ミネラルの栄養②	微量ミネラルの消化吸収・機能、欠乏症・過剰症				
11	水のはたらき	水の出納（水分摂取、代謝水、水分排泄）、体液分布、細胞内外のミネラル				
12	エネルギー代謝	エネルギーの定義と消費エネルギーの量とエネルギー代謝の測定方法				
13	まとめ・振り返り	栄養学全体の総括				
14	まとめ	栄養学についての栄養素の種類・消化吸収の仕組みのまとめを自宅学習でまとめ、授業で確認した				
15	まとめ	各栄養素についての消化吸収と働きについてを自宅学習でまとめ、授業で確認した				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：栄養科学シリーズ 新・栄養学総論 講談社 参考図書：日本人の食事摂取基準 2020 年版						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：指定した教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。前もって配布したプリントと教科書を読んでおくこと。 事後学習（週 1.5 時間）：毎回、授業の始めに前回の授業内容の小テストを行うので、復習しておくこと。スライド（プリント）を見ながら復讐しておくこと。遠隔の場合、小テスト後に解答と解説を返却。						
課題に対するフィードバックの方法						
授業内容の小テストの解答の解説を行う。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験で 70%、確認テスト・授業への積極的態度などで 30%として、総合的に評価する						
評価	成績評価別の到達度					
S	栄養とは何かを十分に理解し、栄養素の役割、基礎的知識を十分に身に付けている。					
A	栄養とは何か、栄養素の役割を理解し、基礎的知識を身に付けている。					
B	栄養とは何か、栄養素の役割、基礎的知識を十分に理解している。					
C	栄養とは何か、栄養素の役割、基礎的知識を理解している。					

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位			
専門教育科目		食品学 [Food Science]	2	N	S	M
授業形態		担当教員名			科目コード	
講義		茗荷 尚史		N-S2016		
この授業に関係する資格						
栄養士免許、フードスペシャリスト、NR・サプリメントアドバイザー						
この授業のキーワード		授業概要				
1	食品成分	健康な生活を論ずる上で、エネルギーは食品から得ていることを考えれば、食品に関する基本的な知識を得ることは必須である。本講義では食品各成分の栄養特性について学ぶとともに、最近の知見を取り入れながら、健康な生活を食品とのかかわりの中で考える。				
2	栄養特性					
3	食品機能					
学習の到達目標						
本講義は個々の食品成分に着目して、食品全体を理解することに主眼を置く。適宜、高等学校までに学習した内容の復習と食品成分表の扱いについても触れ、栄養士としての専門知識の基礎を磐石にする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	導入 1	1.カロリー計算概要(遠隔)				
2	導入 2	1.食品の基本的要素(遠隔)				
3	人間と食品	1.食物連鎖 2.食品と栄養 3.食糧と環境問題 4.日本食品成分表における食品の分類(遠隔)				
4	食品の栄養素と成分表 (その 1)水	1.水の構造と性質 2.水の存在状態 3.水分活性(遠隔)				
5	食品の栄養素と成分表 (その 2)炭水化物	1.生体内での役割 2.構造 3.分類				
6	食品の栄養素と成分表 (その 3)脂質	1.生体内での役割 2.構造と分類 3.食品中の主要脂質 4.脂質の分解と合成				
7	食品の栄養素と成分表 (その 4)タンパク質	1.構成成分 2.構造 3.等電点 4.アミノ酸の味 5.栄養素としてのタンパク質				
8	食品の栄養素と成分表 (その 5)ビタミンその 1	1.定義 2.脂溶性ビタミン				
9	食品の栄養素と成分表 (その 6)ビタミンその 2	1.水溶性ビタミン 2.その他ビタミン様物質				
10	食品の栄養素と成分表 (その 7)無機質その 1	1.主要無機質				
11	食品の栄養素と成分表 (その 8)無機質その 2	1.主要無機質(続き) 2.その他人体に必要な微量無機質				
12	食品の栄養素と成分表 (その 9)食物繊維	1.定義および目標摂取量 2.効果 3.食品添加物としての使用基準				
13	食品の嗜好成分	1.色素 2.香気成分 3.呈味成分 4.毒性成分				
	少なくなった回数分の内容	各テーマ終了後に小テストを実施し、classroom を利用して結果を発表し				
		間違え箇所を再解答させ、解説を加えた。				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：食べ物と健康 - 食品の栄養成分と加工 - 國崎直道編著 同文書院 参考図書：イラスト食品学総論 種村安子他著 東京学芸社 食べ物と健康 食品学・食品機能学・食品加工学 長澤治子編著 医歯薬出版						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 0.5 時間）：日頃から食品学に関連する資料を集めておく。 事後学習（週 2.5 時間）：栄養士として必要な知識の基礎となる科目の一つなので、その日に学習した知識を定着させるために、復習を中心とした授業時間外学習を励行して、次回の授業に臨むこと。各テーマ毎に小テストを行う予定である。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、小テストを回収後、解答の解説を行う。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 70% 平常点(小テスト、発言、態度を含む) 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	食品成分の面から食品学の知識をよく理解している。					
A	食品成分の面から食品学の知識を理解している。					
B	食品成分の面から食品学の基本的知識を理解している。					
C	食品成分の面から食品学の最低限の知識を理解している。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N			S	M
専門教育科目		生化学 [Biochemistry]	2					
授業形態		担当教員名			科目コード			
講義		岡崎 英規			N-S2030			
この授業に関係する資格								
栄養士免許								
この授業のキーワード			授業概要					
1	細胞	全ての生物は細胞から成り立ち、その細胞の中では、さまざまなドラマが生まれている。 この様な数々のドラマが集約されて私たちは「生きて」いる。 生化学ではこの数々のドラマについて理解する。						
2	代謝							
3	恒常性							
学習の到達目標								
正常な人体の仕組みを、遺伝子レベル、細胞レベルについて理解する。 摂った食べ物は体内でどうなるのか、絶えず体内で起こっている様々な物質の合成や分解、恒常性の維持について理解する。								
回	テーマ	授業内容						AL
1	人体の成り立ち 1	細胞の基本構造と機能（細胞小器官の特徴とはたらき）（遠隔）						
2	人体の成り立ち 2	生体膜の基本構造とその機能、受動輸送・能動輸送・膜輸送（膜サイトーシス）（遠隔）						
3	人体の成り立ち 3	生体エネルギー（ATP）、同化・異化（遠隔）						
4	糖質の化学	糖質の構造、種類および性質（単糖類、二糖類、多糖類、誘導糖）						
5	糖質の代謝	グルコース（ブドウ糖）の代謝（解糖系、クエン酸回路、電子伝達系） 糖質の合成や分解（グリコーゲンの合成と分解、ペントースリン酸回路、ウロン酸回路）						
6	脂質の化学・代謝	脂質の化学的特徴（構造、種類および性質） 中性脂肪合成・分解、脂肪酸合成・分解、イコサノイド、コレステロール合成、ケトン体生成						
7	たんぱく質の化学	たんぱく質・アミノ酸の化学的特徴（構造、種類および性質）						
8	たんぱく質の代謝	アミノ酸合成（アミノ基転移反応）と分解（尿素回路）、アミノ酸から合成される情報伝達物質						
9	三大栄養素代謝まとめ	様々な代謝経路のつながり、コリ回路、グルコース-アラニン回路						
10	酵素	酵素の種類、働き、特徴、補助因子（補酵素）、酵素の阻害（競合・非競合）						
11	核酸の化学	核酸の化学的特徴と代謝、遺伝の仕組み						
12	免疫の化学	身体を守る防衛反応（液性免疫・細胞性免疫）、免疫グロブリンの種類と働き、アレルギー						
13	ホルモンの化学	ホルモンの特徴と作用機構、血液中カルシウムイオン濃度の調節、血糖の調節						
		毎回、授業終了後に小テストを実施し、採点后返却した。返却時に小テストの解説を行った。 classroom を利用して授業のパワーポイントを配信し、自宅で復習できるようにした。						
試験等	筆記試験							
教科書及び参考図書								
教科書：〈はじめて学ぶ〉健康・栄養系教科書シリーズ2 生化学 化学同人 参考図書：イラスト生化学入門 東京教学社								
準備学習・事後学習								
準備学習（週 1.5 時間）： シラバスを確認して教科書を読んでおくこと。分かることと分からないことを整理しておく。 事後学習（週 1.5 時間）： 授業で理解したこと、理解できなかったことを整理する。毎回の復習小テストで半分正解を目標とする。								
課題に対するフィードバックの方法								
小テストの返却時に正答及び解説を行う。								
成績評価の目安と方法								
筆記試験 90% 小テスト 10%								
評価	成績評価別の到達度							
S	摂った食べ物が体内でどうなるのか細胞レベルでの合成・分解について、様々な代謝を理解している。							
A	摂った食べ物が体内でどうなるのか細胞レベルでの合成・分解について、基礎知識を理解している。							
B	摂った食べ物が体内でどうなるのか細胞レベルでの合成・分解について、基礎知識をやや理解している。							
C	摂った食べ物が体内でどうなるのか細胞レベルでの合成・分解について、基礎知識を最低限理解している。							

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		栄養学各論 [Nutrition in Life Stage]	2			
授業形態		担当教員名			科目ナンバー	
講義		長島 洋介		N-S3031		
この授業に関係する資格						
栄養士免許、フードスペシャリスト、健康管理士一般指導員						
この授業のキーワード		授業概要				
1	ライフステージ	ライフステージ別の生理的変化に応じた栄養摂取方法や、特殊環境下での代謝変化や栄養摂取方法について学ぶ。				
2	特殊環境下					
3	栄養摂取方法					
学習の到達目標						
ライフステージごとの栄養管理、食事摂取基準に関する基礎的知識を習得する。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	栄養ケア・マネジメント①	栄養ケア・マネジメントの定義やプロセス				
2	栄養ケア・マネジメント②	栄養スクリーニング、栄養アセスメントの指標、栄養ケア、マネジメントの評価				
3	食事摂取基準①	食事摂取基準活用のための理論と方法				
4	食事摂取基準②	推定必要量、推奨量、目安量、目標量、上限量について				
5	成長、発達、加齢	成長、発達、加齢に機能変化				
6	妊娠期	妊娠期の生理的特徴と栄養アセスメント・栄養ケア				
7	授乳期	授乳期の生理的特徴と栄養アセスメント・栄養ケア				
8	新生児期・乳児期①	新生児期・乳児期の生理的特徴				
9	新生児期・乳児期②	新生児期・乳児期の栄養アセスメントと栄養ケア				
10	成長期①	成長期の生理的特徴				
11	成長期②	成長期の栄養アセスメントと栄養ケア				
12	成人期	成人期の生理的特徴と栄養アセスメント・栄養ケア				
13	高齢期①	高齢期の生理的特徴				
14	高齢期②	高齢期の生理的特徴と栄養アセスメント・栄養ケア				
15	まとめ	全体のまとめ				
試験等	筆記試験 (遠隔)					
教科書及び参考図書						
教科書：応用栄養学 羊土社						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：教科書「応用栄養学」を読んでおくこと。 事後学習（週 1.5 時間）：授業中の内容を復習しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
オフィスアワーで適宜対応する。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 90％ 平常点 10％ 遅刻欠席は減点						
評価	成績評価別の到達度					
S	ライフステージ別の栄養摂取に関する知識を非常によく理解し、応用力を身につけている。					
A	ライフステージ別の栄養摂取に関する知識を十分に理解している。					
B	ライフステージ別の栄養摂取に関する知識を理解している。					
C	ライフステージ別の栄養摂取に関する基本的な知識を理解している。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		病態科学 [Pathologic Condition Science]	2			
授業形態		担当教員名			科目コード	
講義		岩井 秀明		N-S3032		
この授業に関係する資格						
栄養士免許、健康管理士一般指導員						
この授業のキーワード		授業概要				
1	疾患の概要	解剖生理学、生化学で学んだ正常な人体の構造と機能を基礎に、疾患の概要、成因・予防を学び、臨床栄養学につなげる。生涯健康には生活環境と共に生活習慣が重要であることを学ぶ。変容する社会とグローバル社会の進展における多様な疾病問題に対応し、併せて医学的基礎教養を広げる。				
2	疾患の成因・予防					
3	疾患と栄養					
学習の到達目標						
病態科学の学びにより各種疾患の概要を知り、成因を理解し、予防できる。疾患と栄養との関わりを理解し、食事療法につなげられる。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	はじめに、悪性新生物（がん）	人類の感染症との闘い、日本人に多い疾病と死因、がん研究の歴史、成因、各種がんの特徴				
2	動脈硬化症、高血圧症	動脈硬化症、粥状硬化（アテローム硬化）、高血圧症、血圧値の分類、生活習慣の修正				
3	虚血性心疾患	狭心症、心筋梗塞、不整脈、肺塞栓				
4	脳血管障害、神経疾患	脳内出血、脳梗塞、クモ膜下出血、認知症、パーキンソン病				
5	メタボリックシンドローム	肥満、内臓脂肪症候群、メタボリックシンドローム概念の根拠、成因				
6	糖尿病	病態、分類、合併症、診断、治療（食事・運動療法）				
7	脂質異常症	脂質、リポたんぱく、診断、食事療法				
8	痛風、先天性代謝異常症	成因、プリン体、食事療法、アミノ酸代謝異常症の種類と病態、糖質代謝とその異常				
9	消化器系疾患（胃、肝、膵）	胃・十二指腸潰瘍、炎症性腸疾患（クローン病）、肝炎、肝硬変、脂肪肝、NASH、膵炎				
10	腎・尿路系疾患	糸状体腎炎、ネフローゼ症候群、慢性腎臓病（CKD）、透析				
11	感染症	感染（経路）、新興・再興感染症、1～5 類感染症、性感染症、エイズ、抗生物質、耐性菌				
12	血液系疾患	血液細胞、貧血の種類、血友病、白血病				
13	免疫・アレルギー疾患	炎症、免疫、予防接種、ワクチン、食物アレルギー				
14	運動器系疾患、呼吸器系疾患	骨粗しょう症、サルコペニア、ロコモ、フレイルティ、肺炎、慢性閉塞性肺疾患（COPD）				
15	内分泌系疾患、生殖系疾患	甲状腺機能亢進症・低下症、クッシング病、妊娠高血圧症候群、生殖系がん				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：田中 明、加藤 昌彦編 疾病の成り立ち：臨床医学（第4版）（建帛社）（変更の場合は事前に公示する） 参考図書等：その他の参考資料は適宜紹介し、必要に応じてプリントを渡す。						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：次回のテーマとその内容について、指示された教科書の該当箇所を事前に読了する。 事後学習（週 1.5 時間）：講義で提示された資料の未読部分を読了し、教科書を参照しつつ、講義を再度振り返りまとめる。						
課題に対するフィードバックの方法						
次回の講義冒頭時に振り返り課題、感想についてフィードバックし、分かち合う。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験（70％）授業態度・取り組み姿勢（15％）小テスト（15％）を総合的に判断し評価。欠席：欠課レポート提出。						
評価	成績評価別の到達度					
S	授業態度が特に良好、特に積極的に授業に参加。病態科学の基となる知識を十分に会得している。					
A	授業態度は良好、積極的に授業に参加。病態科学の基となる知識を会得している。					
B	授業態度・取り組みは普通。授業内容は概ね理解している。					
C	授業態度・取り組みに更に努力が必要。授業内容の理解に努力が必要である。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		臨床栄養学 [Clinical Nutrition]	2			
授業形態		担当教員名		科目ナンバー		
講義		木元 泰子		N-S3033		
この授業に関係する資格						
栄養士免許、健康管理士一般指導員、NR・サプリメントアドバイザー						
この授業のキーワード		授業概要				
1	疾患、病態	疾病の成り立ちを理解し、病態に応じた食事管理を中心とした栄養管理を実践するための知識や技術を学ぶ。				
2	栄養管理					
3	医療					
学習の到達目標						
さまざまな疾病、病態について理解し、応じた適切な食事管理を中心とした栄養管理の実践的な知識や技術を身につける。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	臨床栄養学の概念	臨床栄養学の意義と目的、医療と臨床栄養（遠隔）				
2	栄養アセスメント①	身体測定、栄養スクリーニング（遠隔）				
3	栄養アセスメント②	栄養アセスメント（遠隔）				
4	栄養補給法	各種栄養補給法（対面）				
5	消化器系疾患①	胃疾患（食道・胃・十二指腸潰瘍）（対面）				
6	消化器系疾患②	腸疾患（小腸・大腸・下痢・便秘・炎症性腸疾患）（対面）				
7	消化器疾患③	肝疾患（肝炎・肝硬変・肝脂肪）（対面）				
8	代謝・内分泌疾患①	糖尿病（対面）				
9	代謝・内分泌疾患②	肥満症、るいそう（対面）				
10	代謝・内分泌疾患③	脂質異常症（対面）				
11	循環器系疾患	高血圧、心疾患（虚血性心疾患、心不全）（対面）				
12	腎・尿路系疾患	慢性腎不全、ネフローゼ症候群、糖尿病性腎症、透析				
13	まとめの講義	全体の総括（対面）				
	不足分 心身症	classroom に動画を配信し、いつでも自習・復習できるようにした。				
	不足分 高齢者疾患	理解が薄いところについては、臨床栄養学実習でフォローを行う。				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：臨床栄養学概論（化学同人社） 糖尿病食事療法のための食品交換表、腎臓病食品交換表						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：新聞記事等を読み、臨床栄養に関する最新の情報を収集しておくこと。 事後学習（週 1.5 時間）：授業プリント、確認テストの内容を復習しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
確認テストを行い、採点后、解答の解説を行う。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 70% 確認テスト 30% 理由のない遅刻・欠席は減点						
評価	成績評価別の到達度					
S	各疾患、病態およびそれらに対する適切な栄養ケアの基礎的な知識を十分身につけ、応用力を持っている。					
A	各疾患、病態およびそれらに対する適切な栄養ケアの基礎的な知識をよく理解している。					
B	各疾患、病態およびそれらに対する適切な栄養ケアの基礎的な知識を理解している。					
C	各疾患、病態およびそれらに対する適切な栄養ケアの基礎的な知識を身につけている。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		公衆栄養学 [Public Health Nutrition]	2			
授業形態		担当教員名		科目コード		
講義 アクティブ・ラーニング		堀 由美子		N-S2034		
この授業に関係する資格						
栄養士免許						
この授業のキーワード		授業概要				
1	公衆栄養活動	公衆栄養の概念、公衆栄養活動、健康・栄養の現状と課題、健康・栄養施策、公衆栄養プログラムを中心に学ぶ。				
2	疾病予防					
3	ヘルスプロモーション					
学習の到達目標						
わが国や諸外国の健康・栄養問題に関する動向とそれに対応した栄養施策について理解する。また、社会・生活環境の特徴に基づいた公衆栄養活動について、基礎的なことが理解できるように学習する。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	公衆栄養学の概念	公衆栄養学の概念、公衆栄養の意義と目的				
2	健康・栄養問題の現状と課題①	人口構成の変遷、死因別死亡、平均寿命・健康寿命、疾病構造の変化				
3	健康・栄養問題の現状と課題②	食事・食生活・食環境の変化、食行動の問題点、食料需給				○
4	栄養政策①	公衆栄養活動の歴史				
5	栄養政策②	公衆栄養法規、栄養士法、地域保健法、健康増進法、食育基本法、栄養士の社会的役割				
6	栄養政策③	国民健康・栄養調査の概要、国民健康・栄養調査の結果				
7	栄養政策④	健康日本 21、食生活指針、食事バランスガイド				
8	栄養政策⑤	食育推進基本計画、食育ガイド、特定健診・特定保健指導				
9	栄養疫学①	栄養疫学の概要、栄養疫学の種類と方法				
10	栄養疫学②	栄養疫学のための食事調査法、食事摂取量の測定方法				○
11	栄養疫学③	食事摂取量の評価方法、集団に対する食事摂取基準				
12	公衆栄養マネジメント	公衆栄養活動におけるマネジメント、マネジメントの過程（アセスメント、計画、実施、評価、改善）				
13	公衆栄養活動	災害時の栄養対策、地域包括ケアシステム、食環境整備				
14	諸外国の栄養状況、施策	諸外国の健康・栄養問題の現状と課題、国際的な栄養行政組織の活動				
15	まとめの講義	全体の総括				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：公衆栄養学 南江堂 参考図書：日本人の食事摂取基準（2020 年版）、国民健康・栄養調査結果						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：新聞記事等を読み、栄養に関する最新の情報を収集しておくこと。 事後学習（週 1.5 時間）：授業プリント、確認テストの内容を復習しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
確認テストを行い、解答の解説を行う。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 70% 課題・レポート 15% 授業への参加度 15% 理由のない遅刻・欠席は減点						
評価	成績評価別の到達度					
S	健康・栄養問題に関する動向および栄養施策、公衆栄養活動について基礎的な知識を十分に修得し、公衆栄養プログラムへの応用力を持っている。					
A	健康・栄養問題に関する動向および栄養施策、公衆栄養活動について基礎的な知識を身につけ、公衆栄養プログラムの実際を理解している。					
B	健康・栄養問題に関する動向および栄養施策、公衆栄養活動について、基礎的な知識を身につけている。					
C	健康・栄養問題に関する動向および栄養施策、公衆栄養活動について、基礎的な知識がある。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		応用食品学（食品加工学を含む） [Applied Food Science]	2			
授業形態		担当教員名			科目コード	
講義		茗荷 尚史		N-S3035		
この授業に係る資格						
栄養士免許、フードスペシャリスト、健康管理士一般指導員						
この授業のキーワード		授業概要				
1	食材	食品の種類は非常に多く、現在食品成分表に記載されたものだけでも 2,000 品目以上、さらに世界各地より食材や加工品が入り、その種類は増加しつづけている。また魚類の中には稚魚から成魚になるときに名称が変化したり、地方により呼称が異なったり、調理方法により栄養成分値が変動するものがある。野菜・果実などは年々改良されている。本講義ではこれら詳細を食材ごとに解説するとともに、近年増えつづけているバイオ食品についても概説する。				
2	品質の鑑別					
3	食品選択					
学習の到達目標						
本講義では個々の食材に着目して、食品全体を理解することに主眼を置く。各食材の概要、品質の鑑別、栄養特性、加工や調理などを系統的に学ぶことにより、各食品の特徴、季節、栄養バランス、嗜好性、経済性等を加味した食品選択を可能にする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	食品の貯蔵・加工による変化	1.食品の褐変(遠隔)				
2	乳、卵と加工品	1.卵類の成分および鮮度判定(遠隔)				
3	乳、卵と加工品	1.乳製品の殺菌および加工(遠隔)				
4	油脂食品	1.油脂類の特徴および鮮度指標(遠隔)				
5	甘味料	1.甘味料の種類と特徴(遠隔)				
6	嗜好飲料	1.アルコール飲料の種類と特徴(遠隔)				
7	食品の貯蔵・加工による変化	1.褐変反応 2.ミオグロビンの変化 3.クロロフィルの変化				
8	穀類と加工品	1.種類と性状 2.成分と栄養価 3.加工品				
9	イモ類、豆類と加工品	1.種類と性状 2.成分と栄養価 3.加工品 4.機能性				
10	種実類、野菜類と加工品	1.種類と性状 2.成分と栄養価 3.加工品 4.機能性				
11	果実類と加工品	1.種類と性状 2.成分と栄養価 3.加工品 4.機能性				
12	キノコ類、藻類	1.種類と性状 2.成分と栄養価 3.加工品 4.機能性				
13	肉類と加工品	1.種類と性状 2.成分と栄養価 3.加工品 4.機能性				
14	魚介類と加工品	1.種類と性状 2.成分と栄養価 3.加工品 4.鮮度判定 5.機能性				
15	微生物利用食品	1.発酵乳製品 2.漬け物 3.みそ、しょう油 4.食酢 5.納豆				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：改訂食品学Ⅰ・Ⅱ 菅原龍幸・福澤英喜男 編著 建邦社 食品の官能評価・鑑別演習(第3版) (社)日本フードスペシャリスト協会編 建邦社 参考図書：食べ物と健康 食品学各論 下橋享子編著 八千代出版 食品加工学 加工から保蔵まで 第2版 露木英男・田島真編 共立出版 分子栄養学 金本龍平編 化学同人						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 0.5 時間）：日頃から応用食品学に関連する資料を集めておく。 事後学習（週 2.5 時間）：本講義では隔週でレポート課題および小テストを課すので、日頃から復習を中心とした授業外学習を励行して、学習したことをまとめる習慣を身につける。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、レポート添削、小テスト解説を行う。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 50% 平常点(小テストの得点、発言、態度を含む) 25% レポート 25%						
評価	成績評価別の到達度					
S	食材の面から食品学の知識をよく理解している。					
A	食材の面から食品学の知識を理解している。					
B	食材の面から食品学の基本的知識を理解している。					
C	食材の面から食品学の最低限の知識を理解している。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		食品衛生学 [Food Hygiene]	2			
授業形態		担当教員名		科目コード		
講義		岡崎 英規		N-S2036		
この授業に関係する資格						
栄養士免許、フードスペシャリスト、健康管理士一般指導員						
この授業のキーワード		授業概要				
1	食中毒	食品はヒトの生命を維持し、健康の保持、増進に欠かせないものであるが、時には健康障害を引き起こす。生命を脅かす原因となることもある。食中毒を起こさない、または被害に遭わない様、飲食に関わる有害なものや国の施策について解説する。				
2	食品添加物					
3	食品衛生行政					
学習の到達目標						
食中毒予防のため、食品の取り扱いだけでなく食に関わる全ての環境に対して衛生的な配慮ができるよう幅広い知識を身につける。食品中の有害物質について、正しい知識を身につける。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	食品衛生とは	食品衛生の重要性、食品衛生行政の概要				
2	食品衛生と微生物	微生物について、生育条件、汚染指標細菌				
3	食品の変質とその防止	腐敗とその判定、食品の変質防止方法				
4	食中毒について	食中毒の定義、発生状況、年内変動の周期性				
5	微生物による食中毒	微生物による食中毒について、概要を各自で調べる				
6	細菌性食中毒各論 1	食中毒菌の特徴と予防方法（サルモネラ、腸炎ビブリオ、病原大腸菌、カンピロバクター）				
7	細菌性食中毒各論 2	食中毒菌の特徴と予防方法（ウェルシュ菌、セレウス菌、ブドウ球菌、ボツリヌス菌）				
8	細菌性食中毒各論 3	食中毒菌の特徴と予防方法（NAG ビブリオ、リステリア、エルシニア）、経口感染症、人畜共通感染症				
9	ノロウイルス	ノロウイルスの特徴と予防方法				
10	寄生虫	寄生虫症の特徴と予防方法				
11	自然毒食中毒、	動物性自然毒と植物性自然毒食中毒の特徴と毒性				
12	カビ毒、有害化学物質	カビ毒の特徴と毒性、有害化学物質の特徴と過去の事例、食品成分の変化による有害物質				
13	食品添加物 1	食品添加物の分類、表示、用途、規格基準（遠隔）				
14	食品添加物 2	食品添加物の安全性と毒性試験、毒性の指標（遠隔）				
15	食品衛生管理、まとめ	HACCP、食品工場における一般衛生管理事項、マスターテーブル（遠隔）				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：カレント食べ物と健康 3 食品衛生学（第2版） 建帛社 参考図書：食中毒予防必携 第3版 日本食品衛生協会						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）： シラバスを確認して教科書を読んでおくこと。分かることと分からないことを整理しておく。 事後学習（週 1.5 時間）： 授業で理解したこと、理解できなかったことを整理する。毎回の復習小テストで半分正解を目標とする。						
課題に対するフィードバックの方法						
小テストの返却時に正答及び解説を行う。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 90% 小テスト10%						
評価	成績評価別の到達度					
S	食中毒の特徴や予防手段について、栄養士として必要な知識を幅広く習得している。					
A	食中毒の特徴や予防手段について、栄養士として必要な知識を習得している。					
B	食中毒の特徴や予防手段について、栄養士として必要な知識をやや習得している。					
C	食中毒の特徴や予防手段について、栄養士として必要な知識を最低限習得している。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		公衆衛生学 [Public Health]	2			
授業形態		担当教員名			科目コード	
講義		岡崎 英規		N-S2037		
この授業に関係する資格						
栄養士免許、健康管理士一般指導員、NR・サプリメントアドバイザー						
この授業のキーワード		授業概要				
1	環境と健康	公衆衛生学は、人々の疾病予防、健康の保持増進をはかるため、国や自治体など組織的な取り組みにより推進していくことを目的としている。衛生行政、保健統計について解説し、日本の保健衛生を世界各国と比較し、現在と将来の公衆衛生上の問題を認識させる。				
2	保健統計					
3	疫学					
学習の到達目標						
生態系の中の人間について考え、社会や環境の変化が健康に与える影響を理解する。 疫学の基礎知識を身につけ、科学的根拠（エビデンス）に基づく保健対策について理解する。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	健康と公衆衛生	健康・公衆衛生の定義、歴史、予防医学、ハイスル・ポピュレーションアプローチ（遠隔）				
2	環境と健康 1	環境基本法、地球環境問題、大気・水に関する環境基準（遠隔）				
3	環境と健康 2	ダイオキシン類対策、日本の公害、環境衛生（空気組成、騒音、温熱、放射線）（遠隔）				
4	環境と健康 3	環境衛生の続き（上下水道、廃棄物処理、廃棄物処理、建築物衛生）				
5	統計資料 1	保健統計の概要、人口静態統計、人口動態統計				
6	統計資料 2	生命表、平均寿命、健康寿命、傷病統計（患者調査、国民生活基礎調査）				
7	疫学 1	疫学の概念、疫学の指標（疾病頻度、曝露効果測定「相対危険、寄与危険、オッズ比」） 疫学の方法（記述・横断・生態学・症例対照・コホート・介入研究）、バイアスと交絡 スクリーニング、根拠の質（系統的レビュー、メタアナリシス）				
8	疫学 2					
	疫学 3					
9	主要疾患の疫学	悪性新生物、循環器疾患（脳血管疾患、虚血性心疾患）、たばこ対策、飲酒行動、歯科保健				
10	感染症対策、精神保健	感染症法、結核対策、予防接種、精神保健福祉法、自殺対策、外因死の現状				
11	母子保健	母子保健に関する統計資料の現状、母子保健の目的や活動				
12	産業保健	労働安全衛生法、3 管理、職業病、労働災害、トータルヘルスプロモーションプラン（THP）				
13	学校保健 国際保健・地域保健	学校保健の目的や活動、児童生徒の健康、学校感染症 国際保健の意義、機関、活動・保健所と保健センターの役割・まとめ				
		毎回、授業終了後に小テストを実施し、採点后返却した。返却時に小テストの解説を行った。 疫学について classroom を利用して授業のパワーポイントを配信し、自宅で復習できるようにした。				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：公衆衛生学 2020/2021 同文書院 参考図書：国民衛生の動向 2019/2020 厚生統計協会						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）： シラバスを確認して教科書を読んでおくこと。分かることと分からないことを整理しておく。 事後学習（週 1.5 時間）： 授業で理解したこと、理解できなかったことを整理する。毎回の復習小テストで半分正解を目標とする。						
課題に対するフィードバックの方法						
小テストの返却時に正答及び解説を行う。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 90% 小テスト 10%						
評価	成績評価別の到達度					
S	社会や環境の変化が健康に与える影響について、幅広い知識を習得している。					
A	社会や環境の変化が健康に与える影響についての知識を習得している。					
B	社会や環境の変化が健康に与える影響についての知識をやや習得している。					
C	社会や環境の変化が健康に与える影響についての知識を最低限、習得している。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		栄養指導論 1 [Nutrition Education 1]	2			
授業形態		担当教員名		科目コード		
講義・ アクティブ・ラーニング		小河原 佳子		N-S2038		
この授業に関する資格						
栄養士免許						
この授業のキーワード		授業概要				
1	栄養の指導	栄養指導に必要な基本的役割を理解し、指導の意義を明確にする。栄養の指導に必要な基礎知識を系統的に学ぶ。これを活用して、栄養マネジメントに必要なアセスメントの方法・分析、企画や指導方法、評価方法を理解する。				
2	PDCA サイクル					
3	栄養指導計画					
学習の到達目標						
栄養の指導の目的と意義を学ぶとともに、栄養マネジメントを理解し、「栄養の指導」に必要なマネジメントの基礎を理解することを目標とする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	栄養指導の概念	栄養士の仕事を理解し、栄養指導の目的・目標を学ぶ。望ましい“食生活”の考え方を学ぶ				○
2	栄養指導の沿革	栄養指導の歴史・食生活を取りまく環境・食生活と栄養政策について学ぶ				
3	栄養指導の現状と展望	栄養政策の取り組みやこれからの食生活のあり方、問題、関連法規について学ぶ				
4	食事摂取基準①	食事摂取基準の総論について学ぶ				
5	食事摂取基準②	食事摂取基準の活用法を学ぶ				○
6	栄養教育の理論	栄養教育のための行動科学、行動科学的アプローチについて学ぶ				
7	栄養カウンセリング	カウンセリングの基本と技法を用いた栄養教育について学ぶ				○
8	栄養指導と行動科学	行動変容技法と栄養教育について学ぶ				
9	栄養教育のためのアセスメント①	栄養アセスメントの意義・目的や種類（身体計測・臨床検査・臨床審査・食事調査）と方法を学ぶ				
10	栄養教育のためのアセスメント②	食事摂取基準と食事調査・分析方法・情報収集について学ぶ				○
11	栄養教育計画①	栄養教育とマネジメントサイクル（PDCA サイクル）の概要と目標設定について学ぶ				
12	栄養教育計画②	栄養指導計画書立案、カリキュラム、学習指導案について学ぶ				
13	栄養指導の実施	食行動変容に基づいて栄養教育と教材・学習方法を学ぶ				○
14	栄養教育の評価（1）	栄養教育の評価内容と意義、評価方法の種類を学ぶ				
15	栄養教育の評価（2）・まとめ	栄養教育評価デザインについて学ぶ まとめ・振り返り				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：栄養教育論 光生館 参考図書：日本人の食事摂取基準 2020 年版、「七訂 食品成分表 2020」女子栄養大学出版社						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：指定している教科書の該当箇所を事前に読んでおく。 事後学習（週 1.5 時間）：毎回授業の始めに、前回の授業内容の振り返りの小テストを行うので、復習しておく。						
課題に対するフィードバックの方法						
振り返り小テストの解答の解説を行う。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 60%と、授業への積極的な参加態度や復習状況などで 40%として、総合的に評価する						
評価	成績評価別の到達度					
S	栄養指導の基礎知識を十分習得し、PDCA サイクル、アセスメントの方法や指導方法、評価方法を十分に理解している。					
A	栄養指導の基礎知識を習得し、PDCA サイクル、アセスメントの方法や指導方法、評価方法をよく理解している。					
B	栄養指導の基礎知識をおおよそ習得し、PDCA サイクル、アセスメントの方法や指導方法、評価方法を理解している。					
C	栄養指導の基礎知識、PDCA サイクル、アセスメントの方法や指導方法、評価方法を理解している。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		給食経営管理論 [Institutional Food Service Management]	2			
授業形態		担当教員名		科目ナンバー		
講義		菊地 亨	国	N-S2039		
この授業に関係する資格						
栄養士免許						
この授業のキーワード			授業概要			
1	特定給食施設	特定給食施設等における給食運営に必要な基礎知識を学ぶ。				
2	給食関連法規					
3	衛生管理・食中毒					
学習の到達目標						
1. 給食管理の目的と方法、給食業務に関連する法規について説明できる。						
2. 栄養管理の意義と具体的方法について説明できる。						
3. HACCP システムと大量調理衛生管理マニュアルに基づいた、衛生管理・食中毒の防止方法について説明できる。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	総論	給食の定義・目的、特定給食施設（遠隔）				
2	経営管理	給食管理の意義、マーケティング（遠隔）				
3	栄養・食事管理 ①	栄養・食事管理の意義と目的（遠隔）				
4	栄養・食事管理 ②	栄養・食事のアセスメント（遠隔）				
5	栄養・食事管理 ③	食事計画の実施・評価・改善（遠隔）				
6	品質管理、会計・原価管理	給食品質の標準化・評価・改善、経営分析、原価計算の方法				
7	食材料管理・生産管理	食材料の発注計画、在庫管理、購入価格の分析・生産計画（調理工程、作業工程）				
8	安全・衛生管理 ①	衛生管理の意義と目的、HACCP システムの概念				
9	安全・衛生管理 ②	大量調理衛生管理マニュアル				
10	施設・設備管理	食中毒・感染症、危機管理対策				
11	各種給食施設の特徴 ①	医療施設（遠隔）				
12	各種給食施設の特徴 ②	高齢者・介護福祉施設、児童福祉施設、障害者福祉施設（遠隔）				
13	各種給食施設の特徴 ③	学校、事業所（遠隔）				
	少なくなった回数分の内容	Classroom を利用して授業の動画を配信し、自宅で復習出来るようにした。				
		遠隔授業の回は Google Forms を利用して小テストを行い、回答後に解説を示した。				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：「エッセンシャル 給食経営管理論」医歯薬出版						
参考図書：「七訂 食品成分表 2020」女子栄養大学出版部 「調理・献立作成の基礎」化学同人						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：教科書・参考図書を用いて、授業範囲の予習を行うこと。						
事後学習（週 1.5 時間）：教科書・参考図書・配布資料を用いて、授業範囲の復習を行うこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
確認テストを行い、採点后、解答の解説を行う。適宜、オフィスアワーで対応する。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 70% 小テスト及び提出物 30% 理由のない遅刻・欠席・早退は減点						
評価	成績評価別の到達度					
S	学習の到達目標について、極めて高いレベルで達成していると判断できる。					
A	学習の到達目標について、十分に達成していると判断できる。					
B	学習の到達目標について、ある程度達成していると判断できる。					
C	学習の到達目標について、最低限の範囲で達成していると判断できる。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		調理学 [Cookery Science]	2			
授業形態		担当教員名			科目コード	
講義		小坂 由美子		N-S2040		
この授業に関する資格						
栄養士免許、フードスペシャリスト						
この授業のキーワード		授業概要				
1	食文化・美味論	食品から食物へ作り上げていく過程を中心に、食品の調理上での変化、調理と衛生、日本とその他の国の食文化、献立の立て方・考え方、調理操作方法（新調理機器を含む）、人間と嗜好（おいしさの科学）などを解説する。				
2	調理操作					
3	食品の調理性					
学習の到達目標						
調理の目的（衛生的に安全で、栄養効率を高め、嗜好性を向上させ、食文化を理解する）を前提に人間が食物を摂取する最終段階としての調理方法とその体系を理解することを目標とする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	調理学序論	調理学で扱う範囲。食の問題と調理に関わる内容、世界の食文化の概要（食の世界無形文化遺産など）				
2	食事設計・献立論	食事設計の考え方、献立・供食、食文化からみた食事（日常食・供応食）について考える				
3	美味論①	食物のおいしさとその要因、食物側と人間側から見たおいしさの視点を理解する				
4	美味論②	おいしさの評価法：理化学的評価法（食品物性を中心）、官能評価法など				
5	調理システム①	調理操作論：調理の意義、非加熱調理操作、加熱調理操作、調味操作				
6	調理システム②	調理システム（厨房設備、真空低温調理、クックチルシステムなど新しい調理機器を含む）				
7	調理システム③	調理機器、調理用計器、非加熱用器具、加熱用器具、食器、容器など				
8	食材の調理機能①	調理機能論、植物性食品の調理機能（穀類/米・小麦他）				
9	食材の調理機能②	植物性食品の調理機能（豆類、イモ類、野菜類、果実類など）				
10	食材の調理機能③	動物性食品の調理機能（畜肉類、魚介類、卵、乳類およびその加工品など）				
11	食材の調理機能④	抽出性食品の調理機能（でん粉、油脂、ゼラチン、寒天などのそれぞれの特性）				
12	食材の調理機能⑤	調味料・香辛料の調理機能、調味料の役割と種類など				
13	調理環境論①	調理環境とは？調理行動からみた食生活の特徴、食情報、スローフードなど				
14	調理環境論②	外食産業（内食・中食・外食）、エコクッキング、調理と衛生など				
15	まとめ	調理に関する現代の問題点など				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：時代とともに歩む新しい調理学 川端・永島他著 学建書院 参考図書：栄養士実力認定試験過去問題集 全栄施協編 建帛社						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：事前に指定したテキストのページ内容よりキーワード及び専門用語について調べた上で授業に臨む。 事後学習（週 1.5 時間）：当日の授業で解説した範囲で次回に小テストを行うので、専門用語及び項目についてノートにまとめておく。						
課題に対するフィードバックの方法						
授業内で実施する小テストを添削後返却。専用ノートにまとめる。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 80% 講義終了時に実施する小テスト 20%						
評価	成績評価別の到達度					
S	調理学の内容をきわめて高いレベルで理解している。					
A	調理学の内容をかなり高いレベルで理解している。					
B	調理学の内容をほぼ理解している。					
C	調理学の内容を最低限理解している。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		生化学実験 [Experiments in Biochemistry]	1			
授業形態		担当教員名		科目コード		
実験・ アクティブ・ラーニング		岡崎 英規		N-S4041		
この授業に関する資格						
栄養士免許、フードスペシャリスト						
この授業のキーワード		授業概要				
1	酵素	体内で起こっている様々な現象を、実験上で再現し、からだの働きを理解する。 栄養素の消化や代謝に関する実験を身近な食品を用いて行う。				
2	消化					
3	化学反応					
学習の到達目標						
中和や分析など基礎的な実験を通じて、物事を科学的に捉える基礎を養う。 栄養管理に関係する栄養素と疾病やからだの関係について理解を深める。						
回	テーマ	授業内容				AL
1・2	オリエンテーション	生化学実験における諸注意、実験の基礎、濃度計算の基礎、 次回使用する試薬の濃度を測定				○
3・4	身近な食品の pH 測定	様々な食品の pH を測定し、pH の意味を理解する				○
5・6	酸と塩基	酸・塩基の意味、そして中和の意味を知ろう ～代表的な酸と塩基を使って中和反応～ スプай！！の秘密 ～中和による果汁のクエン酸定量～				○
7・8	定量分析の基本	分光光度計を使って、量・反応関係を観察しよう ～分析実験の基礎を学ぶ～				○
9・10	酵素の実験- 1	温度依存性って何？ ～温度とグルコース代謝に関わる酵素反応～				○
11・12	酵素の実験- 2	pH 依存性って何？ ～pH とグルコース代謝に関わる酵素反応～				○
13・14	酵素の実験- 3	補酵素って何？ ～補酵素の有無とグルコース代謝に関わる酵素反応～				○
15・16	たんぱく質の実験- 1	温泉卵の秘密 ～たんぱく質の熱変性について～ ヨーグルトの秘密 ～たんぱく質の等電点沈殿について～				○
17・18	たんぱく質の実験- 2	たんぱく質を食べるとどうなる？ ～たんぱく質と消化酵素の働き～				○
19・20	糖質の実験- 1	でんぷんを食べるとどうなる？① ～炭水化物の種類と消化～				○
21・22	糖質の実験- 2	でんぷんを食べるとどうなる？② ～消化酵素の違いと消化～				○
23	まとめ	本実験の総まとめ				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：生化学実験ノート 岡崎、浅香著 参考図書：イラスト 栄養生化学実験 東京教学社						
準備学習・事後学習						
準備学習：シラバスを確認してテキストをあらかじめ読んでおくこと。操作の流れを整理しておく。 事後学習：疑問に思った事を調べる。授業によって理解したこと理解できなかったことを整理し、レポートに記す。						
課題に対するフィードバックの方法						
添削したレポートを返却する。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 50％ レポート提出状況 50％						
評価	成績評価別の到達度					
S	分析法の基礎知識を習得し、栄養素と身体の関係について積極的に取り組み理解している。					
A	分析法の基礎知識を習得し、栄養素と身体の関係について理解している。					
B	分析法の基礎知識や、栄養素と身体の関係について理解している。					
C	分析法の基礎知識や、栄養素と身体の関係について最低限理解している。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		食品加工実習 [Food Processing Practice]	1			
授業形態		担当教員名			科目ナンバー	
実習 アクティブ・ラーニング		木元 泰子		N-S5042		
この授業に関する資格						
栄養士免許						
この授業のキーワード		授業概要				
1	加工食品の製造原理	食品加工の基である食品素材の特徴を学び、日常利用されている加工食品について実習を通して具体的に加工の原理と方法を学ぶ。				
2	加工食品の保存方法					
3	食品添加物					
学習の到達目標						
食品における貯蔵および加工の目的を知り、加工食品の原材料、製造原理、工程、保存、包装技術また、食品の成分や物性の変化を学び、知識だけでなく栄養士として食生活に役立つ食品加工の理論と実際を体得する。						
回	テーマ	授業内容				AL
1・2	農産物の加工① 穀類	小麦：小麦及び小麦の加工品について学ぶ（遠隔）				
3・4	農産物の加工② 穀類	中華麺：小麦粉のグルテン形成について 鹹水が小麦粉の生地に与える影響を学ぶ マフィン：生物学的・化学的膨化及び膨化剤の違いを学ぶ（対面）				○
5・6	包装材料について	容器包装：瓶詰・缶詰・真空包装について学ぶ（遠隔）				
7・8	農産物の加工③ 果実類	ジャム・マーマレード：ペクチンのゲル化について 貯蔵効果について学ぶ 容器包装：瓶詰について学ぶ（対面）				○
9・10	水産物の加工① 魚類	魚肉：魚介類の加工食品について学ぶ（遠隔）				
11・12	水産物の加工② 魚類	かまぼこ・さつま揚げ：魚肉練り製品の物性の変化を学ぶ（対面）				○
13・14	畜産物の加工① 畜肉類	畜肉：畜肉類の加工食品について学ぶ（遠隔）				○
15・16	畜産物の加工② 畜肉類	ソーセージ：肉色素の変化や燻煙作用、ケーシングについて学ぶ（対面）				○
17・18	農産物の加工④ いも類	こんにゃく：こんにゃく粉の成分であるグルコマンナンのゲル化について学ぶ（遠隔）				○
19・20	畜産物の加工③ 乳類	乳製品：乳製品の加工目的について学ぶ（遠隔）				
21・22	畜産物の加工④ 乳類	フレッシュチーズ：乳たんぱく質の変性について学ぶ（対面）				○
23	まとめの講義	全体の総括（遠隔）				
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
教科書：食品加工学実習テキスト 建帛社 参考図書：日本食品大事典 医歯薬出版株式会社、食品加工貯蔵学 東京化学同人						
準備学習・事後学習						
準備学習： 実習で行う内容の加工食品について情報を収集しておくこと。						
事後学習： 授業プリントの内容を復習しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
レポートにコメントを入れ、返却する。						
成績評価の目安と方法						
レポート 70% 平常点 30% 理由のない遅刻・欠席は減点						
評価	成績評価別の到達度					
S	食品加工学に関する基本的な知識を大変よく理解している					
A	食品加工学に関する基本的な知識をかなり理解している。					
B	食品加工学に関する基本的な知識をおおよそ理解している。					
C	食品加工学に関する基本的な知識を理解している。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	スポーツ栄養学実習 [Practice in Sports Nutrition]		1			
授業形態	担当教員名			科目ナンバー		
実習 アクティブ・ラーニング	長島 洋介			N-S5043		
この授業に関係する資格						
栄養士免許						
この授業のキーワード		授業概要				
1 2 3	身体組成 アセスメント 身体活動	ヒトの身体組成や生化学検査、血圧、体温、味覚などを栄養と結び付けて考察する。身体活動によって変化するヒトの身体を体感的に学び、栄養士としてスポーツ選手への食事の提供や支援の方法を考える。欠席した場合には別の日に休んだ日の実験を行い、自分の実験結果に対するレポートを作成する。				
学習の到達目標						
身体活動や栄養状態を正しく評価できるようになり、栄養指導や栄養サポート方法への応用力を身につけることを目標とする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1・2	ガイダンス・食事の評価 1	履修に関する注意点と実習の概要説明 食物摂取頻度調査法（対面）				○
3・4	食事の評価 2	秤量食事調査（対面）				○
5・6	日本人の食事摂取基準による評価	エネルギー調整法 食事摂取基準の使い方（対面）				○
7・8	身体組成 周囲計の評価	身体組成 キャリパー法およびインピーダンス法 周囲計の測定（対面）				○
9・10	ストレス評価	唾液アミラーゼによるストレス評価 生活習慣とストレスとの関連（対面）				○
11・12	尿中による評価	尿中 Na, K, Na/K 比に用いた評価 尿検査試験紙による評価（対面）				○
13・14	血液による評価	健康診断結果を用いて評価 非侵襲 Hb 測定（対面）				○
15・16	食事による身体の変化	空腹時および食事後の血糖値測定（対面）				○
17・18	運動による身体の変化	暑熱環境下において運動が身体に及ぼす影響を検討する（対面）				○
19・20	環境の評価 身体活動の評価	W B G T 計による環境の評価 身体活動量の評価方法（対面）				○
21	まとめ	本実験の総まとめ 授業内試験（遠隔）				
		※当初の予定より 2 回分少なくなった。この理由としては、従来、対面で行っていた実習内容の説明を WEB に切り替えたためである。授業回数は減少しているものの、授業内容および授業時間は、前年度と同様に行った。				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：なし（プリント配付） 参考図書：解剖生理学教科書、健康のスポーツ栄養学配付物						
準備学習・事後学習						
準備学習：実習内容の説明をWEB（動画）で行うので、事前に確認しておくこと 事後学習：授業中の内容を復習しておくこと						
課題に対するフィードバックの方法						
オフィスアワーで適宜対応する。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 40%、提出物 40%、平常点 20%として、総合的に評価する						
評価	成績評価別の到達度					
S	スポーツ栄養の知識や技術を、十分に理解し応用力を身に付けている。					
A	スポーツ栄養の知識や技術を、よく身に付けている。					
B	スポーツ栄養の知識や技術を、身に付けている。					
C	スポーツ栄養の知識や技術の基礎を、身に付けている。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]		単位			
専門教育科目		臨床栄養学実習 [Clinical Nutrition Practice]		1			
授業形態		担当教員名			科目ナンバー		
講義・演習・実習・アクティブ・ラーニング		木元 泰子		N-S5044			
この授業に関係する資格							
栄養士免許							
この授業のキーワード		授業概要					
1	臨床調理	献立作成を通して、形態別・成分別の献立作成の基礎的知識・実習を学び、調理実習を通して、臨床調理と一般調理の違いを体得する。					
2	実践力						
3	疾患別献立作成						
学習の到達目標							
治療の一環としての栄養療法の基本を習得し、各疾患に適した食事づくりができるよう既得の知識と実技を生かして、実践即戦力を身につける。							
回	テーマ	授業内容			AL		
1・2	オリエンテーション 糖尿病の献立作成 糖尿病食品交換表の使い方	実習の目的 履修上の注意事項など 糖尿病の食事について 食品交換表の仕組み、献立作成の実際（対面）			○		
3・4	腎臓病の献立作成 腎臓病の食品交換表の使い方	腎臓病の食事について 食品交換表の仕組み、献立作成の実際（対面）			○		
5・6	献立作成の基本復習 一般治療食の献立作成	献立作成のための基礎知識の復習 一般治療食：流動食の献立作成（遠隔）					
7・8	一般治療食（軟菜食）調理・供食実習	軟菜食調理実習（対面）			○		
9・10	特別治療食の献立作成	食塩コントロール食について 食塩制限食の献立作成（遠隔）					
11・12	特別治療食（食塩制限食）調理・供食実習	食塩制限食の調理実習（対面）			○		
13・14	特別治療食（たんぱく質コントロール食）	たんぱく質制限食について 特殊治療食品の試食（遠隔）			○		
15・16	腎臓病食の調理・供食実習	慢性腎臓病食の調理実習（対面）			○		
17・18	接触嚥下障害食とは	接触嚥下食について 増粘剤の使い方及び試飲等（遠隔）			○		
19・20	展開食の調理・供食実習	展開食について 展開食の調理実習（対面）			○		
	まとめ①	Classroom を使用した確認テストを実施（遠隔）					
	まとめ②	Classroom で課題の解説を配信し、自宅で自習できるようにした(遠隔)					
試験等	なし						
教科書及び参考図書							
教科書：臨床栄養学実習書（医歯薬出版） 糖尿病食事療法のための食品交換表 腎臓病食品交換表							
準備学習・事後学習							
準備学習： シラバスで授業内容を確認し、教科書で予習をしておくこと。							
事後学習： 授業プリントの内容を復習しておくこと。							
課題に対するフィードバックの方法							
提出課題にコメントを入れ、返却する。							
成績評価の目安と方法							
提出物（課題レポート）70％ 平常点 30％ 理由のない遅刻・欠席は減点							
評価	成績評価別の到達度						
S	治療の一環としての栄養療法の基本を十分修得し、各疾患に適した食事づくりができる実践即戦力を十分に持っている。						
A	治療の一環としての栄養療法の基本を修得し、各疾患に適した食事づくりができる実践即戦力を持っている。						
B	治療の一環としての栄養療法の基本を理解し、各疾患に適した食事づくりを身につけている。						
C	治療の一環としての栄養療法の基本を理解し、各疾患に適した食事づくりの基礎的な知識を身につけている。						

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位			
専門教育科目		食品学実験 [Experimental Food Science]	1	N	S	M
授業形態		担当教員名			科目コード	
実験・ アクティブ・ラーニング		茗荷 尚史		N-S4045		
この授業に関係する資格						
栄養士免許、フードスペシャリスト						
この授業のキーワード		授業概要				
1	食品成分分析	栄養士が現場で献立作成や栄養指導を行う際、常に食品成分表を参考し、使いこなさなければならない。しかし実際の食品成分表を見ると実に多くの数字が羅列されており、これを自在に活用するためにはそれらのデータが出された過程および方法を熟知しておく必要がある。そのため本授業では実験を通して食品成分分析法を学ぶとともに、自らデータを出す体験をする。				
2	食品成分表					
3	商品開発					
学習の到達目標						
食品の一般成分分析に関する実験を通して、食品学実験の基本操作と基礎知識を習熟し、食品成分分析の技術を体得するとともに、食品成分表の理解を深める。さらにスポーツドリンクを題材にして、食商品開発の体験実験も行う。						
回	テーマ	授業内容				AL
1・2	食品学実験の概説（その 1）	1.レポートの作成法(遠隔)				
3・4	食品学実験の概説（その 2）	1..重量、容積の測定法(遠隔)				
5・6	食品学実験の概説（その 3）	1.分離、攪拌、その他(遠隔)				
7・8	食品学実験の概説（その 4）	1.成分表におけるエネルギーの算出法(遠隔)				
9・10	食品中の水分の定量（その 1）	1.概説 2.常圧加熱乾燥法 3.恒量の求め方				○
11・12	食品中の粗灰分の定量（その 1）	1.概説 2.ろつぼの恒量を求める 3.試料の調製 4.試料の灼熱				○
13・14	食品中の粗灰分の定量（その 2）	1.恒量を求める 2.計算 3.小麦粉の種類、等級およびその鑑別				○
15・16	食品中の粗脂肪の定量（その 1）	1.概説 2.ソックスレー抽出法 3.定量びんの恒量測定 4.脂肪の抽出				○
17・18	食品中の粗脂肪の定量（その 2）	1.脂肪の恒量測定 2.計算				○
19・20	食品成分の分離（その 1）	1.小麦粉からのデンプンとグルテンの分離				○
21・22	食品成分の分離（その 2）	1.グリアジンの分離 2.グルテニンの分離				○
23・24	タンパク定量	1.ローリー法 2.計算 3.総括				○
25	総まとめ	1.まとめの講義 2.質問受付				
試験等	レポート課題					
教科書及び参考図書						
教科書：食品学実験書(第 3 版) 藤田修三・山田和彦 編 医歯薬出版 食品の官能評価・鑑別演習(第 3 版) (社)日本フードスペシャリスト協会 建帛社 ＊単元ごとに詳細を板書する						
準備学習・事後学習						
準備および事後学習：各実験の意味をよく理解し、率先して操作に関わる積極性が求められる。なお本授業科目は、評価に占めるレポート点の比重が大きいため、レポート作成時によく復習するとともに、期限に遅れずにレポートを提出する。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、レポートにコメントを入れて返却する。						
成績評価の目安と方法						
レポート 60％ 平常点(取り組み姿勢、発言を含む) 40％						
評価	成績評価別の到達度					
S	食品成分分析の手法および結果の解析法に関して、よく理解している。					
A	食品成分分析の手法および結果の解析法に関して、理解している。					
B	食品成分分析の手法および結果の解析法に関して、基本的知識を理解している。					
C	食品成分分析の手法および結果の解析法に関して、最低限の知識を理解している。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		応用食品学実験 (食品加工学実習を含む) [Experimental Applied Food Science]	2			
授業形態		担当教員名			科目コード	
実験・ アクティブ・ラーニング		茗荷 尚史		N-S5046		
この授業に関係する資格						
フーズスペシャリスト						
この授業のキーワード		授業概要				
1 2 3	食品鑑別 食品加工 バイオ食品	食品学実験で習熟した実験の基本操作や基礎知識を発展させて、食品学や食品加工学に関する実験・実習を行う。内容は、細胞融合技術を用いた品種改良、バイオリクター技術の応用、パンや人工イクラ作りの実習、DNA 鑑定、油脂や鶏卵の品質・鮮度鑑定等多岐にわたる。なお反応時間等を有効利用して、資格試験の過去問題を解くとともに必要な知識の解説およびまとめを行う。				
学習の到達目標						
食品学や食品加工学に関するより高度な実験・実習を行うことにより、応用力と考察力を養う。なお、本授業科目では、アルコール発酵や一塩基多型解析を題材にした長期の実験に取り組むことにより、試薬調製からデータ解析までの一連の流れを体験させ、能動的な実験姿勢も養いたい。						
回	テーマ	授業内容				AL
1・2	応用食品学実験の概説	1. 一般的諸注意 2. データ整理とレポート作成 3. 実験計画の概説				
3・4	酵素的褐変反応	1. 反応機構 2. 代表的な褐変基質 3. 褐変阻止法 4. 酵素極性				○
5・6	食品の細胞組織学的実験	1. 塩蔵・糖蔵・酢漬中の組織変化 2. プロトプラスト作製法・応用例の概説 3. ナスとアロエのプロトプラスト 4. 細胞融合 5. 観察				○
7・8	電子レンジを用いたパン作り ～調理パン編～	1. 概説 2. パン生地の調製 3. 一次発酵 4. 二次発酵 5. 焼成				○
9・10	電子レンジを用いたパン作り ～メロンパン編～	1. 概説 2. パン生地の調製 3. 一次発酵 4. 二次発酵 5. 焼成				○
11・12	鶏卵の鮮度判定	1. 概説 2. ハウユニット、pH、卵黄係数、気室径、比重の測定				○
13・14	油脂の酸化	1. 概説 2. 過酸化値の定量				○
15・16	簡易バイオリクターシステムを用いたアルコール生産(その1)	1. 概説 2. 試薬調製				○
17・18	簡易バイオリクターシステムを用いたアルコール生産(その2)	1. 概説 2. 固定化酵素の作製 3. 人工イクラの作製				○
19・20	簡易バイオリクターシステムを用いたアルコール生産(その3)	1. アルコール定量 2. アルコール飲料の種類と鑑別				○
21・22	一塩基多型解析 (その1)	1. 概説 2. 試薬調製 3. DNA 抽出				○
23・24	一塩基多型解析 (その2)	1. 概説 2. DNA の定量 3. DNA の純度検定 4. 計算				○
25・26	一塩基多型解析 (その3)	1. 概説 2. PCR 法によるアルデヒドデヒドロゲナーゼ 2 遺伝子の増幅				○
27・28	一塩基多型解析 (その4)	1. 概説 2. アガロースゲル電気泳動 3. 判定				○
29・30	まとめ	一塩基多型解析の総括				
試験等	レポート					
教科書及び参考図書						
教科書：なし * 単元ごとに詳細を板書し、プリントを配布する(但し 3,4 回目, 11, 12 回目, 13, 14 回目のみ参考図書①, ②を使用)。 参考図書：①食品学実験書(第2版) 藤田修三・山田和彦 編 医歯薬出版 ②食品の官能評価・鑑別演習(第3版) (社)日本フーズスペシャリスト協会 建帛社 ③食品加工実習・実験書 吉田企世子 編 医歯薬出版						
準備学習・事後学習						
準備学習：日頃から応用食品学実験に関連する資料を集めておく。 事後学習：各実験の意味をよく理解し、率先して操作に関わる積極性が求められる。隔週で小テストを課す予定である。 日頃から学習した内容をまとめる習慣をつけ、小テストに合格できる実力を身につけるよう心掛けて欲しい。 なお本授業科目は、評価に占めるレポートの比重が大きいため、レポート作成時によく復習するとともに、期限に遅れずにレポートを提出することが絶対必要条件である。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、レポート添削、小テスト解説を行う。						
成績評価の目安と方法						
レポート 60% 平常点(小テスト、取り組み姿勢、発言を含む) 40%						
評価	成績評価別の到達度					
S	食品学および食品加工学の実験・実習を通して、その分野における応用力と考察力が身に付いている。					
A	食品学および食品加工学の実験・実習を通して、その分野における一応の応用力と考察力が身に付いている。					
B	食品学および食品加工学の実験・実習を通して、その分野における基本的な力が身に付いている。					
C	食品学および食品加工学の実験・実習を通して、その分野における最低限の力が身に付いている。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		食品衛生学実験 [Experiments in Food Hygiene]	1			
授業形態		担当教員名		科目コード		
実験・ アクティブ・ラーニング		岡崎 英規		N-S4047		
この授業に関する資格						
栄養士免許、フードスペシャリスト						
この授業のキーワード		授業概要				
1	細菌検査	食品衛生学で学んだ内容について、実体験により知識を深める。 微生物に関する基礎的実験により、普段は見えない微生物がとても身近なものであること、どのような特徴があるのか体験する。				
2	鮮度判定					
3	衛生指標					
学習の到達目標						
食品の細菌検査法、鮮度判定など品質管理の基礎的技術を修得する。						
回	テーマ	授業内容				AL
1・2	オリエンテーション 手指の洗浄消毒効果	食品衛生学実験における諸注意 集団給食における手指の洗浄消毒効果の大切さを体得させる				○
3・4	手指の洗浄消毒効果観察 様々な消毒方法	手指の洗浄消毒効果について観察をする 様々な消毒方法や滅菌方法について学習する				○
5・6	細菌観察 腸炎ビブリオ検査	グラム染色により細菌の形態に関する知識を高める 市販魚介類を用い、身近に腸炎ビブリオがいることを認識する				○
7・8	腸炎ビブリオ観察 生菌数の測定	結果の観察と考察 市販食品を用いて、衛生指標である生菌数測定法を体得する				○
9・10	生菌数測定の観察 糞便系大腸菌群検査 ブドウ球菌検査 空中落下細菌検査	市販食品にはある程度の生きた細菌や芽胞が存在することや衛生指標菌について学習する 大腸菌群の中には、糞便由来のものと環境由来のものが含まれることを理解する 各人のブドウ球菌汚染実態と検査方法を学ぶ 調理場などの環境衛生指標とされる大気中の細菌について認識する				○
11・12	糞便系大腸菌群観察 ブドウ球菌観察 空中落下細菌観察	結果の観察と考察				○
13・14	魚介類の鮮度判定	短時間で結果の出る鮮度判定の検査法（揮発性ちっ素測定）を体得する				○
15・16	魚介類のヒスタミン検査	アレルギー様食中毒の原因物質ヒスタミンの検査法を体得する				○
17・18	飲料水検査まとめ	水道水の塩素濃度を測定し、安全性の確認方法を体得する本実験の総まとめ				○
19・20	大腸菌群の測定	食品の衛生指標である大腸菌群の測定方法を体得する（遠隔）				
21・22	加熱温度と生菌数	加熱殺菌の意義と耐熱芽胞の存在について認識する（遠隔）				
23	細菌についてのまとめ	細菌とウイルスについて考える（遠隔）				
		classroom を利用して課題を提示し、レポート提出後に解説を行った。				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：食品衛生学実験ノート 岡崎、浅香 著 参考図書：食品衛生検査指針 微生物編・理化学編 2015 日本食品衛生協会						
準備学習・事後学習						
準備学習：シラバスを確認してテキストをあらかじめ読んでおくこと。操作の流れを整理しておく。 事後学習：疑問に思った事を調べる。授業によって理解したこと理解できなかったことを整理し、レポートに記す。						
課題に対するフィードバックの方法						
添削したレポートを返却する。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 50% レポート提出状況 50%						
評価	成績評価別の到達度					
S	食品の鮮度判定や細菌検査法など、品質管理の様々な知識を積極的に取り組み習得している。					
A	食品の鮮度判定や細菌検査法など、品質管理の知識を積極的に取り組み習得している。					
B	食品の鮮度判定や細菌検査法など、品質管理の知識を習得している。					
C	食品の鮮度判定や細菌検査法など、品質管理の知識を最低限習得している。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位			
専門教育科目		社会福祉概論 [Social Security Schemes]	2	N	S	M
授業形態		担当教員名			科目コード	
講義・ アクティブ・ラーニング		林 和秀		N-S2048		
この授業に関する資格						
栄養士免許、社会福祉主事						
この授業のキーワード		授業概要				
1	社会福祉	本授業では、人間の尊厳をキーワードに「社会福祉」の価値や意義、社会保障の基本的な制度である社会保険・公的扶助・社会福祉（制度）を、講義を通して学ぶ。また、制度や施策と合わせて具体的な社会問題について授業で取り上げる。授業を通して、自分なりの考えを持つことを重視する。				
2	社会保障					
3	人間の尊厳					
学習の到達目標						
①社会福祉の歴史を学び、その現状と意義を理解する。②社会保障制度（社会保険、公的扶助、社会福祉）のおおよその仕組みを理解する。③社会問題（障害者差別、児童虐待、健康格差等）の実態について認識する。④「人間の尊厳」について、自分なりの考えを持つ。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	イントロダクション	栄養を学ぶ学生が社会福祉を学ぶ意味を考える。授業計画・概要、評価方法を確認する				
2	社会福祉とは何か	社会福祉の意味と対象について、用語の整理と社会福祉の歴史的な流れを学び、考える				
3	日本の社会福祉の歴史	日本の社会福祉の歴史を学び、人間の尊厳や現代の社会福祉への理解を深める				
4	私たちの生活と社会保障	私たちの生活を支える仕組みとしての、日本の社会保障の全体像を知る				
5	少子高齢社会と年金保険	日本社会の現状を認識するとともに、日本の年金保険制度の仕組みを理解する				
6	医療福祉と医療保険	日本の医療保険制度および、医療福祉に係る課題や専門職について学ぶ				
7	高齢者福祉と介護保険①	高齢者を取り巻く状況と課題について認識し、介護保険制度の概要を学ぶ				
8	高齢者福祉と介護保険②	ケアマネジメント及び在宅や施設の介護現場の現状と課題について学ぶ				
9	公的扶助	生活保護制度の仕組みと課題について学ぶ				
10	児童家庭福祉	子どもや子育てを支援する施策と課題について学ぶ				
11	障害者福祉	障害のある人の生活を支援する施策と課題について学ぶ				
12	グループワーク①	関心のある社会課題について、グループごとに調べ、自分たちの意見をまとめる				○
13	グループワーク②	グループごとに発表をし、質疑応答を行う。				○
14	これからの社会福祉	最新の社会福祉に関連する施策や事例について学び、これからの社会福祉について考える				
15	まとめ・総括	授業の振り返りと総括を行う				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
参考図書：①岩松珠美・三谷嘉明編『5訂 栄養士・管理栄養士をめざす人の社会福祉』みらい、2019 年②鬼崎信好・本郷秀和編『コメディカルのための社会福祉概論 第4版』講談社、2018 年 ③岸邦和『「人間の尊厳」を考えるための練習問題』幻冬舎ルネッサンス新書、2015 年						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：シラバスのテーマに該当する内容について自分なりに調べること。 事後学習（週 1.5 時間）：各回で配布する授業の資料を再度熟読し、復習しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
リアクションペーパーでの返答及びメール、オフィスアワーで適宜対応する。						
成績評価の目安と方法						
期末筆記試験 50% 毎授業のリアクションペーパー20% グループワークでの態度 30%						
※講義および相互学習形式の授業である。授業中にスマホを利用する、私語や他用を行う、授業やグループワークの進行に加わらない、などの態度は減点とする。						
評価	成績評価別の到達度					
S	社会保障・社会福祉に関する時事問題を批判的に検討し、今後の展望および自分なりの案を考えることができる。					
A	広く社会保障・社会福祉制度の仕組みを理解し、それぞれの日本の社会問題について自分なりに課題を検討できる。					
B	日本の一つの社会問題について関連する社会保障と社会福祉の制度を理解し、自分なりに課題を検討できる					
C	「人間の尊厳」について、自分なりの考えを持つことが出来ている。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		栄養指導論 2 [Nutrition Education 2]	2			
授業形態		担当教員名			科目コード	
講義・		小河原 佳子		N-S3049		
この授業に関係する資格						
栄養士免許						
この授業のキーワード		授業概要				
1	ライフステージ	栄養指導論 1 を基に、ライフステージ・ライフスタイル別に、それぞれの特性、栄養上の問題点や指導のポイント等を理解し、指導方法を学ぶ。また食環境や国際的動向についても学ぶ。				
2	栄養特性					
3	疾病の予防・治療					
学習の到達目標						
ライフステージ・ライフスタイル別の特性、栄養上の問題点や指導のポイント等を知り、対象者を考慮した指導方法を身に付ける。様々な環境に対応できるような知識・技術を学び、実践できる応用力を身につける。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	災害時における栄養士の役割	災害時における栄養士の役割と栄養の指導について学ぶ（遠隔）				
2	ライフステージ別栄養指導（1）	妊娠・授乳期の特性に基づく栄養の指導についてと女性の権利について学ぶ（遠隔）				
3	ライフステージ別栄養指導（2）	乳児期（離乳の支援などを含む）の特性に基づく栄養の指導について学ぶ（遠隔）				
4	ライフステージ別栄養指導（3）	幼児期の特性に基づく栄養の指導について学ぶ（遠隔）				
5	ライフステージ別栄養指導（4）	学童期の特性に基づく栄養の指導と学校に基づく食育の取り組みについて学ぶ（遠隔）				
6	ライフステージ別栄養指導（5）	思春期の特性に基づく栄養の指導について学ぶ（遠隔）				
7	ライフステージ別栄養指導（6）	成人期・更年期の特性に基づく栄養の指導について学ぶ				
8	ライフステージ別栄養指導（7）	高齢期の特性に基づく栄養の指導について学ぶ				
9	障がい者の栄養教育	障がい者などの特性に基づく栄養の指導について学ぶ				
10	食物アレルギーと栄養指導	食物アレルギーの概要と食物アレルギーの栄養の指導について学ぶ				
11	生活習慣病と栄養指導 運動・休養・睡眠と栄養指導	メタボリックシンドローム・生活習慣病の予防・治療と栄養の教育（特定保健指導も含む）について学ぶ。運動・休養・睡眠の指針と栄養の指導について学ぶ				
12	食環境づくりにおける栄養指導 国際栄養の理解	食環境づくりにおける栄養教育（食物・情報へのアクセス面での栄養指導）を学ぶ 国際栄養施策、諸外国の取り組み（SDGs、発展途上国、ハーレル、ベジタリアン、など）を学ぶ				
13	まとめ・振り返り	栄養指導のまとめ				
14		授業 11 回目を 2 回分の内容にまとめ、補足として自宅学習で事業の内容をまとめさせた。				
15		授業 12 回目を 2 回分の内容にまとめ、価格実施例を教科書などを自宅で読み、まとめさせた。				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：栄養教育論 光生館 参考図書：日本人の食事摂取基準 2020 年版、「七訂 食品成分表 2020」女子栄養大学出版部						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：指定した教科書の該当箇所を事前に読んでおく。事前に指示された教科書・資料を読んでおく。 事後学習（週 1.5 時間）：毎回授業の始めに前回の授業内容に関する小テストを行うので、授業の内容をまとめておくこと。 遠隔の場合は、スライドを見て、指示された内容をまとめておく。						
課題に対するフィードバックの方法						
授業の振り返りの小テストの解答を解説する。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 60%、授業の積極的な参加と小テスト 40%として、総合的に評価する						
評価	成績評価別の到達度					
S	ライフステージ・ライフスタイル別の特性、栄養上の問題点をよく理解し、対象者に適切な指導方法を十分に習得している。					
A	ライフステージ・ライフスタイル別の特性、栄養上の問題点を理解し、対象者への適切な指導方法を習得している。					
B	ライフステージ・ライフスタイル別の特性、栄養上の問題点や指導方法をよく理解している。					
C	ライフステージ・ライフスタイル別の特性、栄養上の問題点と対象者への指導を理解している。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		栄養指導論実習 [Practice in Nutrition Education]	1			
授業形態		担当教員名			科目コード	
実習・演習・ アクティブ・ラーニング		小河原 佳子		N-S5050		
この授業に関する資格						
栄養士免許						
この授業のキーワード		授業概要				
1	PDCA サイクル	「栄養指導論 1・2」を基に PDCA サイクルに基づいた計画が立てられる。食生活実態や栄養状態等の情報収集し、栄養アセスメントから栄養評価まで行い、正しい食生活について検討する。ライフステージ別の対象者に対する指導計画作成方法、実施方法、教材作成の方法、およびそれらの評価方法などについて学ぶ。				
2	栄養指導計画					
3	栄養アセスメント					
学習の到達目標						
栄養指導を行うために必要なアセスメントの方法と評価を理解し、実践できる。また、栄養アセスメントの結果から分析し、対象者の問題改善、行動変容を促す栄養指導計画を立て、指導し、指導評価が出来る。						
回	テーマ	授業内容				AL
1・2	栄養アセスメント①	栄養アセスメントの実施(食事・生活活動)				○
3・4	栄養アセスメント②	身体状況などのアセスメントと食事・生活活動の評価				○
5・6	栄養アセスメント③	エネルギー・各栄養素の評価と問題の把握				○
7・8	栄養アセスメントによる目標設定	栄養アセスメントより食生活の問題を把握し、改善点を考察し、目標を設定する				○
9・10	指導案作成 (1)	ライフステージ別対象者の特性把握のための情報収集と目標の設定、カリキュラムの立案、献立作成				○
11・12	指導案作成 (2)	栄養指導計画 (6 W 1 H に基づき) の立案 (学習指導案の立案) 、献立作成				○
13・14	教材づくり	学習指導案に基づく教材作成 および献立作成				○
15・16	栄養指導の実施 (1)	グループ毎の栄養指導実施 (ロールプレイング) とその評価をする①				○
17・18	栄養指導の実施 (2)	(1) の評価をもとに計画の見直し				○
19・20	栄養指導の実施 (3)	グループ毎の栄養指導実施 (ロールプレイング) とその評価をする② 改善のまとめ				○
21・22	献立作成 1	栄養指導目標に沿った給食メニューについて自宅学習で考える				
23	献立作成 2	栄養指導目標に沿った設定施設で提供するメニューの栄養計算などを自宅で行う				
試験等	課題レポート					
教科書及び参考図書						
教科書：栄養教育論実習・演習 岡崎光子編集 光生館 栄養教育論 岡崎光子編集 光生館 参考図書：「七訂 食品成分表 2020」女子栄養大学出版部 ・ 日本人の食事摂取基準 2020 年版						
準備学習・事後学習						
準備学習：実習前に指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。実習に必要な情報を収集しておく。 事後学習：実習後のレポートをまとめておく。実習後にグループでの進捗状況を把握しておく。						
課題に対するフィードバックの方法						
レポートは返却時にコメントを記入する。ロールプレイングは実施後にコメントをする。						
成績評価の目安と方法						
レポートの提出状況と内容で 50%、授業の積極的に参加する態度などで 30%、ロールプレイング 20%として、総合的に評価する						
評価	成績評価別の到達度					
S	栄養アセスメントの方法とその評価を十分に理解し、実践的な指導計画を立て、指導が適切に出来る。栄養補給の計画が出来る。					
A	栄養アセスメントの方法とその評価を十分に理解し、実践的な指導計画を立て、指導が適切に出来る。					
B	栄養アセスメントの方法とその評価を理解し、実践的な指導計画を立て、指導が出来る。					
C	栄養アセスメントの方法とその評価を理解し、指導計画を立て、指導が出来る。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目	給食経営実習 [Food Service Management Practical]	1			
授業形態	担当教員名		科目ナンバー		
演習・実習・ アクティブ・ラーニング	菊地 亨	国	N-S4051		
この授業に関係する資格					
栄養士免許					
この授業のキーワード		授業概要			
1 献立作成 2 栄養計算 3 給食管理計画	栄養計画から給食提供までに必要となる業務、書類作成について網羅的に学ぶことで、給食提供に関する一連の流れを理解する。				
学習の到達目標					
1. 献立作成に必要な栄養価計算、廃棄率の計算等について理解し、実際の書類作成に応用できる。 2. 授業で設定した給与計画やテーマに基づき、適切な献立を立案できる。					
回	テーマ	授業内容	AL		
1・2	給食管理計画	給食管理の目的			
3・4	栄養計画	日本人の食事摂取基準、栄養計画の立案方法			
5・6	献立計画 1	献立作成における基礎知識（食品成分表、料理様式、調味、彩り、旬、行事食など）	○		
7・8	献立計画 2	週間献立計画と週間献立表の作成	○		
9・10	献立作成 1	献立作成（PFC 比率から食材重量の目安を算出）	○		
11・12	献立作成 2	献立作成（食品成分表の活用・食材の適切な量を知る）	○		
13・14	献立作成 3	献立作成（調味パーセントの計算・栄養価調整のコツ）	○		
15・16	作業工程表・発注書	作業工程表の作成・発注書の作成	○		
17・18	給食実習室使用のルール	給食施設の衛生管理の実際、給食設備・機器の使用方法を学ぶ			
	少なくなった回数分の内容	自宅学習用の課題を設定し、提出させた。			
試験等	課題提出				
教科書及び参考図書					
参考図書：「七訂 食品成分表 2020」女子栄養大学出版部 「調理・献立作成の基礎」化学同人					
準備学習・事後学習					
準備学習・事後学習：献立作成に利用できるレシピ等資料の収集。「大量調理衛生管理マニュアル」について、復習しておく。					
課題に対するフィードバックの方法					
提出された課題を添削して返却する。					
成績評価の目安と方法					
提出物 100%					
評価	成績評価別の到達度				
S	学習の到達目標について、極めて高いレベルで達成していると判断できる。				
A	学習の到達目標について、十分に達成していると判断できる。				
B	学習の到達目標について、ある程度達成していると判断できる。				
C	学習の到達目標について、最低限の範囲で達成していると判断できる。				

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目	給食管理実習 1 [Food Service Management Practical 1]	1			
授業形態	担当教員名		科目ナンバー		
演習・実習・ アクティブ・ラーニング	菊地 亨	国	N-S4052		
この授業に関係する資格					
栄養士免許					
この授業のキーワード		授業概要			
1 衛生管理 2 給食管理 3 集団給食	給食経営実習で学んだことを踏まえた上で、給食提供に関する一連の作業を繰り返し行い、給食管理業務に対する理解を深める。毎回、実習グループ・演習グループに分かれ、それぞれの作業を実施する。				
学習の到達目標					
1. 授業で設定した給与計画やテーマに基づき、適切な献立、その他給食運営に必要な書類を作成できる。 2. 給食管理の要点を把握した上で、給食業務を実施できる。					
回	テーマ	授業内容			AL
1・2	オリエンテーション	授業概要の説明・グループ分け			
3・4	実習の準備	予定献立の最終チェック、発注書・レシピ・作業指示表・作業工程表の作成			○
5・6	演習・実習 1	献立・各種書類作成 (演習グループ)	給食実習・調理指導 (実習グループ)		○
7・8	演習・実習 2	献立・各種書類作成 (演習グループ)	給食実習・調理指導 (実習グループ)		○
9・10	演習・実習 3	献立・各種書類作成 (演習グループ)	給食実習・調理指導 (実習グループ)		○
11・12	演習・実習 4	献立・各種書類作成 (演習グループ)	給食実習・調理指導 (実習グループ)		○
13・14	演習・実習 5	献立・各種書類作成 (演習グループ)	給食実習・調理指導 (実習グループ)		○
15・16	演習・実習 6	献立・各種書類作成 (演習グループ)	給食実習・調理指導 (実習グループ)		○
17・18	演習・実習 7	献立・各種書類作成 (演習グループ)	給食実習・調理指導 (実習グループ)		○
19・20	演習・実習 8	献立・各種書類作成 (演習グループ)	給食実習・調理指導 (実習グループ)		○
21・22	給食の事務管理	実施献立等の作成			○
23	献立作成ソフト	献立作成ソフトの使用方法			○
試験等	課題提出				
教科書及び参考図書					
参考図書：「七訂 食品成分表 2020」 女子栄養大学出版部 「調理・献立作成の基礎」 化学同人					
準備学習・事後学習					
準備学習・事後学習：献立作成に利用できるレシピ等資料の収集。実習時間外での検品・発注業務、各種書類作成が必要となる場合がある（栄養士担当学生のみ）。					
課題に対するフィードバックの方法					
提出された課題を添削して返却する。					
成績評価の目安と方法					
提出物 70% 平常点 30%					
評価	成績評価別の到達度				
S	学習の到達目標について、極めて高いレベルで達成していると判断できる。				
A	学習の到達目標について、十分に達成していると判断できる。				
B	学習の到達目標について、ある程度達成していると判断できる。				
C	学習の到達目標について、最低限の範囲で達成していると判断できる。				

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		給食管理実習 2 [Food Service Management Practical 2]	1			
授業形態		担当教員名			科目ナンバー	
演習・実習・ アクティブ・ラーニング		菊地 亨	国	N-S5053		
この授業に関係する資格						
栄養士免許						
この授業のキーワード		授業概要				
1	衛生管理	給食経営実習・給食管理実習 1 で学んだことを踏まえた上で、引き続き、給食提供に関する一連の業務を繰り返し行い、実践力の向上を目指す。栄養士業務のみならず、調理従事者への調理・衛生指導についても積極的に行ってもらう。毎回、実習グループ・演習グループに分かれ、それぞれの作業を実施する。				
2	管理運営					
3	集団給食					
学習の到達目標						
1. 授業で設定した給食計画やテーマに基づき、適切な献立、その他給食運営に必要な書類を作成できる。						
2. 調理従事者への指導・衛生管理を適切に行える。						
3. 大量調理のレシピ・作業工程などの指示書の内容を把握し、給食業務を的確に実施できる。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	演習 1	週間献立計画の作成（遠隔）				
2	演習 2	週間献立表の作成（遠隔）				
3	演習 3	週間予定献立の作成（遠隔）				
4	演習 4	週間予定献立の作成（遠隔）				
5	演習 5	週間予定献立の作成（遠隔）				
6・7	実習の準備	予定献立の最終チェック、発注書・レシピ・作業指示表・作業工程表の作成				○
8・9	実習の準備・試作	献立・各種書類作成（演習グループ） 試作（実習グループ）				○
10・11	演習・実習 1	献立・各種書類作成（演習グループ） 給食実習・調理指導（実習グループ）				○
12・13	演習・実習 2	献立・各種書類作成（演習グループ） 給食実習・調理指導（実習グループ）				○
14・15	演習・実習 3	献立・各種書類作成（演習グループ） 給食実習・調理指導（実習グループ）				○
16・17	演習・実習 4	献立・各種書類作成（演習グループ） 給食実習・調理指導（実習グループ）				○
18・19	演習課題	献立・各種書類作成				○
20・21	演習課題	献立・各種書類作成				○
試験等	課題提出					
教科書及び参考図書						
参考図書：「七訂 食品成分表 2020」女子栄養大学出版部 「調理・献立作成の基礎」化学同人						
準備学習・事後学習						
準備学習・事後学習：献立作成に利用できるレシピ等資料の収集。実習時間外での検品・発注業務、各種書類作成が必要となる場合がある（栄養士担当学生のみ）。						
課題に対するフィードバックの方法						
提出された課題を添削して返却する。						
成績評価の目安と方法						
提出物 70% 平常点 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	学習の到達目標について、極めて高いレベルで達成していると判断できる。					
A	学習の到達目標について、十分に達成していると判断できる。					
B	学習の到達目標について、ある程度達成していると判断できる。					
C	学習の到達目標について、最低限の範囲で達成していると判断できる。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目	給食管理実習 3 [Food Service Management Practical 3]	1			
授業形態	担当教員名	科目ナンバー			
校外実習・ アクティブ・ラーニング	菊地 亨	国	N-S5054		
この授業に関する資格					
栄養士免許					
この授業のキーワード		授業概要			
1 2 3	校外実習 栄養士 実践	指定した特定給食施設において、所属の栄養士から指導を受ける実習である（5 日間、45 時間）。 学内では事前指導、事後指導および報告会を行う。			
学習の到達目標					
1. 栄養士という職業について理解を深める（具体的に説明できるようになる）。 2. 社会と関わる上での責任感・行動力の重要性を知る。					
回	テーマ	授業内容	AL		
1～2 3 4 5 6～22	校外実習報告会 校外実習セミナー 校外実習事前ガイダンス 校外実習事前ガイダンス 校外実習 (各実習施設)	校外実習報告会への参加（1 年次） 現場で働く栄養士による特別講義(施設の概要、栄養士業務、心構え等) 校外実習事前準備(書類作成) 校外実習事前準備・心構え(ノート作成等) (学習内容) ・給食の概要を知る ・業務の内容を知る ・現場作業・施設設備及び衛生管理の実際を知る ・栄養士の業務の概要を知る ・給食の運営・喫食者の意見を知る ・グループで課題を設定する ・実習日誌の記録 ・感想及び反省 ・レポートの作成	○		
23	校外実習報告会	校外実習終了後、グループごとに報告			
試験等	なし				
教科書及び参考図書					
参考図書：校外実習ノート					
準備学習・事後学習					
準備学習：各実習施設について事前に学習し、実習課題を決定しておく。校外実習前に実施するセミナーやガイダンス等で学んだ内容を再度確認する。学外実習という認識を持ち、十分な体調管理を心掛けておく。 事後学習：実習を振り返り、今後栄養士として、どのような事が必要かまとめる。					
課題に対するフィードバックの方法					
提出された校外実習ノートを添削して返却する。					
成績評価の目安と方法					
平常点 100%（校外実習先担当者による評価 50% ・ 本学担当教員による評価 50%） 理由のない事前ガイダンス等の欠席は減点					
評価	成績評価別の到達度				
S	学習の到達目標について、極めて高いレベルで達成していると判断できる。				
A	学習の到達目標について、十分に達成していると判断できる。				
B	学習の到達目標について、ある程度達成していると判断できる。				
C	学習の到達目標について、最低限の範囲で達成していると判断できる。				

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		調理学実習 1 [Food Preparation 1]	1			
授業形態		担当教員名		科目コード		
実習・ アクティブ・ラーニング		小坂 由美子		N-S4055		
この授業に関する資格						
栄養士免許、フードスペシャリスト						
この授業のキーワード		授業概要				
1	基本調理	日常の日本料理の献立を中心に前半は非加熱調理操作（切り方など）、加熱調理操作（ゆで方、煮方、焼き方など）を組み合わせる実習、後半は供応食としての日本料理を学習し、同時に作業効率を高めるための作業動線を理解させる。				
2	湿式・乾式加熱法					
3	調味料の基本濃度					
学習の到達目標						
調理の基本操作、調理器具の使いこなし、最終的に料理として完成させる技術を習得及び調理作業を時間通りに熟し基本的な日本料理が作れるような応用力を身に付けることを目標にする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1・2	調理学実習 1 予定表	調理学実習の予定表及び日本料理編についての説明（遠隔）				
3・4	調理学実習 1	調理学実習の目的・調理と衛生、身支度について説明（遠隔）				
5・6	調理学実習 1	階段教室、調理学実習、調理室の説明及び扱い方についての説明（遠隔 3）				
7・8	調理学実習 1	調理学実習総論（遠隔）				
9・10	非加熱調理操作(1)	非加熱調理操作： 計量及び調理操作の扱い方（遠隔 2）				
11・12	非加熱調理操作(2)	包丁の種類と用途、扱い方の実際、アレルギーアンケート				○
13・14	包丁の理論 (3)	包丁の種類と用途（キュウリ、オレンジ）課題調理（遠隔）				
15・16	だしの取り方(4)	前処理としてのだしの抜き方について学習する（昆布、かつおぶし）課題調理（遠隔）				
17・18	だしの取り方(5)	だしの取り方の理論と実習（対面及び遠隔）				○
19・20	炊き方 (6)	炊き方の理論と実習（対面及び遠隔）				○
21～22	美味しさの濃度	美味しさの基本濃度（調味パーセント）（遠隔）				
	少なくなった回数分の内容	Classroom において毎回動画を配信し、自宅で予習・復習ができるようにした。動画の内容を翌週の実習内容としたため、理解を深めた。また、毎回課題を提出させ、採点后コメントを付けて返却を行った。				
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
教科書：応用自在な調理の基礎（日本料理篇）川端・永島他共著 家政教育社 新しい調理学 川端・永島他共著 学建書院 調理のためのベーシックデータ第 5 版 女子栄養大学出版部						
準備学習・事後学習						
準備学習：事前に配布する単元の授業内容を確認する。 事後学習：授業後、レポートにまとめる作業を通じて内容を理解・確認する。						
課題に対するフィードバックの方法						
課題としてのレポートを添削後返却。その後ポートフォリオとして再提出。						
成績評価の目安と方法						
単元ごとにレポートの提出、課題レポートを提出 評価：課題レポート 30% 日常の実習態度（身支度、実習準備・片づけなど） 30% 単元のレポート 30% ポートフォリオ 10%						
評価	湿式加熱法：炊き方の種類、調理器具の選び方、調味料の種類と使い方などを学習する					
S	基本調理の理論・実習内容を理解し、レポート及びポートフォリオの内容（まとめ方）がきわめてすぐれている。					
A	基本調理の理論・実習内容を理解し、レポート及びポートフォリオにすべての内容をまとめることができる。					
B	基本調理の理論・実習内容を理解し、レポート及びポートフォリオに大部分をまとめることができる。					
C	基本調理の理論・実習内容を理解し、レポート及びポートフォリオにほぼまとめることができる。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		調理学実習 2 [Food Preparation 2]	1			
授業形態		担当教員名		科目コード		
実習・ アクティブ・ラーニング		小坂 由美子		N-S4056		
この授業に関する資格						
栄養士免許、フードスペシャリスト						
この授業のキーワード		授業概要				
1	基礎調理	前半、日本料理（供応食）についての理論と実習を行う。後半は世界三大様式別料理のうち、中国料理について正餐の献立構成に従っての理論と実習、また、学外において日本料理の理論を駆使した食卓作法を体験学習する。				
2	中国四大料理					
3	西洋料理					
学習の到達目標						
前半は供応食としての供応食としての日本料理を学習し、合わせて作業効率を高めるための作業動線を理解させる。後半は中国料理の理論（献立論含む）と正しい調理技術の習得および食材の理解を目指し、応用献立に発展するように進める。						
回	テーマ	授業内容				AL
1・2	調理学実習 1	炊き方の理論（調味料、具材） 課題調理及び提出（遠隔）				
3・4	調理学実習 1	可食部と廃棄率 課題調理及び提出				
5・6	調理学実習 1	揚げ方・寄せ方の理論と実習				○
7・8	調理学実習 2 中国料理①	中国料理総論と湯菜の理論 東方系の料理の特徴（遠隔）				
9・10	中国料理①	中国料理総論と湯菜の実習 東方系の料理の特徴				○
11・12	中国料理②	炒菜・煎菜の理論 南方系の料理の特徴（遠隔）				
13・14	中国料理②	炒菜・煎菜の実習 南方系の料理の特徴				○
15・16	中国料理③	搾菜・蒸菜の理論 西方系、北方系の料理の特徴（遠隔）				
17・18	中国料理③	搾菜・蒸菜の実習 西方系、北方系の料理の特徴				○
19・20	西洋料理総論西洋料理①	西洋料理総論 フォンとソースの理論（遠隔）				
21～22	西洋料理総論西洋料理①	西洋料理総論 フォンとソースの実習				○
	少なくなった回数分の内容	Classroom において毎回動画を配信し、自宅で予習・復習ができるようにした。動画の内容を翌週の実習内容とし、レポート課題としたため理解を深めた。また、課題を提出させ、採点后コメントを付けて返却を行った。				
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
教科書：応用自在な調理の基礎（日本料理篇・中国料理篇）川端・永島他共著 家政教育社 新しい調理学 川端・永島他共著 学建書院 調理のためのベーシックデータ第 5 版 女子栄養大学出版部						
準備学習・事後学習						
準備学習：事前に配布する単元の授業内容を確認する。 事後学習：授業後、レポートにまとめる作業を通じて内容を理解・確認する。 技術的な部分は自己研鑽をつみ、グループにおいての連携を築くことが望まれる。						
課題に対するフィードバックの方法						
課題としてのレポートを添削後返却。その後ポートフォリオとして再提出。						
成績評価の目安と方法						
単元ごとにレポートの提出、科目ごとにポートフォリオを提出 評価：課題レポート 30% 日常の実習態度（身支度、実習準備・片づけなど） 30% 単元のレポート 30% ポートフォリオ 10%						
評価	成績評価別の到達度					
S	学習の到達目標について、実習内容を理解し、ポートフォリオの内容（まとめ方）がきわめてすぐれている。					
A	学習の到達目標について、実習内容を理解し、ポートフォリオにすべての内容をまとめることができる。					
B	学習の到達目標について、実習内容を理解し、ポートフォリオに大部分をまとめることができる。					
C	学習の到達目標について、実習内容を理解し、ポートフォリオにほぼまとめることができる。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		調理学実習 3 [Food Preparation 3]	1			
授業形態		担当教員名		科目コード		
実習・ アクティブ・ラーニング		小坂 由美子		N-S5057		
この授業に関係する資格						
栄養士免許、フードスペシャリスト						
この授業のキーワード		授業概要				
1	西洋料理	西洋料理の献立構成（オードブル、ポタージュなど）に従って実習を行う。また、今まで実習した内容及び行事食（クリスマス料理）をビュッフェスタイルへと展開する。調理学実験として、食品の調理上での特性の把握や食品の鑑別法（食品物性・官能評価）を学習する。				
2	行事食					
3	官能評価					
学習の到達目標						
前半は西洋料理の理論と実習。後半は実習 1、2 で学習した食品の調理上での変化や新しい食品開発を踏まえた上での調理科学的な事象の探求、動植物性食品の鑑別を行いながら知識を深めることを目標とする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1・2	調理学実習 3 西洋料理②	フォンとソースの理論（遠隔）				
3・4	西洋料理②	フォンとソースの実習				○
5・6	西洋料理③	ブイヨンとスープ・魚介類の理論（遠隔）				
7・8	西洋料理③	ブイヨンとスープ・魚介類の実習				○
9・10	西洋料理④	獣鳥肉料理・野菜料理の理論（クリスマス料理）（遠隔）				
11・12	西洋料理④	獣鳥肉料理・野菜料理の実習（クリスマス料理）				○
13・14	調理学実験	調理学実験（調理科学の研究手法）（遠隔）				
15・16	調理学実験	調理学実験（官能評価）（遠隔）				
17・18	調理学実験①	調理学実験（物性と色・官能評価）				○
19・20	調理学実験	調理学実験（官能評価の解析）（遠隔）				
	少なくなった回数分の内容	Classroom において毎回動画を配信し、自宅で予習・復習ができるようにした。動画の内容を翌週の実習内容とし、レポート課題としたため理解を深めた。また、調理学実験は実験・解析の解説を動画で丁寧に各自復習できるようにした。				
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
教科書：応用自在な調理の基礎（西洋料理篇）川端・永島他共著 家政教育社 身近な調理の科学実験 長野・永島他著 地人書館 新しい調理学 川端・永島他共著 学建書院 調理のためのベーシックデータ第 5 版 女子栄養大学出版部						
準備学習・事後学習						
準備学習：事前に配布する単元の授業内容を確認する。動画で内容及びレポート課題について確認する。 事後学習：授業後、レポートにまとめる作業を通じて内容を理解・確認する。						
課題に対するフィードバックの方法						
課題としてのレポートを添削後返却。						
成績評価の目安と方法						
単元ごとにレポートの提出、科目ごとにポートフォリオを提出 評価：レポート 60% 日常の実習態度（身支度、実習準備・片づけなど）40%						
評価	成績評価別の到達度					
S	学習の到達目標について、実習内容を理解し、ポートフォリオの内容（まとめ方）がきわめてすぐれている。					
A	学習の到達目標について、実習内容を理解し、ポートフォリオにすべての内容をまとめることができる。					
B	学習の到達目標について、実習内容を理解し、ポートフォリオに大部分をまとめることができる。					
C	学習の到達目標について、実習内容を理解し、ポートフォリオにほぼまとめることができる。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目	分野別栄養実践実習 [Practice of Nutritional Field]	1			
授業形態	担当教員名	科目コード			
実習・ アクティブ・ラーニング	健康栄養専攻 教員		N-S5058		
この授業に関係する資格					
この授業のキーワード		授業概要			
1 2 3	栄養士業務 就職 スキルアップ	これまでに学習した栄養士業務に関して、実習面での学び直しにより、実践力を養う。 就職先毎の実習を行い、様々な栄養士業務に対応する能力を高める。			
学習の到達目標					
栄養士としての専門性に関する意識を高め、就職に備えた技術を身につける。					
回	テーマ	授業内容	AL		
1 ～ 15	1.ガイダンス 2-14. 分野別の内容実施 15.まとめ、ふりかえり	ガイダンス・受講状の注意、スケジュール 分野別に、各回の課題を実施・解決する。 ・調理技術 ・献立作成 ・アレルギー対応 ・基礎実験	○		
試験等	なし				
教科書及び参考図書					
教科書：なし（適宜プリント配布） 参考図書：献立作成マニュアル、七訂 食品成分表 2020、日本人の食事摂取基準 2020 年版 他					
準備学習・事後学習					
準備学習：次回行う実習について、目的や作業について理解しておく。 事後学習：出来なかったことや、理解できなかったことについて会得する。					
課題に対するフィードバックの方法					
添削した課題を返却する。					
成績評価の目安と方法					
平常点 80% 提出物 20%					
評価	成績評価別の到達度				
S	積極的に実習へ参加し、十分に理解や技術を深め、実践的な能力を身に付けている。				
A	積極的に実習へ参加し、理解や技術を深め、実践的な能力を身に付けている。				
B	実習へ参加し、理解や技術を深め、実践的な能力をやや身に付けている。				
C	実習へ参加し、理解や技術を深め、一定の能力を身に付けている。				

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位			
専門教育科目		フードスペシャリスト論 [Theory of Food Specialist]	2	N	S	M
授業形態		担当教員名		科目コード		
講義		茗荷 尚史		N-S2059		
この授業に関する資格						
フードスペシャリスト						
この授業のキーワード		授業概要				
1	食の専門職	食品(食べ物) に関する資格制度、フードスペシャリストとしての役割、人類と食物の歩み、世界の食と日本の食、現代日本の食生活、環境と食の問題、食品産業の種類と役割、様々な食に関する法律と食の品質の見方、および食情報のとらえ方や消費者の保護の制度などを述べる。				
2	世界と日本の食					
3	食品産業と品質規格					
学習の到達目標						
専門職であるフードスペシャリストとしての責務と活躍の場を認識させることを目標とする。現代の日本と世界を取り巻く食環境の中で、安全で豊かな食生活・食文化を推進する役目を担う立場や生産者（加工を含む）と消費者の間を取り持つ役割の魅力について学んでいく。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	フードスペシャリストとは①	1.職区分 2.フードスペシャリストの職域と責務(遠隔)				
2	フードスペシャリストとは②	1.フードスペシャリスト資格認定制度(遠隔)				
3	食情報と消費者保護①	1.食品の安全 2.消費保護の制度(遠隔)				
4	現代日本の食生活①	1.食生活の現状と消費生活 2.食料の供給と食料自給率(遠隔)				
5	フードスペシャリストとは③	1.食とは何か 2.専門職の成立 3.食の専門職の現状				
6	フードスペシャリストとは④	1.フードスペシャリストの概念・業務とその専門性、養成と資格、活躍の分野 2.食育活動				
7	人類と食物	1.人類の歩みと食物の関係 2.食品の加工・保存技術の歴史				
8	世界の食	1.食作法の文化 2.手食、箸食、ナイフ・フォーク・スプーン食 3.食の禁忌、世界の食事情				
9	日本の食	1.日本食物の歴史 2.食の地域差、郷土食				
10	現代日本の食生活②	1.戦後の食生活の変化 2.食生活の変化と食産業 3.環境と食、フードマイレージなど				
11	食品産業の役割	1.フードシステムと食品産業 2.食品製造業の目的と特徴・規模と動向 3.食品卸売業、食品小売業の種類と役割 4.外食産業の特徴・動向				
12	食品品質規格と表示	1.食品の品質規格と表示にかかわる法律 2.JAS 法による規格と表示 3.食品衛生法による表示 4.健康増進法による表示 5.景品表示法 6.計量法、コーデックス規格 7.食品の品質規格の現状と問題点 8.消費者庁の業務				
13	食情報と消費者保護②	1.食情報の発信と受容(インターネット情報など) 2.食情報の濫用 3.食品の情報管理(トレーサビリティなど)				
	少なくなった回数分の内容	11,12,13 回分の内容は概要しか説明できていないので、classroom に詳細な補足資料をアップし、練習問題の提出、採点、解説を行った。				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：フードスペシャリスト論（四訂・第4版）日本フードスペシャリスト協会編 建帛社						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：事前に提示するテキストの内容を熟読し、質問項目を考えてくる。 事後学習（週 1.5 時間）：授業後に内容をきちんとノートに整理する。特に食のキーワード、年号毎の出来事や法律の内容を理解する。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、小テストを回収後、解答の解説を行う。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 70% 平常点（小テスト、発言、態度を含む） 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	フードスペシャリスト論の内容をきわめて高いレベルで理解している。					
A	フードスペシャリスト論の内容をかなり高いレベルで理解している。					
B	フードスペシャリスト論の内容をほぼ理解している。					
C	フードスペシャリスト論の内容を最低限理解している。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]		単位	
専門教育科目		食料経済 [Food Economics]		2	N S M
授業形態		担当教員名			科目コード
講義・ アクティブ・ラーニング		小川 真如			N-S3060
この授業に関係する資格					
フーズスペシャリスト					
この授業のキーワード		授業概要			
1 2 3	食市場 食品流通 食生活	教科書よりも若干幅を広げ、日本の食料生産やマスコミなどで取り上げられているトピックスも紹介しながら講義をする。			
学習の到達目標					
食市場、食品流通、食生活に関連する基本的な知識の修得を目標とする。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	食市場の変化 1	高度経済成長期以降の食市場の変化について、社会背景を踏まえて解説する			○
2	食市場の変化 2	食市場に関連した食品消費および食生活の変化について解説する			○
3	食品流通の概要 1	食品の小売流通（店舗販売）の概要について解説する			○
4	食品流通の概要 2	食品の小売流通（店舗販売）の概要について解説する			○
5	食品流通の概要 2	食品の小売流通（無店舗販売）の概要について解説する			○
6	食品流通の概要 4	生鮮食品の卸売流通の概要について解説する			○
7	食品流通の概要 5	加工食品の卸売流通の概要について解説する			○
8	外食産業のマーチャンダイジング	外食産業のマーチャンダイジングについて解説する			○
9	中食産業のマーチャンダイジング	中食産業のマーチャンダイジングについて解説する			○
10	主要食品の流通 1	主要な生鮮食品等の流通について解説する			○
11	主要食品の流通 2	主要な加工食品の流通について解説する			○
12	フードマーケティング	フードマーケティングの基礎的な考え方について解説する			○
13	食料消費の課題 1	食に関連した環境問題について解説する			○
14	食品消費の課題 2	食に関連した安全確保等の問題について解説する			○
15	まとめ	関連統計・資料の解説および授業の総括を実施する			○
試験等	レポート課題				
教科書及び参考図書					
教科書：日本フーズスペシャリスト協会編 改訂版『三訂 食品の消費と流通』建帛社					
準備学習・事後学習					
準備学習（週 1.5 時間）： 食品消費や食品流通に関する話題や情報を、新聞やネットニュース、テレビなどを通じて意識して収集する。 事後学習（週 1.5 時間）： 各回で行うディスカッションや確認問題の内容について、わからなかった内容を調べておく。					
課題に対するフィードバックの方法					
フィードバックとして、各回講義にて確認問題を実施して解答を解説するほか、ディスカッションにて補足・解説を行う。					
成績評価の目安と方法					
レポート課題 70% ディスカッションへの参加状況 30% として、総合的に評価する					
評価	成績評価別の到達度				
S	食市場、食品流通、食生活に関連する基本的な知識を十分に理解している。				
A	食市場、食品流通、食生活に関連する基本的な知識をよく理解している。				
B	食市場、食品流通、食生活に関連する基本的な知識を理解している。				
C	食市場、食品流通、食生活に関連する基本的な知識をある程度は理解している。				

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		フードコーディネート論 [Theory of Food Coordinate]	2			
授業形態		担当教員名		科目コード		
講義（演習を含む）・ アクティブ・ラーニング		小河原 佳子		N-S3061		
この授業に関する資格						
フーズスペシャリスト						
この授業のキーワード		授業概要				
1	アメニティ・ホスピタリティ	フードコーディネートの基礎理論、現代の食事文化と課題、メニュープランニング、テーブルウェアと食卓の演出、フー ードサービスマネジメントなどを講述などした後、フーズスペシャリストとしてのフードサービスマネジメントまたはテーブルセ ッティングなどの実習・演習を行う。				
2	フードマネージメント					
3	テーブルコーディネート					
学習の到達目標						
食事を提供する時、単においしいものを出すだけでなく、食空間（環境）が充実し、サービスも最良で、人と人が心豊かに食事ができきる要素も重要である。フードコーディネートのターゲットは食のアメニティの創造とホスピタリティを持つことであり、講義のほかに演習を組み合わせるこれが実践できることを目標とする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	フードコーディネートの基本理念	フードコーディネートの基本理念としておいしさの本質、おもてなしとアメニティ、ホスピタリティの概念を学ぶ				
2	食事の文化	世界（日本・諸外国）の食事文化の実際、現代日本の食事文化の創造と変容など				
3	食卓のコーディネート①	食器・食具、食卓とテーブルウェア、テーブルセッティングの基礎理念（一部演習も取り入れる）について学ぶ（日本料理と中国料理）				○
4	食卓のコーディネート②	食器・食具、食卓とテーブルウェア、テーブルセッティングの基礎理念（一部演習も取り入れる）について学ぶ（西洋料理）				○
5	食卓のサービスとマナー①	食卓のホスピタリティ、サービスとマナーの実際、食事マナーの伝承と現代的課題などを学ぶ（日本中国料理）				
6	食卓のサービスとマナー②	食卓のホスピタリティ、サービスとマナーの実際、食事マナーの伝承と現代的課題などを学ぶ（西洋料理）				
7	メニュープランニング	メニュープランニングの基本を学ぶ（要件、配慮など）料理様式別の創造と変容など				
8	食空間のコーディネート	食事空間およびキッチンのコーディネートや環境について学ぶ				
9	フードサービスマネジメント	ードマネージメントの概念と事業の構想（計画立案、遂行、展開）を学ぶ				
10	食企画の実践コーディネート	現場における食企画の基本的な流れと、企画を実践するための必要不可欠な基礎スキルについて学ぶ				
11	まとめ①	過去問を解説しながら章ごとの内容とキーワードを整理する				
12	まとめ②	過去問を解説しながら章ごとの内容とキーワードを整理する				
13	フードコーディネートの企画① （演習・実習）	フードサービスマネジメント・テーブルセッティングの依頼について課題を設定し、その企画立案までの内容について演習・実習を行う（企画書作成など）				○
14	フードコーディネートの企画② （演習・実習）	フードサービスマネジメント・テーブルセッティングの依頼について課題を設定し、その企画立案までの内容について演習・実習を行う（企画書作成など）				○
15	フードコーディネートの企画③ （演習・実習）	フードサービスマネジメント・テーブルセッティングの依頼について課題を設定し、その企画立案の発表・実施				○
試験等	筆記試験・演習・実習のレポート					
教科書及び参考図書						
参考図書：三訂フードコーディネート論 日本フーズスペシャリスト協会編 建帛社 その他・プリントなど						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：指定した教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。演習・実習の資料収集						
事後学習（週 1.5 時間）：キーワードなどをまとめておくこと。資格試験過去問題集の該当箇所を解いておくこと。演習・実習のまとめ						
課題に対するフィードバックの方法						
オフィスアワーで適宜対応する。授業の始めに前回の授業内容の確認プリントを解説する。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 70%、演習・実習の取り組みおよびレポートなど 30%として、総括的に評価する						
評価	成績評価別の到達度					
S	フードコーディネートの理論を大変良く理解し、フードコーディネートの企画・実践力を十分に身に付けている。					
A	フードコーディネートの理論を良く理解し、フードコーディネートの企画・実践力を身に付けている。					
B	フードコーディネートの理論を理解し、フードコーディネートの企画力を身に付け、実践について理解している。					
C	フードコーディネートの理論を理解し、フードコーディネート企画・実践力について理解している					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		卒業研究 [Graduation Study]	4			
授業形態		担当教員名			科目コード	
実験・演習・ アクティブ・ラーニング		名荷 尚史		N-S6062		
この授業に関する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1 2 3	食商品開発 食品機能 遺伝子解析	例年 2～4 名程度の研究チームを編成して、チームごとに一つのテーマについて通年で研究活動を行っている。毎週一チーム 10 分程度のディスカッションの時間と 80 分程度の研究活動の時間を設けている。ディスカッションの時間では、主に前の週に行なった実験の反省・まとめおよび次週の予定決めを行っている。研究活動の時間では実際に手を動かして研究を行っている。過去の年度では、重点テーマとして遺伝子組換え食品の解析、コーヒー由来の美白成分の研究、イチゴ萎黄病に対する微生物農薬の開発および易剥性果実品種「ボロタン」の機能性、各種健康食材を利用した食品加工学的研究等について調査・研究を実施した。数年間稼働していないテーマも含めると現在 18 種と多彩なテーマを提示可能である。学術的価値のあるテーマについては学生発案の新規テーマも取り上げる。なお年に少なくとも数回ほどは、研究室全体で動く活動(サンプリング、学生企画の学外実習等)も企画している。 なお若者の自由な発想を大切にする研究室なので、研究の方向性のみならず研究室の企画・運営に関しても積極的な提案を歓迎する。研究というものの性格上、規定時間通りには進行しないことがあるが、例年卒業の頃までには研究室が我が家のような感覚になってくれるようである。研究室の仲間が一生の友になる例もまま見受けられる。本研究室は 10 年連続で学生による学会発表を成し遂げた実績のある研究室である。				
学習の到達目標						
研究活動の中で様々な障壁に遭遇するが、その原因と結果の関係を科学的かつ論理的に洞察し、解決の糸口を見出していく力を養うことを最大の到達目標としたい。常に最新の情報を得る術についても学び、それに基づいた栄養指導が行える真に実力のある栄養士になるための素養を身につけてもらいたい。						
回	テーマ	授業内容				AL
1・2	導入教育	先行研究の解説、研究テーマの説明				
3・4	研究テーマの決定	希望調査、提案受入れ、研究チーム編成				○
5・6	研究活動の開始	研究テーマについての理解熟知				○
7・8	研究活動	当面必要な技術についての説明				○
9・10	研究活動	技術的習熟				○
11・12	研究活動	習熟技術による実験				○
13・14	研究活動	新たに必要となる先行研究の洗い出し、研究環境整備				○
15・16	情報収集・整理法	文献検索の実習(図書館 & ネット)、学術論文の構成および整理法の講義				○
17・18	研究活動	次に必要となった技術の解説				○
19・20	研究活動	技術的習熟				○
21・22	研究活動	習熟技術による実験				○
23・24	研究活動	改良点の発見、再実験				○
25・26	まとめ	データ整理				○
27・28	まとめ	卒業研究発表の準備				○
29・30	発表	卒業研究発表				○
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
教科書：文献検索の際に収集した学術論文、図書（研究班ごとに異なる） 参考図書：グリネルの科学研究の進め方・あり方 Frederik Grinnell 著 Haklak Rockbill 訳 共立出版						
準備学習・事後学習						
準備および事後学習（週 3 時間）：本科目は常に毎回出たデータについて解析し、次の方針を決定し、さらなる施策を講じる科目で、計画書のようなものには書き表すことのできない流動性のある科目である。だからこそその過程の中に学ぶことが多い科目でもある。よって、テーマ毎に手順や進行度合は異なる場合もある。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックは、毎回のディスカッションを通じて行う。						
成績評価の目安と方法						
ディスカッションおよび研究活動に対する姿勢・貢献度 80% 研究発表の成果 20%						
評価	成績評価別の到達度					
S	研究活動にきわめて積極的に活動し、高いレベルで成果を上げている。					
A	研究活動にかなり積極的に活動し、高いレベルで成果を上げている。					
B	研究活動にほぼ積極的に活動し、標準的なレベルで成果を上げている。					
C	研究活動に最低限活動し、やや弱いながらも成果を上げている。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	卒業研究 [Graduation Study]		4			
授業形態	担当教員名			科目コード		
実験・演習・ アクティブ・ラーニング	岡崎 英規			N-S6062		
この授業に関する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1	食品衛生	身近な食品を用いて、社会的に注目されている食品衛生上の問題点を扱う。 これまでは、寄生虫汚染調査、着色料の使用実態調査、食肉の大腸菌やサルモネラ汚染調査、冷凍食品の生菌数、賞味期限を過ぎた牛乳の生菌数推移などについて調査・研究を行った。				
2	細菌検査					
3	実態調査					
学習の到達目標						
卒業論文を完成させる。研究を通して人と人の調和や協調性・積極性を養う。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	オリエンテーション	顔合わせ、過去の研究内容紹介、研究内容決定に向けて情報収集				○
2	研究活動準備	研究内容に関する情報収集				○
3	研究活動準備	個人で調べたいことや興味のある内容を発表し、実現可能か検討				○
4	研究活動準備	研究テーマの決定、テーマごとにグループ分け				○
5~14	研究活動	グループごとに活動（研究計画、資料調査、実験準備、実験など）				○
15	中間報告	進捗状況をグループごとに発表（研究室中間発表会）、発表内容を学園祭で発表できるようにする				○
16	研究活動	進捗状況から、今後の活動計画を検討（追加実験・調査の実施、論文作成など）				○
17~19	研究活動	グループごとに活動（追加実験・調査の実施、論文作成など）				○
20・21	論文作成	全グループによる卒業論文作成				○
22	論文完成	卒業論文の印刷・製本				○
23~25	発表準備	卒業研究発表準備（パワーポイントによる発表媒体作成）				○
26	発表準備	卒業研究発表会 発表練習				○
27	発表準備	発表内容見直し、修正、練習				○
28	発表準備	卒業研究発表会 発表最終練習				○
29・30	卒研発表	卒業研究発表会				○
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
参考図書：食品衛生検査指針 2015、月刊食品衛生研究；日本食品衛生協会、食品衛生学雑誌；日本食品衛生学会 など						
準備学習・事後学習						
準備学習・事後学習（週 3.0 時間）：予習・復習は、調査・実験するために必要な知識の向上、結果などから疑問に思った事への考察を行う。 授業時間以外に活動することもある。特に細菌検査は連日となることもある。						
課題に対するフィードバックの方法						
作成した卒業論文を配布する。						
成績評価の目安と方法						
研究テーマに関する論文作成 50% 研究発表会 50%						
評価	成績評価別の到達度					
S	研究活動にきわめて積極的に活動し、高いレベルで成果を上げている。					
A	研究活動に積極的に活動し、高いレベルで成果を上げている。					
B	研究活動に積極的に活動し、標準的なレベルで成果を上げている。					
C	研究活動に最低限活動し、やや弱い成果を上げている。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	卒業研究 [Graduation Study]		4			
授業形態	担当教員名			科目コード		
実験・実習・演習・アクティブ・ラーニング	小河原 佳子			N-S6062		
この授業に関係する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1 2 3	栄養の指導 食生活 媒体作成	ライフステージ別対象者の食生活の栄養指導案・媒体作成などを行う。				
学習の到達目標						
健康の維持・増進を目的としたライフスタイルの追求。特に食文化、食生活をはじめとする栄養の実態を知り、問題把握や対策・指導方法について検討し、指導媒体の作成を行う。						
回	テーマ	授業内容				AL
1 ～ 30	情報収集 (1～5) 対象者のアセスメント (6～8) 計画 (9～14) 媒体作成 (15～28) まとめ(29～30)	テーマを考えるための情報収集 テーマを考える。(対象者の決定) 対象者のアセスメント・対象者の情報を収集する。(自宅学習を含む) 実態調査の計画・指導媒体作成計画(自宅学習を含む) 指導媒体の作成 1年間のまとめ・総括				○
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
参考図書：日本人の食事摂取基準 2020 年 食品成分表、各教科の教科書 など						
準備学習・事後学習						
準備学習 (週 1.5 時間)：必要な情報を収集し、資料に目を通しておくこと						
事後学習 (週 1.5 時間)：次回まで進めておくことを決め、準備しておくこと						
課題に対するフィードバックの方法						
オフィスアワーで各自に対応する。						
成績評価の目安と方法						
授業に対する積極的な態度 (40%) と研究テーマに対するレポート (40%) と卒業研究発表会などの結果 (20%) から総合的に判断する						
評価	成績評価別の到達度					
S	調査の企画・運営・調査結果の分析能力と、調査を反映させた栄養指導計画立案及び実践力が身についた。					
A	調査の企画・運営・調査結果の分析ができ、調査を反映させた栄養指導計画立案及び実践力が身についた。					
B	調査の企画・運営・調査結果の分析方法を理解し、栄養指導計画立案及び実践力が身についた。					
C	調査の企画・運営・調査結果の分析方法や栄養指導計画立案についての必要な知識が理解できた。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		卒業研究 [Graduation Study]	4			
授業形態		担当教員名		科目ナンバー		
実習・ アクティブ・ラーニング		長島 洋介		N-S6062		
この授業に関係する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1	アスリート	健康づくりやアスリート支援をテーマに、効果的な食事内容や食品について研究を行っていく。 また、実際にスポーツ選手に対して身体活動量を評価し、応用的な食事・食品の摂取についてのサポートを行う。				
2	健康					
3	評価					
学習の到達目標						
健康づくりから競技力向上まで幅広くスポーツ栄養に関する基礎知識・応用力を身につけること。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	ガイダンス	ガイダンス				
2	導入教育	スポーツ栄養学に関する研究の概要				
3	情報収集	スポーツ栄養学に関する研究のキーワードと文献検索の方法				
4	研究テーマの設定	研究課題の設定と方法の検討				
5	研究活動の開始	スポーツ栄養学研究の被験者の選定				
6	研究活動	調査研究の方法				
7～9	研究活動	スポーツ栄養学 調査・研究の準備				○
	研究活動	スポーツ栄養学 調査・研究の実践 (時間外)				○
10～13	研究活動	データ処理方法の学習、データ処理				○
14～16	研究活動	統計解析方法の学習、統計処理				○
17～21	研究活動	レポート作成、文献収集				
22	まとめ	発表資料作成				
23	まとめ	発表練習、ディスカッション				○
24・25	発表	卒業研究発表会、まとめ				○
試験等	なし					
※当初の予定より、5 回分少なくなっている。少なくなった授業回数に対応として、時間外での課題を課した。						
教科書及び参考図書						
参考図書：「スポーツ栄養の科学的基礎」杏林書院、「アスリートのための栄養・食事ガイド」第一出版						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）： 参考図書を読んでおくこと。 事後学習（週 1.5 時間）： 授業中の内容を復習しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
オフィスアワーで適宜対応する。						
成績評価の目安と方法						
平常点 100%として評価する						
評価	成績評価別の到達度					
S	研究活動に積極的に参加して、スポーツ栄養に関する知識やスキルを、十分に身に付けている。					
A	研究活動に積極的に参加して、スポーツ栄養に関する知識やスキルを、よく身に付けている。					
B	研究活動に参加して、スポーツ栄養に関する知識やスキルを、身に付けている。					
C	研究活動に参加して、スポーツ栄養に関する知識を、身に付けている。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位			
専門教育科目		卒業研究 [Graduation Study]	4	N	S	M
授業形態		担当教員名			科目コード	
実習・演習・ アクティブ・ラーニング		小坂 由美子		N-S6062		
この授業に関する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1	食教育	食事では補えないエネルギーや栄養を補食として補うための食育の実践、調理方法、食選択等を通じ、食育計画を検討する。また、地域と密接な活動を通して料理を提供することにより調理法及び料理の工夫を学習する。				
2	行事食					
3	地域参加実習					
学習の到達目標						
卒業研究の完成。調査・研究を通して栄養士としての見聞を広め、今後の食育に生かすことを目標とする。また、広く地域や人と関わる中で調和や協調性・積極性などを養う。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	オリエンテーション	活動内容・活動実績の説明				○
2	食教育	園児を対象にした献立作成及び食教育について学習				○
3～5	食教育	サポート用指導案作成（遠隔）				
6～8	食教育	サポート用媒体作成				○
9～11	食育指導実践 1.2.3	園児を対象にした献立実習「おやつ実習」				○
12～14	食教育	スポーツをする生徒を対象にした献立作成及び食教育について学習（遠隔）				
15・16	食教育	サポート用指導案、媒体作成				○
17～19	食育指導実践 4.5.6	スポーツをする生徒を対象にした献立作成及び実習				○
20	地域参加学習献立作成	園児を対象にした行事食の献立作成「クリスマスケーキ」（遠隔）				
21.22	地域参加学習献立実習	園児を対象にした行事食の献立作成「クリスマスケーキ」				○
23～24	行事食献立作成	「クリスマスパーティー」				○
25.26	行事食献立実習	「クリスマスパーティー」				○
27	食教育実践実習	保育園にて食育授業の実施				○
28.29	まとめ	活動内容まとめ				○
30	発表	卒業研究発表				○
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
「食に関する指導の手引き」文部科学省 その他適宜資料配布						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：指導を実施するための指導案作成、媒体作成の研究を行い、模擬操作による調整をしておくこと。 事後学習（週 1.5 時間）：園児の特徴を踏まえた献立の振り返りを実施し、検討を行う。園児への実践的な食育指導は貴重な経験となる。						
課題に対するフィードバックの方法						
課題としての献立及び媒体を添削後グループごとにディスカッションを実施。						
成績評価の目安と方法						
平常点 60% 研究テーマに対する課題・研究発表・学外活動 40% 授業での活動を中心に総合的に評価する						
評価	成績評価別の到達度					
S	研究活動にきわめて積極的に活動し、高いレベルで成果を上げている。					
A	研究活動に積極的に活動し、高いレベルで成果を上げている。					
B	研究活動にほぼ積極的に活動し、標準的なレベルで成果を上げている。					
C	研究活動に参加し、やや弱い成果を上げている。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		卒業研究 [Graduation Study]	4			
授業形態		担当教員名			科目ナンバー	
実習・演習・ アクティブ・ラーニング		木元 泰子		N-S6062		
この授業に関する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1	栄養管理	医療・福祉施設の栄養士に必要な食事療法の基礎的知識および実際を、実践を通して体感し検討する。 特に食事療法が重要となる疾患について、おいしく食べやすい食事を探求する。				
2	食事療法					
3	地域貢献					
学習の到達目標						
基本的な調理技術を習得し、各種疾病に適応した食事提供を目指すとともに、栄養士に必要な実践力向上を図ることを目標とする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	オリエンテーション	活動内容・過去の研究内容の紹介				
2・3	食事療法について	各疾患の病態の食事療法の実際を文献・書籍を用い調べ、まとめる。（遠隔）				
4-6	献立作成	一般治療食の献立作成（遠隔）				
7・8	発注表作成	実施献立の発注表作成（遠隔）				
9・10	調理実習①②	一般治療食（学生献立）				○
11・12	振り返り	実習献立、調理方法についての振り返り				○
13・14	前学期のまとめ	前学期に実施した内容についてのまとめ				○
15	中間報告会	前学期に実施した内容についての報告会				○
16-19	災害食について	災害食に関する情報収集				
20	調理実習③	災害食（課題献立）				○
21	振り返り	実習献立、調理方法についての振り返り				○
22-25	献立作成	災害食の献立作成				○
26	発注表作成	実施献立の発注表作成				○
25-27	調理実習④⑤⑥	災害食（学生献立）				○
28	卒業研究発表会準備	卒業研究発表資料作成				○
29・30	まとめ	卒業研究発表				○
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
教科書：臨床栄養学実習書（医歯薬出版） 参考図書：関西電力病院のおいしい糖尿病レシピ（主婦の友社）						
準備学習・事後学習						
準備学習・事後学習（週 3.0 時間）：実施献立について、調理工程の手順の確認や試作をするなど予習をして臨むこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
オフィスアワーで適宜対応する。						
成績評価の目安と方法						
平常点 70% 課題・研究発表 30% 理由のない遅刻・欠席は減点						
評価	成績評価別の到達度					
S	研究活動にきわめて積極的に活動し、食事療法の実践力を身につけ、さらに応用力を十分に身につけている。					
A	研究活動にかなり積極的に活動し、食事療法の基礎的な知識と実際をよく理解し、実践力を身につけている。					
B	研究活動にほぼ積極的に活動し、食事療法の基礎的な知識と実際を理解している。					
C	研究活動に最低限活動し、食事療法の基礎的な知識を身につけている。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		卒業研究 [Graduation Study]	4			
授業形態		担当教員名		科目ナンバー		
実習・ アクティブ・ラーニング		菊地 亨		N-S6062		
この授業に関する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1	食品・調理科学	食品科学・調理科学分野での研究や調査を行なう。活動内容については、基本的には自分で考えてもらい、教員とのディスカッションにより決定する。研究内容によって、調理のみならず、理化学分析（実験）、官能評価（人間の感覚を用いて製品の品質を判定する検査）、統計解析等の作業を行うことがある。2019 年度のテーマは後述の通りである。 「にがりの硬度が豆腐の品質に及ぼす影響」、「牛の異なる品種で調製したジャーキーの食味の違い」、「たまねぎの部位によるカルシウム含量の違い」、「食品（ゼリー）の色や香りが味覚の主観的強度に与える影響」				
2	官能評価					
3	食品加工					
学習の到達目標						
1. 本学で学んだ調理学・食品学の知識・技術について、問題解決のために利用出来るようになる。 2. 研究活動に必要な情報を自ら適切な手段で入手し、それらを活用出来るようになる（情報リテラシーの強化）。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	ガイダンス	研究とはなんだろうか？を考える				○
2～5	研究内容に関する情報収集	情報の集め方を知る、文献検索				○
6	研究テーマの決定	教員との打ち合わせでテーマを確定する				○
7～9	研究計画	研究の計画・スケジュールを考える				○
10	研究の方法	適切な研究方法を調べる・考える				○
11～12	研究の準備	試料の調達、実験機器の準備、アンケート用紙の作成等				○
13～17	研究の実践	実験・調査を行う				○
18	データ処理	得られたデータを PC に入力してまとめる				○
19	レポート作成	実験方法や結果を文章でまとめる				○
20	発表資料作成（パワーポイント）	授業研究発表会用の資料を作成する				○
21・22	発表内容の検討	発表練習、資料の改善など				○
23・24	卒業研究発表会	発表を行う				○
	少なくなった回数分の内容	授業時間外での打ち合わせ時間を設けて補填している				
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
参考図書：「フローチャートによる 身近な調理の科学実験」 地人書館						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）： 自分の研究テーマに基づく文献・資料を収集し、学習しておく。 事後学習（週 1.5 時間）： 得られたデータ等をまとめておく。						
課題に対するフィードバックの方法						
提出された課題を返却する。						
成績評価の目安と方法						
平常点 100%						
評価	成績評価別の到達度					
S	学習の到達目標について、極めて高いレベルで達成していると判断できる。					
A	学習の到達目標について、十分に達成していると判断できる。					
B	学習の到達目標について、ある程度達成していると判断できる。					
C	学習の到達目標について、最低限の範囲で達成していると判断できる。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		栄養基礎演習 [Basic Seminar for Nutritionists]	1			
授業形態		担当教員名		科目コード		
演習・ アクティブ・ラーニング		茗荷 尚史 ・ 菊地 亨		N-S4063		
この授業に関する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1 2 3	基礎学力 初年次導入教育 栄養士教育	1、2 回目はガイダンスを行うが、3 回目以降は基本的に練習問題を解くこと等の作業を含む講義・演習を行う。各分野の講義終了後にはまとめおよび習熟度確認のための小テストを行って知識の定着を図っていく。基礎学力に不安を抱える学生は、自分のために開講される授業科目であると認識して、積極的に参加するよう心がけて欲しい。				
学習の到達目標						
栄養士課程における専門教育は、小・中学校および高等学校における教育内容を基礎に展開される。すなわち確たる基礎が築かれていなければ、より高度な内容を理解することは困難であり、本授業 科目は基礎力を徹底的に補填することを目的とする。						
授業内容	テーマ	授業内容				AL
1	ガイダンス その 1	講義を受ける心構え、ノート作成・定期試験対策勉強の実習				○
2	ガイダンス その 2	栄養士・管理栄養士の仕事(教科書 p.2～12)				
3	専門教育に必要な基礎 数学 その 1	四則演算(計算順序、括弧を含む式)、概算、小数(四則演算後の位取り)、分数の計算				○
4	専門教育に必要な基礎 数学 その 2	数値処理(切り上げ、切り捨て、四捨五入、有効数字、平均)				○
5	専門教育に必要な基礎 数学 その 3	容積・重量の単位(k, d, m, μ, n)、比重、溶質と溶媒、指数、計算機の使い方(教科書 p.95)				○
6	専門教育に必要な基礎 数学 その 4	割合・百分率の計算、ドリル				○
7	小括 1 (含小テスト)	数学分野のまとめ				
8	専門教育に必要な基礎 生物 その 1	細胞の構造、オルガネラの種類と機能				○
9	専門教育に必要な基礎 生物 その 2	消化器系および泌尿器系臓器とその機能(教科書 p.46～51)				○
10	専門教育に必要な基礎 生物 その 3	代表的な消化酵素とホルモン(教科書 p.52～56)				○
11	小括 2 (含小テスト)	生物分野のまとめ				
12	専門教育に必要な基礎 化学 その 1	元素記号と周期律表、原子の構造(陽子、電子、中性子、オービタル)(参考図書 p.5～15)				○
13	専門教育に必要な基礎 化学 その 2	化学結合(参考図書 p.16～25)、水素イオン濃度(pH)、簡単な官能基				○
14	専門教育に必要な基礎 化学 その 3	分子量とモルの概念、濃度(重量％、モル濃度、規定度)(参考図書 p.37～42)				○
15	小括 3 (含小テスト)	化学分野のまとめ				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：めざせ！栄養士・管理栄養士 まずはここからナビゲーション 小野 章史 編著 第一出版 参考図書：管理栄養士をめざす人の基礎トレーニングドリル 小野廣紀ら著 化学同人 基礎からのやさしい化学ーヒトの健康と栄養を学ぶためにー 田島 眞 編著 建帛社 * その他単元ごとに教材となるプリントを配布する						
準備学習・事後学習						
準備および事後学習（週 1 時間）：授業時間外学習については、小括 1、2、3 までに各回に学んだ内容を、復習を中心としてよく勉強しておくこと。小括毎に小テストを実施する。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、小テスト解説、ドリル採点（完全解答まで）を行う。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 60％ 平常点 40％						
評価	成績評価別の到達度					
S	栄養士課程における専門科目への導入教育としての基礎知識を、よく理解している。					
A	栄養士課程における専門科目への導入教育としての基礎知識を、概ね理解している。					
B	栄養士課程における専門科目への導入教育としての基礎知識を、一応理解している。					
C	栄養士課程における専門科目への導入教育としての基礎知識を、最低限理解している。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		製菓演習 [Pastry Preparation]	1			
授業形態		担当教員名			科目コード	
演習（集中）・アクティブ・ラーニング		小坂 由美子		N-S4055		
この授業に関する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1	計量と構成	ここでは給食管理実習や調理学実習で扱うデザートに役立てる基礎として、西洋における製菓（アントルメ）の演習を行う。				
2	パティスリー					
3	アントルメ					
学習の到達目標						
デザートに役立てる基礎としての西洋における製菓（アントルメ）を習得する。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	西洋の製菓の総論（種類）	温菓、冷菓、凍菓の分類、砂糖の調理特性				○
2	パティスリー（1）	焼き菓子（基本）スポンジケーキ				○
3	パティスリー（2）	焼き菓子（基本）クッキー、サブレ等				○
4	パティスリー（3）	焼き菓子（応用）フィナンシェ、ティグレ				○
5	パティスリー（4）	発酵生地を使って（カルツォーネ等）				○
6	チョコレート菓子	チョコレートケーキ、マンディアン				○
7	ゼリー類	ババロア、ムース、プディング等				○
8	盛り付け法、まとめ	フルーツのカット法、盛り付け法、まとめ				○
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
プリント・資料等を適宜配布。 参考図書：新版 お菓子「こつ」の科学 お菓子作りの「なぜ？」に答える 河田昌子 著 柴田書店						
準備学習・事後学習						
準備学習：事前に配布する単元の授業内容を確認する。 事後学習：授業後、レポートにまとめる作業を通じて内容を理解・確認する。						
課題に対するフィードバックの方法						
課題としてのレポートを添削後返却。						
成績評価の目安と方法						
実習後レポートの提出 評価：日常の実習態度（身支度、実習準備・片づけなど）50％ 単元のレポート 50％						
評価	成績評価別の到達度					
S	西洋における製菓（アントルメ及びパティスリー）の基礎知識と基礎技術を十分に理解している。					
A	西洋における製菓（アントルメ及びパティスリー）の基礎知識と基礎技術をよく理解している。					
B	西洋における製菓（アントルメ及びパティスリー）の基礎知識と基礎技術を理解している。					
C	西洋における製菓（アントルメ及びパティスリー）の基礎知識と基礎技術を勉強している。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]		単位			
専門教育科目		運動生理学実習 [Practice of Exercise Physiology]		2			
授業形態		担当教員名			科目コード		
実習・ アクティブ・ラーニング		玉木 啓一・辻 将也			NSM-S4064		
この授業に関係する資格							
教員免許（保健体育）、健康運動実践指導者、スポーツ栄養士、スポーツ指導者等共通科目、アスレティックトレーナー、 介護予防運動スペシャリスト							
この授業のキーワード		授業概要					
1	生体機能測定	本科目は実習科目であり、学生諸君が互いに測定者・被測定者となり実習を進めていき、健康と運動について生理学との関連で学んでいく。実習毎にレポートの提出を予定している。 なお、本実習は、遅刻、服装などの準備をしていない学生は授業を受けることができない。					
2	体力						
3	筋出力						
学習の到達目標							
安静および運動中の生理学的変量を実際に測定することによって、運動生理学の知識を実際に確認すること、その測定方法を体得・理解することを本実習の目標としている。							
回	テーマ	授業内容				AL	
1・2	運動生理学測定の意義	運動生理学の分野の測定意義と、スポーツへの応用について解説する（遠隔）					
3・4	生体現象・機器	ヒトにおける生体現象の特徴を解説し、それらを測定する機器等を説明する（遠隔）					
5・6	スポーツと情報	スポーツのための情報収集、活用について考える（遠隔）					
7・8	心電図	運動・スポーツと心臓の働きについて理解する（遠隔）					
9・10	心電図	心臓の動きをとらえる心電図の実習を行う				○	
11・12	血圧	健康と血圧の関係を学習し、安静時の血圧の測定を実習する				○	
13・14	筋電図 まとめ 1	運動が筋の働きによって起こることを筋電図の測定によって学習する 体力テストの活用を学ぶ。安静代謝から健康について考える				○	
15・16	安静代謝	ヒトのエネルギー消費量を、酸素摂取量を用いて測定する				○	
17・18	心拍数	運動強度の指標としての心拍数を理解し、測定・実習する 循環器と健康について学ぶ				○	
19・20	筋パワー	力とパワーの関係を知り、人体のパワー出力について学ぶ				○	
20・22	反応時間	反射運動、随意運動について学び、スポーツと反応時間について学ぶ				○	
23・24	測定の意義を考える	循環器と健康について考え、学び、筋の動き、力、パワー調整力について討議し、スポーツへ応用する バイオメカニクスの理解を深める				○	
25・26	体力測定	文部科学省、新体力テストの測定方法を実習し、そのデータの解釈方法を学ぶ				○	
	レポート作成のサポートを従来の対面での対応に加え Classroom、メールの対応を含め行った 6月までは、心電図、血圧、筋電図の内容を中心に3名の担当教員で行った。						
	レポート作成のサポートを従来の対面での対応に加え Classroom、メールの対応を含め行った 7月以降、安静代謝から健康についての考えかた、運動生理学と、健康、スポーツのための応用、体力テストの活用法などについて サポートした						
試験等	レポート						
教科書及び参考図書							
参考図書：「身体運動の生理学」猪飼道夫編 杏林書院、 「コーチと選手のためのスポーツ生理学」 フォックス 大修館書店 「栄養・スポーツ系の運動生理学」樋口満 監修 南江堂 、 「スポーツ生理学」 青木・佐藤・村岡編著 市村出版							
準備学習・事後学習							
準備学習： シラバス、授業中の指示に従い、あらかじめ授業内容に関するイメージを持つこと。 事後学習： 実習結果をまとめ、課題を作成すること。課題作成に当たっては、成書を調べること。							
課題に対するフィードバックの方法							
授業時間内に質問の時間を設けるので、その時間を活用すること。また、オフィスアワー等を中心に個別対応も準備している							
成績評価の目安と方法							
レポート 90% 平常点 10% 理由のない欠席は減点とする							
評価	成績評価別の到達度						
S	理解力、考察力ともに抜群であり、運動生理学の知識を活かして問題解決を行う能力がある。						
A	運動生理学の知識・各種測定方法を、よく理解し、これを応用する力がある。						
B	運動生理学の知識・各種測定方法を、よく理解している。						
C	運動生理学の知識や各種測定方法を、理解・修得している。						

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		スポーツ医学実習 [Practice of Sport Medicine]	2			
授業形態		担当教員名		科目コード		
講義・実習・ アクティブ・ラーニング		高橋 琴美 ・ 小泉 和史 ・ 板橋 明	国	NSM-S5065		
この授業に関する資格						
健康運動実践指導者、健康管理士一般指導員、スポーツ栄養士、スポーツ指導者等共通科目、介護予防運動スペシャリスト						
この授業のキーワード		授業概要				
1 2 3	救急法 応急処置 コンディショニング	「命」について真剣に考え、スポーツ現場における救急対策を中心に、次の内容について実習・講義を行う。 ①一次救命処置 ②外傷等に対する予防及び応急処置 ③スポーツ選手に対するコンディショニングとアンチ・ドーピング活動				
学習の到達目標						
事故を防止し、緊急時に必要な手当ができるように、正しい救急法の知識と技術を身につける。						
回	テーマ	授業内容				AL
1・2	救急法とは	救急法を学ぶ目的、一次救命処置について				
3・4	止血法	きずの種類と止血法				○
5・6	包帯法 1	三角巾 1 枚を用いた包帯法				○
7・8	包帯法 2	三角巾 2 枚を用いた包帯法				○
9・10	固定法 1	三角巾を用いた固定法				○
11・12	固定法 2	副子を用いた固定法				○
13・14	搬送法	一人または複数名で搬送する方法（遠隔）				
15・16	心肺蘇生法 1	心肺蘇生法の手順				○
17・18	心肺蘇生法 2	心肺蘇生法に伴う副損傷・同時処置について				○
19・20	心肺蘇生法 3	乳児・幼児に対する心肺蘇生法、AED を用いた心肺蘇生法				○
21・22	応急処置	傷害発生時の応急処置、テーピング				○
23・24	コンディショニング 1	スポーツ選手のコンディショニング、コンディションに影響する因子				○
25・26	コンディショニング 2	アイシング・ストレッチング（遠隔）				
27・28	コンディショニング 3	アンチ・ドーピング活動について				
29・30	まとめ	全体の総括（遠隔）				
試験等	実技試験・レポート課題					
教科書及び参考図書						
参考図書：赤十字救急法基礎講習教本、赤十字救急法講習教本（日本赤十字社），公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ・Ⅱ また、プリント・資料を適宜配付する						
準備学習・事後学習						
準備学習：次回内容を参考図書等で予習しておくこと。 事後学習：実習した内容について、各自で繰り返し練習し、次回授業までに適切に行えるよう準備しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして毎時間実技小テストを実施し、学んだ技術が習得できているか確認しコメントする。						
成績評価の目安と方法						
実技試験 70% 平常点 20% レポート 10% 理由のない遅刻・欠席は減点する。						
評価	成績評価別の到達度					
S	正しい救急法の知識と技術を十分に身につけ、傷病者に対して適切な手当ができる。					
A	正しい救急法の知識と技術を身につけ、傷病者に対して適切な手当ができる。					
B	正しい救急法の知識と技術を身につけ、基本的な手当ができる。					
C	正しい救急法の基礎知識と技術を身につけ、基本的な手当ができる。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目		健康スポーツ実習 1 [Healthy Sports Training I]		必修 1			
授業形態		担当教員名			科目ナンバー		
実技・ アクティブ・ラーニング		杉山 仁志・福島 邦男			NM-S4067		
この授業に関する資格							
健康運動実践指導者、中高老年期運動指導士、介護予防運動スペシャリスト							
この授業のキーワード		授業概要					
1	球技	実習を通じて、自分の体力に合わせたスポーツの実施方法を知る。 【球技選択者】は、サッカーを行う。 【レクリエーション選択者】は、ニュースポーツを中心に行う。 【トレーニング選択者】は、トレーニング器具の使用に慣れ、セットの組み方、指導法を身につける。					
2	レクリエーション						
3	トレーニング						
学習の到達目標							
【球技・レクリエーション選択者】は、球技（サッカー）、レクリエーションを安全に行う知識を身につける。【トレーニング選択者】は、トレーニング器具の使い方を覚え、安全なトレーニング方法を身につける。感染症予防対策から、レク・球技選択者とトレーニング選択者はそれぞれ、2～7 回目と 8～13 回目をグループ入れ替えて実施する。							
回	テーマ	授業内容					AL
1	オリエンテーション	授業の進め方と種目選択、各種球技のトレーニング、ウォーミングアップ、クーリングダウンについて					
2	トレーニング選択者（資格取得希望者）		球技・レクリエーション選択者			○	
	ウォーミングアップとクーリングダウン 1		レク コミュニケーションゲーム 1				
3	マシントレーニング 1	マシンの使用方法	レク コミュニケーションゲーム 2			○	
4	マシントレーニング 2	部位別トレーニング方法	レク インディアカ 1 ルールと基本の打ち方			○	
5	フリーウエイト 1	基本と安全管理	レク インディアカ 2 グループ対抗のリーグ戦			○	
6	フリーウエイト 2	部位別トレーニング方法	レク フライングディスク 1 ディスクの投げ方			○	
7	サーキットトレーニング 1	マシンを使用した方法	レク フライングディスク 2 ドッジビー			○	
8	ウォーミングアップとクーリングダウン 2				サッカー ボール慣れ、ドリブル	○	
9	ストレッチング 1	ストレッチングの基本と原理	サッカー コントロール			○	
10	ストレッチング 2	部位別ストレッチング	サッカー キック・シュート			○	
11	自重トレーニング 1	自重トレーニングの基本	サッカー ミニゲーム 1			○	
12	自重トレーニング 2	部位別自重トレーニング	サッカー ミニゲーム 2			○	
13	サーキットトレーニング 2	自重を利用した方法	サッカー ミニゲーム 3			○	
14	ジャイアントセット法を行う				各 13 回目へ続き レク ペタンク、サッカー ミニゲーム 4	○	
15	授業のまとめ						
試験等	なし						
教科書及び参考図書							
参考図書：ウイダー・トレーニング・バイブル（森永製菓健康事業部 出版） その他必要に応じて資料を配布する							
準備学習・事後学習							
準備学習： 授業のキーワードとテーマに関する情報（テキスト、インターネット等）を入手し、実習に活かせるようにしておく。 事後学習： 授業中の内容を復習し、わからない用語は調べて覚えること。							
課題に対するフィードバックの方法							
オフィスアワーで適宜対応する。							
成績評価の目安と方法							
平常点 70% 課題・レポート 30%							
評価	成績評価別の到達度						
S	健康に対するスポーツの大切さを十分に理解し、積極的かつ安全に実践することができる。						
A	健康に対するスポーツの大切さを十分に理解し、安全に実践することができる。						
B	健康に対するスポーツの大切さを理解し、安全に実践することができる。						
C	健康に対するスポーツの大切さを理解している。						

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		健康スポーツ実習 2 [Sport for health 2]	1			
授業形態		担当教員名		科目コード		
実技・ アクティブ・ラーニング		杉山 仁志 ・ 辻 将也		NM-S5068		
この授業に関係する資格						
健康運動実践指導者						
この授業のキーワード		授業概要				
1	ウォーキング&ジョギング	自分の関心や能力にあった種目を選択し、基本技術を習得し、ルール、マナーを学習する。 ウォーキング&ジョギングは、ウォーキングやジョギングによる体力測定と評価、その結果を活かした運動プログラム作成を学ぶ。また、ウォーキングイベントに参加して、健康ウォーキングを実践する。				
2	バドミントン					
3	健康づくり					
学習の到達目標						
健康づくりのために必要な技能・知識を習得するとともに、自らが生涯スポーツの一つとして選択した種目を継続的に楽しむことができるようにする。健康づくりのための正しいウォーキングやジョギングの方法を学び、実習を通して各自の能力に応じた運動プログラムを作成する。						
回	ウォーキング&ジョギング（資格取得希望者）		AL	バドミントン		AL
1	ガイダンス	授業計画の作成		ガイダンス		
2	ウォーキング基礎知識	健康づくりとウォーキングの基礎知識を学ぶ		ラケットとシャトルに慣れる		○
3	ウォーキングテスト 1	自然に、やや速く、もっと速くの 3 段階のスピードで 3 分間歩行テスト	○	ストロークの基本		○
4	運動メニュー作成	ウォーキングによる健康づくりプログラムの作成と実践（北向き地藏コース）	○	サービスの基本		○
5	運動メニュー作成	ウォーキングによる健康づくりプログラムの作成と実践（大沼コース）	○	スマッシュの基本		○
6	運動メニュー作成	ウォーキングによる健康づくりプログラムの作成と実践（松山城趾コース）	○	シングルスゲーム		○
7	運動メニュー作成	ウォーキングによる健康づくりプログラムの作成と実践（市野川コース）	○	シングルス①（リーグ戦）		○
8	ルディックウォーキング 1	ルディックウォーキングイベントを体験する	○	シングルス②（リーグ戦）		○
9	ルディックウォーキング 2	ルディックウォーキングイベントを体験する	○	ダブルス基本練習		○
10	ルディックウォーキング 3	ルディックウォーキングイベントを体験する	○	ダブルス応用練習		○
11	ジョギングの基礎知識	健康づくりとジョギングの基礎知識を学び、スポージョギングを実践	○	ダブルス①（リーグ戦）		○
12	ジョギングの基礎知識	健康づくりとジョギングの基礎知識を学び、スロージョギングを実践	○	技能・体力テスト		○
13	スクエアエクササイズ 1	スクエアステップエクササイズを体験する	○	ダブルス②（リーグ戦）		○
14	スクエアエクササイズ 2	スクエアステップエクササイズを体験する	○	ダブルス③（団体戦）		○
15	まとめ	まとめ（遠隔）		まとめ（遠隔）		
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
教科書：健康運動実践指導者養成テキスト						
準備学習・事後学習						
準備学習： 授業のキーワードに関する情報（テキスト、インターネット等）を入手し、実習に活かせるようにしておくこと。 事後学習： 授業中の内容を復習し、わからない単語は調べて覚えること。						
課題に対するフィードバックの方法						
オフィスアワーで適宜対応する。						
成績評価の目安と方法						
技能 50% 受講態度・意欲 50%						
評価	成績評価別の到達度					
S	自ら運動プログラムを作成し実践できるようになる。					
A	運動プログラムを工夫し実践する。					
B	運動プログラムに対する課題を見つけることができる。					
C	運動プログラムを正しく覚える。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		水泳 [Basic Swimming]	1			
授業形態		担当教員名		科目コード		
実技・ アクティブ・ラーニング		太田 あや子 ・ 高橋季絵		NM-S4066		
この授業に関係する資格						
健康運動実践指導者						
この授業のキーワード		授業概要				
1	四泳法	クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライの四泳法の技能を習得し、100m個人メドレーの完泳をめざす。 水中運動指導の基礎技能を身につける。				
2	水中運動					
3	安全水泳指導法					
学習の到達目標						
健康づくり運動指導が可能となるように各泳法の段階的指導を通じて泳力を高め、正しい泳法で泳ぐ技能を身につけるとともに安全な水泳指導法を身につける。健康づくりのための水中運動を理解する。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	ガイダンス	個人カード作成、能力判定表の作成（遠隔）				
2	泳法のポイントまとめ	（泳法の解説と図のトレース）：クロール（遠隔）				
3	泳法のポイントまとめ	（泳法の解説と図のトレース）：背泳ぎ（遠隔）				
4	泳法のポイントまとめ	（泳法の解説と図のトレース）：平泳ぎとバタフライ（遠隔）				
5	試し泳ぎとクロール(1)	試し泳ぎとチーム練習：キック、プル、息継ぎの練習、25m泳（令和3年度）				○
6	クロール	チーム練習：ターン練習と50m泳、100m泳、レポート作成（令和3年度）				○
7	背泳ぎ(1)	チーム練習：キック、プル、呼吸法の練習、25m泳（令和3年度）				○
8	背泳ぎ(2)	チーム練習：ターン練習と50m泳、レポート作成（令和3年度）				○
9	平泳ぎ(1)	チーム練習：キック、プル、息継ぎの練習、25m泳：伸びのある9動作（令和3年度）				○
10	平泳ぎ(2)	チーム練習：ターン練習と50m泳、レポート作成（令和3年度）				○
11	バタフライ(1)	チーム練習：キック、プル、息継ぎの練習、25m泳（令和3年度）				○
12	バタフライ(2)	チーム練習：キック、プル、息継ぎの練習、25m泳、レポート作成（令和3年度）				○
13	水中運動	その場、歩いて、走って行う水中運動基礎プログラム（令和3年度）				○
14	安全水泳(1)	安全な水泳指導法講義と実技練習（令和3年度）				○
15	安全水泳(2)	子どもプール教室実習（令和3年度）				○
試験等	実技試験、レポート					
教科書及び参考図書						
教科書（購入）：水泳指導の手引き（三訂版） 文部科学省 アイフィス						
準備学習・事後学習						
準備学習：教科書の種目別練習法の泳法の画像から動作のイメージをつかみ、泳法習得のポイントを理解しておくこと。 事後学習：毎時限の実技到達度を完成形として、次の練習に備える。						
課題に対するフィードバックの方法						
学習ノートの内容をふまえた課題解決にむけた指導助言を行う。						
成績評価の目安と方法						
実技試験 70% レポート・平常点 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	200m個人メドレーが正しい泳法で泳げ、かつ 10 分間に 400mを泳ぐ泳力がある。					
A	100m個人メドレーが正しい泳法で速く泳げ、かつ 10 分間に 375mを泳ぐ泳力がある。					
B	100m個人メドレーが正しい泳法で泳げる。					
C	4 泳法が泳げる。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
共通専門科目		野外活動論 [Outdoor Activity]	2			
授業形態		担当教員名			科目ナンバー	
講義・ アクティブ・ラーニング		福島 邦男		NSM-S2028		
この授業に関する資格						
公社) 日本キャンプ協会 キャンプインストラクター						
この授業のキーワード		授業概要				
1	野外活動	この授業では野外活動を安全に楽しむために必要な基礎的知識や指導法について学習していく。さらに、組織キャンプを中心に、野外での危険予知や危険回避の具体的方法についても学習することで、いろいろな野外活動にチャレンジできる知識を身につける。				
2	アウトドア					
3	自然体験					
学習の到達目標						
野外活動の理論的背景を理解し、自己や環境に対する応用力を身に付けることを目標とする。 なお本授業はキャンプインストラクター資格取得のための必修科目となっている。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	野外活動とは	授業概要 用語の定義と「屋外」スポーツとの違いについて（遠隔）				
2	人間と自然	自然とのかかわり 野外活動の目的と意義について（遠隔）				
3	さまざまな野外活動	野外で親しまれる、さまざまな活動について（遠隔）				
4	野外活動の基礎知識	野外活動のルールとマナー 環境への配慮について（遠隔）				
5	野外活動と健康	野外活動の健康への効果について				
6	基礎技術 読図	地図の種類と読図について				
7	基礎技術 ロープ	ロープワークの理論と実際				○
8	野外活動とキャンプ	キャンプの意義と目的、その歴史について				
9	組織キャンプ	教育キャンプについて民間団体の活動や環境教育をとりあげる				
10	教育キャンプ	キャンプにおけるコミュニケーションスキル				○
11	指導者の役割と機能	キャンプを中心にした、野外活動における指導者の役割				
12	水辺活動の安全管理	水辺活動中の事故を事例として				
13	山岳活動の安全・まとめ	登山活動やキャンプ中の事故を事例として・授業のまとめ				
14		毎回、授業終了時にミニレポートを提出させ、採点とコメントを加えて返却した。 ミニレポート内で学生が取り上げた疑問や意見は、次回の授業時に紹介するとともに解説を加えた。				
15						
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
参考図書：野外活動 その考え方と実際 日本野外教育研究会編 杏林書院 キャンプ指導者入門 （社）日本キャンプ協会 そ の 他 ： 必要に応じて資料を配付する						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：授業のテーマに関した情報を新聞や雑誌、インターネット等から入手し、毎回のミニレポートに生かせるようにしておく。 事後学習（週 1.5 時間）：配布された資料はと返却されたミニレポートを保管しておき、事後学習に活用できるようにしておく。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、毎時間ミニレポートを回収し、コメントを加えて返却する。オフィスアワーでも適宜対応する。						
成績評価の目安と方法						
毎回のミニレポート 70% 課題・提出物 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	野外活動の理論を活かした、健康生活への応用力を十分に身に付けている。					
A	野外活動の理論を良く理解している。					
B	野外活動の理論を理解している。					
C	野外活動の基礎的な知識を身に付けている。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		生涯スポーツ論 [Theory of life-long sports]	2			
授業形態		担当教員名		科目ナンバー		
講義		福島 邦男		SM-S2069		
この授業に関する資格						
障がい者初級スポーツ指導者、スポーツインストラクター、子ども身体運動発達指導士、中高老年期運動指導士						
この授業のキーワード		授業概要				
1	ライフサイクル	エリクソンのライフサイクル論を参考に各ライフステージにおける発達課題達成のためにスポーツがどのような役割、機能を持っているか解説する。人生のそれぞれのライフステージにおいてスポーツが自己実現や健康維持、身体的発達とかかわっていることを紹介する。				
2	発達課題					
3	スポーツの機能					
学習の到達目標						
生涯スポーツの基礎的知識を理解し、健康生活への応用力を身に付けることを目標とする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	オリエンテーション	授業の概要を理解する（遠隔）				
2	ライフサイクル論	エリクソンのライフサイクル論について（遠隔）				
3	乳児期とスポーツ	乳児期における発達課題と運動について理解する（遠隔）				
4	幼児・児童とあそび	幼児・児童の身体発達の特性について理解する（遠隔）				
5	幼児・児童とスポーツ	幼児・児童の運動指導のポイントについて理解する				
6	幼児・児童のスポーツ指導	運動が苦手な幼児・児童の指導について理解する				
7	青年期とスポーツ	青年期における発達課題とスポーツについて理解する				
8	成人前期とスポーツ	成人前期における発達課題とスポーツについて理解する				
9	成人期とスポーツ	成人期における発達課題とスポーツについて理解する				
10	高齢期とスポーツ	高齢期における発達課題とスポーツについて理解する				
11	女性とスポーツ	女性特有の社会的文化的特性とスポーツについて理解する				
12	障がい者とスポーツ	障害者のスポーツのとらえ方や意義を理解する				
13	障がい者スポーツとは	障害者がスポーツを安全に行う方法や安全管理について理解する				
14		毎回、授業終了時にミニレポートを提出させ、採点とコメントを加えて返却した。ミニレポート内で学生が取り上げた疑問や意見は、次回の授業時に紹介するとともに解説を加えた。				
15						
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
参考図書：「生涯スポーツの理論と実際」大修館書店 そ の 他：必要に応じて資料を配付する。						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：この授業のキーワードと毎回のテーマに関する情報を新聞、雑誌、インターネット等から入手し、毎回のミニレポートに生かせるように目を通しておく。 事後学習（週 1.5 時間）：毎時間の資料と返却されたミニレポートは保管しておき、事後学習に活用できるようにしておく。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとしてミニレポートを回収し、コメントを加えて返却する。オフィスアワーでも適宜対応する。						
成績評価の目安と方法						
毎回のミニレポート 70% 課題・提出物 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	生涯スポーツの理論を活かした、健康生活への応用力を充分身に付けている。					
A	生涯スポーツの理論を良く理解している。					
B	生涯スポーツの理論を理解している。					
C	生涯スポーツの基礎的な知識を身に付けている。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位			
専門教育科目		スポーツ解剖学 1 [Functional Anatomy 1]	2	N	S	M
授業形態		担当教員名		科目コード		
講義		荒川 崇	国	SM-S2070		
この授業に関係する資格						
健康運動実践指導者、アスレティックトレーナー						
この授業のキーワード		授業概要				
1	解剖学	スポーツ健康・体力づくりの指導者として必要な最低限の知識である、スポーツ解剖学について基本を学ぶことによって、外傷・障害への理解やスポーツパフォーマンスに必要な動きの理解を深めることができる。				
2	動作					
3	傷害					
学習の到達目標						
骨・関節・筋肉についてそれぞれの名称および機能を覚える。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	オリエンテーション 運動器の解剖と機能概論①	本講座の学習内容・成績評価等に関する説明および概論、体表の区分・全身の骨格と筋（遠隔）				
2	運動器の解剖と機能概論②	運動の表し方（遠隔）				
3	運動器の解剖と機能概論③	運動器の構造と機能（遠隔）				
4	運動器の解剖と機能概論④	関節の構造と機能（遠隔）				
5	運動器の解剖と機能概論⑤	靱帯の構造と機能（遠隔）				
6	運動器の解剖と機能概論⑥	筋・腱の構造と機能（遠隔）				
7	運動器の解剖と機能概論⑦	骨格筋の神経支配				
8	体幹の基礎解剖と運動①	脊柱、頸椎の運動				
9	体幹の基礎解剖と運動②	胸椎と胸郭、腰椎、仙椎、骨盤の運動				
10	上肢の基礎解剖と運動①	上肢帯、肩関節の運動				
11	上肢の基礎解剖と運動②	肘関節、手関節の運動				
12	下肢の基礎解剖と運動①	股関節、膝関節の運動				
13	下肢の基礎解剖と運動②	膝関節、足関節・足部の関節				
		Classroom を利用して授業の補足資料を添付配信し、自宅でも復習をできるようにした。また確認・復習小テストを実施し、理解度を高めた。				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト2 運動器の解剖と機能						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：毎回の講義終了時に次回の内容についてのプリントを配布するので事前に読んでおくこと。 事後学習（週 1.5 時間）：毎回の講義開始時に前回講義内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
前回の講義内容に関する小テストを実施し、解答の解説を行う。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 50％ 課題提出 30％ 平常点 20％						
評価	成績評価別の到達度					
S	骨・関節・筋肉についてそれぞれの名称および機能を十分に理解している。					
A	骨・関節・筋肉についてそれぞれの名称および機能を理解している。					
B	骨・関節・筋肉についてそれぞれの名称および機能を覚えている。					
C	骨・関節・筋肉についてそれぞれの名称を覚えている。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		スポーツ解剖学 2 [Functional Anatomy 2]	2			
授業形態		担当教員名			科目コード	
講義・ アクティブ・ラーニング		荒川 崇	国	S-S3071		
この授業に関係する資格						
アスレティックトレーナー						
この授業のキーワード		授業概要				
1	解剖学	身体全ての関節に関連する筋肉や靱帯について、その特性と機能を学ぶとともに、各関節の可動性とスポーツ外傷・障害との関連についての知識を学ぶ。				
2	動作					
3	外傷・障害					
学習の到達目標						
スポーツ解剖学 1 をベースに、関節や筋の機能についてさらに理解を深め、スポーツにおける障害や外傷についてその発生の原因などを考えられるようになる。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	オリエンテーション	本講座の学習内容・成績評価等に関する説明および概論				
2	機能概論①	体表区分、運動の表し方（遠隔）				
3	機能概論②	運動器の構造と機能関節の構造と機能				○
4	機能概論③	腱・靱帯の機能と構造				○
5	機能概論④	骨格筋の構造と機能、神経支配				○
6	起始・停止（筋）①	体幹部、上肢における骨格筋の起始・停止				
7	起始・停止（筋）②	上肢、下肢における骨格筋の起始・停止				
8	起始・停止（筋）③	骨格筋カルタを活用した体幹部、上肢、下肢における骨格筋の起始・停止				○
9	体幹の基礎解剖と外傷・障害①	脊柱・頸椎・胸椎と胸郭の基礎解剖と発生するスポーツ外傷・障害				
10	体幹の基礎解剖と外傷・障害②	胸椎と胸郭・腰椎の基礎解剖と発生するスポーツ外傷・障害				
11	体幹の基礎解剖と外傷・障害③	腰椎・仙椎・骨盤の基礎解剖と発生するスポーツ外傷・障害				
12	上肢の基礎解剖と外傷・障害①	上肢帯・肩関節の基礎解剖と発生するスポーツ外傷・障害				
13	上肢の基礎解剖と外傷・障害②	肘関節・手関節・手の基礎解剖と発生するスポーツ外傷・障害				
14	下肢の基礎解剖と外傷・障害①	股関節・膝関節の基礎解剖と発生するスポーツ外傷・障害				
15	下肢の基礎解剖と外傷・障害②	膝関節・足関節・足部の基礎解剖と発生するスポーツ外傷・障害				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト2 運動器の解剖と機能						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：毎回の講義終了時に次回の内容についてのプリントを配布するので事前に読んでおくこと。 事後学習（週 1.5 時間）：毎回の講義開始時に前回講義内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
前回の講義内容に関する小テストを実施し、解答の解説を行う。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 50％ 課題提出 30％ 平常点 20％						
評価	成績評価別の到達度					
S	関節や筋の機能について十分に理解し、スポーツにおける外傷や障害について、その発生の原因などを考えることができる。					
A	関節や筋の機能について良く理解し、スポーツにおける外傷や障害について、その発生の原因などを考えることができる。					
B	関節や筋の機能について理解し、スポーツにおける外傷や障害について、その発生の原因などを考えることができる。					
C	関節や筋の機能について理解し、スポーツにおける外傷や障害について考えることができる。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		トレーナー測定評価実習 [Clinical Test of Physical Strength and Fitness]	2			
授業形態		担当教員名		科目コード		
実習・ アクティブ・ラーニング		荒川 崇	国	S-S5072		
この授業に係る資格						
アスレティックトレーナー						
この授業のキーワード		授業概要				
1	アスレティックトレーナー	選手の姿勢、アライメント、筋力、バランス、柔軟性、身体蘇生、パワー、有酸素能力などの各種測定を通しその値から読み取られる選手の弱点や問題点および強みを知ることによって次のトレーニングへのヒントを導き出すことが可能となる。				
2	スペシャルテスト					
3	評価					
学習の到達目標						
アスレティックトレーナーにとって必要とされる各種測定の技法を学び、測定者としての正確な技術とその値についての分析ができるようになる。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	オリエンテーション	本講座の学習内容・成績評価等に関する説明				
2	概論	評価の目的と意義 測定項目について				
3	姿勢・身体アライメント①	姿勢・静的アライメントについて学び→測定→分析・評価				○
4	姿勢・身体アライメント②	姿勢・動的アライメントについて学び→測定→分析・評価				○
5	スポーツ動作の観察と分析①	歩行、走動作についてについて学び→測定→分析・評価				○
6	スポーツ動作の観察と分析②	跳躍動作、投動作についてについて学び→測定→分析・評価				○
7	スポーツ動作の観察と分析③	方向転換動作、あたり動作、押し動作についてについて学び→測定→分析・評価				○
8	身体組成	身体組成、形態測定について学び→測定→分析・評価				○
9	関節弛緩性	関節弛緩性について学び→測定→分析・評価				○
10	関節可動域	関節可動域について学び→測定→分析・評価				○
11	筋タイトネス	筋タイトネスについて学び→測定→分析・評価				○
12	徒手筋力	徒手筋力について学び→測定→分析・評価				○
13	筋パワー・筋持久力	筋パワー・筋持久力について学び→測定→分析・評価				○
14	全身持久力	全身持久力について学び→測定→分析・評価				○
15	確認とまとめ	これまでに学習した内容について確認とまとめ				○
試験等	実技試験および筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト5 検査・測定と評価						
準備学習・事後学習						
準備学習：毎回の講義終了時に次回の内容についてのプリントを配布するので事前に読んでおくこと。 事後学習：毎回の講義開始時に前回講義内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
毎回の実習内容に関する実技確認を実施し、解説を行う。						
成績評価の目安と方法						
実技試験 30% 筆記試験 30% 提出物 20% 平常点 10%						
評価	成績評価別の到達度					
S	アスレティックトレーナーにとって必要な各種測定の技法を十分に習得し、正確な技術での測定実施と値についての的確な分析ができる。					
A	アスレティックトレーナーにとって必要な各種測定の技法を習得し、正確な技術での測定実施と値についての分析ができる。					
B	アスレティックトレーナーにとって必要な各種測定の技法を習得し、測定実施と値についての分析ができる。					
C	アスレティックトレーナーにとって必要な各種測定の技法を習得し、測定実施ができ、値についての分析を試みることができる。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		アスレティックリハビリテーション論 (Principles of Exercise Rehabilitation)	2			
授業形態		担当教員名		科目コード		
講義・ アクティブ・ラーニング		小島 丈治 ・ 小島 真由美	国	S-S3073		
この授業に係る資格						
アスレティックトレーナー						
この授業のキーワード		授業概要				
1	AT とアスリハ	評価に基づいたアスレティックリハビリテーションプログラムの手順を学び、傷害特性や競技特性に応じたプログラミング方法を身につける				
2	機能解剖・運動療法					
3	評価法					
学習の到達目標						
アスレティックリハビリテーションの基礎知識を学び、評価に基づいたプログラミングの手順を身につけ、対象者に合わせたメニューを作成できるようにする。						
回	テーマ	授業内容	AL			
1	概要 1	アスレティックリハビリテーションの意義（遠隔）				
2	概要 2	アスレティックリハビリテーションの手順およびリスク管理（遠隔）				
3	運動療法 1 機能解剖学	可動域回復・拡大エクササイズ（遠隔）				
4	運動療法 2 機能解剖学	神経筋協調性回復・向上エクササイズ	○			
5	運動療法 3 機能解剖学	外傷予防・再発予防のためのエクササイズの考え方	○			
6	傷害評価	傷害評価の考え方	○			
7	機能評価	機能評価の考え方	○			
8	足関節疾患	足関節疾患に対する評価およびプログラミング方法	○			
9	膝関節疾患（1）	膝関節急性外傷に対する評価およびプログラミング方法	○			
10	膝関節疾患（2）	膝関節慢性外傷に対する評価およびプログラミング方法	○			
11	肉離れ	肉離れに対する評価およびプログラミング方法	○			
12	腰部疾患	腰部疾患に対する評価およびプログラミング方法	○			
13	肩関節疾患	肩関節疾患に対する評価およびプログラミング方法	○			
14	慢性障害	慢性障害に対する評価およびプログラミング方法	○			
15	競技種目特性、まとめ	競技種目特性に応じたプログラミング方法	○			
試験等	筆記試験、レポート					
教科書及び参考図書						
教科書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 3 スポーツ外傷・障害の基礎知識 公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 7 アスレティックリハビリテーション						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）： 事前に AT 教本のアスレティックリハビリテーションを読んでおくこと。 事後学習（週 1.5 時間）： 毎回授業の最初に前回の復習小テストを行うので、復習しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
レポートのコメントをつけて返却する						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 5 0 % レポート提出 3 0 % 授業への取り組み 2 0 %						
評価	成績評価別の到達度					
S	アスレティックリハビリテーションの基礎知識を十分に理解している。					
A	アスレティックリハビリテーションの基礎知識をよく理解している。					
B	アスレティックリハビリテーションの基礎知識を理解している。					
C	アスレティックリハビリテーションの基礎知識を最低限理解している。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		アスレティックリハビリテーション論実習 (Practice of Exercise Rehabilitation)	2			
授業形態		担当教員名		科目コード		
実習・ アクティブ・ラーニング		小島 丈治 ・ 小島 真由美	国	S-S5074		
この授業に関係する資格						
アスレティックトレーナー						
この授業のキーワード		授業概要				
1 2 3	傷害別エクササイズ 競技種目別エクササイズ 指導方法	傷害ごとのリスク管理や競技種目特性に基づき、再発予防とパフォーマンス向上を目指したアスレティックリハビリテーションのプログラミング、および指導方法を学ぶ。				
学習の到達目標						
アスレティックリハビリテーションの基礎知識および指導方法を学び、対象者に適したプログラミングと、実際の指導を行えるようにする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1・2	概要	アスレティックリハビリテーションの意義（遠隔）				
3・4	足関節疾患 1	アスレティックリハビリテーションの手順およびリスク管理（遠隔）				
5・6	足関節疾患 2	可動域回復・拡大エクササイズ（遠隔）				
7・8	膝関節疾患 1	神経筋協調性回復・向上エクササイズ				○
9・10	膝関節疾患 2	外傷予防・再発予防のためのエクササイズの考え方				○
11・12	膝関節疾患 3	傷害評価の考え方				○
13・14	大腿部疾患	機能評価の考え方				○
15・16	腰部疾患 1	足関節疾患に対する評価およびプログラミング方法				○
17・18	腰部疾患 2	膝関節急性外傷に対する評価およびプログラミング方法				○
19・20	肩関節疾患 1	膝関節慢性外傷に対する評価およびプログラミング方法				○
21・22	肩関節疾患 2	肉離れに対する評価およびプログラミング方法				○
23・24	慢性疾患	腰部疾患に対する評価およびプログラミング方法				○
25・26	競技別 1	肩関節疾患に対する評価およびプログラミング方法				○
27・28	競技別 2	慢性障害に対する評価およびプログラミング方法				○
29・30	演習、まとめ	競技種目特性に応じたプログラミング方法				○
試験等	実技試験					
教科書及び参考図書						
教科書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 7 アスレティックリハビリテーション						
準備学習・事後学習						
準備学習： 事前に、AT 教本のアスレティックリハビリテーションを読んでおくこと。 事後学習： 毎回授業の最初に前回の復習小テストを行うので、復習しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
実技試験後に内容の解説を行う						
成績評価の目安と方法						
実技試験 70% 授業への取り組み 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	アスレティックリハビリテーションの基礎知識を十分に理解し、選手に的確な指導をすることができる。					
A	アスレティックリハビリテーションの基礎知識をよく理解し、選手に指導することができる。					
B	アスレティックリハビリテーションの基礎知識と指導方法を理解している。					
C	アスレティックリハビリテーションの基礎知識と指導方法を最低限理解している。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		衛生学及び公衆衛生学 [Hygiene and Public Health]	2			
授業形態		担当教員名		科目コード		
講義・ アクティブ・ラーニング		岩井 秀明		SM-S2075		
この授業に関する資格						
教員免許（保健体育）、健康運動実践指導者、GFI、介護予防運動スペシャリスト						
この授業のキーワード		授業概要				
1	公衆衛生	衛生学および公衆衛生学の基礎を解説し、生活の中で「健康」をどのように考えたらよいのか、公衆衛生活動にはどのようなものがあるかを理解する。また、日本の保健衛生を世界各国と比較し、現在と将来の公衆衛生上の問題を認識させる。				
2	生活習慣病予防					
3	保健衛生					
学習の到達目標						
衛生学及び公衆衛生学の知識を活かした、健康・栄養・スポーツへの応用力を身につけることを目標とする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	社会と健康	健康の概念、公衆衛生の概念、公衆衛生の歴史				○
2	環境と健康 1	生態系と人々の生活				
3	環境と健康 2	地球の温暖化、オゾン層の破壊				○
4	環境と健康 3	公害				○
5	保健統計 1	保健統計、各種死亡率、平均寿命の国際比較				
6	健康科学の研究法～疫学～	記述疫学と分析疫学				
7	主要疾患の疫学と予防	各臓器の主な疾患、予防と生活習慣の修正				○
8	保健・医療・福祉の制度	社会保障の概念、医療保険制度、国際保健とわが国の健康づくり政策				
9	産業保健	労働と健康、労働安全衛生対策				
10	母子保健	母子保健の水準、母子保健対策				○
11	精神保健	心の働き、ライフステージの各段階における精神保健				
12	地域保健	地域社会と地域保健、地域保健活動の進め方				
13	老人保健	老人保健と福祉、認知症、老人歯科保健				○
14	学校保健	学校保健の領域構造、学校における保健管理				○
15	まとめ・振り返り	全体の総括				○
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：21 世紀の予防医学・公衆衛生 参考図書：シンプル衛生公衆衛生学 国民衛生の動向 厚生統計協会 ※授業中にプリントを配布する						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学習（週 1.5 時間）：配布したプリントの復習をしておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
授業終了後やオフィスアワーで適宜対応する。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 90％ 平常点及び提出物など 10％						
評価	成績評価別の到達度					
S	衛生学及び公衆衛生学の知識を活かした、健康・スポーツへの応用力を十分に身につけている。					
A	衛生学及び公衆衛生学の知識を活かした、健康・スポーツへ活かすことができる。					
B	衛生学及び公衆衛生学の知識を理解している。					
C	衛生学及び公衆衛生学の基礎的な知識を身につけている。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位			
専門教育科目		健康スポーツ演習 [Seminar in Health and Sports Science] 必修	4	N	S	M
授業形態		担当教員名			科目コード	
演習・ アクティブ・ラーニング		玉木 啓一		S-S6076		
この授業に関係する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1	科学的思考	競技力向上にスポーツ科学をどのように応用できるか？効率的に健康を維持増進するにはどうすればよい？ など、学生自らテーマを設定し、それらの疑問を解決することを目指し演習を進めていく。 学園祭の時期を目処として各自のテーマを中間発表としてまとめ、通年で各自のテーマをまとめる。				
2	ダイエット					
3	競技力向上					
学習の到達目標						
スポーツ科学（主にスポーツ生理学、バイオメカニクス）の手法を用いて、スポーツの現場にこれらの学問をどのように役立てることができるかを実践的に学習する。各自の研究テーマ（スポーツ技能の向上、ダイエットの成功 など）で成果を出すことが本科目の目標である。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	演習概略	過去の本演習でのテーマを紹介しながら、本演習の進め方を説明する（遠隔）				
2	科学的思考	事実の把握と、その奥にあるものについて考える力を養う（遠隔）				
3	スポーツと健康	本演習で主に応用する、スポーツ生理学からスポーツと健康について考える（遠隔）				
4	スポーツ科学とダイエット	科学的な観点からダイエットを考える（遠隔）				
5	スポーツ科学と競技力	スポーツ科学と競技力向上について学ぶ				
6	研究テーマの模索	各自の研究テーマについて考える				
7	テーマを決めるということ	研究テーマ決定のために必要なことを学ぶ				
8	研究テーマの決定	研究テーマの決定と研究方針の決定				○
9	研究方法の検討	研究テーマを調べるための方法・手法を調べ、どれが適切かを検討し決定する				○
10	研究手法の修得	研究実践のための手法を修得し実践力を身につける				○
11~14	情報・データの収集	研究を実践し、情報やデータを収集し、実験・測定などを行う				○
15	前学期 まとめ	研究の進捗状況を検証し、夏季休業中の計画を立てる				
16	研究計画検討	夏季休業中の状況を検討し今後の研究計画を確認する				
17~20	中間発表への準備	運動強度の指標としての心拍数を理解し、測定・実習する				
21	中間まとめ	中間発表をふりかえり、研究計画を検討する				
22-23	研究の改善	実践してきた研究について課題があれば課題解決の方法を検討し実践していく 研究の幅を広げるために、関連分野の知識・理解力・応用力を養う				○
24~25	研究のまとめ方	科学的思考に基づき、客観的な事実に基づいた正確な考察について学ぶ				
26~27	レポート作成	作成途中のレポートの改善のための指導を毎時間実施する				
28	研究発表	発表を行い、各自が行ってきた研究を他者からの評価を受け、さらに考察を深める				
	実施できなかった 2 回分	体力等の測定の実際を、時間外に対応を行い補った。各自が自宅にて行う測定の実施等にあてた。				
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
教科書：特になし 参考図書：アカデミック・スキルズ 大学生のための知的技法入門 佐藤望編著 慶應義塾大学出版会						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 0.5 時間）： 各自の研究課題、研究方法に関する情報を収集しまとめる。 事後学習（週 0.5 時間）： 授業で検討した事項を復習し、理解を深める						
課題に対するフィードバックの方法						
授業中の討論が主となるが、実験・測定の現場でも様々なフィードバックを行う。						
成績評価の目安と方法						
課題 50% 平常点 30% 発表 20% 平常点：授業への参加意欲・活動状況を評価する（授業時間以外での測定、調査研究等も加点）						
評価	成績評価別の到達度					
S	スポーツ科学（主にスポーツ生理学）の知識を活かした健康づくり、競技力向上を、応用力を備えて達成できる。					
A	スポーツ科学（主にスポーツ生理学）の知識を活かした健康づくり、競技力向上を、達成できる。					
B	スポーツ科学（主にスポーツ生理学）の知識を活かした健康づくり、競技力向上に取り組むことができる。					
C	スポーツ科学（主にスポーツ生理学）の知識を活かした健康づくり、競技力向上に向けた基礎が備わっている。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位			
専門教育科目		健康スポーツ演習 [Seminar in Health and Sports Science] 必修	4	N	S	M
授業形態		担当教員名		科目ナンバー		
演習・ アクティブ・ラーニング		杉山 仁志		S-S6076		
この授業に関する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1	バレーボール	バレーボールの戦術・スカンティング・練習方法等、色々な側面から捉え研究課題を見つける。 課題を実施及びレポート作成を行う。				
2	戦術					
3	スカウティング					
学習の到達目標						
あらゆるスポーツ競技の中で、バレーボールに限定し、探求する。 各自が研究課題となる事柄を考え、まとめる。						
回	テーマ	授業内容				AL
1～3	用語	前学期 研究課題 ○バレーボールの研究 書籍（V o l l e y p e d a i）を利用し、バレーボールの用語を正しく理解する（遠隔）				
4～7	技術・指導理論	書籍（バレーボール指導教本・コーチングバレーボール基礎編）を利用し、指導技術や指導理論を学ぶ				○
8～11	戦術理解	実際のゲーム（大学リーグ戦中心）を鑑賞し、様々なチームの戦術を検討する				○
12～15	スカウティング	実際のゲーム（大学リーグ戦中心）を鑑賞し、様々なチームに対しスカウティングを行う				○
16～18	研究 1	後学期 研究の実施 ○研究の実施 前学期に学んだ内容を考慮し、研究テーマを検討する				○
19～21	研究 2	研究テーマを発表し、研究グループをつくる				○
22～25	研究 3	各グループでの研究内容に沿って課題に取り組む				○
26～27	研究 4	研究課題をまとめる				○
		classroom を利用し、書籍（V o l l e y p e d a i）内のバレーボールの用語について、課題を提出				
試験等	レポート及び発表					
教科書及び参考図書						
参考図書：バレーボール指導教本（財）バレーボール協会編 大修館 コーチングバレーボール基礎編 日本バレーボール協会（編集）日本バレーボール学会（編集）大修館						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 0.5 時間）：課題に取り組むにあたって必要な資料を探し、熟読しておくこと。 事後学習（週 0.5 時間）：自らの課題で分からなかった事を調べておく。						
課題に対するフィードバックの方法						
課題をまとめ発表し、問題点を探求する。						
成績評価の目安と方法						
平常点 100%（研究テーマへの取組等）						
評価	成績評価別の到達度					
S	バレーボールの研究を自分のテーマに沿って十分に行い成果を発表できる。					
A	バレーボールの研究を自分のテーマに沿って行き成果を発表できる。					
B	バレーボールの研究を自分のテーマに沿って成果を発表できる。					
C	バレーボールの研究を自分のテーマに沿って行える。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位			
専門教育科目		健康スポーツ演習 [Seminar in Health and Sports Science] 必修	4	N	S	M
授業形態		担当教員名		科目コード		
演習・ アクティブ・ラーニング		高橋 琴美		S-S6076		
この授業に関する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1	指導法	スポーツ指導に関する興味・関心のあるテーマについて積極的に調べ、より効果的な練習法や指導法などを調べ、検討する。また「武蔵丘ハンドボールクリニック」に補助員として参加し、指導実践を行う。				
2	指導実践					
3	ハンドボール					
学習の到達目標						
各自が興味・関心のあるテーマについて積極的に調べ、実践・実習を通して、練習法・指導法を学習する。 対象者が異なる講習会のサポートすることで、指導現場での実践力を身につけることを目標とする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	ガイダンス	授業展開、評価についての説明、演習における注意点（遠隔）				
2～6	調査	これまで頑張ってきたスポーツについてまとめ、そのスポーツの良さ・楽しさが伝わるような「動画」を探す（遠隔）				
7・8	発表	各自が頑張ってきたスポーツについて、動画を紹介しながら発表する				○
9～13	指導法	いい指導者とは？いい指導者の条件とは？について自分の意見をまとめ、発表する				○
14～18	指導法	グループでミニゲームの指導案を作成する				○
19～26	指導実習	グループで作成した指導案をもとに練習方法・指導方法を実践する				○
27～28	指導法	指導実践の反省、記録の整理				
		毎時間課題を提出させ、内容への理解を深めた。また提出した課題に対して classroom のコメントで意見交換の時間を設けた。				
試験等	ポスター発表、課題提出					
教科書及び参考図書						
参考図書：目からウロコのシュート術、目からウロコの個人技術、目からウロコの DF 戦術（グローバル教育出版） また適宜資料を配付するが、必要に応じて各自で参考資料等を収集すること。						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 0.5 時間）： ハンドボール競技規則については毎時間しっかりと予習しておくこと。 事後学習（週 0.5 時間）： ゼミ活動を通して興味を持った内容について積極的に調べること。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、毎時間提出された小レポートにコメントを入れ返却する。						
成績評価の目安と方法						
演習への積極的な取り組み 50% 調査・発表 50%						
評価	成績評価別の到達度					
S	スポーツ指導者としてハンドボールへの理解を深め、対象者に合わせたより効果的な練習法や指導法を習得している。					
A	スポーツ指導者としてハンドボールへの理解を深め、より効果的な練習法や指導法を習得している。					
B	ハンドボールへの理解を深め、効果的な練習法や指導法を習得している。					
C	ハンドボールへの理解を深め、基本的な練習法や指導法を習得している。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		健康スポーツ演習 [Seminar in Health and Sports Science]	4			
授業形態		担当教員名		科目コード		
演習・ アクティブ・ラーニング		川井 明		S-S6076		
この授業に関係する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1	バスケットボール	ファンダメンタルの指導方法を学ぶ。ゲーム分析の方法について学ぶ。 バスケットボールに関する自分の興味のあるテーマについて調べまとめる。 事前に指導書などを読み、基本的な知識を学んでいることが望ましい。				
2	ファンダメンタル					
3	ゲーム分析					
学習の到達目標						
バスケットボールにおけるファンダメンタルの指導をすることができる。バスケットボールにおける基本的なゲーム分析を行うことができる。 自分の決めたテーマについて調べ、順序立ててレポートにまとめることができる。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	ガイダンス	バスケットボールに関する自身の興味を探る（遠隔）				
2・3	競技特性の理解①	歴史的な背景等について考える（遠隔）				○
4・5	競技特性の理解②	競技規則等について考える（遠隔）				○
6・7	競技特性の理解③	国内的な現状等について考える（遠隔）				○
8・9	競技特性の理解④	国際的な現状等について考える				○
10・11	プレゼンテーション①	これまでのバスケットボール競技特性を理解した上で、自身の興味について、プレゼンを行う				○
12・13	プレゼンテーション②	これまでのバスケットボール競技特性を理解した上で、自身の興味について、プレゼンを行う				○
14・15	プレゼンテーション③	これまでのバスケットボール競技特性を理解した上で、自身の興味について、プレゼンを行う				○
16・17	研究活動報告書作成①	研究テーマを決定				○
18～20	研究活動報告書作成②	先行研究を行う				○
21・22	研究活動報告書作成③	各自の研究活動				○
23・24	研究活動報告書完成	報告書を完成させ自身の研究についてプレゼンテーションを行う				○
25・26	まとめ①	報告書を完成させ自身の研究についてプレゼンテーションを行う				○
27	まとめ②	報告書を完成させ自身の研究についてプレゼンテーションを行う・本ゼミのふりかえり				○
		積極的な調査と報告書の作成及びプレゼンテーション能力の強化を目指す				
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
参考図書：バスケットボール指導教本 日本バスケットボール協会 大修館書店						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 0.5 時間）：バスケットボールに関する情報を、新聞やニュース・雑誌・インターネットや書籍等を通して収集すること。 事後学習（週 0.5 時間）：授業中の内容を復習すること。						
課題に対するフィードバックの方法						
毎時間のレポート提出やプレゼンテーション回収後に、フィードバックを行う。						
成績評価の目安と方法						
レポート 50% プレゼンテーション 50%						
評価	成績評価別の到達度					
S	バスケットボールに関する知識を十分に身に付け、分かりやすく説明することができる。					
A	バスケットボールに関する知識を十分に身に付け、説明することができる。					
B	バスケットボールに関する知識を概ね身に付けている。					
C	バスケットボールに関する知識を最低限身に付けている。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位			
専門教育科目		健康スポーツ演習 [Seminar in Health and Sports Science] 必修	4	N	S	M
授業形態		担当教員名		科目コード		
演習・ アクティブ・ラーニング		辻 将也		S-S6076		
この授業に関する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1	陸上競技	陸上競技のルールおよび種目特性について学習する。幅広い年代への指導方法について検討・実践し、陸上競技に対する知識と理解を深める。				
2	指導法					
3	種目特性					
学習の到達目標						
各種目および対象者における課題を発見し、その課題に適した練習方法・指導方法を身につけることを目標とする。 各自が設定したテーマについて検討し、まとめる。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	ガイダンス	授業の概要を説明する（遠隔）				
2・3	陸上競技の基礎理論	発育・発達および年代を考慮したトレーニング方法について学ぶ（遠隔）				
4・5	トレーニング理論	トレーニングの組み立て方、原理・原則について学ぶ（遠隔）				
6・7	走種目のコーチング 1	小学生を対象とした走種目のコーチングについて学ぶ				
8・9	走種目のコーチング 2	中学生を対象とした走種目のコーチングについて学ぶ				
10・11	走種目のコーチング 3	高校生を対象とした走種目のコーチングについて学ぶ				
12・13	走種目のコーチング 4	各年代への走種目のコーチングについて検討し、まとめる				○
14・15	跳躍種目のコーチング 1	小学生を対象とした跳躍種目のコーチングについて学ぶ				
16・17	跳躍種目のコーチング 2	中学生を対象とした跳躍種目のコーチングについて学ぶ				
18・19	跳躍種目のコーチング 3	高校生を対象とした跳躍種目のコーチングについて学ぶ				
20・21	跳躍種目のコーチング 4	各年代への跳躍種目のコーチングについて検討し、まとめる				○
22・23	投てき種目のコーチング 1	小・中・高生を対象とした投てき種目のコーチングについて学ぶ				
24・25	投てき種目のコーチング 2	各年代への投てき種目のコーチングについて検討し、まとめる				○
26～28	まとめ	各自が設定したテーマについて調べ、適切な練習方法および指導方法について発表する				○
	少なくなった回数分の内容	Classroom を利用して、資料の配布と小テストを実施した。間違えが多かった問題については、再度解説を行い、理解度を深めた。				
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
教科書：陸上競技指導教本アンダー13：（公財）日本陸上競技連盟編集 大修館書店 陸上競技指導教本アンダー16・19 初級編：（公財）日本陸上競技連盟編集 大修館書店						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 0.5 時間）： 授業の内容に関する情報（教科書・インターネット等）を事前に読んで学習しておくこと。 事後学習（週 0.5 時間）： 授業中の内容を復習し、わからない単語は調べて覚えること。						
課題に対するフィードバックの方法						
オフィスアワーで適宜対応する。						
成績評価の目安と方法						
演習への取り組み 60% 発表 40%						
評価	成績評価別の到達度					
S	自ら問題点を発見し、改善方法の検討・実践をし、特に優れた成果を上げている。					
A	自ら問題点を発見し、改善方法の検討・実践をし、優れた成果を上げている。					
B	自ら問題点を発見し、改善方法の検討・実践をし、成果を上げている。					
C	自ら問題点を発見し、改善方法の検討・実践をしている。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		健康スポーツ演習 [Seminar in Health and Sports Science] 必修	4			
授業形態		担当教員名		科目ナンバー		
演習・ アクティブ・ラーニング		村井 輝久		S-S6076		
この授業に関する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1	学校教育	受講生は指導案作成及び模擬授業を行うことで授業の技術の向上を目指す。また、授業のあり方を考えることによって、「主体的・対話的で深い学び」がどのようなものかを実践しながら検討する。さらに、教員採用試験の動向について調査、検討を加える。				
2	学習指導案					
3	模擬授業					
学習の到達目標						
積極的に自らの追究するテーマについての課題を設定して、そのテーマを考察し研究する能力を育成することを目標とする。また、模擬授業を行うことによって、教員としての指導能力の向上を目指す。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	オリエンテーション	演習の進め方に関する説明（遠隔）				
2～4	指導案作成	模擬授業に向けた学習指導案の作成（1回目）（遠隔）				
5～10	指導案検討	作成した学習指導案に基づく模擬授業の実施・講評				○
11～15	教員採用試験の動向	各都道府県の教員採用試験の動向を調査する				○
16	教育実習の準備	学習指導案の作成、教材研究の要点				○
17～18	教育実習の反省	教育実習を通して得られた知見および反省点についての報告				○
19～21	課題設定	問い、問題意識の明確化および課題の設定				○
22～29	レポート作成	レポートの作成およびそのための準備（遠隔）				
30	ふりかえり	学びの履歴の振り返り（遠隔）				
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
参考図書：文部科学省『中学校学習指導要領解説 道徳編』平成 27 年 7 月 文部科学省『中学校学習指導要領解説 保健体育編』平成 29 年 7 月 そのほか適宜資料を配布する						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 0.5 時間）：ゼミでディスカッションする教育に関するニュースや最新動向を新聞記事などから選び、それに対するコメントを用意する。 事後学習（週 0.5 時間）：指導案の改善。教員採用試験対策の問題に取り組む。						
課題に対するフィードバックの方法						
授業時間内のディスカッション、および指導案改善のための話しあいでのフィードバックする。						
成績評価の目安と方法						
模擬授業や学習指導案の内容 70% 教育に関する議論の参加態度 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	演習の議論に積極的に参加し、学習指導案や模擬授業でも完成度の高い成果を上げている。					
A	演習の議論に積極的に参加し、学習指導案や模擬授業でも一定の成果を上げている。					
B	演習の議論に参加し、学習指導案や模擬授業でも最低限の成果を上げている。					
C	演習の議論に参加したが、学習指導案や模擬授業ではいくつかの課題が見られる。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N			S	M
専門教育科目		健康スポーツ演習 [Seminar in health and sports science] 必修	4					
授業形態		担当教員名			科目コード			
演習・ アクティブ・ラーニング		田本 育代			S-S6076			
この授業に関する資格								
この授業のキーワード			授業概要					
1	サッカー	【前学期】 サッカーを科学的な視点でとらえ、自ら研究テーマを設定してレポートにまとめる。 【後学期】 前学期の成果をパワーポイントを用いて発表し、学園祭にてポスター発表を実施する。						
2	研究発表							
3	情報の収集、分析							
学習の到達目標								
サッカーを対象に研究テーマを各自で設定してレポートのまとめ、発表する。本ゼミは「私の専門はサッカーです」と言うためのゼミです。								
回	テーマ	授業内容						AL
1	ガイダンス	ゼミの内容等を説明（遠隔）						
2～4	先行研究の紹介	サッカーを対象とした先行研究を紹介し、抄読会を実施する（遠隔）						○
5	研究論文の書き方	論文を書く上での形式・マナーや仮説の立て方等を理解する（遠隔）						
6・7	研究方法の解説	研究するための方法について理解を深める（遠隔）						
8・9	研究テーマの設定	自らの興味をもとに、研究と呼ぶにふさわしいテーマを、教員とのディスカッションを介して設定する						○
10～12	データ収集・処理	実際の試合映像やインターネット上の情報からデータを収集し、解析・処理をしていく						○
13・14	結果・考察のまとめ方	データの扱い方および図表の呈示方法を整理し、仮説との整合性から考察をまとめる						
15・16	研究レポート作成	まとめや参考文献等を整理して研究レポートを完成させる						
17～19	プレゼンテーション	パワーポイントを用いて口頭発表用のプレゼンテーションスライドを作成する						○
20・21	口頭発表の説明	発表のマナーなど、いかにして傍聴者に理解を得るか、その方法を解説する						○
22・23	口頭発表会	各自の研究をパワーポイント上でわかりやすく発表し、質疑応答する						○
24・25	ポスター作製	ゼミの成果として学園祭における発表用のポスターを仕上げる						
26・27	ゲーム分析	サッカーの試合を VTR に収め、ゲーム分析を実施して「サッカーを観る目」を養う						○
28・29	コーチング分析	サッカー公認 C 級コーチ養成講習会「指導実践」の様子を VTR 撮影し、指導について理解する						
30	まとめ	ゼミ活動について、グループディスカッションをもとにまとめていく						
試験等	なし							
教科書及び参考図書								
参考図書：サッカー指導教本 日本サッカー協会								
準備学習・事後学習								
準備学習（週 0.5 時間）：分析内容を探してくる。 事後学習（週 0.5 時間）：授業時間内で終わらなかった点をまとめてくる。								
課題に対するフィードバックの方法								
レポートにコメントを入れ、返却する。								
成績評価の目安と方法								
レポート 40%、平常点 20%、研究発表 20%、ポスター発表 20%								
評価	成績評価別の到達度							
S	サッカーを深く理解したうえで、レポート、研究発表、ポスター発表において各自の意見を踏まえ論理的にその理解を表現できた。							
A	サッカーを良く理解したうえで、レポート、研究発表、ポスター発表において各自の意見を踏まえその理解を表現できた。							
B	サッカーを理解したうえで、レポート、研究発表、ポスター発表において各自の感想を踏まえてその理解を表現できた。							
C	サッカーを理解したうえで、レポート、研究発表、ポスター発表においてその理解を表現できた。							

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		学校保健 [School Health]	2			
授業形態		担当教員名		科目コード		
講義・ アクティブ・ラーニング		内藤 郁芳	実	S-S2077		
この授業に関係する資格						
教員免許（保健体育）						
この授業のキーワード		授業概要				
1	公衆衛生的機能	発達段階にある児童・生徒の健康・安全に関する知識を学ぶとともに、学校教育の中で健康・安全に関する活動がどのように展開されているかを理解し、学校現場において実践的に対応できる知識の習得を目指す。				
2	教育保健的機能					
3	ヘルスプロモーション					
学習の到達目標						
学校教育の中で、健康・体育・スポーツのスペシャリストとして、どのように学校全体の保健・安全にかかわっていくべきか、健康・安全の知識を用いて自分自身に問いかけ実践的行動につなげられるようになること。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	リエンション・学校保健とは	健康の定義・学校保健とは・学校保健の目的				
2	学校保健の概要 2	学校保健の構造・関係法令等				
3	学校保健の概要 3	学校現場における現状				○
4	子どもの心と体	学校における子供の心のケア・発育・発達				
5	健康相談	健康相談の意義・方法				○
6	心の健康問題	心の健康問題とは・心の健康問題における教職員の対応				○
7	感染症とその対応 1	学校における感染症の予防と対応				
8	感染症とその対応 2	事例研究（新型コロナウイルス感染症への対応について）				○
9	特別支援教育と学校保健	特別支援教育の理念と動向・特別支援教育を行うための体制整備と取り組み				
10	保健室の役割と学校保健"	保健室の教育的意義・養護教諭、校内組織				○
11	学校安全 1	学校安全とは・学校安全の構造				
12	学校安全 2	体育活動中の事故防止・種目ごとの留意点				○
13	危機管理	事例研究（明日香モデル）				○
14	これから求められる学校保健	学校保健の充実・チームとしての学校				○
15	まとめ・振り返り	全体の総括				
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
参考図書：柳園順子 編著「学校保健」ミネルヴァ書房 2019 年 文部科学省ＨＰ 学校保健・学校安全・食育のサイト（ https://www.mext.go.jp/a_menu/01_k.htm ） ※ その他、講義中の配付プリント						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学習（週 1.5 時間）：新聞、テレビなどで、学校に関するニュースや話題などをまとめておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
各回のレポートについては、次回にコメントを付し返却する。						
成績評価の目安と方法						
各回に課すレポートの内容 60％ 全体総括のレポートの内容 25％ 講義への参加態度 15％ として総合的に判断する。						
評価	成績評価別の到達度					
S	学校現場において、学校保健の知識を活かし自ら行うべきことを理解している。					
A	学校保健の知識をよく理解している。					
B	学校保健の知識を理解している。					
C	学校保健の基礎的な知識を身につけている。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		体育原理 [Sports Philosophy]	2			
授業形態		担当教員名		科目コード		
講義・ アクティブ・ラーニング		川井 明		S-S2078		
この授業に関する資格						
教員免許（保健体育）						
この授業のキーワード		授業概要				
1	体育・スポーツ史	体育やスポーツに関する歴史的な推移や意味をふまえ、現代の領域における諸問題を哲学的、倫理的に考察し、スポーツ関係者として望ましい実践に貢献できるような価値観の形成を目指す。 毎時間、理解度確認レポートを提出する。				
2	スポーツ哲学					
3	体育理論					
学習の到達目標						
古代から現代までのスポーツや体育の歴史を理解し、それをふまえて社会における体育やスポーツの持つ意味や現代における課題お哲学的な考え方を理解し、体育・スポーツの指導者としての各自の考えや明確にし、実際の指導に活かすことができるようにする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	ガイダンス	授業計画、歴史を学ぶ意味（遠隔）				
2	古代スポーツの歴史	ギリシャのスポーツと古代オリンピック（遠隔）				
3	ヨーロッパのスポーツ史	古代ローマから中世ヨーロッパのスポーツの歴史（遠隔）				
4	近代ヨーロッパの体育	ヨーロッパにおける体操教育（遠隔）				
5	近代イギリスのスポーツ教育	イギリスのパブリックスクールの歴史				
6	近代オリンピックの意義	オリンピックの歴史とその意義				
7	日本の体育・スポーツの歴史	日本の体育およびスポーツの歴史				
8	スポーツとジェンダー(1)	女性の体育・スポーツへの参加とその意義				○
9	スポーツとジェンダー(2)	女性のスポーツ参加を阻害する要因				○
10	スポーツマンシップを考える	スポーツマンシップとは何か				○
11	スポーツとハラスメント(1)	スポーツと暴力				○
12	スポーツとハラスメント(2)	スポーツとセクシュアルハラスメント				○
13	パラリンピックの意義・まとめ	オリンピックの歴史とその意義・本講義のふりかえり				○
14		毎回、授業終了後に授業内容のふりかえりレポートを提出。次回の授業において再度解説。				
15						
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
参考図書：体育哲学原論、大橋道雄編、不昧堂出版、2011 スポーツと教育の歴史、成田十次郎編、不昧堂出版、1988						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）： 体育・スポーツに関する情報を、新聞やニュース・雑誌・インターネットや書籍等を通して収集すること。 事後学習（週 1.5 時間）： 授業中の内容を復習すること。						
課題に対するフィードバックの方法						
理解度確認レポートの回収後、フィードバックを行う。						
成績評価の目安と方法						
理解度確認レポート 70% 筆記試験 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	体育・スポーツの歴史や現代社会における体育・スポーツの意義を十分に理解し、知識を体育・スポーツの指導に活用できる。					
A	体育・スポーツの歴史や現代社会における体育・スポーツの意義を十分に理解している。					
B	体育・スポーツの歴史や現代社会における体育・スポーツの意義をよく理解している。					
C	体育・スポーツの歴史や現代社会における体育・スポーツの意義を理解している。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		バイオメカニクス [Sports Biomechanics]	2			
授業形態		担当教員名		科目コード		
講義・ アクティブ・ラーニング		玉木 啓一		S-S3079		
この授業に関する資格						
アスレティックトレーナー						
この授業のキーワード		授業概要				
1	運動力学	バイオメカニクスの基礎学問である、力学、解剖学、生理学についても解説していきながら、バイオメカニクスを利用して、スポーツや動作を自分で解説できるように学んでいく。自ら問題意識を持って解決策を考える意欲が必要な科目である。				
2	身体構造					
3	競技分析					
学習の到達目標						
バイオメカニクスの基本的な知識を理解・習得し、健康やスポーツへ活かせる考え方を学び、その応用力を身につけることを目標とする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	バイオメカニクス概論	スポーツの技術理解に役立つバイオメカニクスと各種学問の関係について学習する (遠隔)				
2	身体の構造と運動	身体を構成する骨格や筋肉について学習し、運動の源について理解する (遠隔)				
3	運動と重心	重心と運動の関わりについて考える (遠隔)				
4	身体運動と力	ヒトの動きを起こす力について考える (遠隔)				
5	パワーと力	力とパワーについて理解し、これを高めるトレーニングについて学習する				
6	反動動作	巧みな動き、パワフルな動きには反動動作が潜んでいる。反動動作について理解する				
7	エネルギーと効率	運動の力学的エネルギーと効率について理解する				
8	流体の抵抗	スポーツにおける、空気抵抗や水の抵抗について理解する				
9	スポーツの情報解析	スポーツ理解のための情報収集と測定・分析について学習する				
10	歩行・走運動・跳躍運動	これまで学習した知識を統合して、歩行・走運動・跳躍運動について考える				○
11	投動作・打動作	これまで学習した知識を統合して、投動・打動作について考える				○
12	運動と技術	運動の技術について考える				○
13	総合討論	スポーツにおける課題を、バイオメカニクスを利用して考える				○
14		Classroom に動画を掲載し、その動画についてバイオメカニクスの観点から考察を行い、課題を提出させた。				○
15		時間外の課題を複数回課し、課題を提出させた。				○
試験等	レポート課題					
教科書及び参考図書						
参考書：スポーツ・バイオメカニクス入門 金子公有 杏林書院 参考書：アスレティックトレーナー専門科目テキスト						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：前回の授業を受け、スポーツをバイオメカニクスで応用する話題を準備する。 事後学習（週 1.5 時間）：授業内容を復習し、討論内容を振り返り各自が理解と応用力を考える。						
課題に対するフィードバックの方法						
授業中を中心として、解説・理解を繰り返していく。						
成績評価の目安と方法						
授業内の討論における課題・討論 60%と平常点 40%では自身の発表はもちろんであるが、他学生の意見に対する考察も重視する。 課題では、各自の検討内容の広範さ、考察の深さを評価していく。						
評価	成績評価別の到達度					
S	バイオメカニクスの知識を活かした、スポーツへの応用力を十分に持っている。					
A	バイオメカニクスの知識を良く理解し、スポーツへ活かすことができる。					
B	バイオメカニクスの知識を理解している。					
C	バイオメカニクスの基礎的な知識を身につけている。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		テーピング実習 [Taping]	2			
授業形態		担当教員名		科目コード		
実習・ アクティブ・ラーニング		高橋 琴美		S-S4080		
この授業に関係する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1	テーピング	関節の基本的構造と動きを理解するとともに、基本的なテーピングの理論と技術を習得する。				
2	スポーツ傷害					
3	関節の構造					
学習の到達目標						
足関節内反捻挫予防のテーピングについて、正しい知識と技術を修得することを目標とする。 様々な部位のテーピングについて、正しい知識と技術を修得することを目標とする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1・2	テーピングの基礎知識	テーピングの目的、基本的な巻き方				○
3・4	傷害・部位別テーピング	足関節内反捻挫予防（基本 1）				○
5・6	傷害・部位別テーピング	足関節内反捻挫予防（基本 2）				○
7・8	傷害・部位別テーピング	足関節内反捻挫予防（基本 3）				○
9・10	傷害・部位別テーピング	足関節内反捻挫予防（応用 1）				○
11・12	傷害・部位別テーピング	足関節内反捻挫予防（応用 2）				○
13・14	傷害・部位別テーピング	足関節内反捻挫に対する応急処置				○
15・16	傷害・部位別テーピング	足部のテーピング				○
17・18	傷害・部位別テーピング	下腿部のテーピング				○
19・20	傷害・部位別テーピング	膝関節のテーピング				○
21・22	傷害・部位別テーピング	大腿部のテーピング				○
23・24	傷害・部位別テーピング	手関節・手指のテーピング				○
25・26	傷害・部位別テーピング	各部位のテーピング（まとめ）（遠隔）				
27・28	傷害・部位別テーピング	筋肉サポートテープを用いたテーピング（遠隔）				
29・30	まとめ	全体の総括				
試験等	実技試験・筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：テーピングの教科書（日本文芸社） また、必要に応じて資料等を適宜配付する。						
準備学習・事後学習						
準備学習：次回内容をテキストで予習しておくこと。テキスト・配付資料・テープは、毎時間必ず持参すること。 事後学習：実習した内容は、各自繰り返し練習しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、毎時間学んだ技術をどのくらい習得できているか確認し、コメントする。						
成績評価の目安と方法						
実技試験 40% 筆記試験 30% 平常点 30% 理由のない遅刻・欠席は減点とする。						
評価	成績評価別の到達度					
S	関節の基本的構造と動きを理解し、その知識を活かしたテーピング理論と技術を十分に習得している。					
A	関節の基本的構造と動きを理解し、その知識を活かしたテーピング理論と技術を習得している。					
B	関節の基本的構造と動きを理解し、テーピング理論と技術を習得している。					
C	関節の基本的構造と動きを理解し、基本的なテーピング理論と技術を習得している。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		アスレティックトレーナー論 [Principles of Athletic Training]	2			
授業形態		担当教員名		科目コード		
講義・ アクティブ・ラーニング		荒川 崇	国	S-S3081		
この授業に関する資格						
アスレティックトレーナー						
この授業のキーワード		授業概要				
1	アスレティックトレーナー	アスレティックトレーナーの歴史からその業務内容およびスポーツドクターやコーチ、監督との連携についても学習する。				
2	役割					
3	運営					
学習の到達目標						
アスレティックトレーナーとしての哲学を学ぶ。 人間性や社会性を持ったアスレティックトレーナーになるために必要な内容を学ぶ。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	アスレティックトレーナーとは	アスレティックトレーナーの歴史、諸外国のアスレティックトレーナーの状況（遠隔）				
2	アスレティックトレーナーの業務（1）	アスレティックトレーナーの任務と役割（遠隔）				
3	アスレティックトレーナーの業務（2）	スポーツ外傷・障害の予防（遠隔）				
4	アスレティックトレーナーの業務（3）	スポーツ現場における救急処置（遠隔）				
5	アスレティックトレーナーの業務（4）	アスレティックリハビリテーション（遠隔）				
6	アスレティックトレーナーの業務（5）	コンディショニング（遠隔）				
7	アスレティックトレーナーの業務（6）	測定と評価				
8	アスレティックトレーナーの業務（7）	健康管理と組織運営				
9	アスレティックトレーナーの業務（8）	教育的指導				
10	コーチ・ドクターとの連携協力	サポートスタッフの役割とスポーツドクターとの連携・協力				○
11	組織運営と管理	スポーツの組織運営とアスレティックトレーナーの組織運営				○
12	アスレティックトレーナーと倫理	健康管理と法的諸問題、アスレティックトレーナーの社会的立場と倫理				
13	まとめ	アスレティックトレーナーとは？				○
		Classroom を利用して授業の補足資料を添付配信し、自宅でも復習をできるようにした。 また確認・復習小テストを実施し、理解度を高めた。				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト1 アスレティックトレーナーの役割						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：毎回の講義終了時に次回の内容についてのプリントを配布するので事前に読んでおくこと。 事後学習（週 1.5 時間）：毎回の講義開始時に前回講義内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
前回の講義内容に関する小テストを実施し、解答の解説を行う。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験およびプレゼンテーション 70% 平常点 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	アスレティックトレーナーの現状と役割を十分に理解し、活動現場で的確に業務遂行する能力を身に付けている。					
A	アスレティックトレーナーの現状と役割を良く理解している。					
B	アスレティックトレーナーの現状と役割を理解している。					
C	アスレティックトレーナーの現状を理解している。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		スポーツ生理学 [Sports Physiology]	2			
授業形態		担当教員名		科目コード		
講義		辻 将也		S-S3082		
この授業に関係する資格						
アスレティックトレーナー						
この授業のキーワード		授業概要				
1	生理学	トレーニングの基本理論、体力、スポーツのためのエネルギーを中心としながら、スポーツ生理学の知識を競技力向上に役立てるように学んでいく。				
2	エネルギー					
3	トレーニング					
学習の到達目標						
アスレティックトレーナーの資格必修科目である。スポーツの特性を生理学的観点から理解し、競技スポーツで、この学問をどのように役立てていけるかを自らが考える授業である。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	ガイダンス	生理学と競技力向上との関連とその応用の限界を考える				
2	スポーツと体力要素	スポーツに重要な体力要素について考える				
3	スポーツとエネルギー代謝	筋へのエネルギー供給の観点からスポーツを考える				
4	スポーツと骨格筋機能	スポーツに重要な骨格筋機能について考える				
5	スポーツとスキル	スキル・戦術が重要なスポーツ種目を考える				
6	スポーツと呼吸循環機能	スポーツ活動における呼吸循環系の応答を考える				
7	スポーツと体カトレーニング	トレーニングの原理・原則およびトレーニングについて考える				
8	スポーツと環境	環境がスポーツに及ぼす影響について考える				
9	スポーツと疲労	疲労の生理学的意味を知り、スポーツとの関連を学ぶ				
10	スポーツと酸化ストレス	運動やスポーツと酸化ストレスとの関連を学ぶ				
11	ウォームアップ	ウォームアップの生理学的意味を考える				
12	クールダウン	クーリングダウンの生理学的意味を考える				
13	スポーツと栄養およびサプリメント	競技力と飲料・サプリメントについて解説する				
14	競技力向上	競技力向上のための研究・ドーピングなどについて解説する（遠隔）				
15	まとめ	全体の総括（遠隔）				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書は指定しないが、適宜資料を配布する。 参考図書：「選手とコーチのためのスポーツ生理学」フォックス 大修館書店、「新・スポーツ生理学」村岡編著 市村出版 日本スポーツ協会 アスレティックトレーナー専門科目テキスト						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）： 授業内容に関する情報（参考図書、インターネット等）を、事前に読んで学習しておくこと。 事後学習（週 1.5 時間）： 授業の内容を復習し、わからない内容は調べて覚えること。						
課題に対するフィードバックの方法						
オフィスアワーで適宜対応する。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 80%、平常点および提出物など 20%、理由のない遅刻・欠席は減点 履修人数が少ない場合は、筆記試験を行わずに、平常点・提出物・口頭試験で成績評価を行う						
評価	成績評価別の到達度					
S	スポーツ生理学の知識を活かして、競技力向上を達成する能力を充分に有している。未知の課題へも対応できる力を有している。					
A	スポーツ生理学の知識を活かして、競技力向上を達成する能力を充分に有している。					
B	スポーツ生理学の知識を、競技力向上に役立てる能力を有している。					
C	スポーツ生理学の知識を、競技力向上に役立てる基礎を身につけている。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		スポーツ外傷・障害 [Acute and Chronic Sports Injuries]	4			
授業形態		担当教員名		科目コード		
講義・ アクティブ・ラーニング		荒川 崇	国	S-S3083		
この授業に関係する資格						
アスレティックトレーナー						
この授業のキーワード		授業概要				
1	スポーツ	全身の各パートにおいて発生する、各種外傷や障害の受傷機転、病態、診断、治療、予防について専門的に学ぶ。				
2	外傷					
3	障害					
学習の到達目標						
アスレティックトレーナーの知識として最も重要なスポーツの外傷・障害についての内容であり、これらの内容を完璧に理解することで初めてトレーナーとして認められる。						
回	テーマ	授業内容				AL
1・2	総論	講義の展開について、外傷と障害の違いについて など（遠隔）				
3・4	体幹のスポーツ外傷・障害①	頸部・腰背部（遠隔）				
5・6	体幹のスポーツ外傷・障害②	骨盤（遠隔）				
7・8	上肢のスポーツ障害・外傷①	肩部				
9・10	上肢のスポーツ障害・外傷②	肘関節、手・手指				
11・12	下肢のスポーツ障害・外傷①	大腿部				
13	まとめ	前期に行った各種パートについてのまとめ				○
14・15	下肢のスポーツ障害・外傷②	膝関節				
16・17	下肢のスポーツ障害・外傷③	下腿部				
18・19	下肢のスポーツ障害・外傷④	足・足関節				
20・21	重篤な外傷①	頭蓋骨骨折				
22・23	重篤な外傷②	脳損傷・脳震盪・脊髄損傷				
24・25	その他の外傷	顔面・目・鼻・耳・歯				
26・27	年齢・性別による特徴	女性・成長期・高齢者				
28	まとめ	後期に行った各種パートについてのまとめ				○
		Classroom を利用して授業の補足資料を添付配信し、自宅でも復習をできるようにした。また確認・復習小テストを実施し、理解度を高めた。				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：公認アスレティックトレーナー専門テキスト3 スポーツ外傷・障害の基礎知識						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：毎回の講義終了時に次回の内容についてのプリントを配布するので事前に読んでおくこと。 事後学習（週 1.5 時間）：毎回の講義開始時に前回講義内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
前回の講義内容に関する小テストを実施し、解答の解説を行う。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 5 0 % 課題提出 3 0 % 平常点 2 0 %						
評価	成績評価別の到達度					
S	スポーツの外傷・障害について十分に理解し、現場での活動に活かすことができる。					
A	スポーツの外傷・障害について良く理解し、現場での活動に活かすことができる。					
B	スポーツの外傷・障害について理解し、現場で活動ができる。					
C	スポーツの外傷・障害について理解することができる。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]		単位	
専門教育科目		健康管理とスポーツ医学 [Health Care Administration]		2	N S M
授業形態		担当教員名			科目コード
集中講義・ アクティブ・ラーニング		荒川 崇 ・ 太田 眞		国	S-S3084
この授業に関係する資格					
アスレティックトレーナー					
この授業のキーワード		授業概要			
1	アスレティックトレーナー	海外遠征時や国内での遠征時の注意点、死亡事故につながる暑熱環境についておよびドーピングコントロールなどについて幅広く、スポーツ医学の中でも特に内科系の内容を学ぶ。			
2	健康管理				
3	スポーツ医学				
学習の到達目標					
アスレティックトレーナーにとって内科的な知識は必要不可欠なものである。特に死亡事故が発生する可能性の高い暑熱環境の理解は必須である。					
回	テーマ	授業内容			AL
1	アスリートにみられる疾患 (1)	内臓器官などの疾患の病態、症状、対応策・処置などについて			
2	アスリートにみられる疾患 (2)	内臓器官などの疾患の病態、症状、対応策・処置などについて			
3	感染症対策 (1)	注意すべき感染症の種別、業態、症状と対応策			
4	感染症対策 (2)	海外遠征時における感染症対策			
5	アスリートにみられる 病的現象 (1)	病的現象の病態、症状、原因と対応策について			
6	アスリートにみられる 病的現象 (2)	摂食障害、減量障害への対応策と飲酒・喫煙などの問題について			
7	特殊環境のスポーツ医学 (1)	高所、低圧及び高圧に対する生体の反応とその環境での障害について			○
8	特殊環境のスポーツ医学 (2)	暑熱環境、低温環境に対する生体の反応とその環境での障害について			○
9	特殊環境のスポーツ医学 (3)	時差に対する生体の反応と海外遠征時の諸問題について			○
10	性別による特徴	女性特有の運動時の障害と運動参加時の注意点について			
11	年齢による特徴	高齢者・成長期の障害と運動参加時の注意点について			
12	内科的メディカルチェック (1)	メディカルチェックの目的とその内容について			○
13	内科的メディカルチェック (2)	運動負荷試験の目的とその内容について			○
14	ドーピングコントロール	アンチドーピングの目的・定義と禁止物質について			○
15	まとめ	今までに学習したすべての領域の総復習を行い、理解度を確認する			○
試験等	筆記試験				
教科書及び参考図書					
教科書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト4 健康管理とスポーツ医学					
準備学習・事後学習					
準備学習：講義終了時に次回の内容についてのプリントを配布するので事前に読んでおくこと。 事後学習：講義開始時に前回講義内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと。					
課題に対するフィードバックの方法					
毎回の講義内容に関する小テストを実施し、解答の解説を行う。					
成績評価の目安と方法					
筆記試験 50％ 課題提出 30％ 平常点 20％					
評価	成績評価別の到達度				
S	アスレティックトレーナーにとって必要な内科的医学知識を十分に理解し、対象アスリートの健康管理能力を身につけている。				
A	アスレティックトレーナーにとって必要な内科的医学知識を良く理解し、対象アスリートの健康管理能力を身につけている。				
B	アスレティックトレーナーにとって必要な内科的医学知識を理解し、対象アスリートの健康管理能力を身につけている。				
C	アスレティックトレーナーにとって必要な内科的医学知識と対象アスリートの健康管理について理解している。				

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N			S	M
専門教育科目		コンディショニング論 [Strength Training & Conditioning]	2					
授業形態		担当教員名			科目コード			
講義・ アクティブ・ラーニング		荒川 崇	国	S-S3085				
この授業に関する資格								
アスレティックトレーナー								
この授業のキーワード		授業概要						
1	コンディショニング	この授業では一般的な体力の向上のみならず専門的競技種目におけるピークパフォーマンス向上に必要な知識を学ぶ。また、トレーニングメニューの作成を行うために必要なスポーツ生理学などの知識を含めて学ぶことになる。						
2	ピークパフォーマンス							
3	構成因子							
学習の到達目標								
コンディショニングとはピークパフォーマンス発揮するためのすべての因を整えることであり、パフォーマンスの向上のために必要な各種理論およびトレーニングメニューの作成ができるようになる。								
回	テーマ	授業内容						AL
1	オリエンテーション 概論	本講座の学習内容・成績評価等に関する説明 コンディショニングとは？ コンディショニングとは？（定義・意義・目的）（遠隔）						
2	身体的因子	コンディショニングにおける身体的因子（遠隔）						
3	環境的因子	コンディショニングにおける環境的因子（遠隔）						
4	心因的因子	コンディショニングにおける心因的因子（遠隔）						
5	競技特性とコンディショニング①	球技系競技におけるコンディショニング サッカー、バレーボール（遠隔）						
6	競技特性とコンディショニング②	記録系競技におけるコンディショニング（遠隔）						
7	競技特性とコンディショニング③	採点系競技におけるコンディショニング						
8	競技特性とコンディショニング④	格闘系・コンタクトスポーツにおけるコンディショニング						
9	ピリオダイゼーション	パフォーマンス向上のためのピリオダイゼーション						
10	傷害予防と環境整備①	傷害予防のための環境整備（スタッフ・ステークホルダー）						○
11	傷害予防と環境整備②	傷害予防のための環境整備（ファシリティ）						○
12	コンディショニング プログラム作成	競技種目別コンディショニング プログラム作成（グループワーク）						○
13	まとめ	学習内容のまとめ						○
		Classroom を利用して授業の補足資料を添付配信し、自宅でも復習をできるようにした。 また確認・復習小テストを実施し、理解度を高めた。						
試験等	筆記試験							
教科書及び参考図書								
教科書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト6 予防とコンディショニング								
準備学習・事後学習								
準備学習（週 1.5 時間）：毎回の講義終了時に次回の内容についてのプリントを配布するので事前に読んでおくこと。 事後学習（週 1.5 時間）：毎回の講義開始時に前回講義内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと。								
課題に対するフィードバックの方法								
前回の講義内容に関する小テストを実施し、解答の解説を行う。								
成績評価の目安と方法								
筆記試験 40% 課題 30% 平常点 30%								
評価	成績評価別の到達度							
S	専門的競技種目におけるピークパフォーマンス向上に必要な知識を十分に活かしたコンディショニングを考案・実践できる。							
A	専門的競技種目におけるピークパフォーマンス向上に必要な知識をよく理解してコンディショニングを考案・実践できる。							
B	専門的競技種目におけるピークパフォーマンス向上に必要な知識を理解してコンディショニングを考案・実践できる。							
C	専門的競技種目におけるピークパフォーマンス向上に必要な知識を理解している。							

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		コンディショニング論実習 [Conditioning]	2			
授業形態		担当教員名		科目コード		
講義・実習・ アクティブ・ラーニング		荒川 崇・辻 将也	実	S-S5086		
この授業に係る資格						
健康運動実践指導者、アスレティックトレーナー、中高老年期運動指導士、介護予防運動スペシャリスト						
この授業のキーワード		授業概要				
1	コンディショニング	レジスタンストレーニングおよび各種トレーニングの方法・説明・実施、それぞれをリードアップして実際に動かす。				
2	トレーニング					
3	指導法					
学習の到達目標						
各種トレーニング、ウォーミングアップ・クーリングダウンなどの特異性や手順・方法を理解し、安全で効果的なプログラミングおよび指導を行う。						
回	テーマ	授業内容				AL
1・2	オリエンテーション ウォーミングアップ・クーリングダウン①／ウェイト トレーニング①	本講義の学習内容・成績評価等に関する説明 ウォーミングアップ・クーリングダウンの意義・目的／マシントレーニングの説明・実践				
3・4	ウォーミングアップ・クーリングダウン②／ウェイト トレーニング②	一般的ウォーミングアップの実践／BIG3＋1 トレーニング説明・実践①（遠隔）				○
5・6	ウォーミングアップ・クーリングダウン②／ウェイト トレーニング②	一般的ウォーミングアップの実践／BIG3＋1 トレーニング説明・実践②（遠隔）				○
7・8	ウォーミングアップ・クーリングダウン③／ウェイト トレーニング③	スタティックストレッチ、ペアストレッチ／BIG3＋1 トレーニングの説明・実践③（遠隔）				○
9・10	ウォーミングアップ・クーリングダウン③／ウェイト トレーニング③	スタティックストレッチ、ペアストレッチ／部位別フリーウェイトトレーニング①（遠隔）				○
11・12	ウォーミングアップ・クーリングダウン④／ウェイト トレーニング④	ダイナミックストレッチ、パリスティックストレッチ／部位別フリーウェイトトレーニング②（遠隔）				○
13・14	ウォーミングアップ・クーリングダウン④／ウェイト トレーニング④	ダイナミックストレッチ、パリスティックストレッチ／パワー系トレーニング（パワークリーンなど）の説明・ 実践（遠隔）				○
15・16	SAQトレーニング①／ウェイトトレーニング⑤	アジリティトレーニング／MAX 測定方法（1RM、5RM）（遠隔）				○
17・18	SAQトレーニング①／ウェイトトレーニング⑤	アジリティトレーニング／MAX 測定方法（1RM、5RM）（遠隔）				○
19・20	プライオメトリクストレーニング／代謝系トレーニ ング	プライオメトリクストレーニング／代謝系トレーニング説明・実践				○
21・22	SAQトレーニング②／ウェイトトレーニング⑥	クイックネス・スピードトレーニング／トレーニングルーティン・目的別トレーニング（遠隔）				○
23・24	SAQトレーニング②／ウェイトトレーニング⑥	クイックネス・スピードトレーニング／トレーニングルーティン・目的別トレーニング（遠隔）				○
25・26	サーキットトレーニング／レジスタンストレーニ ング・スタビリティトレーニング	サーキットトレーニング／自重を利用したレジスタンストレーニング・スタビリティトレーニング説明・実践 （遠隔）				○
27・28	サーキットトレーニング／レジスタンストレーニ ング・スタビリティトレーニング	サーキットトレーニング／自重を利用したレジスタンストレーニング・スタビリティトレーニング説明・実践 （遠隔）				○
29・30	指導案作成	競技力向上を目的とした指導案の作成（遠隔）				
試験等	指導実践試験（指導案課題対応）					
教科書及び参考図書						
教科書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト6 予防とコンディショニング ストレンクス＆コンディショニングⅠ理論編 ストレンクス＆コンディショニングⅡ エクササイズ編						
準備学習・事後学習						
準備学習：授業の内容に関する情報（教科書、インターネット等）を事前に読んで学習しておくこと。 事後学習：授業中の内容を復習し、わからない単語は調べて覚えること。						
課題に対するフィードバックの方法						
毎回の実習内容に関する実技確認を実施し、解説を行う。						
成績評価の目安と方法						
実践指導試験・課題提出 70％ 平常点 30％ 理由のない遅刻・欠席は減点						
評価	成績評価別の到達度					
S	各種トレーニングなどの特異性や手順・方法を十分に理解し、安全で効果的なプログラミング及び指導を行うことができる。					
A	各種トレーニングなどの特異性や手順・方法を理解し、安全で効果的なプログラミング及び指導を行うことができる。					
B	各種トレーニングなどの特異性や手順・方法を理解し、プログラミング及び指導を行うことができる。					
C	各種トレーニングなどを理解し、プログラミング及び指導を行うことができる。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N			S	M
専門教育科目		救急処置 [Emergency Treatment]	2					
授業形態		担当教員名			科目コード			
講義・ アクティブ・ラーニング		小島 丈治 ・ 小島 真由美	国	S-S3087				
この授業に関する資格								
アスレティックトレーナー								
この授業のキーワード			授業概要					
1	スポーツ現場における救急処置	スポーツ現場で発生する様々な傷病に関する基礎知識、現場での評価、およびリスク管理について学び、状態に応じた正しい救急処置の手順を学ぶ。また、傷病発生の予防と発生時の対応計画についても学ぶ。						
2	リスク管理							
3	評価							
学習の到達目標								
スポーツ現場で発生する傷病に対し、現場での評価と正しい救急処置の方法を修得する。								
回	テーマ	授業内容						AL
1	概要 1	アスレティックリハビリテーションの意義						○
2	心肺蘇生法	アスレティックリハビリテーションの手順およびリスク管理						○
3	外傷時の評価	可動域回復・拡大エクササイズ						○
4	外傷時の処置	神経筋協調性回復・向上エクササイズ						○
5	固定法	外傷予防・再発予防のためのエクササイズの考え方						○
6	止血法	傷害評価の考え方						○
7	創傷処置	機能評価の考え方						○
8	内科的疾患の処置 1	足関節疾患に対する評価およびプログラミング方法						○
9	内科的疾患の処置 2	膝関節急性外傷に対する評価およびプログラミング方法						○
10	内科的疾患の処置 3	膝関節慢性外傷に対する評価およびプログラミング方法						○
11	頭部外傷の処置	肉離れに対する評価およびプログラミング方法						○
12	頸部外傷の処置	腰部疾患に対する評価およびプログラミング方法						○
13	運搬法	肩関節疾患に対する評価およびプログラミング方法						○
14	救急体制	慢性障害に対する評価およびプログラミング方法						○
15	まとめ	競技種目特性に応じたプログラミング方法						○
試験等	筆記試験、実技試験							
教科書及び参考図書								
教科書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト8 救急処置								
準備学習・事後学習								
準備学習（週 1.5 時間）： 事前に、AT 教本の救急処置を読んでおくこと。 事後学習（週 1.5 時間）： 毎回授業初めに、前回の確認を行うので復習すること。								
課題に対するフィードバックの方法								
レポートのコメントをつけて返却する								
成績評価の目安と方法								
筆記試験 40％ 実技試験 40％ 授業への取り組み 20％								
評価	成績評価別の到達度							
S	様々な外傷・疾病に関する知識および評価と救急処置の手順を十分に理解している。							
A	様々な外傷・疾病に関する知識および評価と救急処置の手順をよく理解している。							
B	様々な外傷・疾病に関する知識および評価と救急処置の手順を理解している。							
C	様々な外傷・疾病に関する知識および評価と救急処置の手順を最低限理解している。							

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]		単位		N		S		M	
専門教育科目		見学実習 [Practical Observation]		1							
授業形態		担当教員名								科目コード	
実習（集中）・アクティブ・ラーニング		荒川 崇		国						S-S5088	
この授業に関係する資格											
アスレティックトレーナー											
この授業のキーワード			授業概要								
1	アスレティックトレーナー	アスレティックトレーナーが実際に働いている姿をみることによって、具体的な仕事の内容、コーチやドクターとの関係および選手との接し方を学ぶ。得た知識を活動現場でどのように活かすのかを学ぶ。									
2	活動現場										
3	見学										
学習の到達目標											
アスレティックトレーナーの仕事の実際を見学することにより、具体的な仕事の内容を理解し、自らの方向性を知ると同時に、将来への意欲を喚起する。											
回	テーマ	授業内容									AL
1 ～ 15	アスレティックトレーナーの具体的な役割の現状を知る	見学実習予定先 大崎電気ハンドボール部（埼玉県入間郡） R-body project（都内） 各種大会 学内部活動 など 実習先においてアスレティックトレーナーの活動の様子を学ぶ ○選手とのコミュニケーション ○コーチ・監督とのコミュニケーション ○スポーツドクターとの連携 ○当日の仕事の流れ ○アスレティックリハビリテーション ○現場での応急処置 ○トリートメントの様子									○
試験等	課題レポート										
教科書及び参考図書											
教科書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト全巻											
準備学習・事後学習											
準備学習：毎回の実習終了時に次回の実習内容についての説明をするので事前に調査しておくこと。 事後学習：毎回の実習終了時に実習内容に関するレポート課題を指示するので、次回実習開始時に提出すること。											
課題に対するフィードバックの方法											
毎回の実習内容に関する内容確認を実施し、解説を行う。											
成績評価の目安と方法											
レポート 70% 平常点 30%											
評価	成績評価別の到達度										
S	活動現場におけるアスレティックトレーナー業務の実際を十分に理解し、活動のイメージを想像できる。										
A	活動現場におけるアスレティックトレーナー業務の実際を良く理解し、活動のイメージを想像できる。										
B	活動現場におけるアスレティックトレーナー業務の実際を理解し、活動のイメージを想像できる。										
C	活動現場におけるアスレティックトレーナー業務の実際を理解している。										

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位			
専門教育科目		検査・測定と評価実習 [Special Test and Clinical Assessment of Injury]	2	N	S	M
授業形態		担当教員名			科目コード	
講義・実習・ アクティブ・ラーニング		荒川 崇	国	S-S5089		
この授業に係る資格						
アスレティックトレーナー						
この授業のキーワード		授業概要				
1	アスレティックトレーナー	レンジオブモーション（ROM）の測定、徒手筋力検査法（MMT）、各種反射試験、代謝系の測定、筋力・筋パワー測定ほか、測定と評価を行う。				
2	スペシャルテスト					
3	評価					
学習の到達目標						
アスレティックトレーナーとして必要な検査および測定の各種項目についての理論を学び、測定手技を正確に行えるようになる。またデーターについて評価できるようになる。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	競技者対応の検査・測定基礎	H O P Sにおける競技者に関する情報収集（遠隔）				
2	アライメント測定	姿勢身体アライメントの観察（遠隔）				
3	関節弛緩性検査	関節弛緩性検査の手技を反復（遠隔）				
4	関節可動域測定	関節可動域測定の手技を反復（遠隔）				
5	筋タイトネス検査	筋タイトネス検査の手技を反復（遠隔）				
6	筋力測定 1	徒手筋力測定（遠隔）				
7	筋力測定 2・筋パワー測定	器具等を用いた筋力測定、筋パワー測定				○
8	持久力測定	全身持久力の測定				○
9	敏捷性・協調性測定	敏捷性および協調性の測定				○
10	身体組成検査	身体組成検査の手技と測定結果の解釈・活用				○
11	一般的体力測定	新体力測定				○
12	ダイナミックアライメント 1	歩行動作の観察、走動作の観察、運動連鎖				○
13	総合解釈	全測定にいての総復習を行う				○
		Classroom を利用して授業（測定手技）の補足資料を添付配信し、自宅でも復習をできるようにした。また確認・復習小テスト（実技）を実施し、理解度を高めた。				
試験等	課題レポート					
教科書及び参考図書						
教科書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト5 検査・測定と評価						
準備学習・事後学習						
準備学習：毎回の実習終了時に次回の実習内容についてのプリントを配布するので事前に読んでおくこと。 事後学習：毎回の実習開始時に前回実習内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
毎回の実習内容に関する実技確認を実施し、解説を行う。						
成績評価の目安と方法						
レポート 70％ 平常点 30％						
評価	成績評価別の到達度					
S	アスレティックトレーナーに必要な検査および測定についての理論を十分に理解し、正確な測定手技とデーター評価能力を獲得する。					
A	アスレティックトレーナーに必要な検査および測定についての理論を良く理解し、正確な測定手技とデーター評価能力を獲得する。					
B	アスレティックトレーナーに必要な検査および測定についての理論を理解し、正確な測定手技とデーター評価能力を獲得する。					
C	アスレティックトレーナーに必要な検査および測定についての理論と正確な測定手技とデーター評価について理解する。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N			S	M
専門教育科目		スポーツ現場実習 [Internship of Athletic Training]	1					
授業形態		担当教員名			科目ナンバー			
実習・アクティブ・ラーニング		荒川 崇	国	S-S5090				
この授業に関する資格								
アスレティックトレーナー								
この授業のキーワード		授業概要						
1	アスレティックトレーナー	トレーナー業務の遂行において必要な各種テクニックを学ぶ。R I C E 処置、準備、片付け、記録、データ処理、連絡、報告の実践を行う。						
2	現場							
3	実践							
学習の到達目標								
スポーツの現場におけるトレーナー活動を通して、トレーナー業務の実践および選手とのコミュニケーション能力を高める。								
回	テーマ	授業内容						AL
1 ～ 15	アスレティックトレーナーの現場活動における経験を積む	チームへの帯同により日々のトレーナー業務を遂行 準備（水、アイス） テーピング ウォーミングアップのリードアップ リハビリテーション指導補助 ケガの応急処置 コンディショニングメニューのリードアップ クールダウン 運動後のトリートメント トレーナー日誌の記入 ヘッドトレーナーへの報告 ＊1～6 回目（遠隔）						○
		Classroom を利用して授業（現場行動）の補足資料を添付配信し、自宅でも復習をできるようにした。また確認・復習小テスト（実技）を実施し、理解度を高めた。						
試験等	課題レポート							
教科書及び参考図書								
教科書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト全巻								
準備学習・事後学習								
準備学習：毎回の実習終了時に次回の実習内容についての説明をするので事前に調査しておくこと。 事後学習：毎回の実習終了時に実習内容に関するレポート課題を指示するので、次回実習開始時に提出すること。								
課題に対するフィードバックの方法								
毎回の実習内容に関する内容確認を実施し、解説を行う。								
成績評価の目安と方法								
レポート 70％ 平常点 30％								
評価	成績評価別の到達度							
S	トレーナー業務の実践経験から知識、技能、選手とのコミュニケーション能力を獲得し、活動現場に活かせる。							
A	トレーナー業務の実践経験から知識、技能、選手とのコミュニケーション能力を十分に獲得する。							
B	トレーナー業務の実践経験から知識、技能、選手とのコミュニケーション能力を獲得する。							
C	トレーナー業務の実践経験から知識、技能、選手とのコミュニケーション能力の重要性を理解する。							

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位			
専門教育科目		アスレティックリハビリテーション実践実習 [Clinical Therapeutic Exercise and Rehabilitation Technique]	1	N	S	M
授業形態		担当教員名		科目コード		
講義・実習・ アクティブ・ラーニング		荒川 崇		実	S-S5091	
この授業に係る資格						
アスレティックトレーナー						
この授業のキーワード		授業概要				
1	アスレティックトレーナー	O K C、C K Cプログラム、心臓循環系のプログラム、可動域訓練、徒手抵抗運動、無酸素系の運動、スピードトレーニング、アジリティトレーニングなどの各種アスレティックリハビリテーションプログラムを実践する。				
2	アスレティックリハビリテーション					
3	実践					
学習の到達目標						
アスレティックリハビリテーションの実践を通し、スポーツ外傷・障害からの復帰の全てを学び、実践力を身につける。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	オリエンテーション、アスリハ概論	本実習の学習内容・成績評価等に関する説明および概論				
2	リハビリテーション マネジメント	S O A P ノートの書き方を学ぶ				○
3・4	組織運営	アスレティックトレーニングルームでの各種業務の遂行				○
5・6	メニュー作成	各種傷害別リハビリテーションメニューの作成実践				○
7・8	再発予防のコンディショニング	復帰期のコンディショニング				○
9・10	アスレティックトレーナーの役割 1	アスレティックリハビリテーション／スポーツドクターとの連携／S O A P ノートの作成				○
11・12	アスレティックトレーナーの役割 2	アスレティックリハビリテーション／ヘッドトレーナーとの連携／S O A P ノートの作成				○
13・14	アスレティックトレーナーの役割 3	アスレティックリハビリテーション／コーチ監督との連携／S O A P ノートの作成				○
15	総合解釈	これまでに実施した内容についての確認とまとめ				○
試験等	課題レポート					
教科書及び参考図書						
教科書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト7 アスレティックリハビリテーション						
準備学習・事後学習						
準備学習：毎回の実習終了時に次回の実習内容についてのプリントを配布するので事前に読んでおくこと。 事後学習：毎回の実習開始時に前回実習内容に関する口頭試問を実施するので復習しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
毎回の実習内容に関する実技確認を実施し、解説を行う。						
成績評価の目安と方法						
レポート 70% 平常点 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	アスレティックリハビリテーションの理論を活かした、段階的で安全なアスレティックリハビリテーションが実践できる。					
A	アスレティックリハビリテーションの理論を活かした、アスレティックリハビリテーションが実践できる。					
B	アスレティックリハビリテーションの理論を理解して実践できる。					
C	アスレティックリハビリテーションが実践できる。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		トレーナー総合実習 [Athletic Training]	2			
授業形態		担当教員名		科目コード		
演習・実習・ アクティブ・ラーニング		荒川 崇	国	S-S5092		
この授業に係る資格						
アスレティックトレーナー						
この授業のキーワード		授業概要				
1	アスレティックトレーナー	アスレティックトレーナーとして必要な各種業務を遂行できる能力を身につけるために、必要な知識と技能およびコミュニケーション能力を高める総合的な実習をおこなう。				
2	ミーティング					
3	実習					
学習の到達目標						
フィールドにおける実習および八室での実習を通し、応急処置、けがの予防、コンディショニング、選手の教育、アスレティックリハビリテーション、測定と評価などが総合的にできるようになる。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	オリエンテーション	本実習の学習内容・成績評価等に関する説明および概論（遠隔）				
2～6	測定・評価	レポート（スケジュール確認、インジュリーレポート、アセスメント→アクション）、測定・評価（遠隔）				
7～11	応急処置	ミーティング（スケジュール確認、インジュリーレポート、アセスメント→アクション）、スポーツ外傷・障害別応急処置				○
12・13	アスレティックリハビリテーション実践①	ミーティング（スケジュール確認、インジュリーレポート、アセスメント→アクション）、各種傷害別アスレティックリハビリテーション実践①				○
14～17	コンディショニング	ミーティング（スケジュール確認、インジュリーレポート、アセスメント→アクション）、競技スポーツ種目別コンディショニング実践				○
18～21	アスレティックリハビリテーション実践②	ミーティング（スケジュール確認、インジュリーレポート、アセスメント→アクション）、各種傷害別アスレティックリハビリテーション実践②				○
22～25	測定・評価実践	ミーティング（スケジュール確認、インジュリーレポート、アセスメント→アクション）、測定・評価実践				○
26・27	総括	ミーティング（スケジュール確認、インジュリーレポート、アセスメント→アクション）、後学期のまとめ（プレゼンテーション）				○
28	ディスカッション	ミーティング（スケジュール確認、インジュリーレポート、アセスメント→アクション）、アスレティックトレーナーについてのディスカッション				○
		Classroom を利用して授業（活動）の補足資料を添付配信し、自宅でも復習をできるようにした。また確認・復習小テスト（実技）を実施し、理解度を高めた。				
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
参考図書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト全巻						
準備学習・事後学習						
準備学習：毎回の実習終了時に次回の実習内容についての説明をするので資料を作成しておくこと。 事後学習：毎回の実習終了時にレポート課題を指示するので作成し、次回の実習開始時に提出すること。						
課題に対するフィードバックの方法						
毎回の実習内容に関する内容確認を実施し、解説を行う。						
成績評価の目安と方法						
プレゼンテーション 40％ 課題提出 30％ 平常点 30％						
評価	成績評価別の到達度					
S	アスレティックトレーナーの役割を十分に理解し、総合的にトレーナー業務を遂行することができる。					
A	アスレティックトレーナーの役割を十分に理解し、知識をトレーナー業務に活用することができる。					
B	アスレティックトレーナーの役割を理解し、トレーナー業務を行うことができる。					
C	アスレティックトレーナーの役割を理解するとともに、トレーナー業務に活かそうと努力できる。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位			
専門教育科目		陸上競技 1 [Basic Track & Field]	1	N	S	M
授業形態		担当教員名			科目コード	
実技・ アクティブ・ラーニング		辻 将也		S-S4093		
この授業に関する資格						
教員免許（保健体育）、健康運動実践指導者						
この授業のキーワード		授業概要				
1	走種目	陸上競技（走・跳・投種目）の基本的な技術を習得し、各種目がよりよく実施することが出来るようになる。				
2	跳躍種目					
3	投てき種目					
学習の到達目標						
陸上競技に必要な基礎動作を学び、走・跳・投の基本的な技術を身につける。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	オリエンテーション	授業の概要（展開方法、評価方法）を説明する（遠隔）				
2	ウォーキング&ジョギング	正しい姿勢でのウォーキングおよびジョギングについて知る（遠隔）				
3	短距離走Ⅰ・リレーⅠ	短距離走の技術ポイントおよびトレーニング方法とリレーのバトンパスのポイントを学ぶ（遠隔）				
4	中・長距離走	中・長距離走の技術ポイントおよびトレーニング方法を学ぶ（遠隔）				
5	ハードル走	ハードル走の技術ポイントおよびトレーニング方法を学ぶ（遠隔）				
6	跳躍Ⅰ	走り高跳びの技術ポイントおよびトレーニング方法を学ぶ（遠隔）				
7	跳躍Ⅱ	走り幅跳びの技術ポイントおよびトレーニング方法を学ぶ（遠隔）				
8	投てき	砲丸投の技術ポイントおよびトレーニング方法を学ぶ（遠隔）				
9	短距離走Ⅱ・リレーⅡ、ハードル走Ⅱ	短距離走の加速局面・中間局面の実践、バトンパスの実践、ハードル走の実践（遠隔）				○
10	短距離走Ⅱ・リレーⅡ、ハードル走Ⅱ	短距離走の加速局面・中間局面の実践、バトンパスの実践、ハードル走の実践（遠隔）				○
11	跳躍Ⅲ、投てきⅡ	走り幅跳びの実践、砲丸投の実践（遠隔）				○
12	跳躍Ⅲ、投てきⅡ	走り幅跳びの実践、砲丸投の実践（遠隔）				○
13	ウォーキング&ジョギングⅡ	正しい姿勢でのウォーキングおよびジョギングの実践（遠隔）				○
	少なくなった回数分の内容	Classroom を利用して、資料の配布と小テストを実施し、基礎知識を深めた。実技について、実技授業の動画を配信し、課題として授業内容をまとめ、提出させた。				
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
参考図書：陸上競技指導教本アンダー-16・19 初級編：（公財）日本陸上競技連盟編集 大修館書店						
準備学習・事後学習						
準備学習： 指定した種目に関する情報（参考図書、インターネット等）を事前に調べておくこと。						
事後学習： 自己の課題を理解し、事後学習に活用できるようにしておく。						
課題に対するフィードバックの方法						
オフィスアワーで適宜対応する。						
成績評価の目安と方法						
平常点（意欲・態度）70%、運動技能 30%、理由のない遅刻・欠席は減点						
評価	成績評価別の到達度					
S	授業に意欲的に取り組み、陸上競技に必要な基礎動作を十分に身につけている。					
A	授業に意欲的に取り組み、陸上競技に必要な基礎動作を概ね身につけている。					
B	授業にやや意欲的に取り組み、陸上競技に必要な基礎動作を概ね身につけている。					
C	授業にやや意欲的に取り組み、陸上競技に必要な基礎動作を最低限身につけている。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		陸上競技 2 [Advanced Track & Field]	1			
授業形態		担当教員名		科目コード		
実技・ アクティブ・ラーニング		辻 将也		S-S5094		
この授業に関する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1	指導法	短距離走、リレー、ハードル走、中・長距離走、走り高跳び、走り幅跳び、砲丸投げの指導を行う。				
2	トラック競技					
3	フィールド競技					
学習の到達目標						
陸上競技の指導法を学び、将来指導者となるために必要な指導技術を身につける。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	オリエンテーション	授業の概要（展開方法・評価方法）を説明する（遠隔）				
2	ウォーキング&ジョギング	正しい姿勢でのウォーキングおよびジョギングの復習（遠隔）				
3	短距離走Ⅰ・リレー	短距離走の技術ポイントおよびトレーニング方法とリレーのバトンパスのポイントの復習。指導案作成（遠隔）				
4	中・長距離走	中・長距離走の技術ポイントおよびトレーニング方法の復習と実践（遠隔）				
5	ハードル走Ⅰ	ハードル走の技術ポイントおよびトレーニング方法の復習。指導案作成（遠隔）				
6	跳躍	走り高跳び・走り幅跳びの技術ポイントおよびトレーニング方法の復習（遠隔）				
7	短距離走・リレーの指導実践Ⅰ	中学生対象を想定した短距離走・リレーの指導実践（指導案を作成し、指導実践する）				○
8	短距離走・リレーの指導実践Ⅱ	中学生対象を想定した短距離走・リレーの指導実践（指導案を作成し、指導実践する）				○
9	ハードル走の指導実践	中学生対象を想定したハードル走の指導実践（指導案を作成し、指導実践する）				○
10	走り高跳びの指導実践	中学生対象を想定した走り高跳びの指導実践（指導案を作成し、指導実践する）				○
11	走り幅跳びの指導実践	中学生対象を想定した走り幅跳びの指導実践（指導案を作成し、指導実践する）				○
12	砲丸投の指導実践	陸上競技 1（投てきⅠ）の復習および中学生対象を想定した砲丸投の指導実践（指導案を作成し、指導実践する）				○
13	まとめ	全体の統括				○
	少なくなった回数分の内容	Classroom を利用して、陸上競技 1 の内容の復習および確認テスト、指導案作成を課題として知識を深めた。実技について、事前学習を踏まえて、実際の指導現場を想定した指導実践を効率的に実施した。				
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
参考図書：陸上競技指導教本アンダー13：（公財）日本陸上競技連盟編集 大修館書店 陸上競技指導教本アンダー16・19 初級編：（公財）日本陸上競技連盟編集 大修館書店						
準備学習・事後学習						
準備学習： 指定した種目に関する情報（参考図書、インターネット等）を事前に調べておくこと。 事後学習： 自己の課題を把握し、事後学習に活用できるようにしておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして提出物にコメントを入れ、返却する。						
成績評価の目安と方法						
指導実践での指導内容（指導案を含む）70% 平常点（意欲・態度）30% 理由のない遅刻・欠席は減点						
評価	成績評価別の到達度					
S	陸上競技の特性および適切な指導方法を十分に理解し、安全面に考慮した指導を実践することができる。					
A	陸上競技の特性および適切な指導方法を十分に理解し、指導を実践することができる。					
B	陸上競技の特性および指導方法を概ね理解し、指導を実践することができる。					
C	陸上競技の特性および指導方法を理解し、指導を実践することができる。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		体操・器械運動 1 [Basic Gymnastics]	1			
授業形態		担当教員名		科目コード		
実技・ アクティブ・ラーニング		馬場 亮輔	実	S-S4095		
この授業に関する資格						
教員免許（保健体育）、子ども身体運動発達指導士						
この授業のキーワード		授業概要				
1	マット	器械運動とは、マット・跳び箱・鉄棒などの器械を使って自己の持つ能力を最大限に発揮し、多種多様な運動を行なう個人的スポーツである。すべての技は「技術」の上に成り立ち、各技における技術の獲得を本授業の目的とする。また、他者との競争や記録の向上を目指すものではなく、各種の障害や難しさに挑戦し、それを克服する楽しさを感じてもらいたい。				
2	跳び箱					
3	鉄棒					
学習の到達目標						
授業では、各種器械の基本技術を身につけることから出発し、「できない」⇒「できる」⇒「より上手に（美しく）できる」に到達することを目的とする。教員や指導者として最低限必要な技能を獲得すること。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	ガイダンス	授業計画、内容、評価方法等の説明				
2	マット	前転系 & 後転系				○
3	マット	倒立の練習（倒立前転）				○
4	マット	側方系（側方倒立回転 側方倒立回転とび）				○
5	マット	前方倒立回転とび（ハンドスプリング） & 総合練習				○
6	マット	マット運動 実技テスト				
7	鉄棒	入り技（足掛け上がり 逆上がり支持 け上がり）				○
8	鉄棒	中技（前回り支持 後ろ回り支持）				○
9	鉄棒	下り技（支持振動下向きひねり下り 開脚足裏支持回転下り 振りとび下り）				○
10	鉄棒	総合練習				
11	鉄棒	鉄棒 実技テスト				○
12	跳び箱	切り返し系（1 型開脚とび、2 型開脚とび）				○
13	跳び箱	切り返し系（1 型開脚とび、2 型閉脚とび）				○
14	跳び箱	回転系（台上前転、頭はねおき、転回とび） & 総合練習				○
15	跳び箱	跳び箱 実技テスト				
試験等	各種目終了時に実技テストを行う。					
教科書及び参考図書						
参考図書：「教師のための運動学」 監修：金子明友						
準備学習・事後学習						
準備学習：体操競技に関する基本的な知識の把握、実技練習に対する心身の準備（ストレッチなど）を事前に行うこと。 事後学習：実技練習で習得した課題技のポイントを振り返り、次回の授業に反映させること。						
課題に対するフィードバックの方法						
授業終了後やオフィスアワーで適宜対応する。						
成績評価の目安と方法						
各種目における技の修得・課題解決方法への理解 実技試験 60% 授業態度および取り組み姿勢 40%						
評価	成績評価別の到達度					
S	授業態度が良く、実技能力が抜群である。					
A	授業態度が良く、実技能力が優秀である。					
B	授業態度が良く、実技能力が中程度である。					
C	授業態度が良く、基本的な実技能力を身に付けている。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		体操・器械運動 2 [Advanced Gymnastics]	1			
授業形態		担当教員名		科目コード		
実技・ アクティブ・ラーニング		馬場 亮輔	国	S-S5096		
この授業に関係する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1	マット	器械運動とは、器械を使って自己の持つ能力を最大限に発揮し、多種多様な運動を行なう個人的スポーツである。すべての技は「技術」の上に成り立ち、各技における技術の獲得を本授業の目的とする。また、器械運動において必要とされる空中感覚を養うためにトランポリンを用いた練習を行う。				
2	跳び箱					
3	トランポリン					
学習の到達目標						
授業では、各種器械の基本技術を身につけることから出発し、「できない」⇒「できる」⇒「より上手に（美しく）できる」に到達することを目的とする。また、本授業では各種目において応用技の習得を目指す。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	ガイダンス	授業計画説明				
2	マット	前転系 後転系 倒立				○
3	マット	側方系 ハンドスプリング導入				○
4	マット	ハンドスプリング				○
5	マット	ハンドスプリング				○
6	マット	後転とび（バック転）				○
7	マット	後転とび（バック転）				○
8	マット	後転とび（バック転）				○
9	マット	後転とび（バック転）				○
10	跳び箱	切り返し系（開脚とび 閉脚とび 屈伸とび）				○
11	跳び箱	回転系（台上前転 倒立倒れこみ 前方倒立回転とび）				○
12	トランポリン	基礎技（レギュレーション）				○
13	トランポリン	応用技（レギュレーション）				○
14	トランポリン	ミニトランポリンを用いた技など				○
15	他種目	平行棒 平均台 あん馬 円馬				○
試験等	実技試験					
教科書及び参考図書						
参考図書：図解コーチ 体操競技・男子（スポーツシリーズ） 竹本正男（監修）						
準備学習・事後学習						
準備学習：体操競技に関する基本的な知識の把握、実技練習に対する心身の準備（ストレッチなど）を事前に行うこと。 事後学習：実技練習で習得した課題技のポイントを振り返り、次回の授業に反映させること。						
課題に対するフィードバックの方法						
授業中は勿論のこと、授業前後の時間を用いて適宜対応する。						
成績評価の目安と方法						
各種目における技の修得・課題解決方法への理解 実技試験 60% 授業態度および取り組み姿勢 40%						
評価	成績評価別の到達度					
S	授業態度が良く、実技能力が抜群である。					
A	授業態度が良く、実技能力が優秀である。					
B	授業態度が良く、実技能力が中程度である。					
C	授業態度が良く、基本的な実技能力を身に付けている。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		水泳 1 [Basic Swimming]	1			
授業形態		担当教員名			科目コード	
実技・ アクティブ・ラーニング		太田 あや子 ・ 高橋 季絵		S-S4097		
この授業に関係する資格						
教員免許（保健体育）、健康運動実践指導者						
この授業のキーワード		授業概要				
1	四泳法	クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライの四泳法の技能を習得し、100m個人メドレーの完泳をめざす。 水中運動指導の基礎技能を身につける。 子どもの安全な水泳指導法を身につける。				
2	水中運動					
3	安全水泳指導法					
学習の到達目標						
保健体育の授業運営が可能となるように各泳法の段階的指導を通じて泳力を高め、正しい泳法で泳ぐ技能を身につける。 健康づくりのための水中運動を理解する。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	ガイダンス	個人カード作成、能力判定表の作成（遠隔）				
2	泳法のポイントまとめ	（泳法の解説と図のトレース）：クロール（遠隔）				
3	泳法のポイントまとめ	（泳法の解説と図のトレース）：背泳ぎ（遠隔）				
4	泳法のポイントまとめ	（泳法の解説と図のトレース）：平泳ぎとバタフライ（遠隔）				
5	試し泳ぎとクロール(1)	試し泳ぎとチーム練習：キック、プル、息継ぎの練習、25m泳（令和３年度）				○
6	クロール	チーム練習：ターン練習と 50m泳、100m泳、レポート作成（令和３年度）				○
7	背泳ぎ(1)	チーム練習：キック、プル、呼吸法の練習、25m泳（令和３年度）				○
8	背泳ぎ(2)	チーム練習：ターン練習と 50m泳、レポート作成（令和３年度）				○
9	平泳ぎ(1)	チーム練習：キック、プル、息継ぎの練習、25m泳：伸びのある 9 動作（令和３年度）				○
10	平泳ぎ(2)	チーム練習：ターン練習と 50m泳、レポート作成（令和３年度）				○
11	バタフライ(1)	チーム練習：キック、プル、息継ぎの練習、25m泳（令和３年度）				○
12	バタフライ(2)	チーム練習：キック、プル、息継ぎの練習、25m泳、レポート作成（令和３年度）				○
13	水中運動	その場、歩いて、走って行う水中運動基礎プログラム（令和３年度）				○
14	安全水泳(1)	安全な水泳指導法講義と実技練習（令和３年度）				○
15	安全水泳(2)	子どもプール教室実習（令和３年度）				○
試験等	実技試験、レポート					
教科書及び参考図書						
教科書：水泳指導の手引き（三訂版） 文部科学省 アイフィス						
準備学習・事後学習						
準備学習：教科書の種目別練習法の泳法の画像から動作のイメージをつかみ、泳法習得のポイントを理解して備えること。 事後学習：毎時の練習記録を授業ノートにまとめておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
学習ノートの内容をふまえた課題解決にむけた指導助言を行う						
成績評価の目安と方法						
実技試験 70% レポート・平常点 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	200m個人メドレーが正しい泳法で泳げ、かつ 10 分間に 400mを泳ぐ泳力がある。					
A	100m個人メドレーが正しい泳法で速く泳げ、かつ 10 分間に 375mを泳ぐ泳力がある。					
B	100m個人メドレーが正しい泳法で泳げる。					
C	4 泳法が泳げる。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		水泳 2 [Advanced Swimming]	1			
授業形態		担当教員名		科目コード		
実技・ アクティブ・ラーニング		太田 あや子 ・ 高橋 季絵		S-S5098		
この授業に関係する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1	四泳法	クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライの四泳法の指導法を学ぶ。				
2	100m個人メドレー	水中運動指導の指導法を学ぶ。				
3	指導実習	幼児や小学生の安全な水泳指導法を学ぶ。				
学習の到達目標						
保健体育の授業運営が可能となるように各泳法の段階的指導法を理解し、指導計画、実践、点検し、改善する能力を修得する。 子どもの安全な水泳指導法を理解する。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	ガイダンス	個人カード作成、能力判定表の作成（遠隔）				
2	泳法指導のポイント 1	泳法のポイントまとめ（指導法の解説と図のトレース）：クロール、（遠隔）				
3	泳法指導のポイント 2	泳法のポイントまとめ（指導法の解説と図のトレース）：平泳ぎ、背泳ぎ（遠隔）				
4	泳法指導のポイント 3	泳法のポイントまとめ（指導法の解説と図のトレース）：バタフライ、水慣れ（遠隔）				
5	泳法指導のポイント 4	指導法動画からの指導案作成：クロール 1				
6	泳法指導のポイント 5	指導法動画からの指導案作成：クロール 2				
7	泳法指導のポイント 6	指導法動画からの指導案作成：平泳ぎ 1				
8	泳法指導のポイント 7	指導法動画からの指導案作成：平泳ぎ 2				
9	泳法指導のポイント 8	指導法動画からの指導案作成：背泳ぎ 1				
10	泳法指導のポイント 9	指導法動画からの指導案作成：背泳ぎ 2				
11	泳法指導のポイント 10	指導法動画からの指導案作成：幼児水泳 1				
12	泳法指導のポイント 11	指導法動画からの指導案作成：幼児水泳 2				
13	指導実習（1）	保育園水泳指導実習（水遊びプール清掃）				○
14	指導実習（2）	水泳指導実技 1（クロール、平泳ぎ、背泳ぎ指導法）：校外温水プール				○
15	指導実習（3）	水泳指導実技 2（クロール、平泳ぎ、背泳ぎ指導法）：校外温水プール				○
試験等	実技試験、指導案、レポート					
教科書及び参考図書						
教科書：水泳指導の手引き（三訂版） 文部科学省 アイフィス						
準備学習・事後学習						
準備学習：テキストの泳法指導法に目を通して、指導段階を理解しておくこと。 事後学習：毎時の授業内容を学習ノートにまとめておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
学習ノートの内容をふまえた課題解決にむけた指導助言を行う						
成績評価の目安と方法						
実技試験 40% 指導レポート 40% 平常点 20%						
評価	成績評価別の到達度					
S	200m個人メドレーが正しい泳法で泳げ、かつ 10 分間に 400mを泳ぐ泳力があり、高い水泳指導能力がある。					
A	100m個人メドレーが正しい泳法で速く泳げ、かつ 10 分間に 375mを泳ぐ泳力があり、高い水泳指導能力がある。					
B	100m個人メドレーが正しい泳法で泳げ、水泳指導能力がある。					
C	4 泳法が泳げ、水泳指導ができる。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		球技 1（バレーボール） [Basic Volleyball]	1			
授業形態		担当教員名		科目ナンバー		
実技・ アクティブ・ラーニング		杉山 仁志		S-S4099		
この授業に関する資格						
教員免許（保健体育）						
この授業のキーワード		授業概要				
1	バレーボール	バレーボールの基本的技術（オーバーハンドパス・アンダーハンドパス・サーブ・スパイク）を習得し、ゲームを楽しむことが出来る様にする。				
2	基礎技術					
3	審判法					
学習の到達目標						
バレーボールの特性にふれ、基本的な技能を身につけ、自らがバレーボールの楽しさを知ること为目标とする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	オリエンテーション	授業展開についての説明 評価についての説明				
2	基礎知識 1	初心者指導法（遠隔）				
3	基礎知識 2	構えと動きの基本（遠隔）				
4	基礎知識 3	パスとトス（遠隔）				
5	基礎知識 4	スパイク（遠隔）				
6	基礎知識 5	レシーブ・サーブレシーブ				
7	基礎知識 6	ブロック・サーブ				
8	基礎知識 7	ゲームを行う際の基本的なルール解説				○
9	基礎技術 1	オーバーハンドパス・アンダーハンドパスの習得				○
10	基礎技術 2	対人パスからレシーブ技術の習得				○
11	連携技術 1	複数人でのレシーブ技術の習得				○
12	基礎技術 3	スパイクの技術習得、サーブの技術習得、				○
13	連携技術 4	複数人でのサーブレシーブからの攻撃展開				○
14	連携技術 5	6 人制バレーボールのゲーム				○
15	まとめ・技術の確認	まとめ ※女子は、前半 9～15 回を実施し、後半 2～8 を実施				
試験等	実技試験					
教科書及び参考図書						
参考図書：バレーボールの学習指導 小鹿野友平、共著（不昧堂出版） バレーボール指導教本日本バレーボール協会編（大修館書店）						
準備学習・事後学習						
準備学習：楽しくゲームが行えるようにルールブック等を参照し、理解しておく。 事後学習：技術習得が不十分な場合には、時間外に個別で練習を行い、習得に心がける。						
課題に対するフィードバックの方法						
技術習得状況を授業の初めに確認する。						
成績評価の目安と方法						
実技試験（オーバーハンドパス・アンダーハンドパス・レシーブ・スパイク） 8 0 % 平常点・授業態度 2 0 %						
評価	成績評価別の到達度					
S	実技試験（オーバーハンドパス・アンダーハンドパス・レシーブ・スパイク）すべての技術を習得している。					
A	実技試験（オーバーハンドパス・アンダーハンドパス・レシーブ・スパイク）のうち 3 種目の技術を習得している。					
B	実技試験（オーバーハンドパス・アンダーハンドパス・レシーブ・スパイク）のうち 2 種目の技術を習得し、平常点も良好である。					
C	実技試験（オーバーハンドパス・アンダーハンドパス・レシーブ・スパイク）のうち 2 種目の技術を習得している。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	球技 2 (バレーボール) [Advanced Volleyball]		1			
授業形態	担当教員名			科目ナンバー		
実技・ アクティブ・ラーニング	杉山 仁志			S-S5100		
この授業に関する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1	バレーボール	授業の前半は、教育現場での指導を想定し展開する。 授業の後半は、社会体育の現場を想定し展開する。				
2	指導法					
3	審判法					
学習の到達目標						
バレーボールの基本技術を確認し、指導するために必要な技術と知識を習得する。 バレーボールの基本技術を活かし、高度な技術を習得する。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	オリエンテーション	オリエンテーション 授業展開の方法及び評価方法について説明				
2~3	指導法 1	中学校保健体育教員志望の学生に対し、教育現場での指導法を習得する。またそれを想定し、指導案を作成。模擬授業を行う				○
4~7	指導法 2	教員志望の学生を中心に、指導案を作成しそれにそって模擬授業を行う				○
8~10	指導法 3	地域スポーツでのバレーボール指導法を習得する。またそれを想定し、練習プログラムを作成する				○
11~14	指導法 4	地域スポーツでのバレーボール指導に必要なプログラムを各自で作成し、そのプログラムに則って、展開する				○
15	まとめ	まとめ・レポート作成				
試験等	レポート					
教科書及び参考図書						
参考図書：バレーボール指導教本 (財) 日本バレーボール協会編 大修館						
準備学習・事後学習						
準備学習：事前にバレーボールの指導書を熟読し理解をして授業に取り組む。 事後学習：自分が楽しむだけでなく、指導することを考え技術の習得、ルールの理解に励む。						
課題に対するフィードバックの方法						
授業の初めに技術習得状況の確認を行う。						
成績評価の目安と方法						
模擬授業及び模擬教室での指導内容 (レポート含む) 80% 平常点・授業態度 20%						
評価	成績評価別の到達度					
S	模擬授業及び模擬教室での指導内容が十分に行え、レポートが良くまとめられている。					
A	模擬授業及び模擬教室での指導内容が行え、レポートが良くまとめられている。					
B	模擬授業及び模擬教室での指導内容が十分に行え、レポートを提出している。					
C	模擬授業及び模擬教室での指導内容が行え、レポートを提出している。					

2020 武蔵丘短期大学

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		球技 1（ハンドボール） [Basic Handball]	1			
授業形態		担当教員名			科目コード	
実技・ アクティブ・ラーニング		高橋 琴美 ・ 榎 浩輔		S-S4099		
この授業に関する資格						
教員免許（保健体育）						
この授業のキーワード		授業概要				
1	ハンドボール	本授業ではハンドボールの基本的な技術を修得し、歴史・ルールを理解することで、よりハンドボールというスポーツへの理解を深めることをねらいとする。また、授業を通して各チーム内での公正性・協調性を養い、マナー等を身につけることによって、指導者としての態度を育てる。				
2	チームワーク					
3	歴史・ルールの理解					
学習の到達目標						
ハンドボールへの理解を深め、ハンドボールを楽しむこと、そしてハンドボールの基本的な技術を修得することを目標とする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	オリエンテーション	授業展開・評価についての説明、授業における注意事項、ルール説明とハンドボールの歴史				
2	基本技術 1	パス・キャッチ技術の修得、 動きの中でのパス・キャッチ技術の修得（ハーフコート→オールコート）				○
3	基本技術 2	動きの中でのパス・キャッチ技術の修得（練習方法） 基本的なシュート技術の修得①（ステップシュート・ジャンプシュート）				○
4	基本技術 3	基本的なシュート技術の修得②（シュートコースを意識する）				○
5	基本技術 4	各ポジションにおけるシュート技術の修得、ゴールキーパー技術の解説				○
6	基本技術 5	速攻 2：1 での攻撃（縦 1/2 コート）と防御				○
7	基本技術 6	速攻 1：0、1：1 での動きの修得、パスカット				○
8	グループ戦術 1	遅攻 3：2（パラレルプレー）での攻撃と防御				○
9	グループ戦術 2	遅攻 3：2（クロスプレー）での攻撃と防御				○
10	グループ戦術 3	遅攻 4：3（ポストプレー）での攻撃と防御				○
11	ゲーム 1	簡易ゲーム（ハーフコート）における個人技術の修得とルール解説と審判法				○
12	ゲーム 2	ゲームにおけるグループ戦術の修得と審判法の修得				○
13	ゲーム 3	ゲームにおけるグループ戦術の修得と審判法の修得とスコアのつけ方				○
14	ゲーム 4	ゲームにおけるグループ戦術の修得と審判法の修得とスコアの活用法				○
15	まとめ	全体の総括				
試験等	実技試験・レポート課題					
教科書及び参考図書						
参考図書：ハンドボール指導教本（大修館書店）、ハンドボール競技規則						
準備学習・事後学習						
準備学習： ルールについて、競技規則や映像などで確認しておくこと。 事後学習： 授業で学んだことを振り返り、しっかりと身につけられるよう練習をしておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、毎時間学んだ技術をどのくらい習得できているか確認し、コメントする。						
成績評価の目安と方法						
平常点 50% 実技試験 40% レポート 10% 理由のない遅刻・欠席は減点とする。						
評価	成績評価別の到達度					
S	ハンドボールへの理解を深め、基本的技術・グループ戦術ともに十分に修得している。					
A	ハンドボールへの理解を深め、基本的技術・グループ戦術を修得している。					
B	ハンドボールへの理解を深め、基本的技術を十分に修得している。					
C	ハンドボールへの理解を深め、基本的技術を修得している。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N			S	M
専門教育科目		球技 2（ハンドボール） [Advanced Handball]	1					
授業形態		担当教員名			科目コード			
実技・ アクティブ・ラーニング		高橋 琴美 ・ 榎 浩輔			S-S5100			
この授業に関する資格								
この授業のキーワード			授業概要					
1	ハンドボール	球技 1（ハンドボール）で修得した技術・戦術をもとに授業を発展させ、さらに進んだ技術・戦術を修得する。その中でグループでの取り組みを重視し、グループ活動を中心に授業を展開させていく。特に「指導法」を意識し、課題に対するグループでの発表等を通して、指導法を理解していく。						
2	指導法							
3	審判法							
学習の到達目標								
ハンドボールの課題に対する指導法を理解し、グループ戦術を修得することを目標とする。								
回	テーマ	授業内容						AL
1	オリエンテーション	授業展開・評価についての説明 授業におけるの注意事項とルール説明						
2	グループ戦術 1	様々なパスの練習方法の解説 1：1 突破（フェイント）の動きづくりと防御技術の修得						○
3	グループ戦術 2	様々なシュートの練習方法の解説 遅攻 2：2→4：4 の攻撃と防御						○
4	グループ戦術 3	様々なディフェンスの練習方法の解説 速攻 2：2→4：4 の攻撃と防御						○
5	指導法 1	与えられた課題に対するグループ発表（指導案を作り、実際に指導する）						○
6	指導法 2	与えられた課題に対するグループ発表（指導案を作り、実際に指導する）						○
7	指導法 3	与えられた課題に対するグループ発表（指導案を作り、実際に指導する）						○
8	指導法 4	与えられた課題に対するグループ発表（指導案を作り、実際に指導する）						○
9	指導法 5	グループ発表で体験したミニゲームの内容を踏まえ、個人で指導案作成（遠隔）						
10	チーム戦術	速攻での 6：6 の攻撃と防御 遅攻での 6：6 の攻撃と防御						○
11	ゲーム 1	各グループでの基本技術修得 ミニゲームにおける個人技術の修得						○
12	ゲーム 2	ゲームにおけるチーム戦術の修得 審判法の解説						○
13	ゲーム 3	ゲームにおけるチーム戦術の修得 審判法の修得						○
14	ゲーム分析	世界のハンドボールの特徴について						
15	まとめ	全体の総括						
試験等	レポート課題・グループ発表							
教科書及び参考図書								
参考図書：ハンドボール指導教本（大修館書店）、ハンドボール競技規則、誰でも教えられる！ハンドボール（梓書院）								
準備学習・事後学習								
準備学習：毎時間、指導法についてのレポートを提出するため、課題に対する教材研究をしておくこと。 事後学習：授業で学んだことを振り返り、しっかりと身につけられるよう練習をしておくこと。								
課題に対するフィードバックの方法								
フィードバックとして、提出されたレポートにコメントを入れ返却する。								
成績評価の目安と方法								
実技及びレポート 40% 平常点 30% グループ発表 30% 理由のない遅刻・欠席は減点とする。								
評価	成績評価別の到達度							
S	ハンドボールの課題に対する指導法を理解、実践することができ、グループ戦術・チーム戦術を修得している。							
A	ハンドボールの課題に対する指導法を理解し、グループ戦術・チーム戦術を修得している。							
B	ハンドボールの課題に対する指導法を理解し、グループ戦術を修得している。							
C	ハンドボールの課題に対する指導法を理解し、基本的なグループ戦術を修得している。							

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	球技 1 (バスケットボール) [Basic Basketball]		1			
授業形態	担当教員名			科目コード		
実技 アクティブ・ラーニング	川井 明			S-S4099		
この授業に関係する資格						
教員免許状 (保健体育)						
この授業のキーワード		授業概要				
1 2 3	バスケットボール ファンダメンタル リーダーシップ	授業の前半部分でパス、ドリブル、シュートなど基本練習を行い、後半部分はそれらをふまえてゲームを行う。 ※運動に適した服装で受講すること (ジーンズなどでの参加は認めない)。運動靴で構いませんが、怪我の予防 の為、素足は不可とする。 前回の授業で学んだ内容のなかで苦手とする内容については空き時間を活用し反復練習すること。				
学習の到達目標						
バスケットボールを楽しむための技術・知識・態度を学び、社会性 (協調性、チームワーク、リーダーシップなど) の育成を目指す。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価に関する説明 チーム編成				
2	レイアップシュート 1	アンダーハンドのレイアップ				○
3	レイアップシュート 2	オーバーハンドのレイアップ、レイバック				○
4	セットシュート 1	セットシュートの基本 (ボールの持ち方、姿勢、膝の使い方)				○
5	セットシュート 2	セットシュートの基本 (ゴール下のシュート、フリースロー)				○
6	パス 1	チェストパス、サイドハンドパス				○
7	パス 2	スクウェアパス				○
8	ドリブル 1	ボールハンドリング、ドリブルの基本				○
9	ドリブル 2	ボールハンドリング、状況に応じたドリブル				○
10	速攻 1	ツーメン速攻				○
11	速攻 2	スリーメン速攻				○
12	競技の誕生の背景を探る	1891 年 12 月 21 日に誕生したバスケットボールの歴史的な背景を考察 (遠隔)				
13	競技の発展の背景を探る 1	バスケットボールの誕生や生い立ちに寄与した人物を考察 (遠隔)				
14	競技の発展の背景を探る 2	バスケットボールの発展に寄与した人物を考察 (遠隔)				
15	競技の発展の背景を探る 3	バスケットボールの国内における発展に寄与した人物を考察 (遠隔)				
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
参考図書: バスケットボール指導教本 日本バスケットボール協会 大修館書店						
準備学習・事後学習						
準備学習: バスケットボールに関する情報を、新聞やニュース・雑誌・インターネットや書籍等を通して収集すること。 事後学習: 授業中の内容を復習すること。準備学習						
課題に対するフィードバックの方法						
授業中において、個人やグループ、チームに対して、随時適切なフィードバックを行う。						
成績評価の目安と方法						
運動技能 60% 授業態度 20% 実技試験 20%						
評価	成績評価別の到達度					
S	基本的な技能を十分に身に付け、授業内でリーダーシップを発揮している。					
A	基本的な技能をおおむね身に付け、意欲的に取り組む姿勢が見られる。					
B	基本的な技能をある程度身に付け、ゲームに活かすことができる。					
C	基本的な技能を理解し、いくつかを身に付けている。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		球技 2（バスケットボール） [Advanced Basketball]	1			
授業形態		担当教員名			科目コード	
実技 アクティブ・ラーニング		川井 明		S-S5100		
この授業に関する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1	バスケットボール	授業の前半は指導方法の実践、後半はゲームを行う。グループでの話し合いにより、与えられた課題に対する練習メニューを決定し、実際に指導することにより、指導方法に対する理解を深める。 ※球技 1（バスケットボール）を履修して「A」評価以上を得ていることが望ましい。				
2	模擬授業					
3	指導方法					
学習の到達目標						
球技 1（バスケットボール）で習得した基本的な技術・戦術を確認し、さらに発展させていくことを目指す。更にグループごとに課題を決定し、バスケットボールの指導を実践していく。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	ガイダンス	授業の進め方 評価に関する説明				
2	復習	球技 1 で学んだ内容の復習				○
3	1 対 1	オフェンスの考え方 アウトサイド インサイド				○
4	1 対 1	ディフェンスの考え方 アウトサイド インサイド				○
5	チームオフェンス 1	ハーフコートバスケットにおける基本的なポジショニング				○
6	チームオフェンス 2	パス＆ゴー				○
7	チームオフェンス 3	スクリーンプレイを用いた攻防				○
8	ファストブレイク 1	ツーマン				○
9	ファストブレイク 2	状況に応じたスリーメンの作り方 アーリーオフェンス				○
10	チームディフェンス 1	シェルディフェンス				○
11	チームディフェンス 2	ヘルプディフェンス				○
12	チームディフェンス 3	ゾーンディフェンス				○
13	模擬授業 1	上記の内容をふまえた模擬授業の展開 1				○
14	模擬授業 2	上記の内容をふまえた模擬授業の展開 2				○
15	競技の誕生の背景を探る	1891 年 12 月 21 日に誕生したバスケットボールの歴史的な背景を考察（遠隔）				
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
参考図書：バスケットボール指導教本 日本バスケットボール協会 大修館書店						
準備学習・事後学習						
準備学習： バスケットボールに関する情報を、新聞やニュース・雑誌・インターネットや書籍等を通して収集すること。 事後学習： 授業中の内容を復習すること。						
課題に対するフィードバックの方法						
授業中において、個人やグループ、チームに対して、随時適切なフィードバックを行う。						
成績評価の目安と方法						
理解・技能 70% 意欲・態度 30% 特に、実技試験は行わないが、授業中の積極的な態度や模擬授業の内容について、総合的に評価する						
評価	成績評価別の到達度					
S	仲間と連携した動きを十分に理解・実践し、授業内でリーダーシップを発揮できる。					
A	仲間と連携した動きを十分に理解し・実践できる。					
B	仲間と連携した動きをよく理解し・実践できる。					
C	仲間と連携した動きをおおむね理解し・実践できる。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		球技 1 （サッカー） [Basic Soccer]	1			
授業形態		担当教員名			科目コード	
実技・ アクティブ・ラーニング		田本 育代		S-S4099		
この授業に関する資格						
サッカー公認 C 級コーチ、教員免許（保健体育）						
この授業のキーワード		授業概要				
1	サッカー・フットサルコース	個人の技術・戦術を中心に、ボールポゼッションに特化したグループ戦術へと展開していく。授業は、その時間のテーマに則り、前半を技術・戦術の練習にあて、後半にミニゲームを行なう。また、簡単な実技試験を課す。雨天時はサッカーの歴史や語源、ルール等を理解するための講義とし、筆記テストを実施する。				
2	実技&講義					
3	語源・歴史・ルールの理解					
学習の到達目標						
世界でもっとも愛され親しまれているサッカー（フットボール）を楽しむことにより、その魅力に迫るとともに基礎技術と個人戦術の習得や歴史・ルールの理解を通してサッカーに対する造詣を深めることを目標とする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	ガイダンス	ガイダンス（遠隔）				
2	ドリブル	ジグザグドリブル、顔を上げたドリブル、スピーディなドリブル、ミニゲーム				○
3	コントロール	クッション&ウエッジコントロール、グラウンダーのコントロール、ミニゲーム				○
4	キック	インサイドキック、アウトサイドキック、インステップキック、インフロントキック、ミニゲーム				○
5	フェイント	マッシュ、シザーズを初めとした 6 種類のフェイントの習得、ミニゲーム				○
6	スクリーン&ターン	スクリーンと 6 種類のターン技術の習得、ミニゲーム				○
7	ボールポゼッション①	2 対 1、3 対 1、ミニゲーム				○
8	ボールポゼッション②	3 対 1、4 対 2、ミニゲーム				○
9	ボールポゼッション③	5 対 3、5 対 5、ミニゲーム				○
10	講義：障がい者サッカー	日本障がい者サッカー協会の役割（遠隔）				
11	講義:サッカーの歴史	F A 設立とサッカーの語源、サッカーの母国の特権、W杯とオリンピックの比較（遠隔）				
12	講義:競技規則①	フェアプレーの精神、第一条 競技のフィールド、第 2 条 ボール他（遠隔）				
13	講義:競技規則②	反則と不正行為、フリーキック、オフサイド（遠隔）				
14	講義:システムの変遷	守備の方法とオフサイドルール改正等に伴うシステムの変遷（遠隔）				
15	講義まとめ	振り返りとまとめ				
試験等	実技試験、講義内テスト					
教科書及び参考図書						
参考図書：サッカー指導の教科書（日本サッカー協会著）						
準備学習・事後学習						
準備学習：個人練習。最低限のルールについては覚えておくこと。 事後学習：授業で学んだことを振り返ること。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして理解度確認テストに解答の解説を行う。						
成績評価の目安と方法						
受講意欲 60% 実技試験 20% 講義内テスト 20%						
評価	成績評価別の到達度					
S	サッカーへの造詣を深めたうえに、習修した技術と戦術をゲームでいかすことができ、さらに、教育実習においても満足な指導ができる。					
A	サッカーへの造詣を深めたうえに、習修した技術と戦術をゲームで活かすことができる。					
B	サッカーへの造詣を深めたうえに、基礎的な技術と戦術を習得することができる。					
C	サッカーの基礎的な技術を習得することができる。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		武道（柔道） [Judo]	1			
授業形態		担当教員名		科目ナンバー		
実技（集中）・ アクティブ・ラーニング		竹澤 稔裕・杉山 仁志・川井 明		S-S4101		
この授業に関する資格						
教員免許（保健体育）						
この授業のキーワード		授業概要				
1 2 3	柔道 中学校教員 礼法	柔道の特性である精神善用・自他共栄とは何かを知り、身体への影響・精神への影響及び対人的スポーツとしての柔道の内容を理解する。技能としては、投げ技・固め技及び受け身の基本動作を習得する。				
学習の到達目標						
中学校教員として、授業を行う際の基本的な技術と指導方法を身に付けることを目標とする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	武道・柔道	オリエンテーション、柔道衣の取扱い方、柔道の歴史と特性についての知識を深める、柔道学習におけるリスクマネジメントについて				○
2	礼法・受け身	礼法と受け身、崩しと体捌きなどの基本動作の学習、受け身については、後ろ受け身の学習と、受け身の指導原則について				○
3	投げ技	横受け身、投げ技の基本動作の原理と指導の留意点				○
4	投げ技	膝車、支え釣り込み足の学習と指導方法、特に段階別指導法について				○
5	投げ技	大腰、体落としの学習と指導方法、特に投げ技の指導の原理と原則				○
6	固め技	固め技の基本動作、袈裟固めの学習【抑え方、逃れ方】と指導法				○
7	固め技	横四方固めの学習【抑え方、逃れ方】と、上四方固めの学習【抑え方、逃れ方】と指導法				○
8	固め技	固め技の攻撃・防御のための補強運動の理解、縦四方固め、肩固めの学習【抑え方、逃れ方】と指導法				○
9	背負い技	一本背負い投げ、背負い投げの学習と指導法、かかり練習、約束練習、自由練習の考え方と指導法				○
10	刈り技	大外刈り、大内刈り、小内刈りの学習と指導法				○
11	連絡技	既習の投げ技の連絡技と変化技。既習の抑え技の連絡技				○
12	腰技	大腰、浮腰の学習と指導方法、試合練習の考え方				○
13	絞り技	裸絞、送り襟絞、片羽絞の学習と指導法、様々な試合練習の考え方				○
14	柔道実践	柔道の特性に基づく学習指導と評価について【授業実施に向けて】				○
15	まとめ	まとめ				○
試験等	受け身と投げ技の実技試験					
教科書及び参考図書						
参考図書：中学校学習指導要領解説 保健体育編、Q & A 中・高校柔道の学習指導 大修館書店						
準備学習・事後学習						
準備学習：寒い中での活動になるので、体調管理を整え、実技に取り組めるよう努める。 事後学習：運動量が多いので、家でもストレッチ等を行うなど、疲れを残さないように努める。						
課題に対するフィードバックの方法						
技の確認におけるフィードバックはその都度口頭で行い、必ず理解をしてから次のステップに進むようにする。						
成績評価の目安と方法						
平常点 50% 実技試験 50%						
評価	成績評価別の到達度					
S	柔道の技術を十分に習得している。					
A	柔道の技術を習得している。					
B	柔道の基本的な技術を十分に習得している。					
C	柔道の基本的な技術を習得している。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		ダンス・表現運動 [Beginning Dance Exercise]	1			
授業形態		担当教員名		科目ナンバー		
実技・ アクティブ・ラーニング		岡本 恵子	国	S-S4102		
この授業に関する資格						
教員免許（保健体育）、子ども身体運動発達指導士						
この授業のキーワード		授業概要				
1	ダンス	ステップ・フリーズ練習や、いろいろな課題による表現、フォークダンス、キッズダンス、日本民謡などを学び、最後にグループで一つのまとまりのある創作作品の完成発表を目指す。				
2	表現					
3	からだ					
学習の到達目標						
グループ創作を中心に、自らの体験を通して踊る楽しさを知り、体への意識を高める。ダンス学習に積極的に取り組み、お互いの個性や表現を認め合い、人間の表現について理解を深める。						
回	テーマ		授業内容			AL
1	ガイダンス（授業概要の説明）		ダンスの基礎知識 レポート課題			
2	ステップ・フリーズ練習 1 いろいろな課題による表現 1		布を使って表現 シャドーとミラー 即興			○
3	ステップ・フリーズ練習 2 フォークダンス基礎		シングルサークルのダンス マイムマイム ほか			
4	ステップ・フリーズ練習 3 フォークダンス		ダブルサークルのダンス カップルポジション			
5	ステップ・フリーズ練習 4 いろいろな課題による表現 2		キッズダンス 英語の歌			○
6	からだほぐし 1 日本民謡 1		炭坑節 春駒 ほか			
7	からだほぐし 2 日本民謡 2		花笠音頭			
8	からだほぐし 3 アジアのダンス		中国 採茶舞曲 ほか			
9	いろいろな課題による表現 3 グループ創作 1		花 曲選び イメージ			○
10	いろいろな課題による表現 4 グループ創作 2		大きな布を使って表現 テーマ モチーフ			○
11	グループ創作 3		全体の流れを考える モチーフからの発展			○
12	グループ創作 4		音楽に合わせて			○
13	グループ創作 5		一つの作品にまとめる			○
14	グループ創作作品発表会		ビデオ撮影 、 レポート提出			○
15	全体のまとめ		グループ創作作品鑑賞			
試験等	実技試験 、 レポート課題					
教科書及び参考図書						
参考図書：「ダンスの教科書」（成美堂出版） * 授業中に必要に応じて、教材を配布する						
準備学習・事後学習						
準備学習：日頃から身体表現・ダンスに関心を持ち、積極的にふれるよう心がけること。 事後学習： 授業内容の復習と、グループ創作作品の個人練習・グループ練習。						
課題に対するフィードバックの方法						
毎回の授業の自己評価、レポートにコメントを入れ、返却する。						
成績評価の目安と方法						
平常点 6 0 % 、実技試験（創作作品） 3 0 % 、 レポート 1 0 % として、総合的に評価する						
評価	成績評価別の到達度					
S	ダンス学習と創作に積極的に取り組み、表現についての理解を深めることができる。					
A	ダンス学習に楽しく取り組み、表現できる。					
B	ダンス学習に取り組める。					
C	ダンスの基礎を体験できる。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		エアロビクス 1 [Basic Aerobics]	1			
授業形態		担当教員名			科目コード	
実技・ アクティブ・ラーニング		矢島 しのぶ		NSM-S4103		
この授業に関する資格						
健康運動実践指導者、GFI（ADI・ADBI）、スポーツクラブインストラクター						
この授業のキーワード		授業概要				
1	グループエクササイズ	フィットネスについての基本的な概念とエアロビクスについての基礎知識を学ぶ。特にエアロビックダンスについて取り上げ、今までの歴史的背景と現在の状況を理解した上で、実際に指導者になっていくためには何が必要であるかを演習形式で学ぶ。グループで実習課題に取り組みながら指導者として必要な最低限の知識と実技を身につける。				
2	エアロビクス					
3	フィットネス					
学習の到達目標						
講義と実技を合わせた演習形式で行い、必ず演習ノートを提出する。単元毎に目標を明確にし、積み上げ学習とする。実技では、エアロビックダンスの様々なプログラムを経験し、正確に手本となる動作を身につける。基本的プログラムを理解して覚え、指導（キューイング）できるようにする。						
回	テーマ		授業内容			AL
1	授業ガイダンス		授業の概要説明、クラスルームの操作に慣れる(自己紹介の提出)（遠隔）			
2	エアロビックダンスエクササイズの基本の動き		エアロビックダンスエクササイズの基本構成、基本姿勢（遠隔）			
3	有酸素性運動の基礎知識		運動強度の確認方法と目標心拍数の計算、エアロビクス理論（遠隔）			
4	エアロビックダンスエクササイズの歴史と運動特性		エアロビックダンスの誕生、歴史～特徴（遠隔）			
5	エアロビックダンスエクササイズのプログラミング		指導者の役割、運動強度を変化させる要因（遠隔）			
6	エアロビックダンスエクササイズの指導法		指導の循環、キューイング			
7	エアロビックダンスエクササイズの運動環境の整備		環境と指導者の配慮、トレーニング(課題)の説明 1			○
8	実技 説明 1	レジスタンス	ローインパクトステップの確認、トレーニング(課題)の説明 2			○
9	実技 説明 2	ストレッチング	ハイインパクトステップの確認、トレーニング(課題)の説明 3			○
10	理論まとめ		理論理解度の確認、運動実施の準備			○
11	エアロビックダンスエクササイズ 実技 1		エアロビックダンス基本 基本 1			○
12	エアロビックダンスエクササイズ 実技 2		エアロビックダンス基本 基本 2			○
13	エアロビックダンスエクササイズ 実技 3		エアロビックダンス基本 基本 3 実技まとめ・演習ノート提出			○
	クラスルームを利用して		内容の理解度を確認する小テストを実施。 対面授業が始まってから、再度 内容を解説した。			
	自宅トレーニング		エアロビックダンスの基本動作とトレーニングを解説し、自宅学習の課題で各自トレーニングを実施し、演習ノートに記録させた。 演習ノートを提出させ、実施状況や内容を確認してコメントを付けて返却した。			
試験等	実技試験、筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：エアロビックダンスエクササイズ指導理論（公社）日本フィットネス協会 エアロビックダンス基礎理論ハンドブック 池田美知子 等（有）教育インフォメーションサービス						
準備学習・事後学習						
準備学習：授業で学んだことを日常生活に取り入れ、体調を整えて授業に備えること。 事後学習：授業内容を振り返り、テキスト等で確認しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、レポート・課題を回収後、コメントを入れて返却する。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 30% 平常点 25% 演習ノート 25% 実技試験 20%						
評価	成績評価別の到達度					
S	指導者として必要な知識・動作を身につけ、参加者を観察しながら基本プログラムを指導することができる。					
A	指導者として必要な知識・動作を身につけ、基本プログラムを指導することができる。					
B	指導者として必要な知識・動作を身につけている。					
C	指導者として必要な最低限の知識・動作を身につけている。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]			単位	N	S	M
専門教育科目		エアロビクス 2 [Advanced Aerobics]			1			
授業形態		担当教員名					科目コード	
実技・ アクティブ・ラーニング		矢島 しのぶ					NS-S5104	
この授業に関する資格								
GFI (ADI)								
この授業のキーワード			授業概要					
1	グループエクササイズ	現在フィットネスの現場で要求されている「グループエクササイズインストラクター」として 最低限必要な知識及び技術の獲得を目指す。さらに目的にあったプログラムの作成、安全性を考慮した明確で、分かりやすく楽しい指導を目標に実技技能をステップアップしていく。						
2	エアロビクス							
3	フィットネス							
学習の到達目標								
講義及び実技を合わせた演習形式で行い、必ず演習ノートを提出する。単元毎に目標を明確にし、積み上げ学習とする。実技では、エアロビックダンスの様々なプログラムを経験し、正確に手本となる動作を身につける。自分で目的に合った基本的なプログラムを組み立て、指導できるようにする。								
回	テーマ		授業内容					AL
1	ガイダンス							
2	講義 (30 分)	フィットネスとは	実技	基本プログラム	1			○
3	エアロビックダンスの特徴			"	2			○
4	エアロビックダンスプログラム			応用プログラム	1			○
5	エアロビックダンスの指導者の役割①			"	2			○
6	エアロビックダンスの指導者の役割②			"	3			○
7	エアロビックダンスの指導者の役割③			指導法	1 (プログラム)			○
8	プログラム①	ウォームアップ		"	2			○
9	プログラム②	メインエクササイズ		"	3			○
10	プログラム③	筋コンディショニング		"	4			○
11	プログラム④	クールダウン		"	5			○
12	エアロビックダンスプログラム指導実践 1							○
13	エアロビックダンスプログラム指導実践 2							○
14	エアロビックダンスプログラム指導実践 3							○
15	まとめ・演習ノート提出							
試験等	実技試験、レポート課題							
教科書及び参考図書								
教科書：エアロビックダンスエクササイズ指導理論 (公社) 日本フィットネス協会 フィットネス基礎理論 (公社) 日本フィットネス協会								
準備学習・事後学習								
準備学習：指導者になる意識を持って、明るく元気に休まずに出席すること。 事後学習：授業で学んだことを振り返り、指導法を実践する機会を持つこと。								
課題に対するフィードバックの方法								
フィードバックとして、レポート・課題を回収後、コメントを入れて返却する。								
成績評価の目安と方法								
平常点 25% 演習ノート 25% 実技試験 25% レポート課題 25%								
評価	成績評価別の到達度							
S	グループエクササイズインストラクターとして、目的にあった運動プログラムを作成し、安全性を考慮した楽しい指導ができる。							
A	グループエクササイズインストラクターとして、安全性を考慮した楽しい指導ができる。							
B	グループエクササイズインストラクターとして、必要な知識・動作を身につけている。							
C	グループエクササイズインストラクターとして、必要な最低限の知識・動作を身につけている。							

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目		ゴルフ 1 [Basic Golf]		1			
授業形態		担当教員名			科目コード		
実技・ アクティブ・ラーニング		江原 清浩		実	S-S4105		
この授業に関係する資格							
この授業のキーワード		授業概要					
1	ゴルフ	ゴルフにおいて技術練習のみならずルールや安全への配慮についても学ぶ。テーマに応じた課題を各自に課し、自己発見・自己解決型の授業になるように努める。他のスポーツにない技能も求められるが、実践的な解説と練習を重ねながら、全員が上達できるように進めて行く。					
2	マナー・エチケット						
3	ルール						
学習の到達目標							
ゴルフの基本的な知識・技能を身に付けることを目標とする。							
回	テーマ	授業内容					AL
1	ガイダンス	授業目標やスケジュール、具体的にどのように進めるかなどの説明を行う					
2	ゴルフの基礎知識	用具の取扱い、安全確保の留意点、グリップの握り方					
3	基本技術 1	アドレス、スタンス					○
4	基本技術 2	スイング軸、スイング軌道					○
5	基本技術 3	ハーフウェイバック、トップ、切り返し、インパクト、フォロー					○
6	アプローチショット	基本的なアプローチショット、ピッチショット					○
7	アイアンの打ち方 1	番手別クラブの共通性と相違点					○
8	アイアンの打ち方 2	ドローボール、フェードボールの打ち方					○
9	アイアンの打ち方 3	傾斜での打ち方					○
10	ウッ드의打ち方 1	フェアウェイウッ드의打ち方					○
11	ウッ드의打ち方 2	ドライバーの打ち方					○
12	パッティング	パターの基礎的な知識、技術					○
13	総合実践 1	ショートホールを利用した実践練習					○
14	総合実践 2	ロールプレイングを行い、ルールやマナー・エチケットの重要性再確認					○
15	まとめ	上達度と目標達成度確認					
試験等	なし						
教科書及び参考図書							
参考図書：ゴルフ飛びの運動法則 川合武司著 青春出版社							
準備学習・事後学習							
授業で学んだことを振り返り、体調を整えて授業に備えること。							
課題に対するフィードバックの方法							
授業中適宜対応する。							
成績評価の目安と方法							
技能 50% 受講態度・意欲 50%							
評価	成績評価別の到達度						
S	ゴルフの知識・技術を十分に身に付け、ゴルファーとしてプレイできる。						
A	ゴルフの知識・技術をよく身に付けている。						
B	ゴルフの知識・技術を身に付けている。						
C	ゴルフの基礎的な知識・技術を身に付けている。						

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		ゴルフ2 [Intermediate Golf]	1			
授業形態		担当教員名		科目コード		
実技・ アクティブ・ラーニング		江原 清浩	国	S-S5106		
この授業に関係する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1	ゴルフ	本授業を通して、ゴルフに対する知識・技能をさらに発展させ、実際にコースを回れる能力を身に付けて頂きたいと願っている。そのため、技術の安定性を高め、ルールや安全への配慮についても学ぶ。単調なドリル練習だけでなく、テーマに応じた課題を各自で見つけ、受講生が主体となって授業を進めていただく。ゴルフ1より高度な技術が求められるが、詳しい解説と実践を重ね、全員が上達できるように進めて行く。受講意欲の高い学生に限ってゴルフ1を履修していなくても受け入れる。				
2	生涯スポーツ					
3	ゴルフ指導法					
学習の到達目標						
1. ゴルフコースを回れる為 正しいグリップ、アドレス、スイングの習得と戦略を理解する。 2. ルールを理解しマナーとエチケットを身につけ、理想的な同伴競技者となる。 3. 授業に、積極性・協調性・責任感をもって臨み、リーダーシップ・スポーツマンシップを発揮しながら、安全の確保にも留意し、生涯スポーツの一手段としてゴルフを取り入れる能力を養う。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	ガイダンス	授業目標やスケジュール、具体的にどのように進めるかなどの説明を行う				
2	ゴルフの基本確認	正しいグリップ、アドレス、スイング、ゴルフの危険性、ゴルフルールと審判法の独自性、スイングドリル				
3	基本スイング1 アイアンでの小さなスイング	(1)腕、肩の使い方 (2)リズム (3)小さいスイングと大きなスイングの違い (4)寄せのドリルとゲーム				○
4	基本スイング2 アイアンでのハーフスイング	(1)スクエアなアドレス (2)肩と腰の回旋方法 (3)正しい体重移動のポイント (4)距離感と方向性				○
5	パッティング	(1)ターゲットの捉え方 (2)ショートパットとロングパットの共通点と相違点				○
6	基本スイング3 色々なアイアンでのスイング	(1)クラブの特性の理解 (2)チップショットとピッチショット (3)ターゲットゲーム				○
7	基本スイングの完成へ向けて1 アイアン編	(1)スイング軌道とインパクトのポイント (2)点とラインの意味は (3)色々なアイアンのドリル				○
8	プレショットルーティンの習得	(1)自身の癖を知る (2)ルーティンの作り方 (3)ルーティンのドリル				○
9	基本スイングの完成へ向けて2 ウッド編	(1)ウッドとアイアンの共通点と相違点 (2)ウェッジからドライバーまでの連続性 (3)ウッドの活用法 (4)各自の特性に応じたクラブの見つけ方				○
10	応用技能への発展とドリル	(1)ハザードに対する対処の考え方 (2)ラフからのショットのドリル (3)スコアメイク				○
11	ルールの理解を深める	中庭特設ショートホールを利用した実践練習でのルール解説 (OB 等に対する対処法)				○
12	アドバイスの送り方	(1)アドバイスできることとできないこと、してはいけないこと (2)効果的アドバイスの実践練習				○
13	総合実践1 技能を統合する	(1)長所、弱点の自己理解 (動画によるイメージ化) (2)中庭特設ショートホールを利用した実践練習				○
14	総合実践2 効果的なラウンドの仕方	中庭特設ショートホールを利用してロールプレイングを行い、ルールやマナー・エチケットの重要性を再確認する				○
15	まとめ	上達度と目標達成度確認				
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
参考図書：ゴルフ飛びの運動法則 川合武司著 青春出版社、ゴルフ“実戦の壁”を打ち破る運動法則 川合武司著 青春出版社、ゴルフもっと飛ばす運動法則 川合武司著 青春出版社、水巻善典・全美貞 ゴルフスイングの真実～これがわかればうまくなる～DVD 全3枚セット NHK エンタープライズ						
準備学習・事後学習						
授業で学んだことを振り返り、体調を整えて授業に備えること。						
課題に対するフィードバックの方法						
授業中適宜対応する。						
成績評価の目安と方法						
技能 50% 受講態度・意欲 50%						
評価	成績評価別の到達度					
S	ゴルフの知識と能力について応用力と指導法を十分に身に付け、リーダーシップも発揮できる。					
A	ゴルフの知識と能力について応用力を十分に身に付けている。					
B	ゴルフの知識と能力について力をつけている。					
C	ゴルフの能力についての基礎的な力をつけている。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位			
専門教育科目		上級ゴルフ [Advanced Golf]	1	N	S	M
授業形態		担当教員名		科目コード		
実技・ アクティブ・ラーニング		江原 清浩	実	S-S5107		
この授業に関係する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1	プロゴルファー	トーナメントプロ、プロキャディまたはティーチングプロを目指すために必要な実践的な技術、体力およびメンタルトレーニング法を学ぶ。実習では、近隣ゴルフ場におけるラウンド、筋力トレーニングを行い、座学では、競技力向上に必要なゴルフに特化した体力・メンタルに関する知識を学ぶ。				
2	ティーチングプロ					
3	プロキャディ					
学習の到達目標						
トーナメントプロ、プロキャディまたはティーチングプロとして現場で活用するために必要な知識、技能を身につける。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	ガイダンス	授業目標やスケジュール、具体的にどのように進めるかなどの説明を行う				
2	ゴルフの技術の確認	ドライバー、フェアウェイウッド、アイアン、アプローチ、パター				○
3	ラウンド実践 1	ハーフラウンドにおけるスコア集計				
4	ラウンド実践 2	ハーフラウンドにおけるスコア集計				
5	スコア評価	スコアの分析と評価、評価に基づく練習方法の構築				○
6	ショートゲーム	様々な場面におけるアプローチショット、ピッチショット、バンカーショット、パター				○
7	ラウンド実践 3	プロトーナメントの現場からのコースメモの活用法				○
8	練習場の活用法 1	練習場におけるスイングマネジメント				○
9	ラウンド実践 4	コースマネジメント				○
10	練習場の活用法 2	各ショットにおけるドリルの実践				○
11	ラウンド実践 5	傾斜地におけるスイングマネジメント				○
12	体力・メンタル	筋力および柔軟性トレーニング、メンタルトレーニングの実践				○
13	ラウンド実践 6	プレッシャーに対する対処法				○
14	ラウンド実践 7	スコアメイクの再確認				○
15	まとめ	上達度と目標達成度確認				
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
『基本ゴルフ教本』日本プロゴルフ協会、『PGA ジュニア基本ゴルフ教本』日本プロゴルフ協会、 『GOLF ANATOMY』HUMAN KINETICS、その他、適宜教材を配付・指示する。						
準備学習・事後学習						
授業時間外においても、ゴルフの競技力向上を目指してトレーニングを欠かさないことが望ましい。また、ラウンド実践には毎回¥3,000～¥6,000程度の費用が必要である。この授業を履修するには2時間以内でラウンドができる者とする。						
課題に対するフィードバックの方法						
授業中およびオフィスアワーで適宜対応する。						
成績評価の目安と方法						
技能 50% 受講態度・意欲 50%						
評価	成績評価別の到達度					
S	競技ゴルフに必要な知識や技術を、各場面のゴルフスタイルに応用できる能力を十分に身に付けている。					
A	競技ゴルフに必要な知識や技術を、各場面のゴルフスタイルに応用できる能力を身に付けている。					
B	競技ゴルフに必要な基礎的な知識や技術ついて理解している。					
C	競技ゴルフに必要な基礎的な知識や技術ついて学習している。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		サッカー・フットサル [Soccer・Futsal]	1			
授業形態		担当教員名		科目コード		
実技・ アクティブ・ラーニング		田本 育代		S-S4108		
この授業に関する資格						
(公財) 日本サッカー協会公認 C 級コーチ						
この授業のキーワード		授業概要				
1	サッカー・フットサルコース	フットサルに特有な技術・戦術を習得するとともに、サッカーとは異なるルールを整理・理解してフットサルを楽しむ。 2 年生の「公認 C 級コーチ養成講習」における指導実践を、指導される側から体験してディスカッションに加わることで指導者としての第一歩(サッカー・フットサルコース)を踏み出す。				
2	両競技種目の比較					
3	非指導側					
学習の到達目標						
フットサルを楽しむことによりその魅力に迫り、フットサルに特有な技術の獲得とルールの理解を目標とする。2 年次の「公認 C 級コーチ養成講習」に備え、指導される側を体験してコーチングについて理解することを目標とする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	ガイダンス	ガイダンス、ボール慣れ、アセスメントゲーム				
2	ドリブル	足の裏を使った運ぶドリブル、顔を上げた突破のドリブル、ゲーム				○
3	コントロール	足の裏を使ったコントロール他、ゲーム				○
4	キック・シュート	トォーキック、スプーンパス、セカンドポストシュート、ゲーム				○
5	フェイント	フットサル特有のフェイントの習得、ゲーム				○
6	ボールポゼッション	4 対 2、4 対 3、ゲーム				○
7	攻撃	2 人の関係での突破、ゴー・壁パス・ディアゴナル・ブロック&コンティニューなど				○
8	守備①	数的不均衡な状況での守備、1 対 2、2 対 3、ゲーム				○
9	確認テスト	ルール等確認テスト（遠隔）				○
10	リスタート・サインプレー	コーナーキック、フリーキック、キックイン他、ゲーム				○
11	実技まとめ・試合	ナンバーカードゲーム				○
12	指導実践：ドリル①	公認 C 級コーチ養成講習の指導実践 1 回目（ドリル）で指導を受ける				○
13	指導実践：ドリル②	公認 C 級コーチ養成講習の指導実践 1 回目（ドリル）で指導を受ける				○
14	総まとめ	ふりかえり及び感想、要望の提出（遠隔）				○
15	指導実践：ゲーム①	公認 C 級コーチ養成講習の指導実践 2 回目（ゲーム）で指導を受ける				○
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
参考図書：フットサルのルール（日本サッカー協会編）						
準備学習・事後学習						
準備学習：個人練習。最低限のルールについては覚えておくこと。 事後学習：授業で学んだことを振り返ること。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして理解度確認テストの解答を解説する。						
成績評価の目安と方法						
受講意欲 60% 実技点 40%						
評価	成績評価別の到達度					
S	サッカーとフットサルのルールや技術・戦術の相違を応用でき、指導実践においてもディスカッションでの発言が活発である。					
A	サッカーとフットサルのルールや技術・戦術の相違を応用してプレーし、指導実践においてもディスカッションができる。					
B	サッカーとフットサルのルールや技術・戦術の相違を理解し、積極的にプレーできる。					
C	サッカーとフットサルのルールや技術・戦術の相違に触れ、実践することができる。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		上級サッカー [Advanced Soccer]	1			
授業形態		担当教員名		科目コード		
実技・ アクティブ・ラーニング		齋藤 登	国	S－S5109		
この授業に関する資格						
(公財) 日本サッカー協会公認C級コーチ						
この授業のキーワード		授業概要				
1	サッカーコース	(公財) 日本サッカー協会が定める「公認C級コーチ養成講習」のカリキュラムに則って実技指導を行う。その上で、指導実践1回目・2回目を実施する。なお、本講習は育成年代の選手指導が中心となる。 ※教育実習、介護等体験との重複を必ず避けること。				
2	公認C級コーチ・実技					
3	指導実践					
学習の到達目標						
(公財)日本サッカー協会「公認C級コーチ養成講習会」のカリキュラムに従い、分析の結果抽出されたテーマに沿って楽しい雰囲気 で指導実践1回目ができ、更に指導実践2回目でパフォーマンス改善ができることを目標とする。シンクロ並びにフリースコーチングの使い分けができるようになる。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	ガイダンス	心構えと評価法				
2	ゲーム	アイスブレイク、4 VS 4 +GK				○
3	技術①	キック・ヘディング、コントロール、ドリブル				○
4	技術②	守備（1 VS 1 の対応・後ろ向きの相手に対して）				○
5	戦術①	攻撃の個人戦術、守備の個人戦術				○
6	戦術②	数的同位の攻撃・守備、数的優位の攻撃・守備、数的劣位の攻撃・守備				○
7	ゴールキーパー	スローイング、キャッチング、ステップング、ローリングダウン、アングルプレー、ゲーム				○
8	プランニング	ラインゴールゲーム、中央ゴールゲーム、6ゴールゲーム、様々な4 VS 4 +GK				○
9	コーチング	インストラクターによるコーチングデモ				○
10	指導実践1回目①	各自のテーマでの指導実践1回目における反省とディスカッション				○
11	指導実践1回目②	各自のテーマでの指導実践1回目における反省とディスカッション				○
12	指導実践2回目①	各自のテーマでの指導実践2回目における反省とディスカッション				○
13	指導実践2回目②	各自のテーマでの指導実践2回目における反省とディスカッション				○
14	指導実践 振り返りと追試	各自のテーマでの行った指導実践の振り返りと追試				○
15	まとめ	実技および指導実践の振り返り 今後に向けて				
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
教科書：(公財)日本サッカー協会「公認C級コーチ養成講習会」の指導教本及びその他テキスト						
準備学習・事後学習						
準備学習：実技が多いため各自コンディショニングを整え、実技内容を事前に指導教本で予習する。 事後学習：実技内容を振り返り、指導教本で確認・復習する。						
課題に対するフィードバックの方法						
指導実践に対し、受講者同士のディスカッションおよび教員よりフィードバックを行う。						
成績評価の目安と方法						
指導実践 60% 参加態度 20% ディスカッションでの発言・発表 20%						
評価	成績評価別の到達度					
S	楽しい雰囲気かつ改善が明らかな指導実践ができ、ディスカッションにおいて積極的かつ的確な発言ができる。					
A	楽しい雰囲気かつ改善が認められた指導実践ができ、ディスカッションにおいて積極的な発言ができる。					
B	楽しい雰囲気 で指導実践ができ、ディスカッションにおいて発言ができる。					
C	指導実践ができ、ディスカッションに参加できる。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		サッカー指導法 [Coaching Method of Soccer]	2			
授業形態		担当教員名			科目コード	
講義・ アクティブ・ラーニング		齋藤 登	国	S-S3110		
この授業に関する資格						
(公財) 日本サッカー協会公認 C 級コーチ						
この授業のキーワード		授業概要				
1	サッカーコース	(公財) 日本サッカー協会が定める「公認 C 級コーチ養成講習」のカリキュラムに則って講義を展開する。下記授業内容のテーマを理解し、サッカーの指導法の基本と考え方、その他指導者として必要な知識を学習する。なお、本講習は育成年代の選手指導が中心となる。 ※教育実習、介護等体験との重複を必ず避けること。※本授業の全出席が前提である				
2	公認 C 級コーチ・講義					
3	通信教育課題					
学習の到達目標						
(公財)日本サッカー協会「公認 C 級コーチ」のライセンス取得を目標とする。本科目は、専門種目が「サッカー」と言える者を対象とするサッカーコースである。サッカーに関する知識はもちろん、発育発達、技術・戦術、コーチング法等に関する知識を確実に習得する。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	ガイダンス	日本サッカーの夢、理念、ビジョン、組織、本コースについて				○
2	分析①	自チームの分析（チーム選手）、相手チームの分析、選手発掘のための分析、国際大会の分析				○
3	分析②	サッカーの目的による分析、プレーの原則による分析、サッカーの基本技術・基本戦術による分析				○
4	戦術①	攻撃の個人戦術、攻撃におけるゾーンでの判断基準・数的状況での判断基準				○
5	戦術②	守備の個人戦術、守備におけるゾーンでの判断基準・数的状況での判断基準				○
6	ゴールキーパー	育成年代の G K の指導、求められる G K 像				
7	プランニング	トレーニング目標の設定、オーガナイズの意味、ゲームからの逆算、クオリティとリアリティ				○
8	指導実践ガイダンス	指導実践のテーマ決め、指導実践の方法と要点の解説				
9	コーチング法	コーチングの目的、コーチングの方法、働きかけの考え方、トレーニングの留意点				○
10	発育発達と一貫指導	成長の個人差、成長のプロセスと各時期の特徴、一貫指導の考え方、女子選手の特徴				○
11	チームマネージメント	コーチの仕事、指導対象者の違いとコーチ、育成の全体像とコーチ				○
12	メディカル	突然死、脳震盪、熱中症、RICE 処置、スポーツ救命ライセンス				
13	サッカーの競技精神	サッカーのルーツ（起源）、審判、安全とフェアプレー精神				○
14	グループワーク	グループワーク、通信教育課題の解説・評価				○
15	まとめ	講義のまとめ				
試験等	筆記試験、その他通信教育（レポート）あり					
教科書及び参考図書						
教科書：(公財)日本サッカー協会「公認 C 級コーチ養成講習会」の指導教本及びその他テキスト						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）： シラバスの内容を確認して、指導教本等で指導のイメージを持つように予習。 事後学習（週 1.5 時間）： 指導教本にて授業内容を復習。						
課題に対するフィードバックの方法						
筆記試験及びレポートに対し、フィードバックを行う。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 40% 通信教育課題レポート 30% 参加態度 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	サッカーに関する知識を深く理解したうえで、レポート、研究発表、筆記試験を通じて指導者としての資質を十二分に兼ね備えている。					
A	サッカーに関する知識を良く理解したうえで、レポート、研究発表、筆記試験を通じて指導者としての資質を十分兼ね備えている。					
B	サッカーに関する知識を理解したうえで、レポート、研究発表、筆記試験を通じて指導者としての資質を兼ね備えている。					
C	サッカーに関する知識を理解したうえで、レポート、研究発表、筆記試験を通じて指導者としての資質を得ている。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		グループエクササイズ実習 [Group Exercise]	1			
授業形態		担当教員名		科目コード		
実習・ アクティブ・ラーニング		矢島 しのぶ		NS-S5137		
この授業に関係する資格						
GFI						
この授業のキーワード		授業概要				
1	グループエクササイズ	グループエクササイズについての理解を深め、指導者としての役割を学び、実際の指導法について学習する。また、骨格筋に関する基礎知識を身につけ、安全で効果的なレジスタンスエクササイズ・ストレッチングエクササイズの指導ができるようにする。				
2	レジスタンスエクササイズ					
3	ストレッチングエクササイズ					
学習の到達目標						
グループエクササイズ指導に関する基礎知識を身につけ、指導者としての知識、動きを習得することを目標とする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	グループエクササイズとは	グループエクササイズ指導の定義と指導者の役割、指導者の心得				
2	グループエクササイズ指導 1	グループエクササイズ指導の準備				○
3	グループエクササイズ指導 2	グループエクササイズ指導の実際				○
4	グループエクササイズ指導 3	指導者の動き				○
5	グループエクササイズ指導 4	グループエクササイズのクラス運営				○
6	身体の構造と骨格筋	骨格筋に関する基礎知識				○
7	レジスタンスエクササイズ指導 1	レジスタンスエクササイズの基礎知識				○
8	レジスタンスエクササイズ指導 2	レジスタンスエクササイズの基本の動き				○
9	レジスタンスエクササイズ指導 3	レジスタンスエクササイズのプログラミング				○
10	レジスタンスエクササイズ指導 4	レジスタンスエクササイズの指導法				○
11	ストレッチングエクササイズ指導 1	ストレッチングエクササイズの基礎知識				○
12	ストレッチングエクササイズ指導 2	ストレッチングエクササイズの基本の動き				○
13	ストレッチングエクササイズ指導 3	ストレッチングエクササイズのプログラミング				○
14	ストレッチングエクササイズ指導 4	ストレッチングエクササイズの指導法				○
15	まとめ・振り返り	全体の総括				
試験等	実技試験、筆記試験及びレポート課題					
教科書及び参考図書						
参考図書：グループエクササイズ指導理論（公社）日本フィットネス協会 レジスタンスエクササイズ指導理論（公社）日本フィットネス協会 ストレッチングエクササイズ指導理論（公社）日本フィットネス協会						
準備学習・事後学習						
準備学習：授業で学んだことを振り返り、体調を整えて授業に備えること。 事後学習：積極的に指導実践に参加できるよう、練習しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、レポート・課題を回収後、コメントを入れて返却する。						
成績評価の目安と方法						
指導実践及びレポート課題（実技試験）50% 筆記試験 25% 平常点 25% 理由のない遅刻・欠席は減点						
評価	成績評価別の到達度					
S	グループエクササイズ指導に関する知識を十分に活かし、対象者に配慮した安全で効果的な運動指導が行える。					
A	グループエクササイズ指導に関する知識を理解し、安全で効果的な運動指導が行える。					
B	グループエクササイズ指導に関する知識を理解し、適切な運動指導ができる。					
C	グループエクササイズ指導に関する基礎的な知識を身につけ、指導者として見本となる動きができる。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		医療事務 1、2 [Medical Office Work I, II]	各 2			
授業形態		担当教員名		科目コード		
講義・演習・ アクティブ・ラーニング		若菜 智子		M-S2111		
この授業に関する資格						
医療事務検定試験						
この授業のキーワード		授業概要				
1	医療事務	医療機関の受付業務を行うにあたり必要となる医療保険制度の知識を身につけ、会計業務である医療費の算定の基礎を学ぶ。最終的には、「医療事務検定試験」の資格取得を目指す。 【持ち物】電卓（携帯電話・パソコン等は使用不可） 蛍光ペン 5 色 筆記用具 教科書 ※授業中の携帯電話の使用は禁じる。 【医療事務検定試験】※試験は大学構内で受験となる。				
2	医療保険制度					
3	受付・会計					
学習の到達目標						
国公立病院をはじめ、大学病院や診療所の事務員として幅広く医療業界に就職し、即戦力で活躍できる知識習得を目標とする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1・2	【医療事務 1】	医療保険制度、受付・会計・請求				
3・4	【医療事務 2】	基本診療料				○
5・6	【医療事務 3】	医学管理等、在宅医療				○
7・8	【医療事務 4】	投薬				○
9・10	【医療事務 5】	注射				○
11・12	【医療事務 6】	処置 A				○
13・14	【医療事務 7】	処置 B、リハビリテーション				○
15・16	【医療事務 8】	手術・麻酔 A				○
17・18	【医療事務 9】	手術・麻酔 B				○
19・20	【医療事務 10】	検査 A				○
21・22	【医療事務 11】	検査 B				○
23・24	【医療事務 12】	画像診断				○
25・26	【医療事務 13】	入院 A				○
27・28	【医療事務 14】	入院 B、請求事務関連				○
29・30	【医療事務 15】	補足、まとめ				○
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：医療事務講座テキスト一式						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1 時間）：次回の項目をテキストで読んで内容を確認する。 事後学習（週 2 時間）：授業内で指定されたカルテ問題集の箇所や、テキスト内の練習問題を解く。						
課題に対するフィードバックの方法						
小テスト、提出物の誤った箇所を解説して返却。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 70% 平常点 30%(授業参加意欲・態度・小テスト・提出物)						
評価	成績評価別の到達度					
S	医療事務の知識を十分身に付けている。					
A	医療事務の知識を身に付けている。					
B	医療事務の知識を理解している。					
C	医療事務の知識を最低限理解している。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		医療事務 3 [Medical Office Work Ⅲ]	2			
授業形態		担当教員名			科目コード	
講義・演習・ アクティブ・ラーニング		若菜 智子		M-S3112		
この授業に関する資格						
医事コンピュータ能力技能検定試験 ・ 調剤薬局事務検定試験						
この授業のキーワード		授業概要				
1 2 3	医療事務コンピュータ 調剤事務 請求	<医療事務コンピュータ> 医療事務 1・2 で学習する医療費の算定を実践に即したコンピュータ操作による実習を行うことで、医療機関で勤務するために必須となるコンピュータ会計システムのスキルを身につける。最終的には、「医事コンピュータ能力技能検定試験」の資格取得を目指す。 <調剤薬局事務> 調剤薬局で必要となる薬剤の基礎知識と、処方箋による算定方法から調剤報酬明細書(レセプト)の作成までを学ぶ。 【持ち物】電卓（携帯電話・パソコン等は使用不可） 蛍光ペン 5 色 筆記用具 教科書 ※授業中の携帯電話の使用は禁じる。 【医事コンピュータ能力技能検定試験】【調剤薬局事務検定試験】 ※試験は大学構内で受験となる。				
学習の到達目標						
<医療事務コンピュータ> 国公立病院をはじめ大学病院や診療所の事務員として必要となるコンピュータ会計システムのスキルを習得する。 <調剤薬局事務> 調剤薬局の事務員として就職するための知識を習得し、最終的には「調剤薬局事務検定試験」の資格取得を目指す。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	【医療事務コンピュータ 1】	システムの概要、基本診療料				○
2	【医療事務コンピュータ 2】	投薬、会計等、注射				○
3	【医療事務コンピュータ 3】	処置 A、手術・麻酔 A				○
4	【医療事務コンピュータ 4】	処置 B、手術・麻酔 B				○
5	【医療事務コンピュータ 5】	検査 A、画像診断 A				○
6	【医療事務コンピュータ 6】	検査 B、画像診断 B				○
7	【医療事務コンピュータ 7】	入院 A				○
8	【医療事務コンピュータ 8】	入院 B				○
9	【医療事務コンピュータ 9】	補講、実技試験				○
10	【調剤薬局事務 1】	医療保険の概要と薬剤の基礎知識				○
11	【調剤薬局事務 2】	薬剤料の計算				○
12	【調剤薬局事務 3】	調剤技術料				○
13	【調剤薬局事務 4】	薬学管理料				○
14	【調剤薬局事務 5】	レセプト作成（基本編）				○
15	【調剤薬局事務 6】	補講、まとめ				○
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：医療事務テキスト式+コンピュータテキスト ・ 調剤薬局事務テキスト式						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1 時間）：【医療事務コンピュータ】医療事務講座のテキストにて算定方法を復習として確認する。						
事後学習（週 2 時間）：【調剤薬局事務】授業内で指定された処方箋問題集の箇所を解く。						
課題に対するフィードバックの方法						
提出物の誤った箇所を解説して返却。						
成績評価の目安と方法						
実技・筆記試験 80% 平常点 20%（授業参加意欲・態度・提出物）						
評価	成績評価別の到達度					
S	医療事務コンピュータ・調剤薬局事務講座の知識を十分身に付けている。					
A	医療事務コンピュータ・調剤薬局事務講座の知識を身に付けている					
B	医療事務コンピュータ・調剤薬局事務講座の知識を理解している。					
C	医療事務コンピュータ・調剤薬局事務講座の知識を最低限理解している。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目		ビジネス文書（ワード） [Business Documents MS-Word]		2			
授業形態		担当教員名			科目コード		
講義・演習・ アクティブ・ラーニング		八板 将明			M-S4113		
この授業に関する資格							
MOS							
この授業のキーワード		授業概要					
1 2 3	ビジネス文書 マイクロソフトオフィス・ワード MOS	ビジネス文書を作成する際のマナーやルールを理解、習得し実際の業務に活用できるように場面を想定しながら実践的に行っていく。					
学習の到達目標							
ビジネス文書とは、企業や団体が業務遂行上、外部と通信するために作成する文書のことである。したがって、ビジネスに必要な文書作成に関する原則を理解、習得し、情報を伝達・確認・保存記録することができる能力を身に付けることを目標とする。							
回	テーマ	授業内容					AL
1	ガイダンス	授業目標やスケジュール、具体的にどのように進めるかなどの説明を行う（遠隔）					○
2	Word の基礎知識	Word 操作に関する基本事項について学習する（遠隔）					○
3	文字の入力	文字の入力・変換、文章の変換、保存方法について学習する（遠隔）					○
4							
5	文書の作成	文書を作成し、編集、配置、修飾、書式設定について学習する（遠隔）					○
6							
7	表の作成	タイピング練習・表の作成・レイアウト、書式について学習する					○
8							
9	文書の編集	タイピング練習・文字の割付け、囲い文字、文字の効果、段組みについて学習する					○
10							
11	表現力をアップする	タイピング練習・ワードアート、クリップアート、図形の作成・挿入について学習する					○
12							
13	ビジネス文書の作成	タイピング練習・ビジネス文書の概要、及びビジネスでのメール活用について学習する					○
14		遠隔授業中は毎週、オンデマンド形式の課題を実施し、水準未到達の学生については修正指示、再提出することで理解を深めた。					
15		対面授業中は毎週、授業内で作成したファイルをメール添付にて授業担当に提出。到達度を図り、翌週の授業で復習、フィードバックを行った。					
試験等	なし						
教科書及び参考図書							
参考図書：よくわかる Word2019							
準備学習・事後学習							
準備学習（週 1.5 時間）：ブラインドタッチを身に付けられるように、タイピングする時間を作って練習をすること。 事後学習（週 1.5 時間）：授業の内容を復習し、操作を覚えること。							
課題に対するフィードバックの方法							
フィードバックとして課題を回収後、解答の解説を行う。							
成績評価の目安と方法							
提出課題の内容 90% 授業姿勢 10% （未提出な課題がある場合、成績の評価はされない）							
評価	成績評価別の到達度						
S	ワードを有効に活用し、迅速かつ丁寧に目的とするビジネス文書を作成することができる。						
A	ワードの操作方法をとてよく理解し、目的とするビジネス文書を丁寧に作成することができる。						
B	ワードの操作方法を理解し、目的とするビジネス文書を作成することができる。						
C	ワードの基本的な操作方法を理解し、目的とするビジネス文書のある程度作成することができる。						

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		ビジネス文書（エクセル） [Business Documents MS- Excel]	2			
授業形態		担当教員名		科目コード		
講義・演習・ アクティブ・ラーニング		八板 将明		M-S4114		
この授業に関係する資格						
MOS						
この授業のキーワード		授業概要				
1 2 3	ビジネス文書 マイクロソフトオフィス・エクセル MOS	ビジネス文書を作成する際のマナーやルールを理解、習得し実際の業務に活用できるように場面を想定しながら実践的に行っていく。				
学習の到達目標						
ビジネス文書とは、企業や団体が業務遂行上、外部と通信するために作成する文書のことである。したがって、ビジネスに必要な文書作成に関する原則を理解、習得し、情報を伝達・確認・保存記録することができる能力を身に付けることを目標とする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	ガイダンス	授業目標やスケジュール、具体的にどのように進めるかなどの説明を行う				○
2	表の作成・計算	データの入力、変換、保存方法、簡単な計算について学習する				○
3						
4	表の計算	関数を用いて高度な計算をする				○
5						
6	グラフ作成	データをもとに様々なグラフを作成する				○
7						
8	ビジネス文書の 基礎知識及び作成	カレンダーの作成、編集				○
9		名簿、当番表の作成、編集				○
10		トーナメント表、リーグ戦の作成、編集				○
11		家計簿、記録簿の作成、編集				○
12		アンケートの作成、編集				○
13		見積書、請求書、領収書の作成、編集				○
14						
15	まとめ	これまでの学習内容を総合的に用いて課題を解決する				○
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
参考図書：よくわかる Excel 2019						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：ブラインドタッチを身に付けられるように、タイピングする時間を作って練習をすること。 事後学習（週 1.5 時間）：授業の内容を復習し、操作を覚えること。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして課題を回収後、解答の解説を行う。						
成績評価の目安と方法						
提出課題の内容 90％ 授業姿勢 10％ （未提出な課題がある場合、成績の評価はされない）						
評価	成績評価別の到達度					
S	エクセルを有効に活用し、迅速かつ丁寧に目的とするビジネス文書を作成することができる。					
A	エクセルの操作方法をとてよく理解し、目的とするビジネス文書を丁寧に作成することができる。					
B	エクセルの操作方法を理解し、目的とするビジネス文書を作成することができる。					
C	エクセルの基本的な操作方法を理解し、目的とするビジネス文書のある程度作成することができる。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		ビジネス文書（パワーポイント） [Business Documents MS- PowerPoint]	2			
授業形態		担当教員名		科目コード		
講義・演習・ アクティブ・ラーニング		八板 将明		M-S4115		
この授業に係る資格						
MOS						
この授業のキーワード		授業概要				
1	ビジネス文書	ビジネス文書を作成する際のマナーやルールを理解、修得し、実際の業務に活用できるように場面を想定しながら実践的に行っていく。				
2	スライドショー					
3	アニメーション					
学習の到達目標						
ビジネス文書とは、企業や団体が業務遂行上、外部と通信するために作成する文書のことである。したがって、ビジネスに必要な文書作成に関する原則を理解、修得し、情報を伝達・確認・保存・記録することができる能力を身に付けることを目標とする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	ガイダンス	授業目標やスケジュール、具体的にどのように進めるかなどの説明を行う（遠隔）				○
2	PowerPoint の基礎知識	PowerPoint の概要について（遠隔）				○
3	PowerPoint の基礎知識	ポスターの作成「コロナ感染予防啓発ポスター」（遠隔）				○
4	フリークリエイティブ	「コロナ感染予防啓発ポスター」「After コロナポスター」の作成（遠隔）				○
5	文字の入力	スライドに文字を入力する「コロナ感染予防啓発ポスター」（遠隔）				○
6	グラフの作成・挿入	「グラフ」をスライドに挿入し、編集する「コロナ感染予防啓発ポスター」（遠隔）				○
7	表の作成・挿入	「表」をスライドに挿入し、編集する「コロナ感染予防啓発ポスター」				○
8	アニメーションの作成	スライドにアニメーションを設定する「コロナ感染予防啓発ポスター」				○
9	文字の入力	スライドに文字を入力する「自分新聞の作成」				○
10	グラフの作成・挿入	「グラフ」をスライドに挿入し、編集する「自分新聞の作成」				○
11	表の作成・挿入	「表」をスライドに挿入し、編集する「自分新聞の作成」				○
12	アニメーションの作成	スライドにアニメーションを設定する「自分新聞の作成」				○
13	プレゼンテーション	作成したシートを用いたプレゼンテーション「自分新聞の作成」				○
14		遠隔授業中は毎週、オンデマンド形式の課題を実施し、水準未到達の学生については修正指示、再提出することで理解を深めた。				
15		対面授業中は毎週、授業内で作成したファイルをメール添付にて授業担当に提出。到達度を図り、翌週の授業で復習、フィードバックを行った。				
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
参考図書：よくわかる PowerPoint 2019						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：ブラインドタッチを身に付けられるように、タイピングする時間を作って練習をすること。						
事後学習（週 1.5 時間）：授業の内容を復習し、操作を覚えること。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして課題を回収後、解答の解説を行う。						
成績評価の目安と方法						
提出課題の内容 90% 授業姿勢 10% （未提出な課題がある場合、成績の評価はされない）						
評価	成績評価別の到達度					
S	パワーポイントを有効に活用し、迅速かつ丁寧に目的とするビジネス文書を作成することができる。					
A	パワーポイントの操作方法をとてもよく理解し、目的とするビジネス文書を丁寧に作成することができる。					
B	パワーポイントの操作方法を理解し、目的とするビジネス文書を作成することができる。					
C	パワーポイントの基本的な操作方法が身につく、目的とするビジネス文書のある程度作成することができる。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		ホテルビジネス総論 1 [Introduction of Hotel Business 1]	2			
授業形態		担当教員名		科目コード		
講義・演習		植松 大介	国	M-S2116		
この授業に関係する資格						
ホテルビジネス実務検定						
この授業のキーワード		授業概要				
1	ホテルビジネス	ホテルビジネス実務検定ベーシックレベル 2 級の内容を踏まえながら、ホテル業の実務を学ぶ。また受講者は「ホテル概論」を受講している者が望ましい。				
2	部門別業務理解					
3	ホテル英語					
学習の到達目標						
ホテル産業の概要と実務知識を学び、ホテルビジネスの実務を詳しく学ぶ。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	オリエンテーション	講義の進め方、評価の仕方、その他受講上の注意				
2	ホテルの基礎①	ホテルとは、ホテルの経営形態と運営形態、サービスの基本と機能別サービス				
3	ホテルの基礎②	ホテル関連法規と概要、ホテル・旅館関連の政府系機関と団体、ホテル英語				
4	宿泊部門の基本	組織、業務内容、基本的な流れ、宿泊約款、客室機能				
5	宿泊部門の実務①	フロントサービス、宿泊予約、オペレーター				
6	宿泊部門の実務②	フロントオフィス、ハウスキーピング、コンシェルジュ、バトラー				
7	料飲部門の基本	組織、業務内容、基本的な流れ、環境、空間、シーティング				
8	料飲部門の実務①	フランス料理レストラン				
9	料飲部門の実務②	中国料理、その他の外国料理専門店				
10	料飲部門の実務③	コーヒースョップ、バー・ラウンジ、ティーラウンジ その他				
11	宴会部門の基本	組織、業務内容、基本的な流れ、市場動向				
12	宴会部門の実務	形式、料理、ブライダル				
13	調理部門の基本	組織、業務内容、基本的な流れ、環境、空間、シーティング				
14	調理部門の実務①	メインキッチン、レストランキッチン、設備機器				
15	調理実務の実務②	料理とメニューの基礎知識				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
参考図書：ホテルビジネス（基礎編）（財）ホテル教育センター / 練習過去問集 700 選 授業中、必要に応じて適宜指示及び資料プリントを配布する						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：テキストを事前に読み、併せて練習問題を解きながら検定合格に向けて準備しておくこと。 事後学習（週 1.5 時間）：講義内容を復習し、分からないところは調べて理解し、また試験問題を解いておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
各章修了後に確認テストを行い、テスト回収後、解答の解説を行う。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 80% 平常点（予習状況、授業の態度、意欲など）20%とし、総合的に評価する						
評価	成績評価別の到達度					
S	ホテルビジネス実務における部門別業務をきわめて高いレベル理解し、ホテル業務に必要な知識を十分身に付けている。					
A	ホテルビジネス実務における部門別業務をかなり高いレベル理解し、ホテル業務に必要な知識を十分身に付けている。					
B	ホテルビジネス実務における部門別業務をある程度理解し、ホテル業務に必要な知識をある程度身に付けている。					
C	ホテルビジネス実務における部門別業務を最低限理解し、ホテル業務に必要な知識を最低限身に付けている。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		ホテルビジネス総論 2 [Introduction of Hotel Business 2]	2			
授業形態		担当教員名			科目コード	
講義・演習		植松 大介	国	M-S3117		
この授業に関係する資格						
ホテルビジネス実務検定						
この授業のキーワード		授業概要				
1	ホテルビジネス	ホテルビジネス実務検定ベーシックレベル 1 級の内容を踏まえながら、ホテル業の経営・管理についてを学ぶ。 また受講者は「ホテル概論」「ホテルビジネス総論 1」を受講している者に限る。				
2	部門別業務理解					
3	管理業務					
学習の到達目標						
ホテルにおける実務知識を学び、ホテル経営と管理の仕組みとノウハウを学ぶ。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	オリエンテーション	講義の進め方、評価の仕方、その他受講上の注意（遠隔）				
2	総務・人事部門の概要	組織、業務役割組織、（遠隔）				
3	総務・人事部門の実務	採用、福利厚生、内部運営、コンプライアンス分析（遠隔）				
4	マーケティング部門の概要	業務役割、売上予算（遠隔）				
5	マーケティング部門の実務①	戦略、マーチャンダイジング、CRM、				
6	マーケティング部門の実務②	宴会セールス、宿泊セールス、婚礼セールス				
7	マーケティング部門の実務③	広報・企画、顧客管理				
8	施設管理部門の概要と実務①	組織、業務役割 設備と付帯設備、省エネとエコ、IT 関連、廃棄処理				
9	施設管理部門の実務②	関連法令、関連資格				
10	仕入・購買部門の概要と業務	組織と業務役割、仕入と在庫、在庫管理、食品衛生				
11	経理・会計部門の概要	組織と業務役割				
12	経理・会計部門の業務①	収益会計と費用会計、予算管理、経営分析、税の知識				
13	経理・会計部門の業務②	各部門（宿泊・料飲・宴会）の会計実務				
14		Google Classroom を使用して LIVE 講義を行い課題を行った。対面時に理解を深めた。				
15						
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
参考図書：ホテルビジネス（基礎編）（財）ホテル教育センター / 練習過去問集 700 選 授業中、必要に応じて適宜指示及び資料プリントを配布する						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：テキストを事前に読み、併せて練習問題を解きながら検定合格に向けて準備しておくこと。 事後学習（週 1.5 時間）：講義内容を復習し、分からないところは調べて理解し、また試験問題を解いておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
各章修了後に確認テストを行い、テスト回収後、解答の解説を行う。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 80% 平常点（予習状況、授業の態度、意欲など）20%とし、総合的に評価する						
評価	成績評価別の到達度					
S	ホテルビジネス実務における部門別業務をきわめて高いレベル理解し、ホテル管理業務に必要な知識を十分身に付けている。					
A	ホテルビジネス実務における部門別業務をかなり高いレベル理解し、ホテル管理業務に必要な知識を十分身に付けている。					
B	ホテルビジネス実務における部門別業務をある程度理解し、ホテル管理業務に必要な知識をある程度身に付けている。					
C	ホテルビジネス実務における部門別業務を最低限理解し、ホテル管理業務に必要な知識を最低限身に付けている。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		和文化と作法 [Japanese culture and Courtesy]	2			
授業形態		担当教員名		科目コード		
講義・演習・ アクティブ・ラーニング		蔦 洋子	国	M-S3118		
この授業に関する資格						
マナー・プロトコル検定						
この授業のキーワード		授業概要				
1	日本の伝統文化	マナー・プロトコル検定の内容を踏まえながら、就職活動と実社会でのマナー・作法・文化を学ぶ。 さらに就職への実技訓練も行い、知識と技術を精錬する。				
2	作法					
3	和食文化					
学習の到達目標						
国際人・社会人としての基本的な資質や「社会人」として、知っておくべき日本の知識や技能の習得を目標とする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価の仕方、各種検定試験について、その他受講上の注意など（遠隔）				
2	和の文化について	和の文化とは（遠隔）				○
3	道の世界	茶道、華道、書道、香道（遠隔）				○
4	和食について①	日本料理と和食の違い、歴史、日本料理の種類（遠隔）				○
5	日本料理の特徴と和食器	日本料理の陰と陽、和食器（やきもの、漆器等）（遠隔）				
6	和食について②	「和食」と伝統的な嗜好品（和菓子、日本茶）（遠隔）				
7	和食について③	会席、茶懐石、寿司屋でのマナー、和食文化考察、提案（遠隔）				○
8	日本の伝統的な衣服	浴衣着装（着物文化、浴衣、作務衣など）				○
9	伝統的な娯楽、	歌舞伎、能、狂言とは、武道とは				
10	日本の季節と節句	和の季節の感じ方、節句と二十四節季				
11	日本の行事について	通過儀礼、日本独特の行事、祭事				
12	立ち居振る舞い、補足糖	抹茶のいただき方、立ち居振る舞い（和室の入り方、歩き方、座り方、座布団の扱い方）、補足				○
13	茶話会	茶話会（抹茶を点てる、立ち居振る舞い実践）、まとめ				○
		※Google Classroom でクラス管理、Zoom で各回 75～90 分 双方向リアルタイム講義。 ディスカッション、考察発表、課題提出等で理解を深めた。 自粛期間当初は孤独感を低減するため、発言、発表等を意識した。				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：「マナー&プロトコルの基礎知識（日本マナー・プロトコル協会） ＊授業中に必要に応じて、適宜指示及び資料プリント(実問題など)を配布する。						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：事前に、新聞、インターネット等で情報収集しておくこと。 事後学習（週 1.5 時間）：学んだことが日常生活の中に根付いていることを意識し、疑問点等調べ、確認しながら生活を送ること。						
課題に対するフィードバックの方法						
質疑応答・実践によって都度チェックし、理解度確認テストで確認・解説する。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 50%、授業中の積極的な態度 30%、予習状況 20%などを総合的に評価する。						
評価	成績評価別の到達度					
S	マナー・プロトコルの資質・知識・マナー・技能・和文化などを深く理解し、実務に必要な項目を十分身に付けている。					
A	マナー・プロトコルの資質・知識・マナー・技能・和文化などをほぼ理解し、実務に必要な項目を良く身に付けている。					
B	マナー・プロトコルの資質・知識・マナー・技能・和文化などをかなり理解し、実務に必要な項目を身に付けている。					
C	マナー・プロトコルの資質・知識・マナー・技能・和文化などの基本事項を理解し、実務に必要な項目を身に付けている。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		マナー・プロトコル [Manners and Protocol]	2			
授業形態		担当教員名		科目コード		
講義・演習・ アクティブ・ラーニング		薦 洋子	国	M-S3119		
この授業に関する資格						
マナー・プロトコル検定						
この授業のキーワード		授業概要				
1	マナーの基本	マナー・プロトコル検定の内容を踏まえながら、検定合格と就職活動へのマナー・作法を学ぶ。 さらに就職への実技訓練も行い、知識と技術を精錬する。				
2	プロトコル					
3	通過儀礼と年中行事					
学習の到達目標						
国際人・社会人としての基本的な資質や「社会人」として、知っておくべき知識や技能の習得、プロトコル検定 3 級の合格を目標とする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	オリエンテーション	マナー・プロトコルとは何か、授業の進め方、評価の仕方、検定試験について、受講上の注意など				
2	基本姿勢	～第一印象について、挨拶、態度、直立姿勢、着席姿勢、お辞儀、返答、滑舌、表情				○
3	言葉遣いと話し方	～正しい敬語や丁寧な話し方、クッション言葉、会話～				○
4	自己紹介と会話	～自己紹介をしてみる（笑顔、歩き方、姿勢、話し方、敬語の総練習・実践）～				○
5	プロトコルとは	～ 5 原則、席次、国旗、握手、異文化を知る～				○
6	洋食文化と作法	～料理の種類、カトラリーの使い方、会話の進め方～				○
7	和食文化と作法	～お箸、和食器、日本料理と文化～				○
8	社会人に必要なマナー	～会社とは何か、社会人意識、礼装、贈答、手紙など～				○
9	電話応対とビジネス文書	～電話応対の心得、電話の取り次ぎ方、かけ方、名刺交換～				○
10	来客応対とトラブル対応	～来客応対、茶菓応対、トラブル対応、文書の書き方～				○
11	儀礼と節句②「冠」	～知識の確認、誕生から亡くなるまでの人生における儀礼としきたり～				○
12	儀礼と節句③「婚」	～知識の確認、祝儀袋とふくさ～				○
13	儀礼と節句④「葬」	～知識の確認、不祝儀袋、焼香の仕方～				○
14	儀礼と節句⑤「祭」	～知識の確認、神社の参拝の仕方～				○
15	日本の年中行事	～知識の確認、法令、待遇、その他～ まとめ				○
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：「マナー&プロトコルの基礎知識（日本マナー・プロトコル協会） ＊授業中に必要に応じて、適宜指示及び資料プリント(実問題など)を配布する。						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）： テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと。 事後学習（週 1.5 時間）： 課題で復習。授業で学んだことを実際の生活に取り込み、実際に行ってみること。						
課題に対するフィードバックの方法						
質疑応答・実践・小テストによって都度チェックし、理解度確認テストで確認・解説する。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 70%、授業中の積極的な態度 20%、予習状況 10%などを総合的に評価する。						
評価	成績評価別の到達度					
S	マナー・プロトコルの資質・知識・マナー・技能などを深く理解し、実務に必要な項目を十分身に付けている。					
A	マナー・プロトコルの資質・知識・マナー・技能などをほぼ理解し、実務に必要な項目を良く身に付けている。					
B	マナー・プロトコルの資質・知識・マナー・技能などをかなり理解し、実務に必要な項目を身に付けている。					
C	マナー・プロトコルの資質・知識・マナー・技能などの基本事項を理解し、実務に必要な項目を身に付けている。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N			S	M
専門教育科目		ホテル接客英会話 [Hotel Customer Service English]	2					
授業形態		担当教員名			科目コード			
講義・演習・ アクティブ・ラーニング		植松 大介	国	M-S3120				
この授業に関する資格								
ホテルビジネス実務検定								
この授業のキーワード			授業概要					
1	実務英語	視聴覚教材などを効率よく使用し、現場で役に立つ基本的な接客英語の表現やフレーズの習得と運用能力を講義と演習によって養う。英語での接客に必要な英語の基本的な文法力・語彙力も身に付けるためにロールプレイングを通して、接客技法を学ぶ。受講者は「英語コミュニケーション 1」を受講している者が望ましい。						
2	クレーム対応							
3	予約・精算対応							
学習の到達目標								
国際語として英語の役割を理解し、基本的な接客英語の表現やフレーズを修得する。 またそれらを駆使し、ホテル現場や日常生活の中で、英語でロールプレイングや実売プレゼンテーション、実務実演ができることを目標とする。								
回	テーマ	授業内容						AL
1	受講上の注意など	授業の方針・進め方、評価の仕方、その他受講上の注意など						○
2	Sales Introduction	Introducing Employee & Company Outlines (Who we are…)						○
3	Rooms ①	Booking & Check In						○
4	Rooms ②	House Keeping & Order Taking						○
5	Rooms ③	Check Out						○
6	Real English ①	Native 講師による実践講義						○
7	Food & Beverage ①	Reservation, Greeting & Seating						○
8	Food & Beverage ②	Order Taking & Menu Description						○
9	Food & Beverage ③	Cashier & Complaints						○
10	Real English ②	Native 講師による実践講義						○
11	Guest Service ①	Concierge & Butler Service						○
12	Guest Service ②	Transportation & Location						○
13	Guest Service ③	Booking & Confirmation						○
14	Guest Service ④	Message Service						○
15	Total Exercise	Total Role-Playing						○
試験等	ロールプレイング							
教科書及び参考図書								
参考図書：ホテルビジネス（基礎編）（財）ホテル教育センター / 練習過去問集 700 選 ※授業中に必要に応じて、適宜指示及び教材プリントを配布する								
準備学習・事後学習								
準備学習（週 1.5 時間）：自分の興味のあるジャンルに対して新聞やニュース、インターネット・書籍を通して情報の収集をしておくこと。 事後学習（週 1.5 時間）：講義内容を復習し、分からない単語やフレーズは調べて覚えること。								
課題に対するフィードバックの方法								
フィードバックとして各講義中に行うロールプレイング後により実践的な解説を行う								
成績評価の目安と方法								
ロールプレイング 70% 予習状況・授業中の積極的な態度などの平常点 30%として総合的に評価								
評価	成績評価別の到達度							
S	基本的な接客英語の表現やフレーズを理解、また駆使し、平易な英語での応対が十分に行える。							
A	基本的な接客英語の表現やフレーズを理解、また駆使し、平易な英語での応対がほぼ行える。							
B	基本的な接客英語の表現やフレーズを理解、また駆使し、平易な英語での応対がかなり行える。							
C	基本的な接客英語の表現やフレーズを理解、また駆使し、平易な英語での応対がある程度行える。							

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N			S	M
専門教育科目		ホテル概論 [Outline of Hotel]	2					
授業形態		担当教員名			科目コード			
講義・演習・ アクティブ・ラーニング		植松 大介	国	M-S2121				
この授業に関する資格								
ホテルビジネス実務検定								
この授業のキーワード			授業概要					
1	観光業界	世界と日本のホテル業界の現状を解説し、日本の観光業におけるホテル業の位置づけと今後の展望を考察・理解する。						
2	ホテル産業							
3	日系と外資系							
学習の到達目標								
ホテル領域に関する基礎的知識を理解することを目標とする。								
回	テーマ	授業内容						AL
1	オリエンテーション	講義の進め方、評価の仕方、その他受講上の注意						○
2	観光と旅行産業	世界と日本の観光・旅行産業の現状						○
3	日本の観光業の現状分析	観光白書を読み、業界を紐解く						○
4	ホテル史	世界と日本のホテルの歴史						○
5	シティホテル	都市部のホテルの運営形態						○
6	リゾートホテル	都市近郊のホテルの運営形態						○
7	アーバンリゾート・旅館	都市型リゾートホテル及び旅館の運営形態						○
8	日系ホテル①	日系ホテルの老舗と新興						○
9	日系ホテル②	日系ホテルグループ その特徴と運営形態						○
10	外資系ホテル①	外資系（欧米・アジア）ホテルの老舗と新興						○
11	外資系ホテル②	外資系ホテルグループ その特徴と運営形態						○
12	日外ホテル比較分析	帝国ホテルとリッツカールトン						○
13	日系グループ比較分析	西武と東急						○
14	外資グループ比較分析	ヒルトンとマリオット						○
15	日米ホテル比較分析	ディズニーホテル						○
試験等	プレゼンテーション + レポート							
教科書及び参考図書								
参考図書：国土交通省「観光白書」 ホテルビジネス（ベーシックレベルテキスト：基礎編）（財）ホテル教育センター 授業中、必要に応じて適宜指示及び資料プリントを配布する								
準備学習・事後学習								
準備学習（週 1.5 時間）：業界に関する事項に対して業界誌やインターネット・書籍を通して情報の収集をしておくこと。 事後学習（週 1.5 時間）：講義内容を復習し、分からないところは調べて理解しておくこと。								
課題に対するフィードバックの方法								
フィードバックとして各講義後にディスカッションを行い、解説を行う。								
成績評価の目安と方法								
平常点（授業の態度、意欲）70% 調査、プレゼンテーション（発表）、レポート（提出物など）30%とし、総合的に評価する								
評価	成績評価別の到達度							
S	ホテル概論の内容をきわめて高いレベルで理解している。							
A	ホテル概論の内容をかなり高いレベルで理解している。							
B	ホテル概論の内容をほぼ理解している。							
C	ホテル概論の内容を最低限理解している。							

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		ビジネスマナー [Business Manners]	2			
授業形態		担当教員名		科目コード		
講義・演習・ アクティブ・ラーニング		八板 将明		M-S3122		
この授業に関する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1	クリティカルシンキング	就活スキル・社会人スキルについてアクティブ・ラーニングを通じて学ぶ。自身の生き方、考え方に気づきの機会を作り、ビジネス界で活躍するためのライフプランを考える。				
2	イノベーション					
3	セルフマネジメント					
学習の到達目標						
ビジネスマナーの基礎を題材としてセルフチェックを実践し、イノベーション・セルフプロデュース力を養う。						
回	テーマ	授業内容	AL			
1	オリエンテーション	定着度確認。授業の進め方、評価方法、定期試験、受講上の注意（遠隔）				
2	自己紹介と他己紹介	「自分を知る」成功失敗体験・長所と短所（遠隔）	○			
3	自己分析	TA（交流分析 Transactional Analysis）を知る（遠隔）	○			
4	聞くチカラ①	傾聴（遠隔）	○			
5	聞くチカラ②	フロービング（遠隔）	○			
6	復習・話すチカラ①	遠隔授業振り返り・対面授業ブリーフィング「自己紹介編」	○			
7	話すチカラ②	「記憶に残る」自己紹介」グループディスカッション＆演習「相手を知る」応酬話法	○			
8	レジリエンス	ココロの回復力・感情コントロール・アンガーマネジメント	○			
9	EQ	ココロの知能指数・行動コントロール	○			
10	問題解決演習	グループディスカッション「価値創造／商品・戦略」「人間関係／クレーム・コンプライアンス」	○			
11	キャリアプラン	AI 社会におけるヒトの役割～なくなる仕事、生まれる仕事～	○			
12	マネープラン	給与・保険・資産運用	○			
13	ライフプラン	マネープランとキャリアプラン	○			
14		遠隔授業中は毎週、オンデマンド形式の課題を実施し、水準未到達の学生については修正指示、再提出することで理解を深めた。				
15		対面授業中は毎週、宿題を出し、授業の振り返りを行った。クラスルームを引き続き活用し、課題の提出採点フィードバックを行った。				
試験等	課題レポート					
教科書及び参考図書						
教科書：就職活動テキスト「さすが!」といわせる大人のマナー講座ー ＊授業中に必要に応じて、適宜指示及び資料プリント(実問題など)を配布する						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：各単元の関連情報の収集 事後学習（週 1.5 時間）：各単元の関連情報の編集						
課題に対するフィードバックの方法						
ディスカッション・関連課題の提出と採点						
成績評価の目安と方法						
提出課題の内容 90% 授業姿勢 10% （未提出な課題がある場合、成績の評価はされない）						
評価	成績評価別の到達度					
S	ビジネスマナーについての理解が深く、セルフプロデュースについての高い意識／技能がある。					
A	ビジネスマナーについての理解があり、セルフプロデュースの重要性を理解している。					
B	ビジネスマナーについての理解があり、自己分析ができている。					
C	ビジネスマナーについての理解があり、自己分析の方法を理解している。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位			
専門教育科目		ダイエット実践論 [Practical theory of diet]	2	N	S	M
授業形態		担当教員名			科目コード	
講義・ アクティブ・ラーニング		玉木 啓一 ・ 菊地 亨		M-S2123		
この授業に関する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1	ダイエット	減量を成功させるために、食と生活と体のメカニズムについて学んでいく。エネルギーの摂取と消費、これらをどのように把握しダイエットが成功していくかを考える。また、ダイエット実践について各自が考察を進めていき、健康的なダイエットについて学んでいく。				
2	食生活					
3	運動					
学習の到達目標						
ダイエットという言葉は、減量や治療のための規定食が本来の意味である。世の中では、食事だけではなく、運動を含めた痩せるための行動をダイエットと呼んでいる。この講義では、減量のメカニズムを身体的側面と食物摂取の側面の両面から理解することを目標とする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	ダイエットとは	ダイエットを解説し、その有用性と留意点を学習する（遠隔）				
2	エネルギー摂取	エネルギー摂取の基本について学ぶ（遠隔）				
3	エネルギー摂取量（１）	エネルギー摂取量の把握方法のための基本を学ぶ（遠隔）				
4	エネルギー摂取量（２）	エネルギー摂取量の把握方法について実践してみる（遠隔）				
5	エネルギー消費	人体内でのエネルギーの消費について、その仕組みを学ぶ				
6	エネルギー消費量把握	運動などによる、エネルギー消費量の測定・推定方法を学ぶ				○
7	エネルギー消費量推定	エネルギー消費量の把握について実践を通して学ぶ				○
8	ダイエットのための食事	ダイエットのための食事法の基本を学習する				
9	ダイエットのための運動	ダイエットのための運動について学ぶ				
10	ダイエットの実態	流行しているダイエットについて調べ発表し、ダイエットについて理論的に考える能力をつける				○
11	理想的ダイエット（運動）	ダイエットのための運動について考える				○
12	理想的ダイエット（食事）	対象者のライフスタイルを考慮したダイエットについて検討する				○
13	発表	各自の考える正しいダイエットを発表する				○
	課題１	例年の最終発表課題に加えて、本年度は各自の興味を持ったダイエットを調べることを課題とした。				○
	課題２	課題１を授業時間で発表するための資料作成等を課題とした。				○
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
教科書 なし（適宜資料を配布） 参考図書：「いつまでもデブと思うなよ」 岡田斗司夫 新潮新書						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：ダイエットに興味をもって情報を集め、授業で話題を提供できるように準備する。 事後学習（週 1.5 時間）：自分なりの「正しいダイエット」をまとめるに当たって講義内容を復習する。						
課題に対するフィードバックの方法						
授業中を中心に討議、対話を通じてフィードバックを行う。						
成績評価の目安と方法						
授業中の発表内容 60%、話題提供 20%、発言 20%を総合的に評価する。						
評価	成績評価別の到達度					
S	ダイエットとは何かを良く理解し、健康的で効果的なダイエットを創造する力を持っている。					
A	ダイエットとは何かを良く理解し、健康的で効果的なダイエットかを判断する力を持っている。					
B	ダイエットとは何かを理解し、健康的で効果的なダイエットかを判断する力を持っている。					
C	ダイエットとは何かを理解し、健康的なダイエットを考える力を持っている。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		ダイエット実践実習 [Practice of dieting]	2			
授業形態		担当教員名			科目コード	
実習・ アクティブ・ラーニング		玉木 啓一		M-S4124		
この授業に関する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1	ダイエット	具体的なダイエットの理論、方法論を、実験的な方法を用いて可能な限り検証し理解を深めていく。実際にダイエットを実践し、その効果を検証する。ダイエットの実践は学生本人に限らず、家族等の身近な実践者でも構わない。				
2	食事					
3	エネルギー消費量					
学習の到達目標						
本実習では、「ダイエット」を減量としてとらえ、巷で実施されている「ダイエット」を分析、検討する力を養っていく。安全かつ効果的なダイエットを、実践・指導していく能力を身に着けることが目標である。						
回	テーマ	授業内容				AL
1・2	ダイエットとは	世の中で実施されている、ダイエットを考える				
3・4	エネルギー出納	エネルギー摂取（食物摂取）とエネルギー消費（運動）について学ぶ				
5・6	摂取エネルギー 1	料理カードを用いてエネルギー摂取量の目安を知る				
7・8	摂取エネルギー 2	料理カードを用いて、エネルギーと食品や調理法との関係性について学ぶ				
9・10	摂取エネルギー 3	市販されている食品の構成や量を検証し、摂取エネルギー量を実践的に学ぶ				
11・12	エネルギー消費 1	エネルギー消費量の測定方法について学ぶ				○
13・14	エネルギー消費 2	様々なエネルギー消費量の推定方法について学ぶ				○
15・16	エネルギー消費 3	様々な身体活動のエネルギー消費量を測定（推定）する				○
17・18	ダイエットのための食品	既に流通するダイエット食品の食品表示を見て、食材の効果を考える				
19・20	摂取エネルギー量の管理	食事管理ソフトなどを用い自身の食事管理をして、その効果を検証する				
21・22	ダイエットのための運動	ダイエットに効果的な運動について、考え検証していく				
23・24	消費エネルギー量の管理	具体的なダイエット法について、考え検証していく				
25・26	ダイエット実践の検証	各自が着目したダイエットの効果について検証する				
27・28	ダイエット実践のまとめ	各自が着目したダイエットの効果について考察・まとめを行う				
29・30	総括・成果発表	ダイエット実践に関する成果発表				
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
教科書 なし（適宜資料を配布） 参考図書：「いつまでもデブと思うなよ」 岡田斗司夫 新潮新書						
準備学習・事後学習						
準備学習： 1 週間のダイエット実践ついて、授業中に報告する準備を行う。 事後学習： ダイエットの研究、実践をまとめる。						
課題に対するフィードバックの方法						
授業中を中心に討議、対話を通じてフィードバックを行う。						
成績評価の目安と方法						
授業中の発表内容 60%、話題提供 20%、発言 20%を総合的に評価する。						
評価	成績評価別の到達度					
S	ダイエットとは何かを良く理解し、健康的で効果的なダイエットを創造・実践する力を持っている。					
A	ダイエットとは何かを良く理解し、健康的で効果的なダイエットかを判断・実践する力を持っている。					
B	ダイエットとは何かを理解し、健康的で効果的なダイエットかを実践する力を持っている。					
C	ダイエットとは何かを理解し、健康的なダイエットを考える力を持っている。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		ホスピタリティ基礎演習 [Basic Study of Hospitality]	2			
授業形態		担当教員名		科目コード		
講義・演習・ アクティブ・ラーニング		植松 大介	国	M-S4125		
この授業に関する資格						
マナー・プロトコル検定、ホテルビジネス実務検定						
この授業のキーワード		授業概要				
1	ホスピタリティ	「サービス」、「おもてなし」、「ホスピタリティ」とは何か。「人が人と接し、人をもてなす職業」に対する意識を高め、その業種に就職するために必要な知識、技能を身につける。				
2	サービス					
3	おもてなし					
学習の到達目標						
「人材」としてではなく「人財」としてホスピタリティ産業で活躍できるよう必要な知識、技能を身につける。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	オリエンテーション	授業内容の紹介（遠隔）				
2	サービス	サービスとは何か（遠隔）				○
3	おもてなし	おもてなしとは何か（遠隔）				○
4	ホスピタリティとは何か	ホスピタリティとは何か（遠隔）				○
5	日本と世界	日本のホスピタリティと世界のホスピタリティ				○
6	日本と世界の美学	侘びと寂びとチップ				○
7	職業理解 1	ホテル業界の概要と業務				○
8	職業理解 2	ホテル業界を詳しく調べる				○
9	職業理解 3	ホテル業界研究（プレゼンテーション）				○
10	職業理解 4	医療事務業務界の概要と業務				○
11	職業理解 5	医療事務を詳しく調べる				○
12	職業理解 6	医療業界研究（プレゼンテーション）				○
13	まとめ	まとめ				○
14		遠隔授業は Classroom でライブ講義を行い、課題を提示。対面時に提出、理解を深めた。				○
15						
試験等	プレゼンテーション発表+ 実技試験					
教科書及び参考図書						
参考図書：ホテルビジネス 基礎編 （財）日本ホテル教育センター マナー&プロトコルの基礎知識 マナー・プロトコル検定テキスト （日本マナー・プロトコル協会） ※授業中に必要に応じて、適宜指示及び教材プリントを配布する						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 0.5 時間）：学習する事項に対して新聞やニュース、業界誌・インターネット・書籍を通して情報の収集をしておくこと。 事後学習（週 0.5 時間）：講義内容を復習し、分からないところは調べて理解しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして各講義後にディスカッションを行い、解説を行う。						
成績評価の目安と方法						
実技/実演試験・ロールプレイング・プレゼンテーション 50%、リアクションレポート（見学実習レポート、感想文など）35%、平常点（態度・意欲・服装など）15%とし、総合的に評価する。						
評価	成績評価別の到達度					
S	授業の成果を活かし、サービス産業界で働く十分な知識と技能を身に付けている。					
A	授業の成果を活かし、サービス産業界で働く基礎的な知識と技能を身に付けている。					
B	授業の成果を活かし、サービス産業界で働く準備ができている。					
C	授業の成果から、サービス産業界で働くことについて考えをまとめられている。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		サービス・接遇実習 [Practice of Service and Reception]	2			
授業形態		担当教員名		科目コード		
実習・ アクティブ・ラーニング		太田 あや子		M-S5126		
この授業に関する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1	社会人	業界に必要とされる人材の基礎的な技能と知識をみにつける。				
2	就業意識育成	業界の基礎知識を活かし医療・サービス産業界で実習的・研修的な就業体験を行う。				
3	マナー実践	サービスを提供するために必要なマナーを学ぶ。				
学習の到達目標						
社会人として必要なマナーを活かし、医療・サービス産業界で活躍できるようになる。						
回	テーマ	授業内容				AL
1 ～ 30	1・2 回目：ガイダンス（就業体験実習の準備）	実習施設の業務を調べレポートを作成する。現場からの指導者から施設ガイダンスを受ける				○
	3 回目～26 回目：医療機関またはサービス産業での就業体験実習	毎週火曜日 1・2 限に病院またはホテルで現場体験実習を行う 医療機関：病院、医院のボランティア実習 受付、会計、データ処理、案内、講演会運営等 サービス産業：ホテル：料飲、接客、客室整備、宴会補助				
	27・28 回目：実習のまとめと就業体験実習の発表準備	パワーポイントによる体験発表の準備				
	29・30 回目：就業体験発表会	実習先の担当者を招いての就業体験実習発表会				
試験等	発表資料、提出物（実習日誌）					
教科書及び参考図書						
参考図書：医療事務テキスト ゼロから教えてビジネスマナー、松本昌子、かんき出版						
準備学習・事後学習						
準備学習：事前に返却される実習日誌に目を通し、課題を設定しておくこと。 事後学習：毎回返却される実習日誌に目を通し、課題を発見して、解決策を考えておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
実習日誌の内容をふまえた課題解決にむけた指導助言を行う						
成績評価の目安と方法						
実習施設の指導担当者による評価 40% 実習終了後の発表資料、提出物（実習日誌）についての評価 40% 準備の姿勢に対する評価 20%						
評価	成績評価別の到達度					
S	体験実習に積極的に取り組み、日誌にその成果を十分にまとめることができ、サービス産業に従事する準備ができている。					
A	体験実習にしっかりと取り組み、日誌にその成果をまとめることができ、サービス産業に従事する準備ができている。					
B	体験実習に取り組み、サービス産業に従事する準備ができている。					
C	体験実習を通して、サービス産業を理解できている。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		地域事業実習 [Practice of Regional Business]	2			
授業形態		担当教員名		科目コード		
実習（集中授業）・ アクティブ・ラーニング		太田 あや子		M-S5127		
この授業に関係する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1 2 3	地域事業 就業意識 マナー実践	公共施設でのサービスマネジメント業を定期的かつ長期にわたり実習生として出向き、1 年次での学習と実際のサービス現場での学びを統合する学外での実習形式の授業である。 具体的には、東松山市の教育部スポーツ課及び子育て支援課に出向き、課の補助業務を通して、公務員業務の実習的・研修的な就業体験を行い、実務実践能力を身につける。				
学習の到達目標						
毎週 1 回の事業参加で、日本スリーデーマーチ実行委員会等の就業体験を通じて、事業の運営方法を身につける。						
回	授業内容					AL
1 ～ 30	学内授業（1・2、ガイダンス） 授業概要と事業内容等の説明および日本スリーデーマーチについて学ぶ 学外授業（3～14、東松山市役所業務補助） 東松山市役所の業務全般について業務補助を体験する 学外授業（15～26、日本スリーデーマーチ推進委員会業務補助） 東松山市の日本スリーデーマーチ推進委員会の業務を中心に業務補助を体験する 学内授業（27・28） 実習体験の資料作成と発表準備 学内授業（29・30） 実習体験発表					○
試験等	課題レポート					
教科書及び参考図書						
参考図書：東松山市の市政だより、日本スリーデーマーチ総合計画書など その他、必要に応じて資料を配付する						
準備学習・事後学習						
毎週東松山市へ出向いての実習のため、地域スタッフとのコミュニケーション能力も必要となる。あらかじめ、世代を問わず会話できるように、普段の生活から練習する。 実習記録の内容をふりかえり、翌日の実習に生かせるよう、体調を整えて実習に備えること。						
課題に対するフィードバックの方法						
毎日、実習記録を回収し、解説やコメントを加えて返却する。オフィスアワーでも適宜対応する。						
成績評価の目安と方法						
学内ガイダンスと実習へ取り組む姿勢 70% 実習体験発表・レポート 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	地域事業へ積極的に取り組み、実態を理解して、事業運営方法を身につけ、十分な発表をすることができる。					
A	地域事業へ積極的に取り組み、実態を理解して、事業運営方法について発表をすることができる。					
B	地域事業へ取り組み、実態を理解して、事業運営方法について発表をすることができる。					
C	地域事業を通して実態を理解し、事業運営方法の体験を発表することができる。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		地域事業運営実習 [Practice of Regional Business]	2			
授業形態		担当教員名		科目コード		
実習（集中授業）・ アクティブ・ラーニング		太田 あや子 ・ 福島 邦男 ・ 植松 大介 ・ 八板 将明		M-S5128		
この授業に関係する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1 2 3	地域事業 就業意識 マナー実践	1 年次、2 年前期の公共施設でのサービスマネージメント業での就業体験を活かし、実際の事業運営に担当者として関わり総合的な課題解決学習を行う、学外での実習形式の授業である。 具体的には、東松山市の日本スリーデーマーチ推進委員会や吉見町の公共施設に出向きイベント」や教室運営業務に携わることを通して、公務員業務の実務実践能力を向上させる。				
学習の到達目標						
東松山市や吉見町のイベントや教室の準備、実施、終了後点検業務の就業体験を通じて、事業の運営の方法を身に付ける。						
回	テーマ	授業内容				AL
1 ～ 30	1・2 回 ガイダンス	学内ガイダンス 授業概要と関係町村の事業内容等担当事業について学ぶ。				○
	3～26 回 学外実習	学外授業（3～26、東松山市役所、吉見町業務） 東松山市役所（日本スリーデーマーチ、保育園運動指導等）、吉見町のイベントや教室業務（子育て支援事業等）をスタッフの一員として運営する。				
	27・28 回 学内授業	学内授業（27・28） 実習体験の資料作成と発表準備				
	29・30 回 成果発表会	学内授業（29・30） 実習体験発表 市町の関係者をお招きして、実習での学習成果を発表する。				
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
参考図書：東松山市、吉見町の広報誌、日本スリーデーマーチ総合計画書など 必要に応じて資料を配付する。						
準備学習・事後学習						
準備学習：東松山市や吉見町の施策に目ととして課題に関する社会事象を把握しておくこと。 事後学習：毎回の活動を実習日誌にまとめ、次回の課題を設定しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
実習日誌の内容をふまえた課題解決にむけた指導助言を行う						
成績評価の目安と方法						
学内ガイダンスと実習へ取り組む姿勢 70% 実習体験発表・レポート 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	地域事業へ積極的に取り組み、実態を理解して、事業運営方法を身につけて実践し、十分な成果発表をすることができる。					
A	地域事業へ積極的に取り組み、実態を理解して、事業運営を実践し、成果を発表することができる。					
B	地域事業へ取り組み、実態を理解して、事業運営方法を実践し、成果を発表することができる。					
C	地域事業へ取り組み実践を通して実態を理解し、成果を発表することができる。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]		単位			
専門教育科目		健康マネジメント演習 [Seminar in Health and Management] 必修		4	N	S	M
授業形態		担当教員名			科目コード		
演習・ アクティブ・ラーニング		太田 あや子			M-S6129		
この授業に係る資格							
この授業のキーワード		授業概要					
1 2 3	スポーツマネジメント プレゼンテーション イベント・事業運営	幼児体育やスポーツマネジメントの対象領域について、情報を収集し、現場で実習を行い、成果を、パワーポイントを用いたプレゼンテーションにまとめる。イベント・事業の企画運営学習の一環として、日本スリーデーマーチ 10 kmコースに参加したり、吉見町の高齢者の体力測定イベントや学園祭キッズコーナーを企画運営する。					
学習の到達目標							
スポーツマネジメントの現場で使う指導法やコミュニケーション方法を学び、実践してまとめ、成果を振り返り、次につなげる P D C A サイクルをみにつける。マネジメントに必要なプレゼンテーション、 経費計算などのスキルのアップをはかりながら、イベント企画運営能力を身につける。							
回	テーマ	授業内容					AL
1	ガイダンス						
2	プレゼンテーション 1	学校紹介プレゼンテーションのテーマを考える					○
3~4	プレゼンテーション 2 ~4	プレゼンテーションの資料収集 (1) 、パワーポイントによるプレゼンテーションの作成(1)、(2)					○
5	イベント運営企画 1	幼児運動指導の指導計画、吉見町健康体力測定イベントの企画案作成、企画実施準備					○
6	イベント運営企画 2	指導、企画実施準備					○
7	イベント運営実習 1	保育園運動指導、吉見町健康体力測定イベント運営実習(1)					
8~14	イベント運営企画 2 ~8	保育園運動指導、吉見町健康体力測定イベント運営実習(2)~(8)					
15	イベント運営振り返り	保育園運動指導、吉見町健康体力測定イベント運営の総括					
16・17	学園祭ブース運営企画	学園祭キッズコーナー運営企画(1)、(2)					○
18	学園祭運営実習 1	学園祭キッズコーナー運営実習(1)					
19~21	学園祭運営実習 2~4	学園祭キッズコーナー運営実習 (2)~(4)					
22	データ処理 1	吉見町健康体力測定イベントデータ処理 入力(1)					
23~24	データ処理 2,3	健康体力測定イベントデータ処理 入力(2)(3)					
25	データ処理 1,2	健康体力測定イベントデータ処理 (統計処理) (1)(2)					
26~30	データ処理 3~6	健康体力測定イベントデータ処理 (図表作成) (3)(4)(5)(6)					
試験等	レポート						
教科書及び参考図書							
参考図書：マーケティングを学ぶ人が最初に読む本、 重田修治、総合法令出版(2004)							
準備学習・事後学習							
準備学習（週 0.5 時間）：担当する実習の内容についてインターネット等で調べておくこと。 事後学習（週 0.5 時間）：毎時の授業内容を日誌にまとめて、レポート作成の準備をすること。							
課題に対するフィードバックの方法							
実習日誌の内容をふまえた課題解決にむけた指導助言を行う							
成績評価の目安と方法							
平常点 50% 提出物 50%							
評価	成績評価別の到達度						
S	高いイベント企画運営能力があり、実践できる。						
A	十分なイベント企画運営能力があり、実践できる。						
B	イベント企画能力があり、実践できる。						
C	イベント企画運営、実践できる。						

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位			
専門教育科目		健康マネジメント演習 [Seminar in Health and Management] 必修	4	N	S	M
授業形態		担当教員名			科目ナンバー	
演習・アクティブ・ラーニング		福島 邦男		M-S6129		
この授業に関する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1	野外活動	前学期はイニシアティブゲームについて調査し、体験学習について学ぶ。また、プールでカヌーを練習し、社会貢献としてボランティア活動に参加する。後学期は本学の施設や周辺の自然環境を利用して、ノルディックウォーキング、アウトドアクラフトについて実践を通して学ぶ。				
2	野外教育					
3	レクリエーション					
学習の到達目標						
野外活動に興味を持ち、積極的に参加することはもちろんであるが、活動での直接体験を重視し、体験するとともにその指導法についても学び、相互に教え合うことを通して、指導者としての力を身につけることを目標とする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	ガイダンス	この授業の内容とその進め方について（遠隔）				
2～4	イニシアティブゲーム 1	イニシアティブゲームについてインターネット検索を通して調査する（遠隔）				
5～7	イニシアティブゲーム 2	イニシアティブゲームについての調査発表				○
8・9	ゲームのまとめ	イニシアティブゲームについて、ポスターにまとめる				○
10～13	カヌー・前学期のまとめ	カヌー（カヤック）について調査・前学期のまとめ				○
14						○
15						
16～18	ノルディックウォーキング 1	ノルディックウォーキング（NW）の基本動作について実践を通して学ぶ				
19～20	ノルディックウォーキング 2	本学周辺のコースを歩くことで実践的に学ぶ				○
21～22	NW のまとめ	NW について学んだことをポスターにまとめ、発表する				○
23～24	スキー用具の安全管理	スキー用具をもとに、雪上活動全般の安全管理と用具の管理方法を学ぶ				○
25～28	野外クラフト	野外工作と、それを発展させたキャンプテーブルを作成する				○
29・30	この演習のまとめ	この演習でのまとめとして、各自の成果を発表しあう				○
						○
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
参考図書：ティーチング イン ザ アウトドアーズ D.R.Hammerman 他著 日本野外教育研究会監訳 杏林書院 そ の 他：必要に応じて資料を配布する。						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 0.5 時間）：この授業のキーワードと毎回のテーマに関する情報を新聞、雑誌、インターネット等から入手し、各回で生かせるように目を通しておく。またポスター発表等では、完成に向けて各自が課題に関する調査を事前に行っておく。 事後学習（週 0.5 時間）：授業内容をふりかえり、次回に活かせるようにしておく。毎時間の資料は保管しておき、事後学習に活用できるようにしておく。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとしてミニレポートを回収し、解説を加えて返却する。オフィスアワーで適宜対応する。						
成績評価の目安と方法						
平常点 70% 調査・発表・レポート 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	野外教育とレクリエーションの意義を理解し、人生を豊にする応用力を身に付けている。					
A	野外教育とレクリエーションの意義を理解し、実践することができる。					
B	野外教育とレクリエーションの意義を理解できる。					
C	野外教育とレクリエーションの意義に対して基礎的な理解ができる。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目		健康マネジメント演習 [Seminar in Health and Management] 必修		4			
授業形態		担当教員名			科目コード		
演習・ アクティブ・ラーニング		植松 大介			M-S6129		
この授業に関する資格							
この授業のキーワード		授業概要					
1	ホスピタリティ	「ホスピタリティ」を商品と捉え「ビジネス」展開を行う。地域の企業と連携し商品の企画立案・提案を行う。人の心に響き、相手を思いやる気持ちをいかに商品化・販売するためのメカニズムを学び実践する。					
2	ビジネス						
3	商品企画販売						
学習の到達目標							
人の心に響き、相手を思いやる気持ちを商品化、ビジネス展開し「利潤」を求めるスキルを学ぶ。							
回	テーマ	授業内容					AL
1	オリエンテーション	進め方、評価の仕方、その他受講上の注意					○
2～4	就職活動準備	履歴書・面接・再確認（遠隔）					
2～12	就職活動準備	履歴書・面接・ビジネスマナー等の再確認					
13・14 15	まとめ 発表	プレゼンテーションシートをまとめる。（遠隔で双方向講義） 実践・実施報告					
16	オリエンテーション	商品企画の進め方・マーケティングリサーチの仕方					
17～29	企業連携実習	マーケティングリサーチ（実地調査） 商品の企画立案（プランニング・シュミレーション） 販売予測（レベニューマネジメント） 企画提案・実売（プレゼンテーション） 展開予測（フィードバック）					
30	発表	成果報告					
試験等	なし						
教科書及び参考図書							
ホスピタリティ・マネジメント（第2版）徳江順一郎著 同文館出版 ホスピタリティと観光のマーケティング フィリップ・コトラー著 東海大学出版							
準備学習・事後学習							
準備学習（週0.5時間）：学習する事項に対して新聞やニュース、業界誌・インターネット・書籍を通して情報の収集をしておくこと。 事後学習（週0.5時間）：講義内容を復習し、分からないところは調べて理解しておくこと。							
課題に対するフィードバックの方法							
フィードバックとして各講義後にディスカッションを行い、解説を行う。							
成績評価の目安と方法							
平常点 70% 予習状況、調査・発表・実演 30%							
評価	成績評価別の到達度						
S	演習に関して、知識・技能などを深く理解し、実務に必要な項目を十分身に付けている。						
A	演習に関して、知識・技能などをほぼ理解し、実務に必要な項目を良く身に付けている。						
B	演習に関して、知識・技能などをかなり理解し、実務に必要な項目を身に付けている。						
C	演習に関して、知識・技能などの基本事項を理解し、実務に必要な項目を身に付けている。						

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		インターンシップ [Internship]	2			
授業形態		担当教員名		科目ナンバー		
実習・ アクティブ・ラーニング		太田 あや子 ・ 茗荷 尚史 ・ 大野 勝生 ・ 高橋 琴美 ・ 八板 将明		NSM-S9130		
この授業に係る資格						
レクリエーション・インストラクター						
この授業のキーワード		授業概要				
1	就業体験	短期大学で学んできた知識や指導技術を活かす場として、企業や団体において、健康福祉や健康産業、生涯スポーツに関する実習的・研修的な就業体験を行う。				
2	就業意識育成					
3	専門職体験					
学習の到達目標						
実習的・研修的な就業体験を行うことにより、実際の知識や指導技術の習得し、指導者としての自覚を高め、就業意識を涵養して、進路を明確にし、専門職として社会で活躍することができるようになる。						
回	授業内容					AL
1 ～ 15	実習時期：原則として、春季休業中（2月下旬から3月下旬） 実習期間：原則として、2週間（実質10日間以上） 実習日程：実習受け入れ先と検討して決定 事前授業 1回目：実習施設内容紹介、先輩の体験談、希望調査（11月） 2回目：個人調書、誓約書の作成（11月） 3回目：書類提出、マナー研修（12月、1月） 4回目：コミュニケーショントレーニング（1月） 5回目：人工心肺蘇生法講習会、メイクアップ教室（1月、補講期間） 2～3月：実習（就業体験）3月下旬：最終レポートの作成、お礼状発送 実習終了後：実習日誌（含む最終レポート）提出、最終指導 原則として短期大学が紹介する施設の中から選択する。他に実習を希望する施設がある場合は相談に応じる。実習施設は以下のとおりである 1. フィットネス・スポーツクラブ業務（ア）フィットネス・スポーツクラブ（イ）サッカースクール（ウ）公的スポーツ施設（エ）総合型地域スポーツクラブ（オ）スポーツ少年団（カ）その他健康フィットネス産業やプロチーム 2. 野外活動団体 3. 学童保育所 4. 福祉施設（介護施設、知的障害者授産施設など） 5. スポーツショップ 6. その他（ホテル・レストラン業務、販売業務、農業就業など）					○
試験等	実習日誌、レポート					
教科書及び参考図書						
参考図書：インターンシップの手引き、インターンシップ実習日誌（無料 授業時に配布）						
準備学習・事後学習						
準備学習：実習の手引き、事前研修で配布される資料を読んで学内事前授業や実習の内容を確認しておくこと。 事後学習：実習日誌の指導コメントを読み返し、次回の課題を解決する方策や情報を確認しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
実習日誌の内容をふまえた課題解決にむけた指導助言を行う。						
成績評価の目安と方法						
実習施設の指導担当者による評価 40% 実習終了後の提出物（実習日誌）についての評価 40% 準備の姿勢に対する評価 20%						
評価	成績評価別の到達度					
S	体験実習に積極的に取り組み、日誌にその成果を十分にまとめることができ、健康に関わる産業に従事する準備ができています。					
A	体験実習にしっかりと取り組み、日誌にその成果をまとめることができ、健康に関わる産業に従事する準備ができています。					
B	体験実習に取り組み、健康に関する産業に従事する準備ができています。					
C	体験実習を通して、健康に関する産業を理解できています。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		レクリエーションスポーツ実習 [Recreational Sports]	1			
授業形態		担当教員名		科目ナンバー		
実習・ アクティブ・ラーニング		福島 邦男		NSM-S4131		
この授業に関する資格						
レクリエーション・インストラクター、障がい者初級スポーツ指導者、子ども身体運動発達指導士						
この授業のキーワード		授業概要				
1	レクリエーションスポーツ	現在、生涯スポーツの一手段として、また健康づくりを目的として、様々なレクリエーションスポーツが行われている。本授業では、それぞれの種目や活動が持つ特性や心理的、身体的、あるいは社会的な効果について考えながら、対象にあわせて指導を展開する際に必要なコミュニケーションスキルについても学習する。				
2	ニュースポーツ					
3	障害者スポーツ					
学習の到達目標						
単に技術やルールの習得にとどまらず、その指導方法について学習して、模擬授業を担当することで指導技術も身につける。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	実習ガイダンス	レクリエーションスポーツの特性とその目的				
2	信頼関係づくりの方法 1	ホスピタリティについて				○
3	信頼関係づくりの方法 2	自己紹介 伝えることと、受け止めることについて				○
4	信頼関係づくりの方法 3	コミュニケーションワークについて 集団をまとめる				○
5	良好な集団づくりの方法 1	アイスブレイキングについて実践を通して学ぶ				○
6	良好な集団づくりの方法 2	アイスブレイキング要素の高いレクリエーションゲーム				○
7	良好な集団づくりの方法 3	アイスブレイキングの支援技術				○
8	楽しむ力を高める方法 1	課題解決型グループワークを体験する				○
9	楽しむ力を高める方法 2	体験学習プログラムとしての活用方法				○
10	楽しむ力を高める方法 3	イニシアティブゲームの展開方法				○
11	レクリエーション支援のプログラム 1	子どもから高齢者まで、障がいの有無に係らず、誰もが楽しめるニュースポーツの展開				○
12	レクリエーション支援のプログラム 2	子どもから高齢者まで、障がいの有無に係らず誰もが楽しめる身体活動 歌やゲーム				○
13	レクリエーション支援のプログラム 3	障がい者スポーツ 1 誰もが楽しめるアクティビティ				○
14	レクリエーション支援のプログラム 4	障がい者スポーツ 2 障がいの程度別の指導について				○
15	実習のまとめ	授業で取りあげたスポーツのまとめ				
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
参考図書：楽しさをとおした心の元気づくり (財) 日本レクリエーション協会、レクリエーション支援の基礎 (財) 日本レクリエーション協会 そ の 他：必要に応じて資料を配付する。						
準備学習・事後学習						
準備学習：授業のキーワードとテーマに関する情報（新聞、雑誌、インターネットの動画など）を入手し、毎回の実習に生かせるように目を通しておく。 事後学習：毎時間の資料は保管しておき、事後学習に活用できるようにしておく。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、毎時授業日誌を回収し、コメントを加えて返却する。オフィスアワーでも適宜対応する。						
成績評価の目安と方法						
平常点 70% 提出物・レポート 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	レクリエーションスポーツの意義を活かした、健康生活への応用力を十分に身につけている。					
A	レクリエーションスポーツの意義を良く理解している。					
B	レクリエーションスポーツの意義を理解している。					
C	レクリエーションスポーツの基礎的な理解をしている。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		スクーバダイビング実習 [Scuba diving]	1			
授業形態		担当教員名			科目ナンバー	
実習（集中授業） アクティブ・ラーニング		太田 あや子		NSM-S5132		
この授業に関する資格						
スクーバダイビング C カード（オープンウォーター）、レクリエーションインストラクター						
この授業のキーワード		授業概要				
1	C カード（オープンウォーター）	クーバダイビング指導団体（DACS）の教程に従って、安全潜水のための講義講習とプール実習を学内集中授業で受講した後、2 泊 3 日の海洋実習を行う。教材や実習にかかる経費の負担がある（8 万円程度）。 ※隔年開講につき令和 2 年度は開講しない。				
2	講義講習・プール講習					
3	海洋実習					
学習の到達目標						
スクーバダイビングの知識と知識を身につけ、希望者はオープンウォーターの C カードを取得することをめざす。						
回	授業内容					AL
1	ガイダンス：C カード取得に必要な書類の作成					
2	講義講習 1:ダイビングと身体、ダイビングと環境					
3	講義講習 2：スキンドビング、スクーバダイビング					
4	講義講習 3：ダイビングと障害と症状、ダイビングと安全					
5	講義講習 4：ダイビングの実際、水中生物、器材管理と点検					
6	プール講習 1：スキンドビング実技（シュノーケルクリア、マスククリア、潜泳、200m水面移動）					○
7	プール講習 2：スクーバダイビング 1（セッティング、レギュレータークリア、マスククリア、中性浮力）					○
8	プール講習 3：スクーバダイビング 2（バディブリージング、スィミングアセント）					○
9	プール講習 4：スクーバダイビング 3（器材脱着、各スキルの復習とチェック）					○
10	プール講習 5：スクーバダイビング 4（200m水面移動）					○
11	プール講習 6：深度体験と耳抜き、深度プールでのスキルチェック（学外実習）エントリーとエキジット					○
12	海洋実習 1：スクーバダイビング 1（セッティング、レギュレータークリア、マスククリア、中性浮力）（学外実習）					○
13	海洋実習 2：スクーバダイビング 2（バディブリージング、スィミングアセント）（学外実習）					○
14	海洋実習 3：スクーバダイビング 3（器材脱着）（学外実習）					○
15	海洋実習 4：計画潜水：30 分程度のスクーバダイビング（学外実習）					○
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
DacsOW 教本（実習費 8 万円程度に含まれる）						
準備学習・事後学習						
スクーバダイビングのライセンス取得を目指す授業である。ライセンスは 2 泊 3 日の海洋実習で 4 回海に潜水しないと取得できないので、日程や経費に関して十分な準備をしておくことが望ましい。50mの泳力があると安心して受講できるため水泳関係の授業の履修を勧める。						
課題に対するフィードバックの方法						
学習ノートの内容をふまえた課題解決にむけた指導助言を行う。						
成績評価の目安と方法						
実技・技能 50%、筆記試験 50%						
評価	成績評価別の到達度					
S	スクーバダイビングに関する知識が豊富で、高い技能レベルにある。					
A	スクーバダイビングに関する十分な知識があり、安全潜水に必要な技能レベルにある。					
B	スクーバダイビングに関する知識があり、安全潜水に必要な技能レベルにある。					
C	スクーバダイビングに必要な基礎的知識と技能がある。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		夏季アウトドア実習 [Summer Outdoor Activity]	1			
授業形態		担当教員名			科目ナンバー	
実習（集中授業）・ アクティブ・ラーニング		福島 邦男		NSM-S5132		
この授業に関する資格						
レクリエーション・インストラクター、キャンプインストラクター						
この授業のキーワード		授業概要				
1 2 3	野外活動 夏季の自然 キャンプ	宿泊を伴わない、土曜日を中心とした日帰り実習を行う。本実習では、キャンプを実施する上で必要な基礎知識および技術について実習する。集団での活動を通して参加者相互の交流を深めながら、人間を取り巻く環境への関心を高め、人間関係を重視した生活を体験し、災害時に役立つ生活方法についても学習する。 ※隔年開講につき次年度は開講しない。				
学習の到達目標						
日帰りで様々な野外活動を体験し、自然環境での共同生活において、望ましい人間関係を築き上げることができる。基本技術を身につけることで、安全で楽しいキャンプを指導する方法を身につける。						
回	内容					AL
1 ～ 15	学内事前授業（月一回程度、昼休みを利用して実施する） キャンプの概要、テント設営法（1,2） 安全なアウトドアクッキングのために（薪割り、焚き付け）（2,4） アウトドアクッキング入門編（飯ごう炊さん）（5,6） 奥武蔵ハイキング（県内日帰り登山・読図とコンパスワーク）（7～10） アウトドアクッキング応用編（段ボールスモーク実験）（11,12） キャンプクラフト（焼き板制作など）（13,14） ポスター作成・発表（15） 毎回、体験レポートとして内容をどれだけ理解したかを記載し提出する。 学外で実施する場合（登山等）は交通費が必要である。 また、野外での活動なので、雨着（カッパ）、リュックサック等が必要となる。					○
試験等	課題レポート					
教科書及び参考図書						
参考図書：野外活動 その考え方と実際 日本野外教育研究会編 杏林書院 キャンプ指導者入門 （社）日本キャンプ協会 その他：必要に応じて資料を配付する						
準備学習・事後学習						
土曜日を中心とした日帰り形式の集中授業である。キャンプ初心者でも参加可能であるが、実習に先立ち、炊飯器に頼らずに、鍋などで炊飯できるようにしておく。活動内容をふりかえり、次回の活動に生かせる用、体調を整えて次の活動に備えること。						
課題に対するフィードバックの方法						
毎回、実習の記録を回収し、解説やコメントを加えて返却する。オフィスアワーでも適宜対応する。						
成績評価の目安と方法						
実習へ取り組み姿勢 70% 記録記載内容・レポート 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	夏季の自然と、野外活動の危険を理解し、キャンプ技術と安全確実な指導方法を身につけている。					
A	夏季の自然と、野外活動の危険を理解し、キャンプ技術と安全な指導方法を身につけている。					
B	夏季の自然と、野外活動の危険を理解し、キャンプを安全に実施する技術を身につけている。					
C	夏季の自然と、野外活動の危険を理解し、キャンプ技術を身につけている。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		冬季アウトドア実習 [Winter Outdoor Activity]	1			
授業形態		担当教員名		科目ナンバー		
実習（集中授業）・アクティブ・ラーニング		福島 邦男		NSM-S5133		
この授業に関する資格						
レクリエーション・インストラクター、キャンプインストラクター						
この授業のキーワード		授業概要				
1	野外活動	スキーはウインタースポーツの代表であり、冬季の自然の中で素晴らしい満足感・達成感をわれわれに与えてくれる。本授業では、冬の自然を理解し、スキーを安全に楽しむために必要な基本的技術・知識を身につける。また、生涯スポーツの一つになるよう、受講者のレベルにあわせて指導する。さらに、指導者として必要な知識・技術も身につける。				
2	冬季の自然					
3	スキー					
学習の到達目標						
3泊4日のスキーを体験することで、共同生活の中で望ましい人間関係を築き上げ、安全に滑走を楽しむ基本技術を身につける。初心者指導法を学ぶことで、安全に楽しく確実にスキー技能が向上する初心者指導法を身につける。						
回	内容					AL
1 ～ 15	学内事前授業（10月から合計3回実施する） 授業概要と参加費等の説明および用具合わせと取り扱い方法を学ぶ 集中授業 参加者のスキー技術レベルに応じてグループを編成し、練習する ここでは「超・スキー練習法」に基づく指導体系により、初心者は初日からブルークボーゲンをできる様にし、リフトを使いながら、安全に確実に滑れるようになる。経験者はスキーと身体操作能力を高める練習をし、技術のレベルアップを図る また、個人の欠点の矯正も行い、より安全で確実な技術を身につける なお、技術指導だけでなく、スキー場での行動規則を学び、安全に配慮したマナーのある行動を身につける さらに、指導者として身につけておくべき指導法についても学習し、最終日には学生同士による模擬指導を実施する 宿舎での講義で「スキーと安全」「スキーが上手になるために」「スキー指導法」を行い、スキー技術と安全管理について学ぶ 講習内容をどれだけ理解したかを実習の記録に記載し提出する 合宿形式の集中授業なので実習費（30,000円）が必要である他、別途レンタル料、リフト券代が必要となる					○
	試験等	課題レポート				
教科書及び参考図書						
参考図書：野外活動 その考え方と実際 日本野外教育研究会編 杏林書院 キャンプ指導者入門 （社）日本キャンプ協会、超・スキー練習法 野沢巖監修・指導 山海堂 そ の 他：必要に応じて資料を配付する。						
準備学習・事後学習						
3泊4日の合宿形式の集中授業である。初心者でも参加可能である。実技練習に支障がないよう、日頃から運動を心がける。実技講習の内容をふりかえり、翌日の講習に生かせる用、体調を整えて翌日の講習に備えること。						
課題に対するフィードバックの方法						
毎日、実習の記録を回収し、解説やコメントを加えて返却する。休憩時間等にも適宜対応する。						
成績評価の目安と方法						
学内ガイダンスと実習へ取り組み姿勢 70% 記録記載内容・レポート 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	冬季の自然と、スキーの持つ本質的な危険を理解し、スキーの技術と安全確実な指導方法を身に付けている。					
A	冬季の自然と、スキーの持つ本質的な危険を理解し、スキーの技術と安全な指導方法を理解している。					
B	冬季の自然と、スキーの持つ本質的な危険を理解し、スキーの技術を身に付けている。					
C	冬季の自然と、スキーの持つ本質的な危険を理解し、スキーの基礎的技術を身に付けている。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		アロマテラピー [Aromatherapy]	2			
授業形態		担当教員名		科目コード		
講義・実習・ アクティブ・ラーニング		鯨岡 久美		NSM-S3134		
この授業に関する資格						
日本アロマ環境協会 アロマテラピー検定 1 級						
この授業のキーワード		授業概要				
1	アロマテラピーの基礎	アロマテラピーの基礎を学び、正しく活用できる知識を養う。				
2	生活の中でのアロマテラピー	アロマテラピーを学び、生活の中に取り入れることで、自分の生活をより豊かにする。				
3	健康とアロマテラピー	アロマテラピーを学び、自分や家族の心と身体の健康に役立て、将来職場でも役立てられる力を養う。				
学習の到達目標						
アロマテラピーを正しく理解し、自分や家族の健康に役立てられる力を養う。 検定試験合格レベルの知識を、楽しみながら習得し、今後ますます必要となる予防代替療法としてのアロマテラピー活用の知識・方法を学ぶ。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	アロマテラピーの基本	アロマテラピーの定義について				
2	精油について 1、実習①	精油の性質や作用について学ぶ、精油の香りあて、実習①アロマ石鹸作り				○
3	精油について 2、実習②	精油の製造法について学ぶ、精油学習①、実習②化粧水作り				○
4	アロマテラピーの安全性、 実習③	精油を安全に使用するための心得を学ぶ、精油学習③、実習③アロマスプレー作り				○
5	基材について、実習④	アロマテラピーで使用する基材について学ぶ、精油学習④、実習④ハンドクリーム作り				○
6	アロマテラピーの利用法、実 習⑤	様々なアロマテラピーの利用法について学ぶ、精油学習⑤、実習⑤アロマバスソルト作り				○
7	アロマテラピーのメカニズム	精油が心身に伝わる仕組みについて学ぶ、精油学習⑦				
8	ビューティー＆ヘルスケア 1、 実習⑥	美容と健康にアロマテラピーを活用する方法を学ぶ 1、精油学習⑧、実習⑥アロマバスボム作り				○
9	ビューティー＆ヘルスケア 2	美容と健康にアロマテラピーを活用する方法を学ぶ 2、精油学習⑨				
10	アロマテラピーの歴史	近世～現代、日本におけるアロマテラピーの歴史、精油学習⑩、				
11	アロマテラピーと法律、実習 ⑦	アロマテラピーに関する法律について学ぶ、実習⑦アロマルームフレグランス作り				○
12	まとめ、実習⑧	全体の総括とまとめ、実習⑧アロマクレンザー作り				○
13	少なくなった分の内容	毎回、精油のワークシート（30 種類）を授業後に作成させ、内容を確認し採点后返却した。				
14						
15						
試験等	筆記試験（遠隔）					
教科書及び参考図書						
教科書：日本アロマ環境協会発行 アロマテラピー検定 公式テキスト 1 級、アロマ精油費						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）： 指定したテキストの次回講義該当箇所を読んでおくこと。 事後学習（週 1.5 時間）： 毎回授業始めに、前回授業内容の理解度確認のため小テストを行うので、復習しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして理解度確認の小テストを回収後、解答の解説を行う。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 80% 平常点（授業態度・小テスト） 20% 理由のない欠席、遅刻、早退は減点						
評価	成績評価別の到達度					
S	アロマテラピーについて十分に理解し、授業に積極的に参加し、発言や、質問などを特に活発にしている。					
A	アロマテラピーについて理解し、授業に積極的に参加し、発言や、質問などをしている。					
B	アロマテラピーについて理解し、授業への参加、発言、質問が平均的である。					
C	アロマテラピーについて理解し、授業中の発言や質問が消極的である。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位			
専門教育科目		スポーツマッサージ [Sports Massage]	2	N	S	M
授業形態		担当教員名			科目コード	
講義・演習・ アクティブ・ラーニング		村田 向春	国	NSM-S3135		
この授業に関係する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1	コンディション調整	スポーツマッサージはコンディション調整だけでなく、障害の予防・治療、リハビリテーション等に用いられている物理療法の一つである。本授業ではスポーツマッサージの理論や作用、施術時の注意事項等を理解し、基本的な手技の習得を目指す。				
2	障害の予防・治療					
3	リハビリテーション					
学習の到達目標						
スポーツマッサージの基本的な手技の習得を目指す。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	定義、概要(講義形式)	スポーツマッサージの理論や注意点				○
2	基本的な手技	各手技の説明、二人一組で実技				○
3	うつぶせマッサージ	背部のマッサージ				○
4	うつぶせマッサージ	腰背部、臀部のマッサージ				○
5	うつぶせマッサージ	下肢のマッサージ				○
6	仰向けのマッサージ	上肢、頸部のマッサージ				○
7	仰向けのマッサージ	下肢のマッサージ				○
8	仰向けのマッサージ	その他のマッサージ				○
9	側臥位のマッサージ	上肢のマッサージ				○
10	側臥位のマッサージ	下肢、臀部のマッサージ				○
11	側臥位のマッサージ	腰背部、肩背部のマッサージ				○
12	全身のマッサージⅠ	腰痛へのアプローチ				○
13	全身のマッサージⅡ	肩こりへのアプローチ				○
14	全身のマッサージⅢ	全身のマッサージ				○
15	まとめ	全体の総括				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
必要に応じてプリントを配布します 参考図書：改訂版 身体運動の機能解剖(医道の日本社)、改訂版 ボディ・ナビゲーション(医道の日本社)						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）： マッサージについて、シラバス、参考図書等でマッサージのイメージを持つようにすること。 事後学習（週 1.5 時間）： 授業で行ったマッサージ解剖・手技の復習。						
課題に対するフィードバックの方法						
授業内で随時、対応、確認。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 50% 授業態度（実技に取り組む姿勢） 50% 理由のない遅刻、欠席は減点						
評価	成績評価別の到達度					
S	スポーツマッサージの理論や注意点を良く理解し、主訴によって手技を使い分け全身のマッサージができる。					
A	スポーツマッサージの理論や注意点を理解し、応用しながら全身のマッサージができる。					
B	スポーツマッサージの理論や注意点を理解し、全身のマッサージができる。					
C	スポーツマッサージの理論や注意点を理解している。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		ヨガ・ピラティス [Yoga/Pilates]	2			
授業形態		担当教員名		科目ナンバー		
実技・演習・ アクティブ・ラーニング		川村 美樹	国	NSM-S5136		
この授業に関する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1	ヨガ	ヨガ・ピラティスを体験する事で、呼吸法、ストレッチング、コアトレーニング、リラクゼーションのスキルを獲得し、自分自身のコンディショニング方法を身に付ける。 ヨガ・ピラティスの基本を毎回、テーマを決めて学び、体調、実技内容、感想を毎回演習ノートに記入する。				
2	ピラティス					
3	指導法					
学習の到達目標						
いくつかのヨガのポーズ・ピラティスエクササイズを自分で組み合わせ、ポイントを説明しながら発表できるようになる。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	オリエンテーション	ヨガ・ピラティスの概論とこの授業の目的				
2	アライメントについて	姿勢チェック				○
3	呼吸法	腹式呼吸他				○
4	リラクゼーション	体ほぐし、足もみ				○
5	ヨガ基本 1	座って行うアサナ（ポーズ）				○
6	ヨガ基本 2	うつ伏せで行うアサナ（ポーズ）				○
7	ヨガ基本 3	立って行うアサナ（ポーズ）				○
8	ピラティス 1	基本姿勢・基本動作				○
9	ピラティス 2	ローリングライカボール、ロールアップ、ハンドレッド他				○
10	ピラティス 3	ハンマー、シザース、ブリッジ、プーリー他				○
11	プログラム指導法 1	太陽礼拝				○
12	プログラム指導法 2	目的に合わせたピラティスプログラム				○
13	実技発表 1	プログラム指導の発表 1				○
14	実技発表 2	プログラム指導の発表 2				○
15	総まとめ	全体の総括・演習ノートまとめ及び提出				
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
適宜、必要な資料を配付する 参考図書：図解 YOGA アナトミー：筋骨格編、アーサナ編 -医師が教えるヨガの機能解剖学 YOGA BOOKS, ：Training book for Yoga Instructor						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1 時間）：ヨガ・ピラティスについて、シラバス、参考図書等でヨガ・ピラティスのイメージを持つようにすること。 事後学習（週 2 時間）：トレーニングとして、休まず、授業時間外で自分の体をしっかり観察し、記録する。						
課題に対するフィードバックの方法						
授業内で随時、対応、確認。						
成績評価の目安と方法						
平常点：50% 実技発表：30% 授業内まとめ・演習ノート：20%						
評価	成績評価別の到達度					
S	ヨガ・ピラティスの課題を正確に示し、対象者を観察し、修正しながら指導することができる。					
A	ヨガ・ピラティスの課題を正確に示し、指導することができる。					
B	ヨガ・ピラティスの課題を正確に示すことができる。					
C	ヨガ・ピラティスの課題を最低限示すことができる。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		キャリアデザイン [Career Design Program]	2			
授業形態		担当教員名		科目コード		
講義・演習・ アクティブ・ラーニング		岡崎 英規 ・ 川井 明 ・ 植松 大介		NSM-S9138		
この授業に関する資格						
この授業のキーワード		授業概要				
1	就職活動	自分の適性を知り、各自の能力が活かせるような企業（進路先またはキャリア）を探す方法を学び、インターネットでのアクセス方法（ナビ登録の仕方、エントリーシートでの応募の仕方など）、就職（及び編入学、進学）活動に必要な書類の作成、面接試験対策（模擬個人・グループ面接）などを1年次に引き続き行う。				
2	就職試験					
3	就業意識					
学習の到達目標						
社会人として自立できるように、職業に対する意識を高め、自分に適した職業を選択し、就職するために必要な知識、技能を身につける。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	受講上の注意など（遠隔）	授業内容と進行方法、心構え、評価方法について、就職活動に役立つPDCAを学び、就職活動情報（企業説明会・採用状況他）収集法など ◎週のテーマに関わらず、下記の①～⑬の内容から、各自希望の項目を選び、受講又は作業・活動することができる ①エントリーの仕方など（パソコン利用法）②模擬グループ面接 ③模擬個面接 ④グループディスカッションでの役割やポイントなど（模擬グループディスカッション） ⑤公務員試験、一般常識・時事問題対策（模擬試験など）⑥作文・小論文対策 ⑦編入学・進学試験問題対策（模擬試験など）⑧教員採用試験対策 ⑨魅力的なエントリーシートのための書き方とポイント ⑩魅力的な履歴書のための書き方とポイント ⑪パソコン講習（情報処理室） ⑫最終模擬面接、書類の書き方と最終確認など ⑬就職活動で活かせるマナー（電話・メール・手紙のマナーなど） ⑭その他（メイクアップ講座、企業の情報収集など、於:情報処理室・図書館など） 遠隔授業はClassroomでライブ講義を行い、課題を提示。対面時に提出、理解を深めた				○
2	就職活動の情報収集（遠隔）					
3	履歴書完成セミナー①（遠隔）					
4	エントリーシート完成セミナー①（遠隔）					
5	面接特訓セミナー①					
6	Web 面接セミナー					
7	履歴書完成セミナー②					
8	エントリーシート完成セミナー②					
9	面接特訓セミナー②					
10	筆記試験対策					
11	編入学試験対策					
12	教員採用試験対策					
13	振り返り					
14						
15						
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
教科書：就職活動テキスト その他、必要に応じて教材用のプリントを配布						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）： 各自のテーマに関する章を読んで授業に参加する。 事後学習（週 1.5 時間）： 中途半端で終わった場合にそのままにせず課題をしっかりと終わらせ、復習する。						
課題に対するフィードバックの方法						
提出物を添削して返却する。						
成績評価の目安と方法						
提出物（感想文など）80％ 受講態度 20％として総合的に評価する。						
評価	成績評価別の到達度					
S	授業の成果を活かし、将来の進路を決定する応用力を身につけている。					
A	授業の成果を活かし、将来の進路を決定する基礎的な力を身につけている。					
B	授業の成果を活かし、将来の進路を決定する準備ができている。					
C	授業の成果から、将来の進路について考えをまとめられている。					

教職に関する専門教育科目

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
教職専門科目		教職概論 [Introduction to Teacher Training]	2			
授業形態		担当教員名		科目コード		
講義・ アクティブ・ラーニング		大野 勝生	国	NS-T2139		
この授業に関係する資格及び含めることが必要な事項						
教員免許（保健体育、栄養教諭） ・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校への対応を含む。） ・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）						
この授業のキーワード		授業概要				
1	教師論	本講義は「教師」そのものを学習の対象とする。履修学生の理想とする教師像を把握した上で、教師という職業に関するテーマを取り上げ、その理解を深めていく。教育、学校、教師を取り巻く状況は複雑さを増している中で、理論的な知識のみならず、学校現場において実践的に対応できる知識の習得を目指し講義を進める。				
2	教師を取り巻く諸問題					
3	ディスカッション					
学習の到達目標						
教職課程を履修する学生が「なぜ教師になりたいのか」「どのような教師になりたいのか」「教師の専門性、教師の責務とは何か」を、教職全般に係る知識を用いて深く考察できるようにすることである。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	「教職」とは	講義の進め方、教師を目指すに当たって、教職とは何か。（遠隔）				
2	教職への道Ⅰ	教育公務員として～全体の奉仕者とは・・・。（遠隔）				
3	教職への道Ⅱ	教員免許制度の基礎知識（遠隔）				
4	教員公務員の研究と修養	教員の研修義務～学び続ける教師（遠隔）				
5	教職の特殊性	教員の役割、学校教育の役割				
6	理想の教師像	教職への強い情熱、教育のプロとしての確かな力量、総合的な人間力				
7	教員免許制度の概要	免許状の種類、改正教育職員免許法について				
8	教員採用試験	教員採用試験の基本知識				
9	教員の職務Ⅰ	教員の職務とは、校務とは。				
10	教員の職務Ⅱ	授業者、学級担任そして組織の一員として				
11	教員の職務Ⅲ	校務分掌とは－校務分掌の種類、校務分掌の決定				
12	教員の身分と服務Ⅰ	教員の身分、身分の保障、分限と懲戒				
13	教員の身分と服務Ⅱ	教員の服務とは－服務の根本基準、職務専念義務とその免除				
		※授業後半に教員採用試験の演習問題を出題、解答・解説を実施。（5～11回）				
		※小論文対策として課題を提示、添削後コメントを付与し返却。（12～13回）				
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
参考図書：井藤 元 編『ワークで学ぶ教職概論』ナカニシヤ出版 2017 年 高木展郎・三浦修一・白井達夫 共著『「チーム学校」を創る』三省堂 2015 年 ※その他、教材プリント配布						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：予定される講義テーマに関して、新聞、書籍、インターネット等で情報収集し理解を深める。 事後学習（週 1.5 時間）：各回実施の演習問題の復讐、テーマごとのレポートを作成する。						
課題に対するフィードバックの方法						
演習問題は各回ごとに解答解説、優良なレポートを題材に課題の確認とフィードバックを行う。						
成績評価の目安と方法						
各回に課すレポートの内容 60％、発表会の内容 20％、講義への参加態度 20％として、総合的に評価する						
評価	成績評価別の到達度					
S	教職の意義、教師の役割と職務内容、専門性等を理解し、自らの教職観を的確に構築できる。					
A	教職の意義、教師の役割と職務内容、専門性等は良く理解している。					
B	教職の意義、教師の役割と職務内容、専門性等をある程度理解している。					
C	教職の意義、教師の役割と職務内容、専門性等を十分に理解できず、継続的な努力を要する。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
教職専門科目		教育原理 [Principles of Education]	2			
授業形態		担当教員名		科目コード		
講義・ アクティブ・ラーニング		村井 輝久 ・ 大野 勝生		NS-T2140		
この授業に関係する資格及び含めることが必要な事項						
教員免許（保健体育、栄養教諭）、社会福祉主事 ・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 ・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）						
この授業のキーワード		授業概要				
1	教育学	教育に関する歴史及び思想についての基礎的な知識と、教育に関する制度的及び経営的事項について基本的な知識を習得し、教師として学校現場で教育活動に従事する際に必要と思われる教育の原理を理解する。				
2	現代の学校の諸問題					
3	ディスカッション					
学習の到達目標						
1 教育の思想と歴史的変遷について学び、教育の基礎的理念と理論についての理解ができるようになる。 2 これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、展開してきたのかを理解できるようになる。 3 教育に関する制度的及び経営的事項について基本的な知識を身に付け、学校と地域との協働の意義と在り方、及び学校安全の目的と具体的な取組を学び、理解できるようになる。 以上の知識を踏まえてディスカッションに臨み、理解を深めることを目標とする。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	オリエンテーション	講義の進め方、教育とはなにか、教育学を学ぶとはどういうことか（遠隔）				
2	学校の歴史	学校の歴史、学校教育の意義をめぐるディスカッション（遠隔）				
3	西洋教育史	西洋教育史 1（コメニウス、ロック、ルソー、カント、ペスタロッチ）（遠隔）				
4	西洋教育史	西洋教育史 2（フレーベル、ヘルバルト、デューイ、モンテッソーリ）（遠隔）				
5	現代の学校教育	現代の学校教育の課題を考える 1（いじめ、不登校）				○
6	現代の学校教育	現代の学校教育の課題を考える 2（モンスターペアレント、英語教育）				
7	現代の学校教育	現代の学校教育の課題を考える 3（道徳教育、SNS）				
8	教育制度	教育制度の歴史と基本原理				○
9	教育制度	現行の学校教育制度の内容（日本国憲法と教育基本法を中心に）				
10	学校経営	学校経営のあり方とその仕組み				○
11	学校経営	開かれた学校づくりの意義と課題および学校評価の重要性				○
12	チーム学校	教職員および学校外の関係者との協働の在り方				○
13	チーム学校	学校と地域との協働の方法を事例から考える				○
	少なくなった回数分の内容	毎回、授業終了後、小レポートを課し、次回の授業時にコメントと解説を行った。				
	少なくなった回数分の内容	適宜、ワークシートを配布し、自宅で学習できるようにし、次回の授業時にフィードバックと解説を行った。				
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
参考図書：今井康雄編『教育思想史』有斐閣、2009 年 そのほか授業中に適宜資料を配布する。						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：講義で配布される各回のテーマに関する資料を次回の講義までに熟読し、次のテーマとの関連性がわかるように理解を深める。 事後学習（週 1.5 時間）：各回のテーマごとの小レポートの作成。						
課題に対するフィードバックの方法						
資料および小レポートをもとにおこなうディスカッションにおいて、意見の共有をはかりフィードバックをおこなう。						
成績評価の目安と方法						
各回に課す小レポートの内容 60% 講義への参加態度 40%						
評価	成績評価別の到達度					
S	教育の理念、学校教育論、現代の学校の諸問題等の内容を習得し、自らの考えを良く表現できている。					
A	教育の理念、学校教育論、現代の学校の諸問題等の内容をとても良く理解している。					
B	教育の理念、学校教育論、現代の学校の諸問題等の内容を十分に理解している。					
C	教育の理念、学校教育論、現代の学校の諸問題等の内容を理解したものの、継続的な努力を要する。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位			
教職専門科目		発達と学習の心理学 [Psychology of Learning and Development]	2	N	S	M
授業形態		担当教員名			科目コード	
講義・ アクティブ・ラーニング		高橋 勇一		NS-T2141		
この授業に関係する資格及び含めることが必要な事項						
教員免許（保健体育、栄養教諭） ・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程						
この授業のキーワード		授業概要				
1	発達と発達課題	幼児、児童及び生徒の心身の発達はどのようになされるか、発達に影響を及ぼす要因、各発達段階の特徴、発達課題等について概説する。また、学習に影響を及ぼす要因、学習の動機づけ、集団づくり、学習評価のあり方等について、教育実践に役立つ内容を学習する。				
2	学習のメカニズム					
3	発達と学習の理論					
学習の到達目標						
1.発達の過程及び特徴について理解する。2.学習のメカニズムを理解する。3.発達と学習の諸理論について理解する。以上の 3 点を基に、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	発達について	教育心理学・発達と学習について				
2	心と記憶	心と脳、記憶のしくみ、忘却、メタ認知など				○
3	発達に関する諸理論	発達段階と発達課題、ピアジェ、エリクソンの発達理論				
4	幼児期の発達	乳幼児期の特徴、運動発達・言語発達、愛着（アタッチメント）など				
5	学童期の発達	学童期の特徴、認知発達・社会性の発達、「9（10）歳の壁」				
6	青年期の発達（1）	青年期の特徴、自我の芽生え、反抗期、アイデンティティ				
7	青年期の発達（2）	思春期学、10 代の脳と心、職業選択について				
8	生涯発達	ライフサイクル、運動発達・認知発達・社会性の発達、未来予想など				
9	知性・パーソナリティ	人間（ヒト）の知性、パーソナリティの発達について				
10	学習意欲	動機づけ、期待効果、学習結果の振り返りなど				○
11	学習理論と学習方法	学習理論、学習方法、学習形態など				○
12	学習評価	評価の理論と方法、評価の活かし方				○
13	発達障害と学習	発達障害に対する理解と学習支援など				○
14	学級集団と人間関係	学級集団、人間関係と測定法、リーダーとフォロワー				○
15	総合・まとめ	発達を踏まえた学習支援・学習指導、振り返り学習				
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
参考図書・参考資料等 和田万紀 編『Next 教科書シリーズ 教育心理学』弘文堂、外山紀子・外山美樹 著『やさしい発達と学習』有斐閣 アルマ、安藤寿康・鹿毛雅治 編『教育心理学』慶応義塾大学出版会 ※ 授業中に適宜資料を配付する						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.0 時間）：書籍（参考図書）やインターネット・配付資料等を通して、予習をしておくこと。 事後学習（週 2.0 時間）：授業の内容をよく復習するとともに、生きた知識として活用し、さらに探究の学習を行うこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
課題などにコメント等を入れて返却する。						
成績評価の目安と方法						
授業参加態度・小レポートの内容 50％、授業内課題 50％						
評価	成績評価別の到達度					
S	発達と学習の心理学についての知識を身につけ、十分に理解を深め、教育実践に応用できる力を身に付けている。					
A	発達と学習の心理学についての知識を身につけ、十分に理解を深めている。					
B	発達と学習の心理学の概略について概ね理解している。					
C	発達と学習の心理学の概略について最低限は理解している。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
教職専門科目	特別支援教育 [special needs education]		1			
授業形態	担当教員名			科目ナンバー		
講義	清水 光雄		国	NS-T3142		
この授業に関係する資格及び含めることが必要な事項						
教員免許（保健体育、栄養教諭） ・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解						
この授業のキーワード		授業概要				
1	特別な教育的ニーズ	特殊教育から特別支援教育へ理念と基本的な考えの転換、障害とは何か、特別支援教育への転換に伴う数々の法的整備、特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の理解、特別支援教育を推進するシステム、特別支援教育に関する教育課程及び支援の方法、特別支援教育の対象と範囲の拡大、新たな課題などについて概説する。				
2	インクルーシブ教育					
3	特別支援教育を推進するシステム					
学習の到達目標						
1. 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒について理解する。 2. 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育課程及び支援の方法について理解する。 3. 障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援について理解する。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の理解	発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程の理解など				
2	特別支援教育とは何か	特殊教育から特別支援教育へ理念と基本的な考えの転換、特別支援教育対象者数の変化など				
3	障害とは何か	これまでの障害観と新たな障害観（ICF）、「共生社会」の実現を目指す日本など				
4	法的整備	特別支援教育への転換に伴う数々の法的整備、インクルーシブ教育システムなど				
5	様々な障害児の発達特性	視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難についての理解など				
6	特別支援教育を推進するシステム	「個別の指導計画」及び「個別的教育支援計画」の作成、「通級による指導」や特別支援学級、巡回相談、特別支援学校のセンター的役割など				
7	学習指導要領と教育課程及び支援の方法	特別支援教育に関する教育課程及び支援の方法、「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容など				
8	特別支援教育の対象と範囲の拡大	障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒を含めた具体的な指導・支援のあり方、新たな課題の認識など				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
テキスト：柘植雅義 著『特別支援教育 -多様なニーズへの挑戦-』中公新書						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：特別な支援を必要とする児童生徒が学校でどのような支援を受けているか、学校生活を振り返る等して考えを整理しておく。 事後学習（週 1.5 時間）：授業中の内容を復習し、特別な支援を必要とする児童生徒に対しどのような支援が必要か、様々な視点から整理しておく。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、理解度を確認するテストを回収後、解答の解説を行う。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 70% 授業参加の意欲・態度・提出物など 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	特別の支援についての知識を身につけ、十分に理解を深め、教育実践に活用できる力を身につけた。					
A	特別の支援についての知識を身につけ、理解を深めた。					
B	特別の支援の概略を概ね理解することができた。					
C	特別の支援の概略を部分的に理解した。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
教職専門科目		特別支援教育 [special needs education]	1			
授業形態		担当教員名			科目ナンバー	
講義		伊藤 えつ子	国	NS-T3142		
この授業に関係する資格及び含めることが必要な事項						
教員免許（保健体育） ・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解						
この授業のキーワード		授業概要				
1	特別支援教育の理念	特別支援教育に関する基礎的な内容を扱う。教職課程の科目として、教員採用試験や教員になった際に必要な知識を身につける。地域での生活や他の職業についての場合にも役立つ内容である。				
2	障害の特性と支援					
3	特別支援教育の仕組みと制度					
学習の到達目標						
1. 特別支援教育の理念や現状について理解する。 2. 障害種ごとの特性を理解し、それに応じた必要な支援を理解する。 3. 特別支援教育の仕組みと制度、特別支援学校の目標等を理解する。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	特別支援教育の理念	授業概要の説明。特別支援教育とは何かについて。特別支援教育の法的根拠、特別支援学校において対象とする 5 障害について。事前郵送課題の実施。（遠隔）				
2	特別支援教育の理念と現状	特別支援学級において対象とする障害、通級における指導において対象とする障害。特殊教育と特別支援教育の違いの理解。特別支援教育の現状についての理解。小テスト（遠隔）				
3	障害種ごとの特性と支援①	障害種別児童生徒の特性の理解。生活上、学習上の困難さと必要な支援について。（視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、知的障害、病弱等）小テスト(遠隔)				
4	障害種ごとの特性と支援②	障害種別児童生徒の特性の理解。生活上、学習上の困難さと必要な支援について。（発達障害、言語障害、情緒障害等）特別支援教育の変遷。障害者施策の国内、国外の動向。ICF、ICIDH について。小テスト				
5	特別支援教育の仕組みと制度①	特別支援学校学習指導要領等の改訂のポイント等についての理解。特別支援教育の目標や教育課程及び支援の方法、「自立活動」の教育課程上の位置付け等について。小テスト				
6	特別支援教育の仕組みと制度②	校内委員会とセンター的機能、特別支援教育コーディネーターの役割について。「個別的教育支援計画」、「個別の指導計画」の作成と評価について。小テスト				
7	特別支援教育の仕組みと制度③	インクルーシブ教育システムと、「共生社会」の実現に向けた取り組み。障害者差別解消法と合理的配慮について。就学決定の仕組みの変更について。教員採用試験過去問題の提供と実施。				
8		4 回目の内容がほぼ 2 回分に当たるので、4 回目の障害種別の支援の方法について、説明の不足の部分を 5, 6 回目で補った。				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
柘植雅義 著『特別支援教育 -多様なニーズへの挑戦-』中公新書						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：特別な支援を必要とする児童生徒が学校でどのような支援を受けているか、学校生活を振り返る等して考えを整理しておく。 事後学習（週 1.5 時間）：授業中の内容を復習し、特別な支援を必要とする児童生徒に対しどのような支援が必要か、様々な視点から整理しておく。教員採用試験過去問題の実施。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、理解度を確認する小テストを回収後、解答の解説を行う。						
成績評価の目安と方法						
筆記試験 70％ 授業参加の意欲・態度・提出物など 30％						
評価	成績評価別の到達度					
S	特別の支援についての知識を身につけ、十分に理解を深め、教育実践に応用できる力を身につけている。					
A	特別の支援についての知識を身につけ、理解を深めている。					
B	特別の支援の概略を概ね理解している。					
C	特別の支援の概略を部分的に理解している。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
教職専門科目	道徳教育の理論と実践 [Moral Education and Teaching Methods]		1			
授業形態	担当教員名			科目コード		
講義・ アクティブ・ラーニング	高橋 勇一 ・ 村井 輝久			NS-T3143		
この授業に関する資格及び含めることが必要な事項						
教員免許（保健体育、栄養教諭） ・道徳の理論及び指導法						
この授業のキーワード		授業概要				
1 2 3	道徳教育論 指導法 学習指導案	道徳とは何か？ 道徳を教育するとはどういうことか？ このようなテーマを基本に、道徳教育の理論と実践について学習する。そして、中学校（小学校）学習指導要領に示されている道徳教育の内容を理解した上で、学習指導案を作成し、模擬授業を行う。				
学習の到達目標						
1 道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育、およびその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解する。 2 学習指導案の作成と模擬授業を通して指導力を身に付ける。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	オリエンテーション	講義の進め方、道徳について、学校における道徳教育のあり方				
2	道徳教育の理念と歴史	道徳教育の理念と歴史について				
3	学習指導要領	学習指導要領が定める道徳の位置づけと内容				
4	学習指導案	学習指導案の書き方				
5	学習指導案	資料の活用類型と発問構成の工夫				○
6	学習指導案	指導案の作成				○
7	模擬授業	模擬授業と評価 1				○
8	模擬授業	模擬授業と評価 2				○
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
中学校学習指導要領、小学校学習指導要領（平成 29 年 3 月公示） 中学校学習指導要領解説 道徳編、小学校学習指導要領解説 道徳編（文部科学省） ＊文部科学省ホームページ 中学校学習指導要領解説よりダウンロードすることができる 他に使用する資料を授業時に配布する						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）： 次の授業で扱う資料を読み、自分の意見を発言できるようにしておく。 事後学習（週 1.5 時間）： 学習指導案の改善。授業で扱った資料を再度熟読し、復習する。						
課題に対するフィードバックの方法						
資料についてのディスカッション及び学習指導案についてコメントを行う。						
成績評価の目安と方法						
学習指導案 50% 授業への参加態度 50%（模擬授業、リアクションペーパー、グループワーク）						
評価	成績評価別の到達度					
S	道徳教育の目標・内容・方法をよく理解し、自分の考えも適切に表現できている。					
A	道徳教育の目標・内容・方法をかなりよく理解している。					
B	道徳教育の概要について、おおむね理解している。					
C	道徳教育の概要について、最低限は理解している。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
教職専門科目		特別活動指導法 [Special Activities]	1			
授業形態		担当教員名			科目ナンバー	
講義・ アクティブ・ラーニング		福島 邦男		NS-T3144		
この授業に関係する資格及び含めることが必要な事項						
教員免許（保健体育、栄養教諭） ・特別活動の指導法						
この授業のキーワード		授業概要				
1 2 3	特別活動 集団活動 話し合い活動	小学校及び中学校学習指導要領における特別活動の領域について、その特質・活動内容を学習しながら、学校教育全体における特別活動の意義について学ぶ。さらに、児童・生徒が集団や社会における役割と責任を自覚して、人間形成し自己実現して行くうえで必要となる教師の役割を十分に果たすための基礎的知識と具体的指導内容・方法を、実際例をあげながら学習して行く。				
学習の到達目標						
・学校教育全体における特別活動の意義を理解する。 ・「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点で捉えることができる。 ・学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	特別活動の目標及び内容	授業の進め方、特別活動の目標と内容				○
2	特別活動の位置づけ	特別活動と他の教科等との関連について				
3	学級活動	学級活動について 学級活動のねらいと「話し合い活動」、「合意形成」				○
4	児童会活動、生徒会活動	児童会活動、生徒会活動の特質とねらい				○
5	クラブ活動、学校行事	クラブ活動、学校行事それぞれの特質について				
6	取り組みと評価	特別活動の指導の在り方について				
7	地域との連携	合特別活動における、家庭・地域、関係諸機関との連携について				
8	評価と改善活動	特別活動における取り組みの評価・改善活動				
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
参考図書：小学校学習指導要領、中学校学習指導要領 そ の 他：必要に応じて配布する。						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：授業のキーワードとテーマに関する情報（新聞、雑誌、インターネット等）を入手し、毎回のミニレポートに生かせるように目を通しておく。 事後学習（週 1.5 時間）：授業内容をふりかえり、復習しておくとともに、毎時間配付する資料は保管しておき、いつでも確認できるようにしておく。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、毎時ミニレポートを回収し、次時に返却をする。						
成績評価の目安と方法						
毎時間の提出物・レポート 60% 筆記試験 40%						
評価	成績評価別の到達度					
S	特別活動の理論を活かした、指導法を十分に身に付けている。					
A	特別活動の理論と指導法を良く理解している。					
B	特別活動の理論と指導法を理解している。					
C	特別活動の理論と指導法に対して基礎的な内容を理解している。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
教職専門科目	総合的な学習の時間指導法 [Teaching Methods for the Period for Integrated Studies]		1			
授業形態	担当教員名			科目ナンバー		
講義・ アクティブ・ラーニング	福島 邦男			NS-T3145		
この授業に関係する資格及び含めることが必要な事項						
教員免許（保健体育、栄養教諭） ・総合的な学習の時間の指導法						
この授業のキーワード		授業概要				
1 2 3	特別活動 集団活動 話し合い活動	総合的な学習の時間の意義を理解し、探究的な見方・考え方による横断的・総合的な学習とその方法について、グループワークを取り入れながら実践的に学ぶ。実社会・実生活を踏まえた課題を決め、課題解決に向けて多角的な調査を行う為に、計画を立てて課題解決に取り組むことの重要性を理解した上で、総合的な学習の時間の指導の仕方や評価に必要となる知識・技能を身につけることを目指す。				
学習の到達目標						
・探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を身につける。 ・各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉えることができる。 ・指導計画の作成および具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付ける。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	この授業の目標及び内容	授業の進め方、授業概要と総合的な学習の時間の意義と役割について				○
2	総合的な学習の時間の位置づけ	総合的な学習の時間の目標及び内容の定めかた				
3	学習計画 1	学習計画の立案と指導計画について				○
4	学習計画 2	学習計画の具体的事例について				○
5	主体的で対話的な学び	主体的で対話的な学び（アクティブ・ラーニング）について				○
6	取り組みと評価	探究的な学習の過程と具体的手立てについて				
7	地域との連携	総合的な学習の時間の評価について				
8	まとめ	授業のまとめ				
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
参考図書：小学校学習指導要領、中学校学習指導要領 その 他：必要に応じて配布する。						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：授業のキーワードとテーマに関する情報（新聞、雑誌、インターネット等）を入手し、毎回のミニレポートに生かせるように目を通しておく。 事後学習（週 1.5 時間）：授業内容をふりかえり、復習しておくとともに、毎時間配付する資料は保管しておき、いつでも確認できるようにしておく。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、毎時ミニレポートを回収し、次時に返却をする。						
成績評価の目安と方法						
毎時間の提出物 60% レポート 40%						
評価	成績評価別の到達度					
S	総合的な学習の時間について、その理論を活かした指導法を十分に身に付けている。					
A	総合的な学習の時間について、その指導法を良く理解している。					
B	総合的な学習の時間について、その指導法を理解している。					
C	総合的な学習の時間について、その指導法に対して基礎的な内容を理解している。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
教職専門科目	教育方法の理論と実践 [Theory and Practice of Educational Method]		1			
授業形態	担当教員名			科目コード		
講義・ アクティブ・ラーニング	村井 輝久			NS-T3146		
この授業に関係する資格及び含めることが必要な事項						
教員免許（保健体育、栄養教諭） ・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）						
この授業のキーワード		授業概要				
1 2 3	アクティブ・ラーニング グループ学習 情報機器の活用	本講義では、教育実践（授業）に活かすことができる知識を獲得し、受講者自身の授業計画に効果的に活かすことができるようになることを目的とする。そのために、学期のはじめでは、学習に関連する学習者の個人差となる特徴について学習する。そして、学習者の活動性を高めるアクティブ・ラーニングの手法と理論的背景について学習する。この 2 点をさらに効果的に応用できる手段として、情報機器の活用法にも言及し、より教育効果の高まる授業が行えるようになることを目指す。この授業自体も一種の教材と位置づけ、様々なアクティブ・ラーニングの手法を取り入れて行う。				
学習の到達目標						
1. 学びについての理論と学習者の特徴を理解し、説明することができる。 2. アクティブ・ラーニングの理論と手法を理解し、授業計画に取り入れることができる。 3. 教材の工夫の仕方と情報機器の活用について理解し、自分自身の授業方法に活かすことができる。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	イントロダクション 教育方法の歴史	授業内容と受講学生が求められる学習 代表的な教育学の理論（遠隔）				
2	授業の研究	学習の理論の変遷（遠隔）				
3	授業と学習の理論	学習の理論と授業展開の方法（遠隔）				
4	新しい学習指導要領と授業展開	2020 年度から施行される予定の学習指導要領とアクティブ・ラーニング及び学習評価の基礎的な考え方について学ぶ（遠隔）				
5	協同学習・グループ学習	協同学習・グループ学習を実際に体験しながら、授業への適用を考える				○
6	アクティブ・ラーニングの授業 知識構成型ジグソー法	アクティブ・ラーニングとは何かを学ぶ 知識構成型ジグソー法を実際に体験しながら、授業への適用を考える				○
7	教材と情報機器	教材の工夫、情報機器の活用				○
8	授業のまとめ	総括				○
試験等	レポート課題					
教科書及び参考図書						
参考図書：安永 悟・関田 一彦・水野 正朗（編著）『アクティブ・ラーニングの技法・授業デザイン』東信堂 2016 年 上記以外にも、授業で用いる、もしくは授業に関連する文献は随時紹介する。						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：自分の担当する教科などで自分が良いと思った指導案を複数入手し、期間中は持参する。 事後学習（週 1.5 時間）：毎授業時に配布された資料を用いて、指導案の作成を行う（初回授業時に詳細を伝える）。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、回収したリアクションペーパーに対して回答する。また、レポートに評価及びコメントし、返却する。						
成績評価の目安と方法						
最終レポート 60% 毎授業後に提出をするリアクションペーパーおよび授業参加の積極性 40%						
評価	成績評価別の到達度					
S	最終レポートに、本授業で教授した学習の理論や授業法が、すべて有効な形で組み込まれている。					
A	最終レポートに、本授業で教授した学習の理論や授業法が、ひと通り組み込まれている。					
B	最終レポートに、本授業で教授した学習の理論や授業法が、部分的に組み込まれている。					
C	最終レポートに、本授業で教授した学習の理論や授業法が、ひとつも組み込まれていない。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
教職専門科目		生徒・進路指導論 [Student and Career Guidance]	1			
授業形態		担当教員名		科目ナンバー		
講義・ アクティブ・ラーニング		村井 輝久・内藤 郁芳・林 亜美		NS-T3147		
この授業に関係する資格及び含めることが必要な事項						
教員免許（保健体育、栄養教諭） ・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導（キャリア教育に関する基礎的な事項を含む。）の理論及び方法						
この授業のキーワード		授業概要				
1 2 3	生徒指導 進路指導 グループワーク	生徒指導は学習指導と並ぶ重要な教育機能を有している。一人一人の生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら社会的資質や行動力を高めるために、教育活動全体を通じ、他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に指導を進めることを理解した上で、生徒指導の実際を視野に入れた講義を、グループワークや哲学対話を取り入れながら展開する。 進路指導は、将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸長するように、長期的展望に立った人間形成を目指す教育活動を学ぶため、ケーススタディを用いたロールプレイング実践を取り入れる。				
学習の到達目標						
・実際の生徒指導の場面での問題の原因を追究し、実践に生かすことのできる知識と技術を身に付ける。 ・進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や要素を身に付ける。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	オリエンテーション	授業の進め方、生徒指導の領域と内容（担当：村井）				○
2	生徒指導のあり方	児童生徒理解の重要性と生徒指導の組織的な取り組み（担当：村井）				○
3	校則と体罰	校則と懲戒の正当性の要件、体罰の禁止（担当：内藤）				○
4	SNS の指導法	SNS の適切な使用方法の指導（担当：村井）				○
5	いじめ	いじめ問題の理解とその対応（担当：内藤）				○
6	進路指導の理論	進路指導・キャリア教育の理論的背景や理論体系（担当：林）（遠隔）				
7	進路指導のあり方	すべての児童生徒を対象とした進路指導・キャリア教育の考え方と指導の在り方（担当：林）（遠隔）				
8	多様な進路指導	児童生徒が抱える個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方（担当：林）（遠隔）				
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
参考図書：生徒指導提要（平成22年3月 文部科学省） 江川玖成編『生徒指導の理論と方法』三訂版、学芸図書、2010年 授業中に適宜資料を配布する						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：各テーマに関する新聞記事やニュースを共有できるように準備してくる。 事後学習（週 1.5 時間）：各回で使用する資料を再度熟読し、小レポートを作成する。						
課題に対するフィードバックの方法						
授業で新聞記事やニュースを共有しディスカッションする。小レポートは回収し、コメントをする。						
成績評価の目安と方法						
各回に課すリアクションペーパー50% 参加態度 25% レポート 25% ＊本講義は、講義および相互学習形式の授業である。授業やグループワークの進行を妨げる・加わらないなどの態度は減点とする。						
評価	成績評価別の到達度					
S	生徒・進路指導の理論と現代の問題点等に関する内容を習得し、自身の生徒指導の実践に活かすことができる。					
A	生徒・進路指導の理論と現代の問題点等に関する内容をとても良く理解している。					
B	生徒・進路指導の理論と現代の問題点等に関する内容を十分に理解している。					
C	生徒・進路指導の理論と現代の問題点等に関する内容を理解したものの、継続的な努力を要する。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]	単位	N	S	M
教職専門科目	教育相談 [School Counseling]	1			
授業形態	担当教員名		科目コード		
講義	高橋 勇一		NS-T3148		
この授業に関係する資格及び含めることが必要な事項					
教員免許（保健体育、栄養教諭） ・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法					
この授業のキーワード		授業概要			
1 2 3	教育相談 カウンセリング 問題行動への対応	現代の児童生徒はさまざまな問題を抱えている。教職員は児童生徒の相談役となり、学習・生活・進路をはじめ、いじめや不登校あるいは問題行動の解決に向けて助言、支援、指導していく必要がある。この授業では、児童生徒が直面する課題の解決に向けて、助言、支援、指導していくための基礎知識を身につけ、望ましい方向に導いていくための実践的方法について学習する。			
学習の到達目標					
1.教育相談の意義と理論を理解する。 2.カウンセリングマインドを理解し、カウンセリングの基礎的技法を身につける。 3.問題行動への対処の方法を学び、学級・学校全体の取り組みの方略について修得する。 以上の3点を基にして教育相談に応用できる能力とスキルを身につける。					
回	テーマ	授業内容	AL		
1	教育相談とは	教育相談とは何か、教育相談の必要性と意義について			
2	教育相談に関わる心理学	人間理解・人間関係・人格成長（ユング、アドラー、ロジャーズ、フロイト）			
3	カウンセリングについて	カウンセリングの基礎知識、カウンセリングマインド、カウンセリングの技法			
4	いじめ問題	いじめ問題の現状及びその対応			
5	不登校問題	問題行動の現状、不登校問題への対応			
6	学校体制づくり	教育相談体制のあり方、関係機関との連携など			
7	総合・まとめ	改めて教育相談の意義を考える（振り返り学習）			
8		「学校における生徒指導・教育相談の進め方～カウンセリングの考え方を生かして～」の資料を配付し、他の授業内でポイント解説を行った。また、classroom を利用して、講義資料（PDF）を配信し、学生が自宅学習（予習・復習）を繰り返すできるようにした。			
試験等	なし				
教科書及び参考図書					
参考図書・参考資料等 文部科学省『生徒指導提要』教育図書、河村茂雄編著『教育相談の理論と実際』図書文化 ※ 授業中に適宜資料を配付する。					
準備学習・事後学習					
準備学習（週 1.0 時間）： 書籍（参考図書）やインターネット・配付資料等を通して、予習をしておくこと。 事後学習（週 2.0 時間）： 授業の内容をよく復習するとともに、生きた知識として活用し、さらに探究の学習を行うこと。					
課題に対するフィードバックの方法					
課題などにコメント等を入れて返却する。					
成績評価の目安と方法					
授業参加態度・小レポートの内容 50%、授業内課題 50%					
評価	成績評価別の到達度				
S	教育相談についての知識を身に付け、十分に理解を深め、教育実践に応用できる力を身に付けている。				
A	教育相談についての知識を身に付け、十分に理解を深めることができる。				
B	教育相談の概略について概ね理解している。				
C	教育相談の概略について最低限は理解している。				

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
教職専門科目		保健体育科教育法 [Teaching Theory & Methods Physical Education]	2			
授業形態		担当教員名		科目コード		
講義・ アクティブ・ラーニング		杉山 仁志 ・ 辻 将也		S-T3149		
この授業に関係する資格及び含めることが必要な事項						
教員免許（保健体育） ・各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）						
この授業のキーワード		授業概要				
1 2 3	保健体育 学習指導要領 学習指導案	中学校の教育における「保健体育科」の意義を理解し、保健体育教員としての心構えから指導計画（案）の作成、保健体育授業の内容・方法を解説する。				
学習の到達目標						
学習指導要領を中心にした中学校の保健体育科教員に必要な知識を理解し、習得する。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	体育分野 1	総則 教育課程の編成の一般方針				
2	体育分野 2	保健体育の目標				
3	体育分野 3	各分野の目標及び内容 1、2 学年 目標 体づくり運動 器械運動				
4	体育分野 4	各分野の目標及び内容 1、2 学年 陸上競技 水泳 球技				
5	体育分野 5	各分野の目標及び内容 1、2 学年 武道 ダンス 体育理論				
6	体育分野 6	各分野の目標及び内容 3 学年 目標 体づくり運動 器械運動				
7	体育分野 7	各分野の目標及び内容 3 学年 陸上競技 水泳 球技				
8	体育分野 8	各分野の目標及び内容 3 学年 武道 ダンス 体育理論				○
9	体育分野 9	内容の取扱い 体づくり運動 器械運動 陸上競技 水泳				○
10	体育分野 10	内容の取扱い 球技 武道 ダンス 体育理論 情報機器・教材の活用法（遠隔）				○
11	保健分野 1	保健分野の目標				
12	保健分野 2	保健分野の内容				
13	保健分野 3	保健分野の内容の取扱い				
14	保健分野 4	指導案作成 1				○
15	保健分野 5	指導案作成 2 情報機器・教材の活用法				○
試験等	筆記試験					
教科書及び参考図書						
教科書：中学校学習指導要領、中学校学習指導要領解説、中学体育実技、中学校保健体育						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）： 授業の内容に関する情報（教科書、インターネット等）を事前に読んで学習しておくこと。 事後学習（週 1.5 時間）： 毎回授業の初めに前回授業の内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、理解度確認テストを回収後、回答の解説を行う。						
成績評価の目安と方法						
筆記テスト 80%、小テスト 10%、平常点（意欲・態度） 10%、理由のない遅刻・欠席は減点						
評価	成績評価別の到達度					
S	学習指導要領における保健体育分野の内容を十分に理解している。					
A	学習指導要領における保健体育分野の内容を理解している。					
B	学習指導要領における保健体育分野の内容を概ね理解している。					
C	学習指導要領における保健体育分野の内容を最低限理解している。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
教職専門科目	授業研究 [Study of Class Teaching]		2			
授業形態	担当教員名			科目ナンバー		
講義・ アクティブ・ラーニング	福島 邦男・大野 勝生・川井 明・内藤 郁芳・伊藤 えつ子		国	S-T3150		
この授業に関係する資格及び含めることが必要な事項						
教員免許（保健体育） ・大学が独自に設定する科目						
この授業のキーワード		授業概要				
1	教育学	体育授業を展開するための諸条件について実践的に探究する。模擬授業担当以外の学生は生徒役となって授業を分析、検討する。グループは教員側で割り振る（部活等で経験していないものの模擬授業を担当する）。模擬授業時は各種目の専門実技教員がサポートする。				
2	現代の学校の諸問題					
3	ディスカッション					
学習の到達目標						
学習指導案を作成し、授業実践を行い、反省を通じて、授業研究全般について理解し、実践に活かせるようになる。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	オリエンテーション	オリエンテーションと指導案作成の準備				
2	指導案作成 1	指導案作成 1				
3	指導案作成 2	指導案作成 2				
4	集団行動	集団行動の基本の確認と実践				○
5	模擬授業	体育分野領域 A 体づくり運動の模擬授業				○
6	模擬授業	体育分野領域 E 球技の模擬授業 1（サッカー）				○
7	模擬授業	体育分野領域 E 球技の模擬授業 2（バレーボール）				○
8	模擬授業	体育分野領域 E 球技の模擬授業 3（バスケットボール）				○
9	模擬授業	体育分野領域 E 球技の模擬授業 4（ハンドボール）				○
10	模擬授業	体育分野領域 B 体操器械運動の模擬授業				○
11	模擬授業	体育分野領域 C 陸上競技の模擬授業（短距離・リレー）				○
12	模擬授業	体育分野領域 C 陸上競技の模擬授業（ハードル走）				○
13	模擬授業	体育分野領域 F 武道の模擬授業				○
14	まとめ 1	反省会と今後の課題の検討 1				○
15	まとめ 2	反省会と今後の課題の検討 2				○
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
参考図書：文部科学省『中学校学習指導要領解説 保健体育編』平成 29 年 7 月 そのほか適宜資料を配布する						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：模擬授業実施のための準備を行う。また、自分の担当以外の模擬授業からも自分の授業に活かせる点を見つけ、実際に活かすことで授業研究全般について理解を深める。						
事後学習（週 1.5 時間）：模擬授業後に内容を改めて検討し、改善策を明示する。模擬授業の指導案は保管しておき、改善していく。						
課題に対するフィードバックの方法						
各教員が授業中にコメントする他、オフィスアワーを利用して対応する。						
成績評価の目安と方法						
指導案 35% 模擬授業 35% 各回に課す小レポート 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	学習指導案を作成し、授業実践を行い、反省を通じて、授業研究全般について十分理解し、実践に活かしている。					
A	学習指導案を作成し、授業実践を行い、反省を通じて、授業研究全般についておおむね理解している。					
B	学習指導案を作成し、授業実践を行い、反省することはできるが、授業研究全般について理解できるよう努力を要する。					
C	学習指導案を作成し、授業実践を行うことはできるが、反省を通じて授業研究全般について理解できるよう継続的な努力を要する。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N	S	M
専門教育科目		食教育実践論 [School Nutrition Guidance]	2			
授業形態		担当教員名		科目コード		
講義・ アクティブ・ラーニング		小坂 由美子		N-T3151		
この授業に関係する資格及び含めることが必要な事項						
教員免許（栄養教諭） ・栄養に係る教育に関する科目						
この授業のキーワード		授業概要				
1	食教育	栄養教諭に必要な基礎知識を習得するとともに、児童・生徒の食行動の現状と課題について把握し、適切な指導を行うための総合的な指導力を身につける。また、給食の時間や特別活動において各教科との関連性を踏まえた学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。				
2	栄養教諭					
3	給食					
学習の到達目標						
食教育に係る全体的な計画の作成と模擬授業を実施し、教育の効果的評価方法を学ぶとともに、栄養教諭としての資質能力を身につける。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	食教育の意義	栄養教育実習の意義と目的				
2	栄養教諭の職務と給食	教師の役割、仕事、近隣校長先生による講和				○
3	児童・生徒の食教育	教科および特別活動との関わり				○
4	法令・行政・諸制度	学級活動および総合的な学習の時間、給食時間等の関わりおよびその他教育活動との関わり				○
5	児童・生徒に係る課題	学校組織の理解、小学校・中学校の組織、役割、家庭、地域との関連				○
6	食生活の歴史・文化	栄養に関する指導の意義と位置づけ、栄養に関する指導のねらい				○
7	食に関する指導 1	栄養教育実習の課題別指導計画の立案 1				○
8	食に関する指導 2	栄養教育実習の課題別指導計画の立案 2				○
9	食に関する指導 3	指導計画案に基づいた教材作り				○
10	各教科との関連指導	模擬授業				○
11	実習演習 1	小学校または中学校における栄養教育実習（事前打ち合わせ、事後反省を含む）				○
12	実習演習 2	栄養教育実習を振り返っての反省				○
13	実習演習 3	反省・問題点を踏まえての指導案作成				○
14	実習演習 4	今後の課題の検討				○
15	まとめ	レポート作成および教育実習の報告会				○
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
参考図書：小学校学習指導要領解説（家庭編、総合的な学習の時間編） 中学校学習指導要領解説（技術・家庭編、総合的な学習の時間編） 文部科学省						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 1.5 時間）：資料をもとに指導案作成、媒体作成の準備をしておくこと。また、学習指導要領は事前に必ず一読しておくこと。 事後学習（週 1.5 時間）：評価シートの内容を指導案構成に反映させる。 栄養教育実習における研究授業を想定し、学習指導案作成及び模擬授業を実施する。						
課題に対するフィードバックの方法						
模擬実習で実施した評価シートをもとに再構成させる。添削後グループディスカッションを行う。						
成績評価の目安と方法						
平常点 40% 筆記試験 30% 指導案及び模擬授業 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	栄養教諭としての知識を活かし、指導案にそった模擬授業が展開され、指導成果について理解している。					
A	栄養教諭としての知識を活かし、指導案にそった模擬授業をする方法を身につけている。					
B	栄養教諭としての基礎的な知識を活かした指導方法を身につけている。					
C	栄養教諭としての基礎的な知識を身につけている。					

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]	単位	N	S	M
教職専門科目	教職実践演習（中学校） [Seminar on Teaching Practice]	2			
授業形態	担当教員名	科目ナンバー			
演習・ アクティブ・ラーニング	福島 邦男・大野 勝生・川井 明・村井 輝久・内藤 郁芳・伊藤 えつ子	国	S-T5152		
この授業に関係する資格及び含めることが必要な事項					
教員免許（保健体育） ・教育実践に関する科目 教職実践演習					
この授業のキーワード		授業概要			
1 2 3	保健体育指導 学校教育 模擬授業	実践的指導者の育成という観点から、教職履修学生の教員としての資質・能力を育成する。そのため実習での経験や体験をもとに演習を進める。具体的には、教育実習の振り返りを行い、教員の職務・職責、学校の役割、カリキュラム開発、教科指導、学級経営の方法等について議論を深める。			
学習の到達目標					
本演習の到達目標は、①教師としての使命感や責任感を持つことができる、②教育的愛情をもって生徒を指導できる、③社会性を身につけ、他者とコミュニケーションを図ることができる、④円滑な学級経営ができる、⑤カリキュラム開発と授業を一体化して実践できる、の5つである。					
回	テーマ	授業内容	AL		
1	オリエンテーション	オリエンテーション、教育実習の振り返り	○		
2	学校運営	学級活動の運営方法	○		
3	学校運営	チーム学校に必要なスキル	○		
4	学校運営	体罰をめぐる諸問題	○		
5	授業分析	授業分析と指導方法（教育実習中の研究授業を中心として）1			
6	授業分析	授業分析と指導方法（教育実習中の研究授業を中心として）2			
7	授業分析	道德教育における問いの立て方	○		
8	授業分析	特別活動・レクリエーション論	○		
9	特別支援	特別支援教育	○		
10	教師への道	学外講師による特別授業	○		
11	模擬授業	指導案作成 1（遠隔）			
12	模擬授業	指導案作成 2（遠隔）			
13	模擬授業	模擬授業およびロールプレイ発表会 1	○		
14	模擬授業	模擬授業およびロールプレイ発表会 2	○		
15	模擬授業	模擬授業およびロールプレイ発表会 3	○		
試験等	なし				
教科書及び参考図書					
参考図書：特になし 必要な資料は適宜配布する					
準備学習・事後学習					
準備学習（週 0.5 時間）： 教育実習先での学びをふりかえり、指導案作成、及び模擬授業の準備。 事後学習（週 0.5 時間）： 模擬授業をふりかえり、指導案の改善。					
課題に対するフィードバックの方法					
各教員が授業中にコメントする。					
成績評価の目安と方法					
レポート課題 40% 演習への参加態度 30% 模擬授業の発表 30%					
評価	成績評価別の到達度				
S	これまで履修してきた教職課程科目を振り返り、中学校教諭の役割や意義を理解し、教員としての資質を十分に得ている。				
A	これまで履修してきた教職課程科目を振り返り、中学校教諭の役割や意義をとてよく理解している。				
B	これまで履修してきた教職課程科目を振り返り、中学校教諭の役割や意義を十分に理解している。				
C	これまで履修してきた教職課程科目を振り返り、中学校教諭の役割や意義を理解したものの、継続的な努力を要する。				

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N			S	M
専門教育科目		教職実践演習（栄養教諭） [Seminar on Teaching Practice]	2					
授業形態		担当教員名			科目ナンバー			
講義・演習・アクティブ・ラーニング		小坂 由美子 ・ 大野 勝生 ・ 村井 輝久 ・ 伊藤 えつ子			国		N-T5153	
この授業に関係する資格及び含めることが必要な事項								
教員免許（栄養教諭） ・教育実践に関する科目 教職実践演習								
この授業のキーワード			授業概要					
1	教育心理学	実践的指導者の育成という観点から、教職履修学生の教員としての資質・能力を育成する。そのため実習での経験や体験をもとに演習を進める。具体的には、教育実習の振り返りを行い、教員の職務・職責、学校の役割、学校栄養指導の方法、栄養指導と各教科内容との関連、カウンセリング等について議論を深める。						
2	栄養指導							
3	学校教育							
学習の到達目標								
本演習の到達目標は、①教師としての使命感や責任感を持つことができる、②教育的愛情をもって生徒を指導できる、③社会性を身につけ、他者とコミュニケーションを図ることができる、④カウンセリングマインドをもって生徒を理解できる、⑤円滑な学級経営ができる、⑥カリキュラム開発と授業を一体化して実践できる、の6つである。								
回	テーマ	授業内容						AL
1	オリエンテーション	教育実習の振り返り						○
2	生徒理解・カウンセリング	生徒理解の方法・学校相談とカウンセリングマインド						○
3	栄養指導 1	学校栄養指導の方法（小学校、中学校）						○
4	栄養指導 2	各教科での指導と栄養指導との関連						○
5	教員・学校	教員の職務と職責・学校の意味						○
6	教育の最新事情 1	学校をめぐる諸問題						○
7	教育の最新事情 2	教育改革の動向						○
8	教員という仕事の現状 1	学外講師による特別授業 1						○
9	教員という仕事の現状 2	学外講師による特別授業 2						○
10・11	発表会準備	模擬授業およびロールプレイ発表のための媒体作り						○
12	発表会 1	模擬授業およびロールプレイ発表会 1						○
13	発表会 2	模擬授業およびロールプレイ発表会 2						○
14	発表会 3	模擬授業およびロールプレイ発表会 3						○
15	発表会 4	模擬授業およびロールプレイ発表会 4						○
試験等	なし							
教科書及び参考図書								
参考図書：原田恵理子・森山賢一編著『自己成長を目指す教職実践演習テキスト』北樹出版								
準備学習・事後学習								
準備学習（週 0.5 時間）：その内容に関する図書や最新動向について入念に調査した上でレポートを作成すること。 事後学習（週 0.5 時間）：模擬授業の評価を踏まえて指導案の再構成を行う。 この演習では、それぞれの担当教員の専門分野に関する講義を踏まえて、各回でレポートを課す。								
課題に対するフィードバックの方法								
教育実習で実施した研究授業及び見学した授業の内容をまとめ提出。添削後グループディスカッションを行う。								
成績評価の目安と方法								
レポート課題 40% 演習への参加態度 30% 模擬授業の発表 30%								
評価	成績評価別の到達度							
S	これまで履修してきた教職課程科目を振り返り、栄養教諭の役割や意義を理解し、教員としての資質を十分に得ている。							
A	これまで履修してきた教職課程科目を振り返り、栄養教諭の役割や意義をとてよく理解している。							
B	これまで履修してきた教職課程科目を振り返り、栄養教諭の役割や意義を十分に理解している。							
C	これまで履修してきた教職課程科目を振り返り、栄養教諭の役割や意義を理解したものの、継続的な努力を要する。							

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]	単位	N	S	M
教職専門科目	保健体育教育実習 [Teaching Practice of Physical Education]	5			
授業形態	担当教員名	科目ナンバー			
実習・ アクティブ・ラーニング	福島 邦男・大野 勝生・村井 輝久・内藤 郁芳・伊藤 えつ子	国	S-T9154		
この授業に関する資格及び含めることが必要な事項					
教員免許（保健体育）、レクリエーション・インストラクター ・教育実践に関する科目 教育実習					
この授業のキーワード		授業概要			
1 2 3	教育実習 学校教育 保健体育指導	中学校において原則 3 週間の教育実習を受ける。そのための事前指導、事後指導を含む。事前指導では、教育実習の心構え、学校制度の理解、授業における生徒の指導方法、生徒に接する基本的な態度や技術をしっかり身に付ける。事後指導においては、実習を経験しての反省点・今後の課題を検討する。			
学習の到達目標					
学校現場において教育実習を行うことにより、学校教育の実際を知る。あわせて自らの教職に対する適性を測り、今後の課題を明らかにすることを目標とする。					
回	テーマ	授業内容	AL		
1	事前指導 1	教育実習の内容、及び教育実習の意義と目的			
2	事前指導 2	学校組織の理解、中学校の組織、役割、地域との関連、教師の仕事	○		
3	事前指導 3	特別授業：中学校の実態と教育実習生の心構え	○		
4・5	事前指導 4	特別授業：中学校の授業参観	○		
6	事前指導 5	教材研究：教材と授業	○		
7	事前指導 6	授業実習の方法：授業計画、単元計画	○		
8～10	事前指導 7	学習指導案の作成：指導計画の立案、指導案作成	○		
11～72	教育実習	中学校における教育実習（事前打ち合わせ、事後反省を含む）	○		
73	事後指導 1	教育実習の振り返り、討論	○		
74～75	事後指導 2	今後の課題の検討、教員採用試験に向けて	○		
試験等	なし				
教科書及び参考図書					
教科書：教育実習の手引き（初回の授業内で配布する）					
準備学習・事後学習					
準備学習：実習校の特色や教育目標など、実習校に関する情報をくまなく調べ、頭に入れて実習に臨む。 事後学習：毎行行った内容を授業後に整理する。 教育実習後は、実習を通しての収穫と今後の反省点について自分で振り返り、感想文としてまとめて提出する。					
課題に対するフィードバックの方法					
各教員が授業中にコメントする。					
成績評価の目安と方法					
実習校における評価 50% 事前・事後指導や教職関連行事におけるレポートの内容、および提出物など 50%					
評価	成績評価別の到達度				
S	教育実習やその事前・事後指導を通して、具体的な指導方法や指導技術を修得し、創意工夫ある授業実践ができる。				
A	教育実習やその事前・事後指導を通して、具体的な指導方法や指導技術をとてもよく修得している。				
B	教育実習やその事前・事後指導を通して、具体的な指導方法や指導技術を十分に修得している。				
C	教育実習やその事前・事後指導を通して、具体的な指導方法や指導技術を修得したもの、継続的な努力を要する。				

2020 年度 学習支援計画書

授業科目区分		科目名 [英文名]	単位	N			S	M
教職専門科目		栄養教育実習 [Teaching Practice of Nutritional Education]	2					
授業形態		担当教員名			科目コード			
実習・ アクティブ・ラーニング		小坂 由美子 ・ 大野 勝生 ・ 村井 輝久 ・ 伊藤 えつ子			国		N-T9155	
この授業に関係する資格及び含めることが必要な事項								
教員免許（栄養教諭）								
この授業のキーワード			授業概要					
1	教育実習	学校給食を実施している小・中学校において、1 週間の栄養教育実習を受ける。そのための事前指導、事後指導を含む。事前指導においては教育実習の心構えや児童生徒に接するための基本的態度、技術を身に付ける。事後指導においては、実習を経験しての反省点・今後の課題を検討する。						
2	学校教育							
3	栄養教育							
学習の到達目標								
学校現場において教育実習を行うことにより、学校教育の実際を知る。あわせて自らの教職に対する適性を測り、今後の課題を明らかにすることを目標とする。								
回	テーマ	授業内容						AL
1	事前指導 1	栄養教育実習の意義と目的						
2・3	事前指導 2	教師の役割、仕事、給食時間等の関わり（遠隔）						
4	事前指導 3	教科および特別活動との関わり・採用試験に向けて						○
5	事前指導 4	学級活動および総合的な学習の時間等への関わり、およびその他教育活動との関わり						○
6	事前指導 5	学校組織の理解、小学校・中学校の組織、役割、家庭、地域との関連						○
7	事前指導 6	栄養に関する指導の意義と位置づけ、栄養に関する指導のねらい						○
8	事前指導 7	栄養教育実習の課題別指導計画の立案 1						○
9	事前指導 8	栄養教育実習の課題別指導計画の立案 2						○
10.11	事前指導 9	指導計画案に基づいた教材作り						○
12.13	事前指導 10	模擬授業						○
14~35	教育実習	小学校または中学校における栄養教育実習（事前打ち合わせ、事後反省を含む）						○
36	事後指導 1	栄養教育実習を振り返っての反省						○
37	事後指導 2	反省・問題点を踏まえての指導案作成						○
38	事後指導 3	今後の課題の検討						○
39・40	まとめ・報告会	レポート作成および教育実習の報告会						○
試験等	なし							
教科書及び参考図書								
参考図書：栄養教育実習の手引き（初回の授業内で配布） 小学校、中学校学習指導要領解説（家庭編、技術・家庭編、総合的な学習の時間編） 文部科学省								
準備学習・事後学習								
準備学習：教育実習に行くまでに、それぞれの実習校の特色や教育目標など、実習校に関する情報をくまなく調べ、頭に入れて実習に臨むこと。 事後学習：教育実習終了後は、実習を通しての収穫と今後の反省点について自分で振り返り、感想文としてまとめて提出する。								
課題に対するフィードバックの方法								
教育実習で実施した研究授業及び見学した授業の内容をまとめて提出。添削後グループディスカッションを行う。								
成績評価の目安と方法								
実習校における評価 50% 事前・事後指導や教職関連行事におけるレポートの内容および提出物など 50%								
評価	成績評価別の到達度							
S	教育実習やその事前・事後指導を通して、具体的な指導方法や指導技術を修得し、創意工夫ある授業実践ができる。							
A	教育実習やその事前・事後指導を通して、具体的な指導方法や指導技術をとてもよく修得している。							
B	教育実習やその事前・事後指導を通して、具体的な指導方法や指導技術を十分に修得している。							
C	教育実習やその事前・事後指導を通して、具体的な指導方法や指導技術を修得したものの、継続的な努力を要する。							

